

## 4 . 平成19年度 開 講 科 目

### A 共通科目

基礎科目 印は平成17年度以降新設授業科目

平成16年度以前入学生は、P69～P70の科目対応表に注意すること

系	授 業 科 目	単位数	配当年次	実施期間	時間割	担当教員	ページ	備 考
人 間 と 文 化	哲学	2		後期	金4	久保田 顕二	79	
	論理学							非開講
	倫理学	2		前期	木3・金4	久保田 顕二	79	A・Bクラス
	宗教学							非開講
	心理学	2		前期	火2・木2	杉山 成	80	A・Bクラス
	心理学	2		後期	火2	杉山 成	80	
	教育学	2		後期	水3	上野耕三郎 岡部 善平	81	
	日本文学	2		前期	木2・木3	中村 史	81	A・Bクラス
	日本文学	2		後期	木2	中村 史	82	
	外国文学	2		後期	月3	吉田 直希	82	
	外国文学							非開講
	文化論	2		前期	月5	鈴木 吾郎	83	
	言語学							非開講
	日本語学	2		後期	月4	高野 寿子	83	
	比較日本文化論							非開講
	言語コミュニケーション論	2		前期	木3	山田久就	84	
	外国語コミュニケーション	2		前期	火3	副島美由紀 山田 久就	84 85	aクラス bクラス
	外国語コミュニケーション	2		後期	火3・木3	副島美由紀 江口 修	85 86	aクラス bクラス
	外国事情	2						(注)
	社 会 と 人 間	科学方法論	2		前期	木5	佐々木 邦子	86
社会科学								非開講
歴史学		2		前期	水2	荻野 富士夫	87	
歴史学		2		後期	水2	荻野 富士夫	87	
社会思想史		2		前期	水3・月4	西永 亮	88	A・Bクラス
社会思想史		2		後期	水3	西永 亮	88	
政治学		2		後期	火2	相内 俊一	89	
政治学		2		前期	火2	相内 俊一	89	
社会学		2		前期	木2・金4	宝福 則子	90	A・Bクラス
社会学		2		後期	木3	宝福 則子	90	
文化人類学							非開講	
自 然 と 環 境	数学	2		前・後期	水3	米田 力生	91	A・Bクラス
	数学	2		後期	水2	米田 力生	91	
	物理学	2		前期	月5	杉之原 立史	92	
	物理学	2		後期	月4	杉之原 立史	92	
	化学	2		前期	水2・木3	片岡 正光	93	A・Bクラス
	化学	2		後期	水2	片岡 正光	93	
	生物学	2		後期	火3	八木 宏樹	94	
	生物学	2		後期	木2・木3	八木 宏樹	94	A・Bクラス
環境科学	2		前期	水1	小林 三樹	95		
知 の 基 礎	総合科目	2		前期 夏季集中	水1 別途通知	荻野富士夫外 伊藤 一 外	95 96	aクラス bクラス
	総合科目	2		前期	水1	江頭 進 外	96	aクラス
	総合科目	2		前期	金5	船津秀樹 外	97	bクラス
	総合科目 (エバーグリーン講座)	2		後期	火3	松家 仁 外	97	
	情報処理入門 1	2		夏季集中	別途通知	藤島 成行	98	
	基礎数学	2		前・後期	火3	兼岩 龍二	98	A・Bクラス
基礎ゼミナール	2		前期			99～110		

(注意) A・B(a・b)2つにクラスが分かれている場合は、どちらか一方のクラスしか履修できません。

1「情報処理入門」は平成18年度以降入学生は履修できません。3年次(17年度入学者)、4年次(16年度入学者)で、かつ教職を履修している者で、これまで「情報処理入門」を未履修の学生を対象とします。

系	授 業 科 目	単位数	配当年次	実施期間	時間割	担当教員	ページ	備 考
健 康 科 学	生活と健康							非開講
	予防の医学	2		後期	木2・木3	浅沼 義英	111	A・Bクラス
	健康スポーツ a	1				田野 有一	111 ~ 124	
	健康スポーツ b	1				花輪 啓一		
	健康スポーツ c	1				中川 喜直		
	健康スポーツ d	1				石崎 香理		
	健康スポーツ e(水泳)	1		夏季集中		細川 賢一		
	健康スポーツ f(スキー)	1		冬季集中		山本 哲二		
	健康スポーツ g(スキー)	1		冬季集中		山田 亮		
					堤 毅			
					森田 憲輝			

(注)外国事情の単位については、学則第38条の規定に基づく学生の留学における単位互換認定に充てる。

B 外国語科目等  
外国語科目

授 業 科 目	単位数	配当年次	実施期間	時間割	担当教員	ページ	備 考
英語 A	2		通年			127~132	
英語 B	2		通年			132~135	
英語 A1	2		通年			136~139	
英語 A2	2		通年			140~143	
英語 B	2		通年			144~145	
ドイツ語	4		通年	火1・木1		150	
ドイツ語 (旧)	2		通年	火3		151	9年度カリ
ドイツ語 A	4		通年	火2・木2		151	
ドイツ語 B	2		通年	火2・木2		152~153	
フランス語	4		通年	火1・木1		154~155	
フランス語 (旧)	2		通年	水3		156	9年度カリ
フランス語 A	4		通年	火2・木2		156~157	
フランス語 B	2		通年	火2・木2		157~158	
中国語	4		通年	火1・木1		159~161	
中国語 (旧)	2		通年	水3		162	9年度カリ
中国語 A	4		通年	火2・木2		162~164	
中国語 B	2		通年	火2・木2		164~165	
スペイン語	4		通年	火1・木1		166	
スペイン語 (旧)	2		通年	火3		166	9年度カリ
スペイン語 A	4		通年	火2・木2		167	
スペイン語 B	2		通年	木2		167	
ロシア語	4		通年	火1・木1		168	
ロシア語 (旧)	2		通年	水3		168	9年度カリ
ロシア語 A	4		通年	火2・木2		169	
ロシア語 B	2		通年	火2		169	
朝鮮語	4		通年	火1・木1		170	
朝鮮語 (旧)	2		通年	金5		171	9年度カリ
朝鮮語 A	4		通年	火2・木2		171~172	
朝鮮語 B	2		通年	木3		172	

日本語科目

授 業 科 目	単位数	配当年次	実施期間	時間割	担当教員	ページ	備 考
上級日本語	2		前期	火1木1	高野 寿子	173	
上級日本語	2		後期	火1木1	高野 寿子	173	
上級日本語	2		通年	金1	高野 寿子	174	
上級日本語							非開講
日本事情	2		後期	火2	高野 寿子	174	
日本事情	2		前期	木3	マーク・ジボー 高野 寿子	175	

(注意)備考欄に「9年度カリ」と記載された科目は、平成12年度以前入学生用の科目ですので、平成13年度以降入学生は履修することはできません。

C 学科科目

経済学科

平成16年度以前入学生は、P71の科目対応表に注意すること。

印は平成17年度以降新設授業科目

講座	授業科目	単位数	配当年次	実施期間	時間割	担当教員	ページ	備考
基幹科目	マクロ経済学	4	/	後期	火3金3	山本 賢司	179	
	ミクロ経済学	4	/	前期	火3金4	山本 賢司	179	
	統計学	2	/	前期	月4	寺坂 崇宏	180	
	経済史	2		前期	火1	平井 進	180	
基礎経済学	現代経済理論							非開講
	現代経済理論	2	・	前期	月2	加藤 睦洋	181	
	経済分析論	4		後期	月5木3	花田 功一	181	
	数理統計学							非開講
	経済統計学							非開講
	計量経済学	4		後期	火1金4	遠藤 薫	182	
	経済データ解析論	4	・	後期	月3月4	瀬戸 篤	182	
	経済学史	4	・	前期	火3木2	江頭 進	183	
	日本経済史	4		前期	月5木3	今西 一	183	
	外国経済史							非開講
外国経済史	4	・	後期	火2金2	松家 仁	184		
応用経済学	国際経済学	2		前期	木3	船津 秀樹	184	
	公共経済学	4	・	後期	月2木2	佐野 博之	185	
	労働経済学							非開講
	産業組織論	4	・ /	前期	月3木2	鶴沢 秀	185	
	財政学	4	・	前期	火2金2	角野 浩	186	
	金融論	4		後期	月3木3	若井 克俊	186	
	国際金融と世界経済	4	・	後期	火3金3	澁谷 浩	187	
	現代ファイナンス理論							非開講
国際貿易理論	4		後期	月5木1	柴山 千里	187		
国際マクロ経済学							非開講	
基幹科目	経済数学	2	/	後期	金5	兼岩 龍二	188	
	経済学と現代	2		前期	金3	角野 浩外	188	A・Bクラス
	経済学入門	2	・	前期	月4	柴山 千里	189	
	経済学入門	2	・	後期	月4	廣瀬 健一	189	
	経済学特別講義	2	・	前期 後期	水2	和田 良介 船津 秀樹	190 190	Aクラス Bクラス
	インターンシップ	2	・	通年	別途通知	遠藤 薫外	191	
	卒業研究	6						早期卒業者に限る
研究指導	12	・	通年					

(注) 配当年次 / は、平成17年度以降入学生が、平成16年度以前入学生がであることを示す。

配当年次 ・ / は、平成17年度以降入学生が、平成16年度以前入学生がであることを示す。

「経済学入門」及び「経済学入門」は、平成19年度以降入学生のみ履修を認めます。平成18年度以前入学生の履修はできません。(例外措置はシラバス参照)

商 学 科

平成16年度以前入学生は、P72 の科目対応表に注意すること。

印は平成17年度以降新設授業科目

講座	授 業 科 目	単位数	配当年次	実施期間	時間割	担当教員	ページ	備 考	
商 学 目	基幹科目 流通システム論	4		通年	月5	伊藤 一 白 貞壬	195		
		2		前期	月5	伊藤 一	195		
		2		後期	月5	白 貞壬	196		
		2		後期	金3	大矢繁夫	196		
	発 展 科 目	マーケティング	4		前期	月3・月4	高宮城朝則 近藤 公彦	197	
		貿易論							非開講
		マーケティング行動論							非開講
		チャネル・マネジメント	4		通年	火2	白 貞壬 伊藤 一	197	
		国際マーケティング	4		後期	月4・金2	グラート・加ラス	198	
		地域市場システム論							非開講
		保険論	4		後期	水1・金3	中浜 隆	198	
		金融市場論	4		前期	金3・金4	齋藤 一郎	199	
	銀行論							非開講	
	商学特講	2		前期	金1	中浜 隆	199		
経 営 学 目	基幹科目 経営学原理	4		後期	火2・火3	松尾 睦	200		
		2		後期	火2	松尾 睦	200		
		2		後期	火3	松尾 睦	201		
		4		前期	金3・金4	玉井 健一	201		
	発 展 科 目	経営史	4		通年	木3	高田 聡	202	
		経営学説史	4		後期	木1・木2	前田東岐	202	
		企業形態論							非開講
		労務管理論	4		前期	金2・金3	明 泰淑	203	
		財務管理論							非開講
		国際経営論	4		通年	火3	李 濟民	203	
		エコロジーと経営戦略	2		夏季集中		榊原 清則	204	
		地域企業論							非開講
	経営学特講							非開講	
	会 計 学 目	基幹科目 簿記論							非開講
簿記原理			2		前期	火2	渡辺 和夫 坂柳 明	204 205	Aクラス Bクラス
応用簿記			2		前期	水4	今村 聡	205	
発 展 科 目		経営と会計	2	/	前期	火3	乙政 左吉	206	
		財務会計論	4		後期	月4・火1	渡辺 和夫	206	
		原価計算論	4		後期	木1・金4	前田 陽	207	
		管理会計論	4	/	前期	木1・木2	籾本 智之	207	
		監査論							非開講
		国際会計論	4		後期	月2・月3	松本康一郎	208	
		組織と会計							非開講
税務会計論	4		前期	水1・水2	大岩利依子	208			
会計学特講	2		前期	金5	坂柳 明	209			
発 展 科 目	英語コミュニケーション	2		後期	火3	マー・ホルスト	209		
	英語コミュニケーション							非開講	
	比較文化	2		前期	火3	マー・ホルスト	210		
	比較文化							非開講	
	インターンシップ	2		通年		大矢繁夫外	210		
卒業研究	6						早期卒業者に限る		
研究指導	12		通年						

(注) 配当年次 / は、平成17年度以降入学生が、平成16年度以前入学生がであることを示す。

(注) 配当年次 / は、平成17年度以降入学生が、平成16年度以前入学生がであることを示す。

(注) 平成11年度以前の入学者は、商学科の専門科目のうち、「英語コミュニケーション」、「英語コミュニケーション」、「比較文化」、「比較文化」については、単位を修得しても卒業所要単位に算入しない。

「流通システム論」(4単位)、「経営学原理」(4単位)は平成16年度以前入学生のみ履修を認めます。

「流通システム論」(2単位)、「経営学原理」(2単位)は平成17年度以降入学生のみ履修を認めます。

企業法学科

平成16年度以前入学生は、P73 の科目対応表に注意すること。

印は平成17年度以降新設授業科目

講座	授 業 科 目	単位数	配当年次	実施期間	時間割	担当教員	ページ	備 考
基 幹 科 目	憲法・基礎	2	・	後期	水2	結城洋一郎	213	
	憲法・基礎	2	/	前期	火3	結城洋一郎	213	
	行政法	4	・	前期	火3・水1	石黒 匡人	214	
	民法・基礎	2	・	後期	木2	遠山 純弘	214	
	民法・基礎	2	/	前期	水2	遠山 純弘	215	
	刑法	4		後期	月4・火3	一原亜貴子	215	
	法学	2		前期	木2	才原 慶道	216	
礎 発 展 法 科 目	憲法							非開講
	行政法	4	・	後期	月2・木1	今本 啓介	216	
	租税法	2	・	後期	木2	石黒 匡人	217	
	民法	4		後期	月3・水2	齋藤 由起	217	
	民法	4	・	前期	月4・木2	林 誠司	218	
	民法	2	・	後期	水3	遠山 純弘	218	
	刑事法特講							非開講
	国際法	4		前期	金3・金4	佐古田 彰	219	
	国際機構論							非開講
	比較法							非開講
基礎法特講							非開講	
企 業 法 科 目	商法	4		後期	金3・金4	道野 真弘	219	
	商法	4	・	前期	月2・月3	玉井 利幸	220	
	商法	4	・	前期	水3・木1	道野 真弘 多木誠一郎	220	
	民事手続法	4		後期	水3・木3	河野憲一郎	221	
	倒産処理法							非開講
	経済法	2	・	前期	金5	岡本 直貴	221	
	知的財産権法	4	・	後期	火1・金2	才原 慶道	222	
	労働法	4	・	前期	火2・木3	本久 洋一	222	
	社会保障法	4	・	後期	火2・水1	片桐 由喜	223	
	環境法	2	・	夏季集中	別途通知	一之瀬高博	223	
国際経済法							非開講	
国際取引法	4	・	前期	火1・金2	中村 秀雄	224		
企業法特講							非開講	
発 展 科 目	インターンシップ	2	・	通年		多木誠一郎外	224	
	卒業研究	6						早期卒業者に限る
	研究指導	12	・	通年				

(注)配当年次 / は、平成17年度以降入学生が、平成16年度以前入学生がであることを示す。

平成16年度以前入学生が「法学」を履修した場合は、「発展科目」の区分に算入されます。

社会情報学科

平成16年度以前入学生は、P74 の科目対応表に注意すること。  
印は平成17年度以降新設授業科目

講座	授業科目	単位数	配当年次	実施期間	時間割	担当教員	ページ	備考
計画	オペレーションズ・リサーチ	2		後期	月5	奥田 和重	227	
	統計科学	2		前期	月4	小笠原 春彦	227	
	計画数学	2		前期	木1	大津 晶	228	
科学	計画数学	2		後期	木1	奥田 和重	228	
	応用統計	2	・	後期	金4	小笠原 春彦	229	
	社会計画	4	・	前期	金3・金4	山本 充	229	
	計画科学	4	・	後期	水3・木2	石井 利昌	230	
	意思決定論	4	・	通年	火3	行方 常幸	230	
組織	経営システム基礎	2		後期	月3	平沢 尚毅	231	
	情報システム管理論	2		後期	水3	持田 泰昭	231	
情報	プロジェクト実践論	2		前期	月3	酒井 弘一 平沢 尚毅	232	
	組織コミュニケーション論	2		前期	火3	阿部 孝太郎	232	
	デジタルデザイン論	2		後期	金3	平沢 尚毅	233	
	ビジネスデザイン論	2	・	後期	木3	酒井 弘一	233	
	組織情報論	2	・	後期	水2	阿部 孝太郎	234	
	社会情報論	2	・	後期	金3	出川 淳	234	
	情報システム構築論	2	・	前期	月2	持田 泰昭	235	
	応用プロジェクト方法論	2	・	前期	木3	酒井 弘一	235	
社会	ビジネスシステム論	2	・	前期	火1	出川 淳	236	
	知識科学基礎	2		後期	月4	木村 泰知	236	
情報	情報処理	4		前期	月5・水3	中村 隆志	237	
	情報数理	2		前期	金3	沼澤 政信	237	
	認知科学	4	・	後期	月2・火1	佐山 公一	238	
	ソフトウェア科学	4	・	前期	水1・水2	加地 太一	238	
	コンピュータネットワーク論	4	・	通年	木2・夏季	三谷 和史	239	
	情報と職業	2	・	前期	水5	小山 正芳	239	
社会	社会情報入門	2		前期	金4	中村 隆志 佐山 公一	240	
	計画科学基礎	2	・	後期	金4	加地 太一 大津 晶	240	
	情報処理基礎	2	・	後期	火3	沼澤 政信	241	
研究	社会情報特講	2						非開講
	社会情報特講	2	・	夏季集中	別途通知	平山 正治	241	
	社会情報特講	2						非開講
	インターンシップ	2	・	通年	別途通知	木村泰知外	242	
	卒業研究	6						早期卒業者に限る
研究指導	12	・	通年					

専 門 共 通 科 目

平成16年度以前入学生は、P75 の科目対応表に注意すること。

印は平成17年度以降新設授業科目

授 業 科 目	単位数	配当年次	実施期間	時間割	担当教員	ページ	備 考
現代哲学論							非開講
現代心理学	4		通年	月2	杉山 成	245	
文学と人間							非開講
現代思想							非開講
現代の社会							非開講
歴史と社会							非開講
政治心理学	4		前期	月4・火1	相内 俊一	245	
国際関係論	2		国際連合大学の単位互換認定				
環境の分析化学	4		通年	金2	片岡 正光	246	
自然と物理学							非開講
食糧生産と環境							非開講
現代の数学	4		通年	金2	兼岩 龍二	246	
現代の数学							非開講
人間科学論							非開講
国際コミュニケーション	4		通年	水3	(前)鈴木将史 (後)大塚 譲	247	aクラス
				金3	高橋 純	247	bクラス
上級外国語 a(英語)	4		通年	月4	ダニエラ・カルヤヌ	248	aクラス
上級外国語 b(ドイツ語)				火3	オルデハーフエル	248	bクラス
上級外国語 c(フランス語)				火3	江口 修	249	cクラス
上級外国語 d(中国語)				木3	楊 志剛	249	dクラス
上級外国語 e(スペイン語)				木1	山田 眞史	250	eクラス
上級外国語 f(ロシア語)				火3	ABスバヴァコフスキー 山田 久就	250	fクラス
上級外国語 g(朝鮮語)				金4	宣 憲洋	251	gクラス
上級外国語							
ビジネス英語	4		通年	木2	ジョン・クランキー	251	
英語学特講	4		通年	月3	ダニエラ・カルヤヌ	252	
英文学特講							非開講
研究指導	12		通年				

教 職 共 通 科 目

区 分	授 業 科 目	単 位 数	配 当 年 次	実 施 期 間	時 間 割	担 当 教 員	ペ ー ジ	備 考	平成20年度 開講予定
教 職 に 関 す る 科 目	教育基礎論	4		通年	金6	上野耕三郎外	255	9年度カリ	
	教職論	2		後期	金6	上野耕三郎外	255		
	教育制度	2		前期	金6	上野耕三郎	256		
	教育基礎論 A	2		後期	月1	渡辺 誠	256	9年度カリ	
	教育心理	2		後期	月1	渡辺 誠	257		
	教育基礎論 B	2		前期	金4	上野耕三郎	257	9年度カリ	
	教育の歴史	2		前期	金4	上野耕三郎	258		
	教育方法学	2		前期	月4	岡部 善平	258	9年度カリ	
	教育方法	2		前期	月4	岡部 善平	259		
	商業科教育法	2		前期	金2	小山 正芳	259	9年度カリ	
	商業科教育法	2		前期	金2	小山 正芳	260		
	商業科教育法	2		後期	月6	越前 元博 田中 修一	260		
	英語科教育法	4		通年	金5	高井 收	261	9年度カリ	
	英語科教育法	2		前期	金5	高井 收	261		
	英語科教育法	2		後期	金5	高井 收	262		
	英語科教育法	2		前期	金4	小林 敏彦	262		
	情報科教育法	2		前期	月5	古谷 次郎	263		
	情報科教育法	2		夏季集中	別途通知	鰐淵 泰彰	263		
	道德教育の研究	2		後期	金4	上野耕三郎	264	9年度カリ	
	道德教育	2		後期	金4	上野耕三郎	264		
	教育実践論	2		後期	月2	岡部 善平	265	9年度カリ	
	生徒指導	2		後期	月2	岡部 善平	265		
	教育相談	2		前期	月1	渡辺 誠	266		
	教育実践論	2		前期	月2	岡部 善平	266	9年度カリ	
	教育課程論	2		前期	月2	岡部 善平	267		
	教育実習	3				上野耕三郎 岡部 善平 君羅 久則 高井 收		9年度カリ	
	事前・事後指導	1				上野耕三郎 岡部 善平 君羅 久則 高井 收			
教育実習	2				君羅 久則 高井 收				
教育実習	2				上野耕三郎 岡部 善平 君羅 久則 高井 收				
総合演習	2			後期	月4	岡部 善平	267		

(注意) 備考欄に「9年度カリ」と記載された科目は、平成11年度以前入学生用の科目ですので、平成12年度以降入学生は履修することはできません。



区分	授業科目	単位数	配当年次	実施期間	時間割	担当教員	ページ	備考	平成20年度 開講予定
教 科 に 関 す る 科 目	商業 専修 職業指導	4		通年	月6	松田 光一 上野耕三郎	268	前期 9か 後期 9か	
	職業指導	2		前期	月6	松田 光一	268		
	言語学概論	4		通年	月4	大島 稔	269		
	英語学概論	4	~	通年	水1	山本 久雄 大島 稔	269 270		
	英語学	4	~	通年	木2	ダニエラ・カルヤヌ	270	9年度カリ	未定
		2		前期	木2	ダニエラ・カルヤヌ	271	aクラス	
	英語学							非開講	未定
	英語学							非開講	×
	英文学史							非開講	
	英文学概論	4	~	通年	月3	羽村 貴史	271		
	英文学	4	~	通年	月1	君羅 久則	272	9年度カリ	未定
		2		前期	月1	君羅 久則	272	aクラス	
	英文学							非開講	未定
	英文学							非開講	
	英文学							非開講	×
	英会話・英作文	4	~	通年	木3	ジョン・クランキー	273		
	英語コミュニケーション	2	~	前期	金3	小林 敏彦	273		×
	英語コミュニケーション							非開講	
	比較文化	2	~	後期	金3	高井 収	274		×
比較文化							非開講		
その他の科目	情報機器概論	2		夏季集中	別途通知	藤島 成行	274		

(注意) 1. 備考欄に「9年度カリ」と記載された科目は、平成11年度以前入学生用の科目ですので、平成12年度以降入学生は履修することはできません。

2. 6講目に開講されている教職共通科目は、昼間コースの学生も履修できます。

## 国際交流科目

授業科目	単位数	配当年次	実施期間	担当教員	ページ	備考
中級ミクロ経済学	4		前・後期	藤生 源子	277	A・Bクラス
中級マクロ経済学						非開講
日本経済	2		前期	横田 宏治	278	
アジア太平洋におけるマーケティング戦略	2		前期	ニール・クライマー	278	
世界の中の日本企業	2		前期	ニール・クライマー	279	
日本的経営入門	2		後期	ニール・クライマー	279	

- (1) 国際交流科目とは、小樽商科大学短期留学プログラム規程に定める授業科目です。  
 (2) 国際交流科目のうち、本学の学生が上記の科目を履修した場合、別表の授業科目区分に算入する。

### 別表

授業科目	単位数	本学の学生が履修した場合の授業科目区分
中級ミクロ経済学	4	経済学科学科科目(発展科目)
中級マクロ経済学	4	経済学科学科科目(発展科目)
日本経済	2	経済学科学科科目(発展科目)
アジア太平洋におけるマーケティング戦略	2	商学科学科科目(発展科目)
世界の中の日本企業	2	商学科学科科目(発展科目)
日本的経営入門	2	商学科学科科目(発展科目)

平成12年度以前入学生は、学科専門科目に算入する。

# 基礎科目

科目名<Subject>	哲学 <Philosophy>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	後期
担当教員名<Name>	久保田 顕二 <Kenji Kubota>	研究室番号<Office>	343
Office Hours	前期：金曜日 16:00～17:30、後期：水曜日 16:30～17:30		
<p><b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>          哲学(西洋哲学)の歴史を学ぶことを通じて、哲学の基本的な考え方を身に付ける。哲学の歴史は大きく、「古代」「中世」「近代」「現代」の4つの時代に区分されるが、今年度は近代哲学を中心に見ていく。それ以外の時代の哲学については、西洋哲学史全体の流れを通覧する際に概括的に説明するほか、近代哲学との関連でも、適宜、触れていく。</p> <p><b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b>          序論 哲学とは何か          哲学史の時代区分          近代哲学の特徴          大陸合理論の哲学          イギリス経験論の哲学          カントの哲学          ドイツ観念論とヘーゲルの哲学</p> <p><b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>          テキストは使用しないが、参考文献を御紹介する。</p> <p><b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>          定期試験の成績に平常点(出席状況等)を加味する。定期試験は論述式の筆記試験であり、そこでは、用語・事項の簡潔な説明を求める4～6題の小問と、比較的広範にわたる内容の理解を確かめる2題の大問とが出題される。          定期試験は、「授業ノートのみ持込可」の条件で実施するか、それとも「持込一切不可」の条件で実施するかのいずれかであるが、最終的にどちらにするかは、開講後の状況を見て判断する。なお、「持込一切不可」になる場合は、試験の直前の週に試験準備用のプリントを配布し、そこで、実際に出題される設問を含めた多数の設問を学生に提示しておく。(ただし、記載された設問のうちのどれが出題されるかは指示されない。)</p> <p><b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>          一応の目安は次のとおり。          秀(100～90)：出席状況が良好であり、かつ、定期試験においてすべての設問につき、規定の分量以上の正確な答案を作成し、なおかつ、その答案の文章が非常に明快であること。          優(89～80)：出席状況が良好であり、かつ、定期試験において大部分の設問につき、規定の分量程度の正確な答案を作成し、なおかつ、その答案の文章が十分に明快であること。          良(79～70)：出席状況がまずまずであり、かつ、定期試験において7割以上の設問につき、規定の分量程度の、ほぼ正確な答案を作成し、なおかつ、その答案の文章がまずまず明快であること。          可(69～60)：定期試験において6割以上の設問につき、規定の分量に近い、ほぼ正確な答案を作成し、なおかつ、その文章がまずまず明快であること。          不可(59～0)：以上の水準に達しないこと。</p> <p><b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>          断片的で雑学的な「知識」や「教養」を身に付けようとするにより、むしろ、思想的な内容を知的に把握したり、思想発展のダイナミズムを捉えたりすることのほうに、より大きな関心を向けてほしい。定期試験においても、細かな事項の記憶を試すようなたぐいの設問は極力出題しない方針である。</p>			

科目名<Subject>	倫理学 A・B <Ethics>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	前期
担当教員名<Name>	久保田 顕二 <Kenji Kubota>	研究室番号<Office>	343
Office Hours	前期：金曜日 16:00～17:30、後期：水曜日 16:30～17:30		
<p><b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>          倫理的に「善い・悪い」「正しい・不正である」ということが何を意味するのかを、身の回りのアクチュアルな倫理問題を題材としながら考えていく。倫理学の応用的な問題(主に生命倫理学の個別的な諸問題)を取り上げて考察し、それと同時に、それらの問題を理論的に処理するための概念的枠組みとなる体系的倫理思想を紹介する。説明の順序としては、まず倫理思想の紹介を行う。</p> <p><b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b>          序論 倫理学とは何か          功利主義とカント倫理学          脳死問題と臓器移植問題          健康と病気          遺伝子研究の倫理問題          取り上げる順序には若干変動があるかもしれないが、また予定外のテーマを挿入することもありうる。</p> <p><b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>          テキストは使用しないが、参考文献を御紹介する。</p> <p><b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>          定期試験の成績に平常点(出席状況等)を加味する。定期試験は論述式の筆記試験であり、そこでは、用語・事項の簡潔な説明を求める4～6題の小問と、比較的広範にわたる内容の理解を確かめる2題の大問とが出題される。          定期試験は、「授業ノートのみ持込可」の条件で実施するか、それとも「持込一切不可」の条件で実施するかのいずれかであるが、最終的にどちらにするかは、開講後の状況を見て判断する。なお、「持込一切不可」になる場合は、試験の直前の週に試験準備用のプリントを配布し、そこで、実際に出題される設問を含めた多数の設問を学生に提示しておく。(ただし、記載された設問のうちのどれが出題されるかは指示されない。)</p> <p><b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>          一応の目安は次のとおり。          秀(100～90)：出席状況が良好であり、かつ、定期試験においてすべての設問につき、規定の分量以上の正確な答案を作成し、なおかつ、その答案の文章が非常に明快であること。          優(89～80)：出席状況が良好であり、かつ、定期試験において大部分の設問につき、規定の分量程度の正確な答案を作成し、なおかつ、その答案の文章が十分に明快であること。          良(79～70)：出席状況がまずまずであり、かつ、定期試験において7割以上の設問につき、規定の分量程度の、ほぼ正確な答案を作成し、なおかつ、その答案の文章がまずまず明快であること。          可(69～60)：定期試験において6割以上の設問につき、規定の分量に近い、ほぼ正確な答案を作成し、なおかつ、その文章がまずまず明快であること。          不可(59～0)：以上の水準に達しないこと。</p> <p><b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>          高等学校の「倫理」とは内容的に一部分しか重なっていないので、高校時代に「倫理」を履修していなくてもこの授業の理解にはほとんど差し障りがない。また、一部分しか重なっていないというのは、高等学校の「倫理」のほうが、厳密な意味での「倫理学」からは外れる内容を多く含んでしまっているためである(「心理学」、「宗教学」で扱われる内容も含んでいる)。</p>			

科目名<Subject>	心理学 A・B	<Psychology >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>		前期
担当教員名<Name>	杉山 成	<Shigeru Sugiyama>	研究室番号<Office>	心理学実験室
Office Hours	火 16:00～17:30			
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 基礎科目では、心理学を初めて学ぶ学生のために、基本的な理論や概念の解説を行います。心理学では、基礎領域である知覚心理学・学習心理学の内容を中心に、人間の静電処理のメカニズムについて解説します。基本的に講義形式で進めますが、必要に応じて、簡単な実験・調査も行う予定です。授業目標は次の2点です。1. 日常の出来事を科学的にとらえる観点を習得する。2. 人間の認知過程の特徴を理解し、陥りやすいミスや歪みを知る。		<b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 授業目標に対する60%の到達度が合格ラインです。さらに詳細な「秀・優・良・可」の評価基準については、オリエンテーションの際に配布する授業計画書によって通達します。		
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 1. オリエンテーション 2. 心理学の方法：心理学の歴史・心理学の対象と方法 3. 知覚の世界：図・地の分化・順心と対比・空間知覚・錯視現象 4. 記憶の過程：記憶過程モデル・忘却理論 5. 推論の歪み：ヒューリスティック・確認バイアス 6. 感情の役割：感情の生起と伝達・ストレスの過程 7. 学習の成立：条件づけ・観察学習		<b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 基本的な受講マナー（私語をしない、教室内を歩き回らない、携帯電話を使用しないなど）を守れない学生の受講は禁じます。 また、履修希望者が教室の収容人数を超過する場合には、教室の収容人数にもとづいて抽選による履修制限を行いますので、第1回目の授業（オリエンテーション）には必ず出席してください。		
<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> テキストは使用せず、適宜参考文献を紹介し、また、資料プリントを配布します。				
<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 学期末の筆記試験と平常点（授業内レポートの提出状況・内容）を総合して評価します。				

科目名<Subject>	心理学	<Psychology >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>		後期
担当教員名<Name>	杉山 成	<Shigeru Sugiyama>	研究室番号<Office>	心理学実験室
Office Hours	火 16:00～17:30			
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 基礎科目では、心理学を初めて学ぶ学生のために、基本的な理論や概念の解説を行います。心理学では、パーソナリティ心理学・発達心理学の領域を中心に、考え方や行動の個人差と心理的適応の関連について解説します。基本的に講義形式で進めますが、必要に応じて、心理テストの実習やグループワーク等も行う予定です。授業目標は次の2点です。1. 心理学的観点を身につけることによって、主観や直感とは違った観点から自己を洞察する。2. 心理的適応のメカニズムへの理解を通して、現代社会における正しい生き方について考える。		<b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 授業目標に対する60%の到達度が合格ラインです。さらに詳細な「秀・優・良・可」の評価基準については、オリエンテーションの際に配布する授業計画書によって通達します。		
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 1. オリエンテーション 2. パーソナリティの理論：自分を知ること・類型論と特性論 3. パーソナリティの測定：心理テストの形式と要件・テスト実習 4. ストレスと適応：交流分析理論・セルフコントロール 5. 人間関係の発展：対人魅力・人間関係の段階モデル 6. コミュニケーション：積極的傾聴の方法・対人葛藤の解決 7. ライフサイクルと適応：ライフサイクル理論・キャリア意識の発達		<b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 基本的な受講マナー（私語をしない、教室内を歩き回らない、携帯電話を使用しないなど）を守れない学生の受講は禁じます。 また、履修希望者が教室の収容人数を超過する場合には、教室の収容人数にもとづいて、抽選による履修制限を行います。履修制限の手続きについては、 <u>前期の履修登録期間に連絡しますので、掲示に十分注意してください</u> 。この手続きを行わない場合には、履修登録をしても受講できません。		
<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> テキストは使用せず、適宜、資料プリントを配布します。				
<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 学期末の筆記試験と平常点（授業内レポートの提出状況・内容）を総合して評価します。				

科目名<Subject>	教育学 <Pedagogy>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	後期
担当教員名<Name>	上野耕三郎・岡部善平 <Kozaburo Ueno/Yoshihei Okabe>		研究室番号<Office>
Office Hours	メールなどで事前に連絡をしてください。		
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 「いじめ」「不登校」「学習意欲の低下」などの学校現象がマスメディアでしばしばとり上げられている。しかし、一步踏み込んで考えてみようとしても、じゅうぶん納得のいく説明を得ることはなかなかない。そのひとつの理由は、既存の教育にかなするもの言いが現実を切りとるのに有効性をなくしてしまっているからではないだろうか。 この授業では、学校現象に直接アプローチするのではなく、もう少し迂回路を通して学校現象への接近を試みる。その結果、教育あるいは学校をめぐる既存のことばが現実と切り結ぶことがなく、編みかえが必要である、ということがわかれば、すくなくとも授業の意図は達せられたことになる。 授業は講義、書く作業、ビデオ視聴などによってすすめる。		いまの子どもたちの目に映る学校 情報の波のなかを軽やかに泳ぐ子どもたちにとって、学校や教師はどのような存在なのだろうか？ 組織としての学校の特徴 学校教育をめぐる諸問題は、学校が本来もっている仕組みや形に由来するのではないだろうか？ 古典的ともいべき「学校」像の崩壊 教える教師がいて、学びたがっている生徒がいるという構図が成立しにくくなっている<いま>の時代。学校はどのように形を変えていくのだろうか？	
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 私たちは現代の教育あるいは学校現象を考える視点を、どのように設定したらよいのだろうか？ その視点を得るためには以下のことを順を追って考えてみる。 近代日本社会のなかでの学校の役割はどのようなものであったのか。 揺るぎのない学校の「絶対性」あるいは「聖性」のもとで、人々は自らそして子弟を学校へと通わせた。 70年代以降の高度資本主義社会のなかでの学校の位置づけ。 皆さんは「受験競争」のなかをくぐり抜けてきたのだろうか？ 受験圧力が高まっているのだろうか？		<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> テキストは用いない。必要に応じて資料は配付する。	
		<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 定期試験による。 論述式のテストを実施し、90点以上が「秀」、80-89点が「優」、70-79点が「良」、60-69点が「可」、59点以下が「不可」とする。	
		<b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>	
		<b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>	

科目名<Subject>	日本文学 A・B <Japanese Literature >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	前期
担当教員名<Name>	中村 史 <Fumi Nakamura>		研究室番号<Office>
Office Hours	面談を希望される方はまず電子メールにてご連絡ください		
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> この授業は題して「説話文学の世界」とし、日本の文学と文化の一端を知っていただく機会にしたいと思っています。日本の説話文学作品、『日本霊異記』『三宝絵』『今昔物語集』『宇治拾遺物語』等の説話を取り上げ、口承文芸をも範囲とします。仏教等の思想に触れつつ、また、インド、中国の説話文学作品との比較の視点を持ちつつ授業を進めます。		<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> その方法については履修者の状況を見て最終的に決定します。基本的には定期試験、レポート、および小レポート（数回）によって評価する予定です。	
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> ・オリエンテーション ・説話とは何か ・説話と説話集のいろいろ ・『信貴山縁起絵巻』『飛倉の巻』『宇治拾遺物語』 ・狐女房譚(たん) 『日本霊異記』 ・ジャータカ説話 『三宝絵』 ・月の兎、猿の生き胆 『今昔物語集』 ・沖縄の口承文芸 フィールドワークによる資料 ・その他 *履修者の状況を見て予定を変更することはあります。		<b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 定期試験、レポートそれぞれにおいて、過半の評価を得ていること、授業中に適宜複数回課す小レポートにおいて過半の評価を得ていることが目安となる。さらに詳しいことは評価確定後、文書にて通達する。	
<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> テキストはとくに定めません。参考文献は授業中に紹介してゆきます。		<b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 履修者は古典文法を修得し、かつ古文・漢文のある程度以上読めることが望ましい。 なお、履修や成績評価等の重要なことがらについて電子メール上のみで対応することはできません。かならず電子メールで予約を取って研究室を訪問してください。	

科目名<Subject>	日本文学 <Japanese Literature >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	後期
担当教員名<Name>	中村 史 <Fumi Nakamura>	研究室番号<Office>	405
Office Hours	面談を希望される方はまず電子メールにてご連絡ください		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> この授業は題して「古典文学の世界」とし、日本の文学と文化の一端を知っていただく機会にしたいと思っています。日本の古典文学作品のなかでも、たとえば、『古事記』『日本書紀』『風土記』『万葉集』『大和物語』『伊勢物語』『竹取物語』『平家物語』『雨月物語』等のうちのいくつかを取り上げます。また、琉球の古典をも範囲とし、口承文芸をも視野に入れます。中国やそれ以外の外国文学の作品との比較の視点を持ちつつ授業を進めます。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> その方法については履修者の状況を見て最終的に決定します。基本的には定期試験、レポート、および小レポート（数回）によって評価する予定です。	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> オリエンテーション ・開闢神話 日本と琉球 『古事記』～『遺老説伝』 ・海幸・山幸、または、ヤマトノヲロチ 『古事記』 ・浦島の文学 『万葉集』～『御伽草子』～国定教科書 ・一条戻橋 『平家物語』ほか ・生田川伝説 『大和物語』ほか ・『平家物語』の女性たち 特別編 ・『出雲風土記』の世界 特別編 ・その他 *履修者の状況を見て予定を変更することはあり得ます。		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 定期試験、レポートそれぞれにおいて、過半の評価を得ていること、授業中に適宜複数回課す小レポートにおいて過半の評価を得ていることが目安となる。さらに詳しいことは評価確定後、文書にて通達する。	
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> テキストはとくに定めません。参考文献は授業中に紹介してゆきます。		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 履修者は古典文法を修得し、かつ古文・漢文をある程度以上読めることが望ましい。 なお、履修や成績評価等の重要なことについて電子メール上のみで対応することはできません。かならず電子メールで予約を取って研究室を訪問してください。	

科目名<Subject>	外国文学 <Foreign Literature >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	後期
担当教員名<Name>	吉田 直希 <Naoki Yoshida>	研究室番号<Office>	433
Office Hours	月 14:30～17:00		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 対話型、双方向型の授業 情報機器、視聴覚機器を使用  近代以降の市民社会がいかなるものであるかを英国18世紀の近代小説の読解を通して考えていきます。		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 秀(100～90): 文学作品の読解を通して自分の意見を表現する能力に秀でている。 優(89～80): 文学作品の読解を通して自分の意見を表現する能力に優れている。 良(79～70): 文学作品の読解を通して自分の意見を表現する能力を十分に有している。 可(69～60): 文学作品の読解を通して自分の意見を表現する能力を有している。 不可(59～0): 文学作品の読解を通して自分の意見を表現する能力が身につけていない。	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> デフォー、スウィフト、リチャードソン、フィールドディングらの作品を中心に、理性と野性、文明と自然、愛と憎しみ、生と死といったテーマの歴史的意義を探っていきます。批評理論を適用し、作品と現代との関連を説明しますが、同時に映画やDVDを利用して内容理解を深めていきます。		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 毎回授業内容に関する課題を提出してもらいます。学期末にはまとめのレポートと試験を課します。積極的に参加できる学生の履修を望みます。必ずオリエンテーションに参加すること。	
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 主にプリントを使用します。			
<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 授業への参加状況(課題): 50点 試験およびレポート: 50点			

科目名<Subject>	文化論	<Culture and Arts>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>		前期
担当教員名<Name>	鈴木 吾郎	<Goro Suzuki>	研究室番号<Office>	
Office Hours				
<p><b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 身の回りに現れる様々な出来事や記録、あるいは歴史や芸術に関心を持ち文化について考える。そのために出来るだけ多様な題材を扱い文化への視野を広める。一方、受け身の学習から主体的な学習体験をするため、自主研究テーマを設定し学期末に研究成果を提出する。全体を通じて身近な事柄からグローバルな問題まで、現代の世相を見つめ直す。</p> <p><b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> この授業は、文化を構成する要素を13の講話によってモザイク的に鳥瞰し「文化とは何か?」を考える。与えられた内容を覚えるだけではなく、それぞれの人生観や個性をベースに文化について考え感想レポートを提出する。レポートは集約した内容を次回の講話時に報告し自分と他との考え方の相違を認識する。対話型あるいは双方向の授業をめざす。 第1講話 オリエンテーション 第2講話 文化を構成する要素について13の講話を基に進める。 第14講話 第15講話 まとめ *但し、授業時数が15コマに満たない場合がある。</p> <p><b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> *プリント・スライド・OHPなど適時用意する。</p>				
<p><b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 試験はせず毎時間の講話に対するレポートを中心に、自主研究課題の結果報告を加味して総合的に判断する。詳細については、第9講話の項にプリントで知らせる。3分の1以上の無断欠席者には不可をつける。</p> <p><b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 「秀」授業に積極的に参加し、文化の意味を探り自分なりの考えを獲得した者。 「優」授業に真面目に参加し、文化について関心を強めた者。 「良」授業を通じて文化と自分との関わりを自覚した者。 「可」3分の2以上の出席をした者。 「不可」3分の1以上の欠席をした者 *但し、理由によっては追加課題などで努力した者には「可」を与える。</p> <p><b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> オリエンテーションを受けなかった者は原則として受講を認めない。毎回課題を出すので欠席するとレポート数が足りなくなる。出欠確認はレポートで行う。 月曜日の授業感想レポートを金曜日12:00までにレポート提出ボックスへ投函すること。午後それを回収して次回講話のはじめに紹介する。</p>				

科目名<Subject>	日本語学	<Japanese Linguistics>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	I	後期
担当教員名<Name>	高野 寿子	<Hisako Takano>	研究室番号<Office>	434
Office Hours	TBA			
<p><b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> この授業では、日本語の広い意味での文法を言語科学的に研究します。つまり、日本語を言語現象としてよく観察し、記述し、分析し、そこから法則性(文法)を見つける努力をします。そうすることは、日本語を母国語とする学生には、自らの母国語に対する知識を意識化することですし、日本語を外国語として、主にその運用能力の習得に専念してきた留学生には、日本語を言語体系として概念的に把握する機会ともなります。日本語を一言語として客観的に把握することで、それを他の言語と比較することも可能になります。日本語を他の言語と比較することで、言語一般が有する様々な性質(普遍性)や、個々の言語が持つ特殊性を学ぶことができます。言語体系としての日本語への理解を深めることが、この授業の主な目的です。</p> <p><b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> この授業では、主に三つのことをします。まず、日本語を言語科学的に検証するために最低限必要な理論的道具立てとして、言語学の基礎的な概念や枠組みについて講義します。次に、普段使っている日本語の一部を抽出して観察し、習った言語学の概念や枠組みを使って分析する練習(フィールドワーク)をします。最後に、日本語以外の言語(ここでは英語)で書かれた教科書や論文の抜粋を購読します。</p>				
<p><b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 「はじめての人の言語学」上山あゆみ著、くろしお出版 <i>An Introduction to Japanese Linguistics</i>, Natsuko Tsujimura, Blackwell Publisher (抜粋) <i>Japanese Syntax and Semantics</i>, S.-Y. Kuroda, Kluwer Academic Publishers (抜粋)</p> <p><b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 授業内容をどの程度理解しているかを確認する小テストの成績と、フィールドワークのレポートの内容、中間、期末試験の結果を基に、成績を出します。 4年生に限り、試験の代わりにレポートを書くことを認めます。</p> <p><b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 小テストとレポート: 50% 定期試験: 50%</p> <p><b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 英語の教材を使用しますので、英語の読解力が前提となります。</p>				



科目名<Subject>	言語コミュニケーション論 <Language and Communication>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	前期
担当教員名<Name>	山田 久就 <Hisanari Yamada>	研究室番号<Office>	5 4 2
Office Hours	在室時いつでも可		
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 人間のことば(言語)を研究する学問を言語学と呼びます。言語学の周辺領域について学び、ことばの多様な面とことばを取り巻く環境について理解を深めることを目指します。		<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 定期試験(80%)と5回の小テスト(20%)で評価します。 * 授業への参加態度： 上記の点から減点。	
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コミュニケーション、記号、ことば</li> <li>・ 世界の言語</li> <li>・ 音</li> <li>・ 文字、点字</li> <li>・ ことばと文化</li> <li>・ ことばと社会</li> <li>・ 手話</li> <li>・ ことばと脳</li> </ul>		<b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 秀 (90-100 点): 授業で説明した言語学周辺領域の理解と用語に関する知識が完全にある。 優 (80-89 点): 授業で説明した言語学周辺領域の理解と用語に関する知識がかなりある。 良 (70-79 点): 授業で説明した言語学周辺領域の理解と用語に関する知識が十分にある。 可 (60-69 点): 授業で説明した言語学周辺領域の理解と用語に関する知識が最低限にある。 不可 (0-59 点): 授業で説明した言語学周辺領域の理解と用語に関する知識が不足している。	
<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 基本的には、コンピュータ画面をプロジェクターに投射したものを教材とします。 また、下記のサイトに pdf ファイル (A4 で 25 枚分ぐらいを予定) を置きますので各自プリントして持ってください。 <a href="http://www.otaru-uc.ac.jp/~hisanari/ja/classes/lang_com">http://www.otaru-uc.ac.jp/~hisanari/ja/classes/lang_com</a> (学内からのみアクセス可)		<b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 教室の収容人数を基準に履修制限を行うので、オリエンテーションに必ず出席してください。 シラバスより具体的な情報を下記のサイトに載せていますので、オリエンテーションの前に参考にしてください。 <a href="http://www.otaru-uc.ac.jp/~hisanari/ja/classes/lang_com">http://www.otaru-uc.ac.jp/~hisanari/ja/classes/lang_com</a> (学内からのみアクセス可)	

科目名<Subject>	外国語コミュニケーション a <Communication in Foreign Languages >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	前期
担当教員名<Name>	副島 美由紀 <Miyuki Soejima>	研究室番号<Office>	4 2 0
Office Hours	在室時いつでも可		
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 本授業は、ドイツ語 の補完的授業として、ドイツ語を履修している者を対象とします。ドイツ語 で学習したことを基礎に、コミュニケーションの訓練を数多く行いながら、外国語による自己表現の能力を養います。人と話すことが目的の授業ですから、積極的な態度で臨んで下さい。		<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 定期試験の結果を基本としますが、平常点も加味し、3分の1以上欠席した者は履修資格を失います。	
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 短い対話の反復練習・応用練習、ヒアリング練習を中心に授業を行います。		<b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 授業開始後、なるべく早い時期に文書にて通達します。	
<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 教室にて指示。		<b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 履修者が語学学習に不十分なほど多数の場合は履修制限を行います。その際はドイツ語 履修中の者を優先します。	

科目名<Subject>	外国語コミュニケーション b <Communication in Foreign Languages >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	前期
担当教員名<Name>	山田 久就 <Hisanari Yamada>	研究室番号<Office>	5 4 2
Office Hours	在室時いつでも可		
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>  ロシアについての総合的な知識と実践的なロシア語の表現を身につけることを目指します。  コンピュータ画面をプロジェクターに投射して授業を進めます。  画像資料(コンピュータ内)、音声資料(CD)、映像資料(DVD)を使います。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>  ロシアについてとロシア語について半々ぐらいで扱います。具体的には、次のようなことを扱います。参加者の希望によってテーマを追加、変更することもあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロシアとロシア人</li> <li>・ロシアの歴史</li> <li>・ロシアの文学</li> <li>・ロシアの音楽(クラシックと最近の流行)</li> <li>・ロシアの映画</li> <li>・ロシアの絵画</li> <li>・ロシアの町(博物館、劇場他)</li> <li>・実践的なロシア語の表現</li> <li>・ロシア語のコンピュータでの扱い方</li> <li>・ロシア語の文字の筆記体</li> </ul> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>  必要に応じてプリント等を配布します。</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>  定期試験(75%)および出席回数、遅刻回数、授業への参加態度、授業での応答(全体で25%)で評価します。</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>  定期試験の基準の目安は、100点満点として、次のようになる。  90-100点:授業で説明したロシアとロシア語に関する理解と知識が完全にある。  80-89点:授業で説明したロシアとロシア語に関する理解と知識がかなりある。  70-79点:授業で説明したロシアとロシア語に関する理解と知識が十分にある。  60-69点:授業で説明したロシアとロシア語に関する理解と知識が最低限にある。  0-59点:授業で説明したロシアとロシア語に関する理解と知識が不足している。</p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>  履修希望者が多い場合には履修制限を行います。その場合、ロシア語Iを履修済み、履修中の人を優先します。</p>			

科目名<Subject>	外国語コミュニケーション a <Communication in Foreign Languages >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	後期
担当教員名<Name>	副島 美由紀 <Miyuki Soejima>	研究室番号<Office>	4 2 0
Office Hours	在室時いつでも可		
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>  本授業は、ドイツ語の補完的授業として、ドイツ語を履修している者を対象とします。ドイツ語で学習したことを基礎に、コミュニケーションの訓練を数多く行いながら、外国語による自己表現の能力を養います。外国語コミュニケーションの継続ではありませんが、履修した人にとってはその発展形態となるでしょう。人と話すことが目的の授業ですから、積極的な態度で臨んで下さい。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>  多様な教材を用い、短い対話の反復練習・応用練習、ヒアリング練習を重ねながら、総合的なコミュニケーション能力を養います。</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>  教室にて指示。</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>  定期試験の結果を基本としますが、平常点も加味し、3分の1以上欠席した者は履修資格を失います。</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>  授業開始後、なるべく早い時期に文書にて通達します。</p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>  履修者が語学学習に不適当なほど多数の場合は履修制限を行います。その際はドイツ語履修中の者を優先します。</p>			

科目名<Subject>	外国語コミュニケーション b <Communication in Foreign Languages >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	後期
担当教員名<Name>	江口 修 <Osamu Eguchi>	研究室番号<Office>	5 2 3
Office Hours	江口 火・木 14:30~16:00 (メールでの事前連絡が望ましい)		
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 基本的なフランス語の運用能力(話す、聞く、読む、書く)の養成を補完するために、フランス語の特色を歴史的あるいは比較言語的に概観するが、同時にボキャブラリーの増強をディクテ(聞き書き取り)で図る。		<b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> フランス語履(既)修者に限る。	
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 次の三本柱からなる。1) 歴史的な通観 2) 英語等との比較 3) ディクテ			
<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 江口が作成した教材(パワーポイントなど)を使用。			
<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 統一基準に依拠しつつ、定期試験(一回)他、ディクテも含め総合的に判断。			
<b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>			

科目名<Subject>	科学方法論 <Methodology of Science>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	前期
担当教員名<Name>	佐々木 邦子 <Kuniko Sasaki>	研究室番号<Office>	
Office Hours			
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 長きにわたり女性の労働は、役割分担に対する社会的固定観念に依拠する問題が多であった。それは欧米諸国でも程度の違いこそあれほぼ同様である。1970年代頃からの女性をめぐる世界的な潮流とともに、日本においても女性を対象とする政策が展開された効果もあり、現代は、男性と女性の区分を超えて自由に仕事や生き方の選択がしやすい社会になりつつある。しかし、政策の実施は全ての女性の労働世界を高めてはいない。逆に同姓間の格差が顕著になっている。また、昨今はフリーターやニートの急増により、若年労働市場の問題が社会的に耳目を集めている。これもまた、他国と共通することであり、ILOはディーセントワークへの試みを始めた。 本講義では、労働に関して以上の二つの視点から、我が国における戦後の雇用慣行の変遷過程で女性や若者が辿った変化を中心に検討を加えたい。男女労働者の職業的復活に果たすリカレント教育についても題材にする。		6. 戦後日本における女性労働の実態 7. " 8. 女性政策の動向 - 世界、日本 9. 女性の継続就業を可能にする法制度 10. " 11. 若年労働市場の現状 12. フリーター、ニートをめぐる日本の動向 13. フリーター、ニートをめぐる世界の動向 14. 日本におけるリカレント教育 15. まとめ	
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 1. 本講義の目的と進め方 本講義のテーマに対する実態調査の必要性、アンケート調査、ヒアリングなど 2. 日本における雇用慣行の推移 3. " 4. 現代の労働市場、多様化する労働形態 5. "		<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 必要なプリント教材をその都度配付する。	
		<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 定期試験 70%、中間課題・講義への参加状況等 30%を総合的に判断する。	
		<b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 講義時に説明する	
		<b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 講義の目的と内容をよく検討したうえで、真剣に講義に参加しようとする意思を持てる方に受講していただきたい。	

科目名<Subject>	歴史学（生活史と社会史）		<History >	
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>		前期
担当教員名<Name>	荻野 富士夫	<Fujio Ogino>	研究室番号<Office>	415
Office Hours	火曜日・水曜日 13時から14時30分			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 日本の近現代史全般を対象として、受験や「教科書で教えられなかった歴史」に焦点をあてる。下記のような一見、国家や政治などとはかけ離れたテーマを取り上げるが、それらの思想や活動も深く歴史の進展と結びついていたことを明らかにし、歴史に学ぶことの必要と楽しさを考えたい。一週一テーマの講義形式となる。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 定期試験とレポート（テーマは日本近現代史に関するもの、四〇〇〇字以上）適宜実施する授業への批評アンケートによって総合的に評価する。		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> ・もう一つの開国（コレラ）・「万歳」の誕生 ・日本の軍隊 ・明治国家と女性 ・戦時下の女性 ・山本宣治と産児制限 ・戦後の女性 ・手塚治虫のめざしたもの		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 授業開始時に配布する詳細な授業計画書で指示する。		
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 毎回プリント教材を配布するほか、テーマごとに参考文献を紹介する。		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>		
・角田柳作（アメリカの日本研究開拓） ・大正デモクラシー期の女性 ・知里幸恵 ・国防婦人会 ・ウーマン・リブ ・鎌田慧の描いたもの				

科目名<Subject>	歴史学（近代日本とアジア）		<History >	
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>		後期
担当教員名<Name>	荻野 富士夫	<Fujio Ogino>	研究室番号<Office>	415
Office Hours	火曜日・水曜日 13時から14時30分			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 現在なお、日本とアジアの人々の間には「歴史認識」のギャップが横たわっている。国際社会のなかで、私たちひとりひとりがその認識の差違をみつめ、埋めていくことが求められている。そのひとつの手がかりとして、一九世紀後半以降の日本と朝鮮・中国の交錯した軌跡をたどり、主に植民地化や侵略の実態とその土壌となる意識の形成と展開に焦点をあてつつ、それぞれの異文化への理解者の存在にも目を向けたい。一週一テーマの講義形式となる。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 定期試験とレポート（テーマは日本近現代史に関するもの、四〇〇〇字以上）適宜実施する授業への批評アンケートによって総合的に評価する。		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> ・琉球から沖縄へ ・朝鮮人への差別 ・「大東亜共栄圏」の実態 ・「従軍慰安婦」 ・天皇と戦争 ・中国から帰った「戦犯」たち		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 授業開始時に配布する詳細な授業計画書で指示する。		
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 毎回プリント教材を配布するほか、テーマごとに参考文献を紹介する。		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>		
・中国人蔑視観の形成 ・皇民化政策（創氏改名） ・B C級戦犯問題 ・外務省警察（領事館警察） ・靖国神社 ・戦争への抵抗				

科目名<Subject>	社会思想史 A・B	<History of Social Philosophies >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>		前期
担当教員名<Name>	西永 亮	<Ryo Nishinaga>	研究室番号<Office>	
Office Hours	水 14:30-16:00			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 本講義は、「文明」をキーワードに西洋近代の社会思想史を概観します。西洋の思想史のなかで「文明」は、肯定的に評価されると同時に批判されるもする両義的な概念として発展してきました。講義では、重要な思想家を何人か取りあげながら、それぞれが「文明」の何を評価し、また何を問題視したのかを解説します。それを通じて、現代における「文明」概念の意義と限界を分析する力を養います。		-3 階級社会批判 マルクス -4 帝国主義論 レーニン -5 文明と「最後の人間」 ニーチェとウェーバー		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> はじめに「文明」と「社会」 文明社会の成立 -1 ボリスからステイトへ アリストテレスとマキアヴェリ -2 名譽心から自己保存へ ホッブズ -3 所有、労働、貨幣 ロック -4 文明批判と「一般意志」 ルソー -5 利己心と共感 A. スミス 文明社会の完成と批判 -1 自律性、尊厳、美感的判断力 カント -2 欲求の体系、相互承認、人倫 ヘーゲル		<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> なし。プリントを配付します。参考文献は適宜紹介します。		
		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 期末試験と平常点（講義中の積極的な発言等）によって総合的に評価します。期末試験80%、平常点20%。		
		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 講義で解説した各思想家の基本概念、思考様式、問題意識を理解し、それを自分で応用できるかどうかが基準になります。その理解力と応用力が9割以上であれば「秀」、8割以上であれば「優」、7割以上であれば「良」、6割以上であれば「可」、6割未満であれば「不可」となります。		
		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 各自でノートをよくとり、分からない点は質問して下さい。自分で考えるという姿勢が望まれます。		

科目名<Subject>	社会思想史	<History of Social Philosophies >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>		後期
担当教員名<Name>	西永 亮	<Ryo Nishinaga>	研究室番号<Office>	
Office Hours	水 14:30-16:00			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 本講義は、「文明」と「文化」の関係を軸に20世紀の社会思想的展開を概観します。20世紀の西洋において「文明」と「文化」は、実際の社会問題と関連しながら、ときには相互に対立しあう概念として、またときにはほぼ同義の概念として発展してきました。講義では、重要な思想家を何人か取りあげながら、両概念がどのような社会的意味を担ってきたのかを解説します。それを通じて、21世紀における「文明」と「文化」の意義を批判的に分析する力を養います。		<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> なし。プリントを配付します。参考文献は適宜紹介します。		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> はじめに 文明と文化、普遍と特殊、平等と自由 文明の崩壊 20世紀の幕開け -1 文化戦争としての第一次世界大戦 シンメルとTh. マン -2 文化革命としてのロシア革命 ルカーチ -3 啓蒙の弁証法 ホルクハイマー、アドルノ、エリアス 多文化主義の諸相 -1 民族解放としてのナショナリズム バーリン -2 ケベック問題をめぐる承認と差異の政治 C. テイラー -3 移民問題における憲法愛国主義 ハーバーマス		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 期末試験と平常点（講義中の積極的な発言等）によって総合的に評価します。期末試験80%、平常点20%。		
		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 講義で解説した各思想家の基本概念、思考様式、問題意識を理解し、それを自分で応用できるかどうかが基準になります。その理解力と応用力が9割以上であれば「秀」、8割以上であれば「優」、7割以上であれば「良」、6割以上であれば「可」、6割未満であれば「不可」となります。		
		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 各自でノートをよくとり、分からない点は質問して下さい。自分で考えるという姿勢が望まれます。		

科目名<Subject>	政治学 (現代日本の政治) <Political Science >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	後期
担当教員名<Name>	相内 俊一 <Toshikazu Aiuchi>	研究室番号<Office>	5 4 3
Office Hours	特に設けない。電子メールで予約してください。		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 現代日本の政治状況を分析し、理解する能力を身に付けることを目的とする。そのため、講義の前半で、戦後日本の政治史を概観し、現在の日本政治の背景にある諸条件を理解する。後半で現在の日本の政治構造と政治過程の特徴を紹介する。 前半は教科書Aに沿って戦後政治史を学ぶ。併せて、選挙結果等のデータを分析して理解を深める。後半は、教科書Bを用いて現代日本の政治システムを地方自治の観点から学ぶ。ここでは、現在日本が抱えている政治課題を地方政治の政治過程の分析を通して明らかにする。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> クイズ(ミニ・テスト)5回程度、レポート及び期末試験の合計点で評価する。(レポート40%、ミニ・テストと期末試験60%)	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 第1部：戦後日本政治史 第1週～第6週 (テキストAを用いる) 第2部：現代日本の地方政治のシステムと政治過程 第7週～第15週(テキストBを用いる)  第1部及び第2部が終わる毎にレポートを書いて提出する。		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>  <b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> レポート、期末試験のうち、一つでも欠けたものには単位を与えない。	
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> テキストA: 石川真澄 「戦後政治史」 岩波書店 (岩波新書 新赤版367) 1995年 テキストB: 村尾信尚 「『行政』を変える！」 講談社 (講談社現代新書) 2004年			

科目名<Subject>	政治学 (政治理論の基礎) <Political Science >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	前期
担当教員名<Name>	相内 俊一 <Toshikazu Aiuchi>	研究室番号<Office>	5 4 3
Office Hours	特に設けない。電子メールで予約してください。		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 政治学で用いられる基礎概念と、それらを用いた政治過程の分析を紹介する。複雑な政治現象を分析的に理解するための、「科学的分析と推論」の方法を、具体的な政治事象や調査データに基づく分析を通して講義する。随時、受講者に質問をしながら、対話形式で講義を進めたい。		布資料) 12. 集権と分権 統合と分裂… (教科書第8章) 13. 国際政治の基本概念… (教科書第9章) 14. グローバルな課題… (教科書第10章) 15. さらに政治学を学ぶ人への道案内	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 1. 政治学はどんな学問か? 政治を科学するとは?… (オリエンテーション) 2. 政治の世界の特徴… (教科書第1章) 3. 政治体制・民主主義体制と非民主主義体制… (教科書第2章) 4. 経済・福祉の課題と政治… (教科書第3章) 5. 政治を過程(プロセス)として捉える(1)… (教科書第4章) 6. 政治を過程(プロセス)として捉える(2)… (選挙資料) 7. 公共政策をめぐる諸問題(1)「公共性」の概念… (教科書第5章) 8. 公共政策をめぐる諸問題(2)行政と官僚制… (教科書第5章) 9. 政党の機能と組織・政党システム… (教科書第6章) 10. 政治意識と政治文化(1)… (教科書第7章) 11. 政治意識と政治文化(2)<政治意識の形成過程>… (配		<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 加茂利男・大西仁・石田徹・伊藤恭彦 『現代政治学』新版 有斐閣 2003年	
		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 試験とレポートの成績により評価する。 クイズ(ミニ・テスト)5回程度と期末試験(70%) レポート(30%)	
		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>	
		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> レポート、期末試験のうち、一つでも欠けたものは単位を与えない。	

科目名<Subject>	社会学 A・B	<Sociology >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>		前期
担当教員名<Name>	宝福 則子	<Noriko Hofuku>	研究室番号<Office>	527
Office Hours	木14時40分～16時 その他、随時、事前にメール・電話で連絡、可能なら、いつでもOK			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 環境」をテーマに、社会学としてどのように環境問題を扱うか、その手法を学ぶ。歴史的な環境問題を見る。現在、社会的な関心を集めている問題の諸要因を探る。世界・日本で起こっている環境破壊に対し、誰によって、どのような対応策がとられているのか、また、どのような再生への可能性が探られているのか、さらに未来の世代に健全な環境を残すためにどのような事前対策が考えられているのか等について新聞・ビデオ等のメディアも利用しながら話す。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 期末試験により評価する。		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 「環境」とは何か？日本と外国の環境問題と環境運動・政策の比較、経済のグローバル化と国境を越えた「環境対策」等		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 期末試験で60点以上とること		
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 飯島伸子『環境問題の社会史』有斐閣、船橋・飯島編『講座社会学12』東大出版会、石見徹一『開発と環境の政治経済学』東大出版会、長谷川公一『環境運動と新しい公共圏』有斐閣、亀山康子『地球環境政策』昭和堂、岡部明子『EUの地域・環境政策サステナブルシティ』学芸出版社等		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 3.の使用教材は、特に教科書として指定しないが、参考書として基本的な知識獲得のために、読むことを薦める。その他にも随時、テーマごとに参考書等を挙げる。新聞を読むことを薦める。		

科目名<Subject>	社会学II	<Sociology II>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	I	後期
担当教員名<Name>	宝福 則子	<Noriko Hofuku>	研究室番号<Office>	527
Office Hours	木14時40分～16時 その他、随時、事前にメール・電話で連絡、可能なら、いつでもOK			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 社会学は、人間が生活する社会に起こるあらゆる現象を対象として扱う。そこで、社会学とはどんな学問なのか、つまり、何を対象に、またそれをどのような視点から見て分析するのか、個々の社会現象を題材として話す。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 期末試験により評価する。		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 主に扱うテーマは、メディア（情報社会、情報による大衆操作、メディアと社会生活の変容）及び諸メディアにおける女性の扱われ方・女性と労働等		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 期末試験で60点以上とること		
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 松田『テキスト現代社会学』ミネルヴァ書房、武市・原『グローバル社会とメディア』ミネルヴァ書房、ナンシー・スノー著・福岡訳『情報戦争』岩波書店、渡辺・松井『メディアの法理と社会的責任』ミネルヴァ書房、鎌田・矢澤・木本『講座社会学14ジェンダー』東大出版会、『講座社会学8 社会情報』東大出版会等		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 3.の使用教材は、特に教科書として指定しないが、基本的な知識獲得のために、参考書として読むことを薦める。その他にも随時、テーマごとに参考書等を挙げる。新聞を読むことを薦める。		

科目名<Subject>	数学 A・B <Mathematics >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	前・後期
担当教員名<Name>	米田 力生 <Rikio Yoneda>	研究室番号<Office>	355
Office Hours	在室時		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 学問の様々な分野における基本的手法として、微分積分学は様々な分野で利用され応用されている必要不可欠な学問である。ここでは、その基礎的な理論を中心に学習する。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 出席状況、レポート提出及び定期試験の結果により評価する。	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数列と極限</li> <li>・微分法</li> <li>・ロピタルの定理</li> <li>・偏微分法</li> </ul>		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 秀(100~90): 微分積分学について秀でた理解力を有し、その数学的理論を様々な学問(事象)に応用することができる。 優(89~80): 微分積分学について優れた理解力を有し、その数学的理論を様々な学問(事象)に応用することができる。 良(79~70): 微分積分学について良い理解力を有し、その数学的理論を様々な学問(事象)に応用することができる。 可(69~60): 微分積分学について理解力を有し、ある程度、その数学的理論を様々な学問(事象)に応用することができる。 不可(59~0): 微分積分学について十分な理解力を持たず、その数学的理論を様々な学問(事象)に応用することができない。	
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 水田義弘「入門微分積分」 サイエンス社		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>	

科目名<Subject>	数学 <Mathematics >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	後期
担当教員名<Name>	米田 力生 <Rikio Yoneda>	研究室番号<Office>	355
Office Hours	在室時		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 学問の様々な分野における基本的手法として、微分積分学は様々な分野で利用され応用されている必要不可欠な学問である。ここでは、その理論を応用した関数論の基礎を中心に学習する。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 出席状況、レポート提出及び定期試験の結果により評価する。	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複素数</li> <li>・複素数の収束と極限</li> <li>・一次関数</li> <li>・リーマン球面</li> <li>・正則関数</li> <li>・コーシーの定理</li> <li>・留数</li> </ul>		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 秀(100~90): 関数論について秀でた理解力を有し、その数学的理論を様々な学問(事象)に応用することができる。 優(89~80): 関数論について優れた理解力を有し、その数学的理論を様々な学問(事象)に応用することができる。 良(79~70): 関数論について良い理解力を有し、その数学的理論を様々な学問(事象)に応用することができる。 可(69~60): 関数論について理解力を有し、ある程度、その数学的理論を様々な学問(事象)に応用することができる。 不可(59~0): 関数論について十分な理解力を持たず、その数学的理論を様々な学問(事象)に応用することができない。	
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 遠山啓 関数論初歩 日本評論者		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 微分積分学をある程度理解していることが要求される。	



科目名<Subject>	物理学 <Physics >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	前期
担当教員名<Name>	杉之原 立史 <Tatsushi Sugino-hara>	研究室番号<Office>	312
Office Hours	未定		
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 物理学は、人類が約 400 年という時間をかけて築いてきた、人類共通の知的財産である。これを正しく理解し、後の世代に伝えていくことは、私たちの世代に課せられた義務であると言える。 この授業では、宇宙の成り立ちや進化が、物理学によってどのように理解されているかを、最新の研究成果を交えて解説する。宇宙を通して、物理の世界に触れ、物理に興味を持ってもらうことを目的とする。高校で物理を履修しなかった場合でも、そのことが理解の妨げにならないように配慮する。 パソコンの画面をスクリーンに映し、プレゼンテーションソフトを使用して授業を進めていく。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 天動説から地動説へ</li> <li>2. 銀河宇宙像の確立</li> <li>3. 宇宙の膨張</li> <li>4. ビッグバン宇宙モデル</li> <li>5. 素粒子と力の標準理論</li> <li>6. 初期宇宙の進化</li> </ol> <p>7. 銀河の形成</p> <p>8. ダークマター</p> <p>9. 宇宙の物質循環</p> <p>10. 21世紀の宇宙像</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 参考書：池内了『宇宙はどこまでわかっているか』NHK ライブラリー</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 学期末の定期試験により評価する。</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 評価確定後、文書にて通達する。</p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 新聞やテレビ、すばる望遠鏡のウェブサイト (<a href="http://www.subarutelescope.org/j_index.html">http://www.subarutelescope.org/j_index.html</a>) などを通して、日頃から宇宙へ関心を向けておいてほしい。</p>			

科目名<Subject>	物理学 <Physics >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	後期
担当教員名<Name>	杉之原 立史 <Tatsushi Sugino-hara>	研究室番号<Office>	312
Office Hours	未定		
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 物理は、私たちの生活を支えるさまざまな技術（テクノロジー）の基礎となってきた。技術のもついい面と悪い面を一人一人が正しく理解し、技術を今後どのように発展させ、利用していくべきかを考えなければならない。そのためには、物理の知識が必要となる。また、エネルギー問題や環境問題のような現代社会における諸問題にも、物理は深く関係している。これらの問題に関して社会の一員として意思決定をおこなう際に、物理への理解が大きな助けになる。 この授業は、私たちのふだんの生活や、それを支える技術との関係を通して、物理の世界に触れ、物理のさまざまな分野に興味を持ってもらうことを目的とする。高校で物理を履修しなかった場合でも、そのことが理解の妨げにならないように配慮する。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>第1章 エネルギーとは何だろう</li> <li>第2章 熱を仕事に変える</li> <li>第3章 自動車を通して学ぶ力学</li> <li>第4章 宙返り何度もできる無重力</li> <li>第5章 電気の正体</li> <li>第6章 電場と磁場との密接な関係</li> <li>第7章 光は波か粒子か</li> <li>第8章 ミクロな世界の物理 量子力学</li> <li>第9章 相対性理論早わかり</li> </ol> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> プリントを配布する。</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 学期末の定期試験により評価する。</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 評価確定後、文書にて通達する。</p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 物理学という科目の性格上、継続的な学習の積み重ねが重要である。授業には毎回出席し、復習を欠かさずおこなってほしい。これを怠り、試験の直前になってあわてて勉強を始めるようでは、単位の修得は困難である。</p>			

科目名<Subject>	化学 A・B	<Chemistry >	
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	前期
担当教員名<Name>	片岡 正光	<Masamitsu Kataoka>	研究室番号<Office> 化学研究室
Office Hours	月～金曜日 10時頃～19時頃まで(但し火曜日は12時頃から)		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> <b>目的</b> かけがえのない地球環境は、人類の豊かな暮らしの代償として悪化の一途をたどってきた。クリーンな地球環境を後世に残していくことは、私達人類に課せられた使命である。地球環境の現状を化学的に正しく理解することは、地球環境を守っていく上で不可欠である。本講義では特に地球環境の理解に必要な化学の基礎的な知識を習得することを目的とする。また、地球環境の変遷、地球規模の環境破壊、地球環境の保全等を、生活に関係の深い、水環境、大気環境(エネルギー消費に伴う地球の温暖化、酸性雨、オゾン層の破壊)、土壌環境(土壌の酸性化等)について、化学の視点で理解することを目的とする。 <b>方法</b> 講義は教科書に沿って化学の基礎から講義する(1時間)。後半の30分ではプロジェクターを使って地球規模の大気環境問題を化学の視点からわかりやすく解説する。		使用できるが、内容、図表数やページが若干異なるので新版を入手する事をすすめる。	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 第1～4週 原子の成り立ちとその周期性。第5～8週 イオン結合、共有結合、配位結合等の化学結合などについて、原子の電子状態から解説する。第9～12週 水溶液中の酸と塩基の強さと酸解離定数、中和反応、塩の加水分解、緩衝溶液等を学ぶ。第13～15週 生活に広く用いられている無機物質と新素材を解説する。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 試験は期末に行う。毎回出席をとりこれを点数化しテストの点数に加算する。合格点にわずかに満たない学生は、試験終了後レポートの提出によって救済されるが、出席率の低い学生にはこの救済措置がない。	
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> - 新版 - 教養の現代化学(三共出版)。注意! :旧版も		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 秀:化学の基礎についての広い領域を完全に理解するとともに、知識を環境問題の理解に十分に活用できる。 優:化学の基礎について十分に理解し、知識を環境問題への理解に十分に活用できる。 良:化学の基礎について相当程度に理解し、その知識をもって環境問題を良く理解できる。 可:化学の基礎について過半は理解し、環境問題の過半を理解できる。 不可:化学の基礎について十分な理解力を持たず、環境問題の化学的な理解が不十分である。	
		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 高校で化学をほとんど学んでこなかった学生でも、本人の努力によって単位の取得は可能なよう配慮する。文科系学生であるとはいえ、社会の様々な現象の十分な理解には化学の基礎知識が必要であることが多くあり、化学を集中して学習する最後の機会として、本講義を履修することをすすめる。	

科目名<Subject>	化学	<Chemistry >	
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	後期
担当教員名<Name>	片岡 正光	<Masamitsu Kataoka>	研究室番号<Office> 化学研究室
Office Hours	月～金曜日 10時頃～19時頃まで(但し火曜日は12時頃から)		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> <b>目的</b> かけがえのない地球環境は、人類の豊かな暮らしの代償として悪化の一途をたどってきた。クリーンな地球環境を後世に残していくことは、私達人類に課せられた使命である。地球環境の現状を化学的に正しく理解することは、地球環境を守っていく上で不可欠である。本講義では特に地球環境の理解に必要な化学の基礎的な知識を習得することを目的とする。本講義では化学に引き続き、化学の基礎を平易に解説するとともに、生活に関係の深い食物、医薬品、建築材料等の化学物質や、ゴミの廃棄・消却ともなって排出される化学物質の人間に対する影響について、化学の視点で理解できる化学知識を修得することを目的とする。 <b>方法</b> 講義は教科書に沿って化学の基礎から講義する(1時間)。後半の30分では後半の30分ではプロジェクターを使ってダイオキシンや環境ホルモン汚染問題を化学の視点からわかりやすく解説する。		- 新版 - 教養の現代化学(三共出版)。注意! :旧版も使用できるが、内容、図表数やページが若干異なるので新版を入手する事をすすめる。	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 第1～3週 物質の三態、すなわち気体、液体、固体の状態と平衡について学ぶ。第4～5週 化学反応の速度と平衡を学ぶ。第6～8週 酸化・還元反応と電池の化学反応について学ぶ。第9～11週 原子核の崩壊と核分裂、原子力エネルギー、核融合エネルギー、クリーンエネルギー等について学ぶ。第12～15週 簡単な有機化合物について学んだ後、生活の中の有機物質を解説する。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 試験は期末に行う。毎回出席をとりこれを点数化しテストの点数に加算する。合格点にわずかに満たない学生は、試験終了後レポートの提出によって救済されるが、出席率の低い学生にはこの救済措置がない。	
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 秀:化学の基礎についての広い領域を完全に理解するとともに、知識を環境問題の理解に十分に活用できる。 優:化学の基礎について十分に理解し、知識を環境問題への理解に十分に活用できる。 良:化学の基礎について相当程度に理解し、その知識をもって環境問題を良く理解できる。 可:化学の基礎について過半は理解し、環境問題の過半を理解できる。 不可:化学の基礎について十分な理解力を持たず、環境問題の化学的な理解が不十分である。	
		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 高校で化学をほとんど学んでこなかった学生でも、本人の努力によって単位の取得は可能なよう配慮する。文科系学生であるとはいえ、社会の様々な現象の十分な理解には化学の基礎知識が必要であることが多くあり、化学を集中して学習する最後の機会として、本講義を履修することをすすめる。	

科目名<Subject>	生物学 <Biology >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	後期
担当教員名<Name>	八木 宏樹 <Hiroyuki Yagi>	研究室番号<Office>	生物学研究室
Office Hours	木曜日 10:30~18:00 (昼食時間を除く)		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 目的:地球上に存在するものはすべて生物と非生物とに区別できる。生物は微生物から人間に至るまで多種多様に分類できるが、その基本的構造は同じである。本授業では身の回りに見られる生き物を通して、生命の誕生から現在に至るまでの長い進化の道のりを学び、生物の基礎的な知見の取得を目的とする。 内容:身近な海洋生物を選んで生物に親しみをもちながら、生命の誕生と進化、生物の系統発生と形態などを学んでいく。 方法:OHPもしくはパワーポイントを用いた講義を中心とする。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 学期末の定期試験の成績と履修態度により評価する。評価の基準は次のとおり。 1) 生物の成り立ちについて理解力を有すること 2) 生物の進化の歴史から現存する生物の存在意義が理解できること。	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 第1回 ガイダンスと生物学へのアプローチ 第2回 生物とは何か 第3回 生命はどこで生まれたか 第4回 生命誕生 第5回 生命・海の時代 第6回 生命から生物への道 第7回 原生動物への道 第8回 植物と動物の分かれ目 第9回 刺胞動物・クラゲへの道 第10回 軟体動物・イカ・タコ・アワビへの道 第11回 節足動物・エビとカニの話 第12回 棘皮動物・ウニの話 第13回 脊椎動物・魚の話 第14回 脊椎動物・海産ほ乳類の話		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>	
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> テキスト:とくに指定しない。		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 試験は授業で学んだことから出題する。テキストをとくに指定しないので、しっかり授業内容を復習するとともに、日頃から身の回りの生物に注意を払っておくこと。	

科目名<Subject>	生物学 A・B <Biology >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	後期
担当教員名<Name>	八木 宏樹 <Hiroyuki Yagi>	研究室番号<Office>	生物学研究室
Office Hours	木曜日 10:30~18:00 (昼食時間を除く)		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 目的:すべて生命体は環境要因の変動に何らかの影響を受けている。それは人間の社会活動が起因している場合が少なくない。いかにして人間は環境を破壊してきたのか、生物はどのように環境破壊に対して反応するのか、海洋や河川の環境変化と生物との関係を中心に学ぶことにより、環境と調和して生きていく方法を考察する。 内容:温度や気候などの変動と、生物の個体としての生理反応、群集としての生態的反応、あるいは多くの生物で構成される生態系の変化などを中心として学ぶ。テーマは「水と生物」。 方法:OHPもしくはパワーポイントを用いた講義を中心とする。		<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> テキスト:とくに指定しない。 参考書:「海と海洋汚染」(三共出版)、「環境と生態・人間と地球」(培風館)、「環境生物学」(森北出版)	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 第1回 ガイダンスと環境生物学へのアプローチ 第2回 水と生物 地球と海のしくみ 第3回 水と生物 海洋の物質循環のしくみ 第4回 水と生物 食物連鎖と生物生産のしくみ 第5回 水と生物 赤潮と青潮 第6回 水と生物 海洋汚染と生物濃縮 第7回 水と生物 海洋汚染と生態系の破壊 第8回 水と生物 海の砂漠化:磯焼けの話 第9回 水と生物 サンゴ礁とマングローブ林の破壊と保全 第10回 水と生物 干潟の機能と生産力 第11回 水と生物 干潟の保全 第12回 水と生物 川のしくみと機能 第13回 水と生物 酸性雨が及ぼす生物への影響 第14回 水と生物 地球温暖化と生物		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 学期末の定期試験の成績と履修態度により評価する。評価の基準は次のとおり。 1) 環境と生物のあり方について理解力を有すること 2) 現状の環境問題とその原因および対処について理解できること。	
		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>	
		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 環境変動と生物への影響および人間が生物に及ぼす影響などを主に講義を進めるので、日頃から身の回りにおける「生物」や「環境」に注意を払っておくこと。	

科目名<Subject>	環境科学 <Environmental Science >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	前期
担当教員名<Name>	小林 三樹 <Mitsuna Kobayashi>	研究室番号<Office>	
Office Hours			
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>  環境科学は(要素科学を基礎に)自然科学と社会科学の垣根を越えて扱わねばならない総合科学である。さらに環境・経済・地域文化はトレードオフ関係にあるのではなく、いずれも人間の生存に重要な側面である。どちらをより優先して考えるべきかは豊かさの度合いによって柔軟に扱わねばなるまい。戦乱、飢餓のただ中にある国にとって将来、また他国の環境を考える余裕はないから、争いや貧困の解消は環境問題に優先する。どの国にもそういう時期があった。それをどう克服して現在の先進国があるか、そして現在直面している地球の資源と環境の限界に世界はいかに立ち向かうべきかを学ぶ。</p> <p>いまや文理の壁を越えた環境科学に関する総合的認識なしには交易も製造業も社会的責任を果たし得ない。商大生が、受講を通じて、広い視野、多面的歴史観、豊かな教養と倫理観、バランスのとれた価値観を会得し、現代社会の複合的・国際的な課題に主体的に取り組み世界の人々に幸せをもたらすことのできる職業人になる基礎を形成してほしい。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>  1) 文明と環境課題：  農耕定着と灌漑の功罪、金属文明の功罪、産業発展と森林、伝染病の克服、交易と環境。  2) 産業革命は何をもたらしたか、その光と影：  向都離村の社会影響、価値意識の変化、生活環境の劣化と改良、環境汚染と伝染病、都市計画思潮の芽生え、日本の経済成長・公害の歴史とその後、産業革命以前の国の存在。  3) 経済成長は何をもたらしたか、その光と影：  寿命の延伸と人口問題、食糧とエネルギー資源の限界、京都議定書の功罪、</p>			
<p>原子力依存と核拡散、継代汚染の複雑化、有価物と無価物の境界(有害廃棄物越境管理の難しさ)  4) 地球規模環境問題：  共通する特徴、途上国と人口圧力、食糧生産の水による限界、温暖化過程での気象異変、  京都議定書とその後、二酸化炭素濃度の管理、排出権取引、コモンズの悲劇の回避。  5) 後代への資産と負債：  気候変動がもたらす国の盛衰と人口移動、生態学的劣化、資源枯渇、貧富の差の拡大。  6) パラダイム変換と共存持続社会：  持続可能経済の幻想、欲望の自制と需要管理、環境倫理、環境監査からCSR(企業の社会的責任)へ、共生世界の構築。</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>  講義関連のVTRをほぼ毎回映写し理解を深める。</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>  受講反応(Reaction Paper)を50%、レポートを50%として総合的に評価する。出席回数2/3は必要条件である。</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>  環境科学の文理融合領域についての基礎的理解、バランスの取れた事実認識と問題意識を身につけたと総合的に判断できる学生を評価する。</p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>  静かに受講すること。私語は他人の受講権の侵害である。前日に十分な睡眠をとること。推薦図書一覧を配布するが、自ら問題意識をもって選書し読書し考える習慣を身につけることが望ましい。</p>			

科目名<Subject>	総合科目 a(小樽学) <Multidisciplinary Subject >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	前期
担当教員名<Name>	荻野 富士夫 外 <Fujio Ogino and others>	研究室番号<Office>	荻野415
Office Hours	火曜日・水曜日 13時から14時30分		
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>  田中正造・足尾鉍毒事件に関わる「谷中学」(鉍毒被害地で、治水優先のため廃村となった栃木県の村)、戦後の公害の原点「水俣病」に関わる「水俣学」、あるいは差別・戦争・文化などにおいて独自の位置を占める沖繩に関わる「沖繩学」などの創造に学んで、この小樽においても「小樽学」というものを考えてみたい。「谷中学」「水俣学」などは、学際的事実であること、中央：東京を相対化して地域に根ざそうとすること、市民参加型であることなどの特徴をもっているが、「小樽学」においてもそれらを生かしたい。いずれ「北海道学」、さらには「北方学」などへ視点を広げられればと、願っている。</p> <p>そのために、学内の教員だけでなく、学外で「小樽」のさまざまな活動をされている方からも、「小樽」の広さと深さを語っていただく。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>  1 オリエンテーション:「小樽と小樽高等商業学校 創立を中心に」(荻野富士夫)  2 「小樽と小樽高等商業学校 戦争のなかで」(荻野富士夫)  3 「小樽と小樽商科大学 創立から現在まで」(荻野富士夫)  4 大学史料展示室の見学・「商大創立五〇周年記念映画」(荻野富士夫)  5 「小樽の市民運動 運河保存運動」(結城洋一郎)  6 「小樽の市民運動 その他の市民運動」(結城洋一郎)  7 「小樽に残る産業遺産」(渡辺真吾)</p>			
<p>8 「小樽の歴史と建造物」(渡辺真吾)  9 「小樽の食文化 歴史とその系譜」(山崎圭子)  10 「小樽の食文化 もう一つのスシ「イズシ」」(山崎圭子)  11 「小樽と石川啄木」(倉田稔)  12 「小樽と小林多喜二」(倉田稔)  13 「小樽の経済と港」(小田福男)  14 「小樽とロシア」(小田福男)</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>  各担当者によるプリントの配布など。ビデオ使用。「大学史料展示室」の見学</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>  各自が「総合科目」の講義のなかで興味・関心をもったテーマについて作成・提出したレポート(4000字以上)により、評価する。内容により各担当者に割り振る。締め切りは最終授業日。なお、レポートの提出資格として、授業には全体の三分の二以上、出席しなければならない。</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>  授業開始時に配布する詳細な授業計画書で指示する。</p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b></p>			

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	総合科目 b (地域再生システム論) <Multidisciplinary Subject >		
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	2	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	夏季集中
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	伊藤 一 外 <Hajime Ito and others>	<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	伊藤 4 4 3
<b>Office Hours</b>	随時 (事前にメールで連絡のこと)		
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>	<p>地域再生のための産業の取り組みをとして以下2点を挙げる。  観光と地域ブランド開発によるまちづくりの実際。  都市空間を演出する施設整備</p> <p>これらの視点から、産業の取り組み、学術的分析方法の提示、国家の戦略的視点をそれぞれ提示し、これらの関係を講師が整理しながら、受講生(学生・市民・自治体職員)に学術的・実務的な実現可能な地域再生の方策をシステム論的に教育する。上記二つの視点から現在小樽・室蘭地域で抱えている問題点・現状を産業界の識者より解題的な講義をしてもらい、受講生に共通の問題意識を醸成させる。次のステップにおいてこれら視点を解明するための学術的な分析法を学生に提示する。次のステップでは行政担当者に国家戦略を説明してもらい、より実現可能な実践的解決策を受講生が提示できるよう考察する。最後に、受講生が解決策を策定し、学生が発表し教員が評価を加える。</p>		
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b>	<p>9/20 1回 ガイダンス 室蘭工業大学理事 齋藤和夫  小樽商科大学副学長 和田健夫</p> <p>9/20 2回 観光からのまちづくり 小川原格(藪半・観光加サ)</p> <p>9/21 3回 地域ブランドによるまちづくり</p> <p>9/21 4回 環境に優しい水素社会とは 大西相談役(日本製鋼所)</p> <p>9/22 5回 交通施設整備と環境 田村亨(室蘭工業大学)</p> <p>9/22 6回 居住環境整備と景観 真境名達哉(室蘭工業大学)</p> <p>9/23 7回 地域再生 木村俊昭(内閣府地域再生推進室)</p> <p>9/23 8回 地域ブランド 担当 (経済産業省)</p> <p>9/24 9回 観光戦略 担当 (国土交通省)</p>		
	<p>9/24 10回 都市空間を演出する施設整備 (国土交通省)</p> <p>9/25 11回 ブランド開発のマーケティング 伊藤一(小樽商大教授)</p> <p>9/25 12回 地域開発カースデー 李濟民・伊藤一(小樽商大教授)  青藤一章(小樽掖済病院)</p> <p>9/26 13回 学生発表 小樽商科大学と室蘭工業大学の単独または合同チーム</p> <p>9/26 14回 学生発表の講評 大学教員(小樽商科大学・室蘭工業大学)</p> <p>9/27 15回 試験</p>		
	<p><b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>  随時資料配布</p> <p><b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>  試験評価: 期末試験  出席・発言評価: ランダムに出席をとる。また授業中の発言も評価対象として加味する。</p> <p><b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>  秀(100-90): 授業について秀でた理解力を有し、その理論を応用して様々な当該課題について秀でた分析をしている。  優(89-80): 授業内容をほぼ理解しており、当該課題確実に説明できるようなる基礎知識を有している。  良(79-70): 授業中に明示する重要なポイントを理解しており、問題については、常識的な認識をしている。  可(69-60): 授業内容の大体の流れを掴んでおり、問題について間違っていた理解をしていない。</p> <p><b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b></p>		

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	総合科目 a (職業と学問) <Multidisciplinary Subject >		
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	2	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	I 前期
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	江頭進 外 <Susumu Egashira and others>	<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	江頭 4 0 9
<b>Office Hours</b>	火・金 13:00~14:00		
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>	<p>グループワークを中心とした講義を通じて、大学での勉強、および社会人になる前に身につけておくべきことを考える。</p>		
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b>	<p>第1回 オリエンテーション  第2-6回 自分のキャリアプランを考える。  第7,8回 経済学とはどんな学問か?  第9,10回 経営学とはどんな学問か?  第11,12回 企業法学とはどんな学問か?  第13,14回 社会情報学とはどんな学問か?</p>		
<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>	<p>参考図書として、  『美しい経済学』  『わかる経営学』  『守る! 企業法学』  いずれも小樽商科大学高大連携チーム編、日本経済評論社。</p>		
<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>	<p>講義への出席および各議論への参加の度合いで評価を行う。</p>		
<b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>	<p>参加する複数の講師の総合評価による。</p>		
	<p><b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>  ・1年生以外の履修は認めない。  ・グループワークをおこなうので、遅刻・欠席はグループの他のメンバーに迷惑となることに注意すること。</p>		

科目名<Subject>	総合科目 b (現代社会の諸問題) <Multidisciplinary Subject >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	前期
担当教員名<Name>	船津秀樹 外<Hideki Funatsu and others>	研究室番号<Office>	船津333
Office Hours	月・火・木 12:00~12:50		
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 現代社会の諸問題について理解を深め、大学における研究に必要な社会科学のものの見方、分析の手法を学びます。授業は講義形式で行われますが、随時、小グループによる討論によって、各テーマについて理解を深める協力学習の形式もとります。		<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 授業への参加 20% レポート 30% 期末試験 50%	
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> (1) 現代社会の諸問題 (2) 大学で学ぶこと (3) 日本経済の発展と課題 (4) 自由主義経済の仕組みと課題 (5) 高齢化社会と人間の尊厳 (6) 情報化社会の進展とモラル・ハザード (7) 平和的生存権と日本国憲法 (8) 日本の政治と地方分権 (9) 国際連合の役割 (10) 資源・エネルギー・人口問題 (11) 環境経済学のすすめ (12) 地方自治体の財政問題を考える		<b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 秀(100~90): 現代社会の諸問題について、秀でた理解力を有し、卓越した社会科学の分析能力がある。 優(89~80): 現代社会の諸問題について、優れた理解力を有し、社会科学の分析能力がある。 良(79~70): 現代社会の諸問題について、良い理解力を有し、社会科学の分析能力がある。 可(69~60): 現代社会の諸問題について、一定の理解力を有し、社会科学の分析能力がある。 不可(59~0): 現代社会の諸問題について、理解力がなく、社会科学の分析ができない。	
<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> テキストは定めませんが、参考文献を授業ごとに紹介していきます。		<b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 質疑応答の時間を設けますので、積極的な質問を歓迎します。	

科目名<Subject>	総合科目 (エバーグリーン講座) <Multidisciplinary Subject >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	後期
担当教員名<Name>	松家仁・白貞壬・河野憲一郎・佐山公一	研究室番号<Office>	
Office Hours			
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 本講義では、さまざまな分野で活躍されている本学卒業生を講師にお招きし、実社会で諸先輩が体験されたことを幅広く講演していただきます。このような講演を受講生が聞くことで、受講生各自が、「社会の実態」を理解するとともに、「グローバルな視点」をもつ必要性を自覚することをねらいとしています。このことは、本学で何をどのように学び、これからの人生でどのように活かしていくかを考えるための助けとなるはず。		<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 「出席票」および「レポート」を担当教員が採点し、その合計点で評価します。 出席票は毎授業ごとに提出していただきます。 全授業を4つに分け、4人の教員がレポートの採点を担当します。各教員担当分の授業の中から一回ずつ選んで、合わせて4回、レポートを提出していただきます。詳細は、初回オリエンテーションの中で説明します。	
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> さまざまな分野で「世界の中の日本」を意識せざるを得ない状況のなかで、新しい時代の価値を大学での知的活動を通じてどのように創造していくのか問われています。本講義では、各講師に、「新しい知の創造」に関わる各種トピックスを語っていただきます。		<b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 全評価中約50%を出席票によって、残り約50%をレポートの内容で評価します。レポートは次の2つの観点から評価します。(1) 講師の考えを忠実かつ論理的にまとめているか。(2) 講師の考え、意見に対するあなた自身の考えを論理的にまとめているか。	
<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> テキストは使用しません。毎回の授業で、各講師からの資料が配付されます。		<b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 各講師におかれては、きわめて多忙なスケジュールの間をぬって後輩である受講生のために本講義を担当して下さい。受講生諸君は、このことを十分に心に留め、真摯な態度で授業に臨むことを希望します。	

科目名<Subject>	情報処理入門	<An Elementary Course for Information Processing>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>		夏季集中
担当教員名<Name>	藤島 成行	<Noriyuki Fujishima>	研究室番号<Office>	
Office Hours				
<p><b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>          本科目の目的は、現代に広く普及し、多くの場面で利用されている情報機器、特にパソコンに関する知識獲得と基本的な操作方法、学校現場に必要な基本的知識の習得である。コンピュータの構成や仕組み、ネットワーク構成に関する知識、ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト等のアプリケーションについて扱う。入門に位置づけられている授業であるが中級レベルを目標とする。また、それ以上の知識・技能を持つ学生については個別に課題を設定する。          授業は基本的に実習の形式をとるが机上の理論についても取り扱う。</p> <p><b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b>          授業で取り扱う内容を以下に示す。なお、授業の進度、学生のレベルに応じてテーマを変更する場合がある。          ・コンピュータ概論          ・ワープロソフトを利用した演習          ・表計算ソフトを利用した演習          ・プレゼンテーションソフトを利用した演習          ・マルチメディアに関する演習          ・学習成果の作成（課題、レポートを含む）</p> <p><b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>          プリントを用意する。参考図書・文献についてはその都度紹介する。</p> <p><b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>          夏季の集中授業であるため基本的に全出席を必須とする。実</p> <p>習科目であるため評価は実習での提出物、授業態度（遅刻や忘れ物も含む）レポート等の提出とし、全てを総合的に考慮し点数化する。</p> <p><b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>          秀（100～90） 情報処理機器利用について秀でた理解力を有し、授業中に重要なポイント、その都度実施するレポート等でほぼ完全に理解している。また、最近の教育事情と情報処理機器の活用について関心を強く持っていること。          優（89～80） 情報処理機器利用について優れた理解力を有し、授業中に重要なポイント、その都度実施するレポート等で優れた理解力がある。また、最近の教育事情と情報処理機器の活用について関心を持っていること。          良（79～70） 情報処理機器利用について良い理解力を有し、授業中に重要なポイント、その都度実施するレポート等で良く理解している。また、最近の教育事情と情報処理機器の活用について関心がある。          可（69～60） 情報処理機器利用について理解力を有し、授業中に重要なポイント、その都度実施するレポート等で理解しているようが見られる。また、最近の教育事情と情報処理機器の活用について少しは関心を持っていること。          不可（59～0） 情報処理機器利用について十分な理解力がなく、授業中に重要なポイント、その都度実施するレポート等で理解することが出来ない。また、最近の教育事情と情報処理機器の活用について関心がない。</p> <p><b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>          ・集中講義なので出席、授業態度を重視する。          ・筆記用具は必ず持参すること。</p>				

科目名<Subject>	基礎数学 A・B	<Basic Mathematics>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>		前・後期
担当教員名<Name>	兼岩 龍二	< Ryuji Kaneiwa >	研究室番号<Office>	4 5 9
Office Hours	在室中は特に都合が悪くない限り、いつでも可			
<p><b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>          本講は基礎科目、知の基礎系に属し、本学全学生に必要とされる「論理的思考」の手助けとなるように、数理論理学の分野から、命題論理と述語論理を紹介する。          上記は人間が物事を考えるための補助手段となるであろう。より直接的には、現代社会に於いて益々必要度を増してきている情報分野の基礎的認識を得るためや、「文科系」と言われる諸科学のなかでもよく使われるようになりつつある現代数学を理解するための、必須のツールとなるであろう。</p> <p><b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b>          1. 論理記号(命題論理)          2. 論理関数          3. 公理系(命題論理)・証明論          4. 述語・対象領域          5. 全称・存在記号          6. 自由変数・束縛変数          7. 公理系(述語論理)・証明論</p> <p><b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>          配布プリントを使う。</p> <p><b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>          定期試験(100点満点)による。</p> <p><b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>          秀(90～100)、優(80～89)、良(70～79)、可(60～69)とするが、問題の難易度、受験者の成績レベルによって、調整する。調整の方法は採点后に公表する。</p> <p><b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>          高等学校では、ほとんどまったく扱われない分野なので、高等学校の数学が不得意でも、ついていくことができるが、出席を怠ると全くわからなくなるので、注意すること。</p>				

科目名<Subject>	基礎ゼミナール <Basic Seminars>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	前期
担当教員名<Name>	花田 功一 <Koichi Hanada>	研究室番号<Office>	4 2 6
Office Hours	火曜 13:30 ~ 14:30		
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 私が収集した資料や比較的平易に書かれた本を読むことによって戦後の日本経済の流れを大筋で把握することを目指します。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 私が収集した資料や下の本を輪読する形で授業を進めます。</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 小島恒久『戦後日本経済の流れ』河出書房新社、1996年・竹内宏『昭和経済史』筑摩書房、1988年</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 最後に行う試験や報告内容及び出席によって評価します。</p> <p><b>5.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b></p>			

科目名<Subject>	基礎ゼミナール <Basic Seminars>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	前期
担当教員名<Name>	中村 健一 <Ken-ichi Nakamura>	研究室番号<Office>	4 1 7
Office Hours	kenakamu@res.otaru-uc.ac.jp あてに会見の予約を依頼してください。		
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 経済学を初めて学ぶみなさんが、経済学とはどのような学問であるのかを、平易な入門的教科書を使用しながら学ぶ講義です。教科書を読んだり、練習問題を解いたりすることを通して、大学での勉強の仕方を学ぶことも目的としています。</p> <p>使用する教科書は、経済学の基本的な発想や分析手法を、主に言葉と図を用いて説明したものです(3.使用教材を参照してください)。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 授業は、以下の内容について、問題演習と講義による解説を中心に進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>市場における需要と供給の作用(第4章)</li> <li>需要、供給、および政府の政策(第6章)</li> <li>消費者、生産者、市場の効率性(第7章)</li> <li>応用:課税の費用(第8章)</li> <li>応用:国際貿易(第9章)</li> <li>外部性(第10章)</li> <li>公共財と共有資源(第11章)</li> <li>生産要素市場(第18章)</li> <li>所得不平等と貧困(第20章)</li> </ol> <p>( )内は教科書の対応箇所です。</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 教科書として以下の本を使用します。</p> <p>N・グレゴリー・マンキュー 『マンキュー経済学I ミクロ編 第2版』 東洋経済新報社 2005年</p> <p>マンキューの本には上記に類似したタイトルのものが複数ありますので、間違えないように注意して下さい。</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> みなさんの授業への取り組み方を総合的に判断して評価します。</p> <p><b>5.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 講義に関するさまざまな連絡や資料の配付を、以下のウェブサイト(ホームページ)を用いて行ないます。適宜参照するようにして下さい。</p> <p><a href="http://www010.upp.so-net.ne.jp/kenakamu/">http://www010.upp.so-net.ne.jp/kenakamu/</a></p> <p>また各種問い合わせは kenakamu@res.otaru-uc.ac.jp までお願いします。</p>			



科目名<Subject>	基礎ゼミナール <Basic Seminars>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	前期
担当教員名<Name>	寺坂 崇宏 <Takahiro Terasaka>	研究室番号<Office>	430
Office Hours	メールで時間を予約すること		
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>  この授業は、  ・大学で学習を進めるときに知っておくと良い、情報や資料の収集方法、本の読み方、レポートの作成方法、他人に物事を説明する方法の基礎を修得すること  ・現在の日本を表すデータには、どのようなものがあるのか、そして取り上げたデータから、日本のどのような現状が分かるのかを、学生の報告をもとにして考えていくことを目的としています。  授業は講義形式ではなく、授業で使用するテキストの指定された部分について、学生に報告をしてもらい、その報告をもとにして、いろいろな考察をするという方法を取ります。考察を進めていくときの、皆さんの積極的な参加が期待されます。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>  3で指定している使用教材に沿って進めていきます。  ・経済の仕組みと経済統計  ・景気統計  ・SNA 統計  ・物価統計  ・人口統計  ・データの身近な分析方法</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>  谷澤弘毅(2006)『コア・テキスト経済統計』新世社  受講することが確定しましたら、必ず購入してください。</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>  出席回数、報告時に使用する作成資料(レジュメ)の内容、授業時の報告内容、授業時に課されたレポートの内容から成績を評価します。</p> <p><b>5.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>  ・定員は15名を予定しています。  ・情報処理センターでのデータ分析の実習をすることがあります。情報処理センターを利用するときのアカウントとパスワードを確認してください。</p> <p>・労働統計  ・世帯統計  ・企業活動統計  ・財政統計  ・金融統計  ・対外バランス統計</p>			

科目名<Subject>	基礎ゼミナール <Basic Seminars>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	前期
担当教員名<Name>	ヨン・ステファンソン <Jon Stefansson>	研究室番号<Office>	317
Office Hours	面談を希望される方はまず電子メールにてご連絡ください		
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>  本基礎ゼミナールの目的は大学で学んでゆくためのスキルの習得。前半は大学での勉強の仕方を学んでもらうことに主眼をおきます。後半は実際に学んだことをもとにして、演習を行います。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>  前半(主眼の内容)  ・スタディスキル  ・リーディングスキル  ・レポート作成とレジュメ作成など  ・プレゼンテーションスキルとPowerPoint 活用法など。  ・リサーチのためのインターネットの活用法など。  後半  ・演習形式でビジネス関連のテキストの輪読と報告、討論などを行います。</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>  テキストはオリエンテーション時に提示します。また、随時資料を配付します。</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>  出席、授業態度、授業への貢献度(発表・ディスカッション、その他) レポートにより総合的に判断します。</p> <p><b>5.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>  この基礎ゼミナールの講義と演習は基本的に英語で行います。  履修者は15名までとします。</p>			

科目名<Subject>	基礎ゼミナール <Basic Seminars>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	前期
担当教員名<Name>	前田 陽 <Akira Maeda>	研究室番号<Office>	
Office Hours	最初の講義時に提示する		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 本ゼミナールの目的は次の3つである。 会計と経営との関係について知ること。 企業の経営管理に不可欠な経済的情報を提供するために必要な基礎知識を習得すること。 テキストを読み進める中で、本の読み方、文章の書き方、そして物事の考え方などを身につけること。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 平常点による。	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 毎回、担当者にテキストの該当する部分の要旨を準備してもらい、それを基に討論を行なう。		<b>5.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 受講者多数の場合には、選抜を行なう可能性がある。積極的に参加する意欲のある学生の履修を望む。	
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> H.T.ジョンソン、R.S.キャプラン 著、鳥居宏史 訳、 『レレバンス・ロスト』白桃書房、1992年。			

科目名<Subject>	基礎ゼミナール <Basic Seminars>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	前期
担当教員名<Name>	多木 誠一郎 <Seiichiro Taki>	研究室番号<Office>	435
Office Hours	月曜日 14時半～15時半（その他在室中は、基本的にはいつでも可）		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 大学での学習をどのように進めていけばよいのか、とりわけ法学の学習の仕方について、担当教員を含む参加者全員で考えてみます。 担当教員から解説・説明する時間もあり、実習する時間もあり、受講生の皆さんに発表していただく時間もあります。		・レポートの作成 ・卒業後の進路と大学での学習	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 次の項目をコアの部分として、取り上げたいと思います。授業の進展に応じて、取り上げる項目を皆さんと一緒に考えていきましょう。  ・情報処理センターの利用 ・図書館の利用 ・資料の集め方 ・資料の読み方 ・レジュメの作成 ・受講生の皆さんによる発表		<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> その都度指示します。	
		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 出席状況、授業中の態度・意欲（報告、質疑応答等）、課題（レポート等）を評価要素にします。	
		<b>5.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> コツコツと地道に学習していきましょう。	

科目名<Subject>	基礎ゼミナール <Basic Seminars>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	前期
担当教員名<Name>	齋藤 由起 <Yuki Saito>	研究室番号<Office>	510
Office Hours			
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>            大学で学んでいくための学習，研究の仕方の基礎を身につけることを目的とする。            前半は，文献講読形式により，レジユメの作成，報告方法の習得，後半は，実際に判例を読んで議論することによって，法律を学ぶために必要な知識・技術の習得する。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>            1．図書館の利用方法            2．文献検索の方法            3．文献講読形式によるレジユメの作成，報告方法（報告者が担当部分についてレジユメを作成し，ゼミにおいて報告し，参加者全員で討論する）            4．判例検索の仕方            5．判例の読み方</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>            さしあたり，川島武宜「日本人の法意識」（岩波新書）をテキストとする。</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>            出席状況，予習，質疑応答および報告内容を総合的に評価する。場合によってはレポートを課す。            議論に参加しない者は，欠席として扱う。</p> <p><b>5.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>            履修希望者は必ず初回ガイダンスに出席すること。履修希望者が多数いる場合には，その場で選考を行なう可能性がある。</p>			

科目名<Subject>	基礎ゼミナール <Basic Seminars>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	前期
担当教員名<Name>	今本 啓介 <Keisuke Imamoto>	研究室番号<Office>	512
Office Hours	水曜 18:00～19:00		
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>            大学生活に必要な法学の基礎と，現代問題に対する批判的精神の涵養を目的とする。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>            前半は，多少古いが法学入門書の名著である，渡辺洋三『法とは何か新版』（岩波新書・1998年）を読む。ゼミナールでは，担当者に担当部分を報告してもらい，受講者にいろいろと質問をして答えてもらう。            後半は，『世界』の最新号から興味深い論文を読み，現代の問題に対する関心を高める。レジユメの作成や報告の流儀などはその都度指導する。</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>            ・ 渡辺洋三『法とは何か新版』（岩波新書・1998年）            ・ 『世界』2007年5～7月号</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>            平常点による。</p> <p><b>5.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>            出席と教材の購入（合計3000円程度）は本ゼミナール受講の義務である。受講生には積極的な参加を望む。            回数の都合上，定員は10名までにせざるを得ない。11名以上応募があるときは面接によって受講者を決める。</p>			

科目名<Subject>	基礎ゼミナール <Basic Seminars>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	前期
担当教員名<Name>	平沢 尚毅 <Naotake HIRASAWA>	研究室番号<Office>	385
Office Hours			
<p><b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> この講義では、研究開発の背景にある人間観について洞察することをねらいとする。人間活動の中で、特に、開発や設計などのような創造活動には、必ず、前提となる人間モデルがある。今後の大学での研究活動のみならず、社会での営為において、その前提を洞察する習慣を鍛錬することは、変化する状況においても本質的なアプローチをとる可能性を与える。 本講義では、モノやシステムの設計案に対して、どういう人間モデルの前提があるのかを事例を基に探求してゆく。</p> <p><b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間観についての概観</li> <li>・身体計測学的モデル</li> <li>・生理学的モデル</li> <li>・心理学的モデル</li> <li>・社会学的モデル</li> <li>・高度な精神モデル</li> <li>・人間モデルと設計</li> </ul> <p><b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 必要に応じて、資料などを配付。</p> <p><b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 毎回の個人レポートによる。</p> <p><b>5. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 情報処理センターを利用する場合があるので、必ず、利用申請を完了しておくこと。</p>			

科目名<Subject>	基礎ゼミナール <Basic Seminars>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	前期
担当教員名<Name>	相内 俊一 <Toshikazu Aiuchi>	研究室番号<Office>	543
Office Hours	特に設けない。電子メールで予約してください。		
<p><b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> このゼミナールは、まじめに取り組むすべての参加者が、大学で学ぶ上で必要な「土台」である 論文を正しく・深く読む力 討論と説得の技術 論理を構成する力、論理的推論 (logical thinking) の力を習得できる事をめざしている。また、英文の論文を一部読むが (ゴールドデン・ウィークの課題にする予定) それを通して、英文で書かれた論文を速く・正確に読む力をつけるなど、専門課程における教科やゼミナールで要求されるレベルのスキルも習得してもらおう。もちろん、外国人が書いた論文を通して、日本社会や日本政治を見る観点を豊かにすることも、このゼミナールの目的のひとつである。</p> <p><b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文献探索の諸方法を知り、それを活用するスキルを身につける。図書館での検索、電子検索ができるようになる。</li> <li>・論文を読み、討論し、考える。毎回、全員が要約をつくり、報告する。それに基づいて討論と批評が行われる。</li> <li>・一人1回5分間の、オーラル・コミュニケーション (口頭でのプレゼンテーション) を毎週行い、相互に批評する。</li> </ul> <p><b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>藤原帰一 『戦争を記憶する』講談社現代新書 2001年</li> <li>鈴木貞美 『日本の文化ナショナリズム』平凡社新書 2005年</li> <li>Chalmers Johnson, Blowback: The Cost and Consequences of American Empire, Henry Holt &amp; Co., 2000 (第2章 Okinawa: Asia's Last Colony コピーを配布します)</li> </ul> <p><b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 毎時間の討論 (出席、準備、内容、参加の積極性) 50% 毎週発表 (レポート・報告・オーラルコミュニケーション) 50%</p> <p><b>5. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 予習と復習が絶対に必要。テキストを必ず入手して読んでくること。2年生以上の学生にオブザーバーとして参加を認めることがある。私設ティーチング・アシスタントによる指導が受けられる。</p>			

科目名<Subject>	基礎ゼミナール <Basic Seminars>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	前期
担当教員名<Name>	荻野 富士夫 <Fujio Ogino>	研究室番号<Office>	415
Office Hours	火曜日・水曜日 13時から14時30分		
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 「小林多喜二とその周辺」をテーマに、本校の卒業生であり、さらに日本の近代文学において重要な位置を占める小林多喜二の作品を読み込み、その特質の理解に努める。その際、多喜二の生きた二〇世紀前半の時代相と、彼と彼の家族の軌跡も追ってみたい。		<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 発表内容（それには事前の十分な調査と資料の検討が不可欠）、討論への参加状況によって判断します。	
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 多喜二の小説・評論・書簡・日記などを丁寧に読み深める。多喜二の生涯について、映画「時代を撃て 多喜二」により理解を深め、マンガ『蟹工船』を全員で検討したのち、各自で多喜二の各作品について発表をし、レポートにまとめる。		<b>5. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>	
<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 『小林多喜二全集』（図書館）のほか、文庫収録の作品、白樺文学館ホームページ中の「多喜二ライブラリー」、多喜二に関する多くの研究書（図書館）			

科目名<Subject>	基礎ゼミナール <Basic Seminars>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	前期
担当教員名<Name>	片岡 正光 <Masamitsu Kataoka>	研究室番号<Office>	化学研究室
Office Hours	月～金曜日 10時頃～19時頃まで（但し火曜日は12時頃から）		
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> <b>目的</b> 化学の学習は、理論の学習はもとよりであるが、実験を行うことによって初めて正しく理解されることが多い。実際にピーカーの中で起きる化学反応を駆使して目的物質の濃度を測定する事により、実際の化学分析の一端を体験することを目的とする <b>方法</b> 自然化学実験室で、受講者一人一人に指定された実験台で実験を行なう。後半は測定機器を用いて実験を行なう。実験結果はレポートにまとめて報告する。		<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 実験態度（特に出席）と、毎回提出するレポートによって評価する。 ”実験のゼミはおもしろそうだ”という安易な気持ちで受講しないこと。化学実験は常に危険を伴うので、うわついた気持ちで実験を行うと大事故につながる恐れがある。1回で終わらない実験もあり、欠席の場合にはその週のうちに実験して遅れを取り戻す必要がある。	
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 物質の精製（再結晶）、容量分析（滴定）等の基礎分析技術の習得と、最新の分析機器を用いる環境水の化学分析を行う。環境水の分析では雨水、運河水、港湾海水など、小樽市内で採取した実試料中の環境試料中の化学物質の濃度を測定する。また、途中で石けん作りを楽しむ。得られたデータの統計学的取り扱い方法やレポートの書き方についても指導する。担当教員から実験の概略について説明を受けたのち、一人一人が与えられた実験台（指定席）に着き、個人に配布されたガラス器具、試薬などを使って整然と化学実験を行う。環境の化学分析では、班ごとに分析機器を用いて実験を行う。		<b>5. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 受講者は”学生教育研究災害保険”に加入することを義務づける。実験が終わってから器具の洗浄などのあと片づけがあるので、帰宅が1時間程度遅れることがある。 <b>最大履修者数は20名程度である。</b>	
<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> テキストは使用しない。実験を行う前の週にプリントを配布する。			

科目名<Subject>	基礎ゼミナール <Basic Seminars>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	前期
担当教員名<Name>	兼岩 龍二 <Ryuji Kaneiwa>	研究室番号<Office>	4 5 9
Office Hours	在室中は特に都合が悪くない限り、いつでも可		
<p><b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 線形代数または重積分の中から題材を選び問題演習をゼミ形式で行う。</p> <p><b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 履修者の上限を15名とする。希望者が多数の場合は、抽選により、15名までにしぼる。題材が決ったら、当方で概説をして、問題は各ゼミ生に割り当てる。ゼミ生は問題を解いて、それを皆の前で解説しなければならない。また関連する質問に答えなければならない。出席を重視する。</p> <p><b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 未定。テキストが決まったら、必要な部分をコピー配布する。</p> <p><b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 平常点による。</p> <p><b>5. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b></p>			

科目名<Subject>	基礎ゼミナール <Basic Seminars>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	前期
担当教員名<Name>	久保田 顕二 <Kenji Kubota>	研究室番号<Office>	3 4 3
Office Hours	前期：金曜日 16:00～17:30、後期：水曜日 16:30～17:30		
<p><b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 半期の授業全体を、哲学をテーマとする部門と、倫理学をテーマとする部門との二部構成とする。前者では、哲学の文献を題材にして、主に論理的思考力を磨くことを目的とし、後者では、生命倫理学の文献を題材にして、現代社会が今まさに直面している、ある種のアクチュアルな問題に対する理解を深めることをめざす。双方のテーマの研究において、基本的には、文献(日本語)を輪読して意見を交換するというやり方をとる。なお、順番は、前半が倫理学(全15回のうちの8～9回)、後半が哲学(7～6回)となる。</p> <p>履修者には、文献読解の力を高めること、これまでの受動的な学習態度を脱して授業に能動的に参加する姿勢を身に付けること、明晰な論述文を作成する技能を習得すること、情報検索の基本的な方法を学習すること、などが求められる。</p> <p><b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 毎回、二名ペアで報告者になってもらい、一定テーマをめぐる参加者同士の意見交換を促す役割を担ってもらう(全員の履修者が、半期を通じて最低1回は報告者となる)。報告者に要求される作業は次の二つである。第一に、当日前の準備作業としては、文献の指示された範囲を熟読した上で、中心的なテーマを一、二選定し、さらに、文献のその範囲についての正確なレジュメを作成すること(必要に応じて他の文献も調べ、またレジュメには、自分自身の疑問や意見も記載する)。第二に、授業当日の作業としては、討論の進行役を<b>つと</b>めること(これについては、担当教員や、希望する他の履修者がサポートをしったり交替したりすることもあるので、それほど深刻に考えなくてよい)。 数回を終了した段階で、授業の進め方について、履修者の側からの意</p> <p>見や希望を聴取し、そして、教育的に妥当とみなされる範囲で、それを授業の中に反映させる。また、ライブラリーツアー(図書館で情報検索の方法を学ぶこと)を行なうほか、履修者の希望を確認の上で、できるだけ勧誘や野外学習の機会も設けたい。</p> <p>全部が終了する少し前に、履修者全員に、半期の授業を総括するような内容のレポートを作成してもらおう(分量は、最低でも1200字から1600字程度)。</p> <p><b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 倫理学の部： 今井道夫著『生命倫理学入門(第2版)』[産業図書、2005年](1回に1章の進度で読み進む予定) 哲学の部： プラトンのいずれかの対話編(追って、参加者の希望を確認の上で決定する) なお、双方の文献ともコピーを使用する予定。</p> <p><b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 出席状況、授業への取り組み、レポート課題の出来具合、の三点を総合的に判断するが、科目の性格上、出席が非常に重要であるので、5回以上欠席の学生は自動的に、授業放棄したものとみなされる。</p> <p><b>5. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 履修者数は、上限15名まで。</p>			

科目名<Subject>	基礎ゼミナール <Basic Seminars>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	前期
担当教員名<Name>	杉山 成	研究室番号<Office>	心理学実験室
Office Hours	火 16:00~17:30		
1. 授業の目的・方法<Course objective and method>		5. 履修上の注意事項<Remarks>	
<p>テーマ：心の理論を学ぶ</p> <p>概要：授業目標は2つあります。ひとつはゼミという学修形態への習熟です。具体的には資料の探索方法や効果的な発表方法、建設的な討論の進め方等、基本的スキルの習得を目指します。もうひとつは題材として扱うカウンセリングや心理療法の人間観についての議論を通して、人間に対する洞察力を深めることです。</p>		<p>受講者は最大で16名とします。受講希望者がそれを越える場合は、小レポート(テーマ「現代社会における心理的問題」・1000字以内・様式自由)を提出してもらい、それによって受講者を決定します。受講希望者はオリエンテーションに必ず出席してください。</p>	
2. 授業内容<Course contents>			
<p>あらかじめ決められた担当者が担当部分についてのレジюме(抄録)を作成した上で発表を行い、それに基づいて全体での討論を行います。そのほかグループワークや集団討論、ディベート等を取り入れる予定です。</p>			
3. 使用教材<Teaching materials>			
<p>テキストは使用せずに、その都度、参考文献を紹介します。</p>			
4. 成績評価の方法<Grading>			
<p>平常点(出席状況、担当部分の発表内容、他の発表者の回における討論参加度)によって、授業目標の到達度を評価します。60%の到達度が合格ラインです。さらに詳細な「秀・優・良・可」の評価基準については、授業開始時に文書にて通達します。</p>			

科目名<Subject>	基礎ゼミナール <Basic Seminars>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	前期
担当教員名<Name>	杉之原 立史 <Tatsushi Sugino-hara>	研究室番号<Office>	312
Office Hours	未定		
1. 授業の目的・方法<Course objective and method>		5. 履修上の注意事項<Remarks>	
<p>エネルギー問題に関する理解を深めるとともに、文章の読解・発表・討論の能力を向上させることを目的とする。</p>		<p>予習としてテキストをよく読み、よく考え、自分なりの意見を持ってゼミに参加してほしい。無断欠席や遅刻は厳禁とする。</p>	
2. 授業内容<Course contents>			
<p>エネルギーとは何か？ 現在、人類が利用しているエネルギー資源の種類と量は？ これから私たちはどのようにエネルギーを使っていくべきか？ このような問いについて、テキストを読みながら履修者全員で議論し、考えていきたい。</p> <p>ゼミでは、テキストの内容について、履修者に順番に発表してもらう。発表する順番と分担(担当ページの割り振り)は初回の授業時に決める。発表者には、担当した範囲の内容を整理し、関連する文献やウェブページを調べたうえで、レジюмеを作成し、発表をおこなってもらう。発表者以外の人でもその範囲を読んでおき、積極的に質問することが求められる。</p>			
3. 使用教材<Teaching materials>			
<p>テキスト：小島紀徳『エネルギー 風と太陽へのソフ トランディング』日本評論社</p>			
4. 成績評価の方法<Grading>			
<p>出席状況、参加姿勢、発表内容などを総合的に評価する。</p>			

科目名<Subject>	基礎ゼミナール	<Basic Seminars>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>		前期
担当教員名<Name>	中村 史	<Fumi Nakamura>	研究室番号<Office>	405
Office Hours	面談を希望される方はまず電子メールにてご連絡ください			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> この授業は題して『源氏物語』を読む」となります。日本の古典文学を学び楽しむことを通じて、大学で学ぶための基礎学力を養う入門的（あるいは教養的）ゼミです。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> その方法については履修者の状況を見て最終的に決定します。基本的には参加態度、発表とレポートのよしあしによって評価する予定です。		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 『源氏物語』54帖のストーリーを履修者に分担して読破していただき、それぞれの担当部分を解説する発表をしていただきます。また、『源氏物語』についてのやさしい論文を紹介・解説する発表をしていただきます。図書館体験や『源氏物語』関係論文の探索をし、時間が許すならば、『源氏物語』（のいずれかの巻）の本文を読み、『源氏物語』についての小講義等も行われます。 *履修者の状況を見て予定を変更することはあり得ます。		<b>5.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 履修者は古典文法を修得し、かつ古文・漢文をある程度以上読めることが望ましい。 基礎ゼミナールの性質上、履修希望者が15名を超える場合には選抜の方法を考えざるをえません。これについてはオリエンテーションの際に説明します。なお、履修や成績評価等の重要なことについて電子メール上のみで対応することはできません。かならず電子メールで予約を取って研究室を訪問してください。		
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> テキストはとくに定めません。参考文献は授業中に紹介してゆきます。				

科目名<Subject>	基礎ゼミナール	<Basic Seminar>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	I	前期
担当教員名<Name>	宝福 則子	<Noriko Hofuku>	研究室番号<Office>	527
Office Hours	木14時40分~16時 その他、随時、事前にメール・電話で連絡、可能なら、いつでもOK			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> ゼミ生各々が問題意識をもっているテーマについて、受け身ではなく、自律的に研究・発表し、討論する能力を養う。最終的には、論文を書くことを学ぶ。方法としては、下記教材を各ゼミ生が熟読し、最低限知っておくべき共通の知識を獲得し、議論によって発展させるための基礎とする。各週、一人あるいはグループで諸事項について発表し、具体的な問題の事例について新聞や他の資料を利用しながら、それについて討論する。発表者は簡単なレジュメ（メモ程度でよい）や資料を配布する。図書館の利用法やインターネット利用による文献の探し方等も学ぶ。		<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> J.C.リュアノ・ボルバラン/S.アルマン/杉村昌昭訳『グローバリゼーションの基礎知識』作品社、2004年		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 「グローバリゼーションによる環境や社会への影響」を大きなテーマとし、具体的に個々の問題を扱う。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> ゼミ中の討論への参加、発表、小論文の出来具合で評価する。		
<b>5.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 環境問題に関心があること以外には、特に条件はないが、積極的にゼミに参加することを望む。前期に「社会学I」を履修していることが望ましい。				



科目名<Subject>	基礎ゼミナール <Basic Seminars>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	前期
担当教員名<Name>	米田 力生 <Rikio Yoneda>	研究室番号<Office>	355
Office Hours	在室時		
<p><b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> このゼミでは以下の能力を身につけることを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図書館での数学の文献や資料検索と利用の仕方を身につけること。</li> <li>・ 情報処理センターの利用とパソコンやインターネットの活用法を身につけること。</li> <li>・ 数学の文献を読み、また、人の話を聞いて、その内容を理解すること。</li> <li>・ 論理的にものごとを考え、人前で明瞭に自分の意見を述べること。</li> <li>・ 教員が指定した書式に従って、正確で分かりやすくレポートやレジュメを作成すること。</li> </ul> <p><b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 微分積分や線形代数等の中から題材を選び、ゼミ生に割り当てて解説させる。</p> <p><b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 未定</p> <p><b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 出席状況、発表能力、理解能力、レポート及びレジュメの出来を総合的に勘案して評価する。</p> <p><b>5. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 難解な内容を扱うので、数学的思考が苦にならないことが要求される。</p>			

科目名<Subject>	基礎ゼミナール <Basic Seminars>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	前期
担当教員名<Name>	西永 亮 <Ryo Nishinaga>	研究室番号<Office>	
Office Hours	水 14:30-16:00		
<p><b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 本ゼミは、社会科学・倫理・歴史という枠組みのなかで、社会科学を学ぶための土台づくりを目指します。使用教材を輪読し、参加者のあいだでの議論を通じて、社会的認識とは何か、またそれと倫理および歴史との関係はいかなるものであるのか、そして現代社会で自分は何をなすべきか、という問いについて考えていきます。 文章を読み書きする、また自分の意見を述べたり他人の話の話を聞く、という行為は、論理を基本とします。したがってゼミでは、どの場面でも論理展開を辿り構成する力を重点的に養います。</p> <p><b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> あらかじめ決められた担当者が、使用教材の分担部分についてレジュメを作成し報告を行ないます。それを踏まえて、参加者全員で議論します。ここに指定されている使用教材が終了した後は、ゼミの進行状況に応じて、また参加者と相談しながら、次に扱うテキストを決めます。場合によっては英語文献も考えられます。</p> <p><b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 吉野源三郎『君たちはどう生きるか』岩波文庫 E. H. カーク『歴史とは何か』岩波新書 その他</p> <p><b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 報告、平常点（議論での積極的発言等）、レポートによって総合的に評価します。</p> <p><b>5. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> ゼミの生命は学生の積極的な姿勢です。どんな形であれ自分の意見を形成し表現する努力が求められます。</p>			

科目名<Subject>	基礎ゼミナール <Basic Seminars>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	前期
担当教員名<Name>	大塚 謙 <Yuzuru Otsuka >	研究室番号<Office>	439
Office Hours	在室中ならいつでも。		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> レポートのまとめ方、文章の書き方、発表の仕方を練習する。 広く現代世界の問題を考える。 を主たる目的とし、これの素材を（具体的には下記の書物）に求めます。 「欧米か？」という言葉をよく耳にしますが、「欧」と「米」に楔を入れ、「欧」のライフスタイルの人類全体にとっての意義について考えてみましょう。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> レポート、記録、議論への参加、小論文などを総合的に評価する。	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 毎回2・3人の参加者が文献から1人10ページ程度報告し、それをめぐって全員で議論する。 また記録担当者が報告を簡単な記録にまとめる。報告者は事前に教師に要旨を提出しておく。要旨はできるだけパソコンで書く。 最後に各々がテーマを選んで小論文を書く。使用文献を対象としてもよい。試験は行わない。		<b>5.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 参加人数の上限を15名とする。	
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 『拡大ヨーロッパの挑戦 - アメリカと並ぶ多元的パワーとなるか』（羽場久み子、中公新書 1751） 『EUの知識』（藤井良広著、日経文庫 1079）			

科目名<Subject>	基礎ゼミナール <Basic Seminars>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	前期
担当教員名<Name>	山田 眞史 <Maifumi Yamada>	研究室番号<Office>	513
Office Hours	Mediante cita concertada previamente		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> スペイン文化への入門です。ここでいう「文化」とは文化記号論や文化人類学が研究の対象とするものを指します。試みに挙げてみれば、儀礼、祭り、文学、美術、建築、音楽、言語、スポーツ、生活習慣、書物、料理、映画、伝承、舞踏、宗教、余暇、その他さまざまです。それらが「スペインにかかわるかぎり」この授業の対象となります。		<b>5.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 学問への入口です。 志望者の多いのが例年、頭痛のタネです。本当に自分の目指すものが何なのか、真剣に考えたうえで、志望してください。	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 参加者がそれぞれ上記のテーマ（あるいは それ以外）を選び、それについて文献などにより研究し、レジメをつくって発表する。皆でそれについて論じ、各テーマについて理解を深める。スペイン文化への扉を叩くだけのおわるか、それとも少しでも開くことができるか、それは各人にかかっています。			
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> その都度指示します。			
<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 発表の内容、討論の内容（対象をどれだけ 理解しているか）			

科目名<Subject>	基礎ゼミナール	<Basic Seminars>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>		前期
担当教員名<Name>	吉田 直希	<Naoki Yoshida>	研究室番号<Office>	4 3 3
Office Hours	月 14:30~17:00			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 対話型、双方向型の授業 情報機器、視聴覚機器を使用  英語で書かれたエッセイを題材に、資料の集め方、レポートの書き方、口頭発表の仕方等について練習します。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 毎回のレポート、発表、最終レポートを総合して評価します。		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 担当者がテキストの内容について発表を行い、その後全員で討論します。毎回、指定されたテーマについてレポートを作成することが求められます。		<b>5.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> ゼミは毎回出席することが重要です。毎回積極的に参加できる学生の履修を望みます。英語Ⅰ E102Aを履修していないこと。オリエンテーションには必ず参加すること。		
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> プリントを使用します。				

科目名<Subject>	基礎ゼミナール	<Basic Seminars>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>		前期
担当教員名<Name>	辻 義人	<Yoshihito Tsuji>	研究室番号<Office>	3 2 1
Office Hours	メールで事前に連絡してください			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 大学で求められる能力として、主に以下の5点が挙げられる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 問題を設定する能力</li> <li>2) 文献や資料を収集し調査する能力</li> <li>3) 論理的に思考し、まとめる能力</li> <li>4) わかりやすく発表する能力</li> <li>5) 議論を理解し参加する能力</li> </ol> これらの能力は、大学生活のみならず、社会人としても欠かせないものといえよう。このことから、本ゼミでは、上記の能力の全般的な習得を目的とする。 なお、方法としては、各自に与えられたテーマの調査・研究を行い、ゼミでの発表と議論を予定している。		<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 使用教材は未定であるが、プリントの配布を予定している。なお、ゼミの資料作成や発表の際の参考文献として、以下の書籍の購入が望ましい。  荒木晶子・向後千春・筒井洋一(2000) 自己表現力の教室 大学で教える話し方・書き方、情報センター出版局		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> テーマは、日常生活における心理学とする。例えば、講義室で座席を選ぶときにも、座りやすい席と座りにくい席がある。また、話しやすい人と話しにくい人がいる。これらは、どのような原因から生じるのだろうか。また、雑誌などで「しぐさから相手の心を読む」などの特集を散見するが、果たしてそれは本当に可能なのだろうか。 本ゼミでは、基礎的な文献を用いて、それらの真偽を調べ(必要であれば実験を行い)、ゼミでの議論を行う。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 出席回数、ゼミへの参加態度・貢献度、レポート、これらを用いて評価する。なお、評価の際の重み付けは、上記の順に5:3:2とする。		
		<b>5.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> ・時間外学習の必要性について ゼミでは主に発表と議論を行うため、調査や実験はゼミ時間外での学習活動となる。このため、本ゼミに参加するにあたっては、十分な時間外学習が必要となる。  ・履修人数の制限について 受講者は15人程度を予定しているが、希望者多数の場合にはレポートによる選考を実施する。履修希望者は初回オリエンテーション時に参加すること。レポート課題、提出期限はその際に周知する。		

科目名<Subject>	予防の医学 A・B <Preventive Medicine>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	後期
担当教員名<Name>	浅沼 義英 <Yoshihide Asanuma>	研究室番号<Office>	保健管理センター
Office Hours	保健センターに連絡のうえ、随時(午後)		
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>          目的：大学と将来の社会生活において、健康を保持し増進してゆくことが重要である。そのために、専門の医学というよりは、生活に応用ができる実践的な知識と、主体的な思考法を身につける。          方法：現在の健康科学の分野で、重要と思われる課題を具体的に解説してゆく。講義ではパワーポイントスライド、ビデオ、資料なども使用する。また、簡単な医学機器にふれる機会も設ける。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 イントロダクション・・・健康科学概論(健康の定義)</li> <li>2 アルコール、タバコなどの嗜好品について</li> <li>3 栄養のバランス・・・肥満とやせ、肥満研究の進歩について</li> <li>4 糖尿病と高脂血症・・・生活習慣病への対処。サプリメントについて</li> <li>5 高血圧の予防法・・・高血圧の判断。薬によらない一般療法</li> <li>6 後天性免疫不全症候群(AIDS)およびSTIについて</li> <li>7 脳の統合機能および精神との関連</li> <li>8 体のナチュラルリズム・・・体内時計と病気</li> <li>9 ストレスと精神衛生・・・神経症、心身症との関連</li> <li>10 睡眠の質と量</li> <li>11 運動生理学の基礎</li> <li>12 トレーニングとスポーツ障害</li> <li>13 ウォーキング・水中運動の特徴と入浴</li> <li>14 温泉医学・・・その環境を利用する</li> <li>15 大学生によくある疾患。および現代医学のトピックス</li> </ol> <p>*一回の講義ごとに一つのテーマで纏める。テーマの順番などについて</p>			
<p>では講義の中で予告します。</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>          学生の健康問題についてほとんどをカバーし解説したよい解説書として、「学生と健康」(国立大学保健管理施設協議会編改訂2版、2001年、南江堂)を勧めます。参考として、ヘルシーライフジャーナル(浅沼著)があります。</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>          原則として、小論文(レポート)の内容によります。テーマは講義期間の終わり頃に示します。レポートは、目的、資料などを明示し、自分なりの結論、参考文献を記してあればよい。テーマを展開する発想の独創性も重視します。          A4紙で2枚以内(参考資料は除く)、短くとも内容が明快であれば十分です。</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>          評点は、90, 80, 70, 60点台がそれぞれ、秀、優、良、可であり、60点未満は不可。また、出席を重視します。配点比率はレポートが7割と全出席が3割程度。これらの評価は担当者の判断によります。</p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>          やむを得ない正当な事由で欠席する場合は、欠席届を出して下さい。受講者は履修申込書にAまたはBと記し、それぞれ250名までに人数を調整します。</p>			

科目名<Subject>	健康スポーツ a1 <Exercise and Sports> レクリエーション・トランポリン		
単位数<Credits>	1	配当年次<Years>	前期
担当教員名<Name>	田野 有一 <Yuichi Tano>	研究室番号<Office>	452
Office Hours	e-mailにて受け付け、時間調整の上、対応することとする。		
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>          1959年(昭34)日本に初めて紹介された「トランポリン」はその後、大学を中心に国内に普及・啓蒙されていった歴史をもっている。          トランポリン運動は、「跳躍運動(ジャンプ)は足で」といった常識を打ち破り、膝・腹・背・四つん這いによる跳躍運動を可能にした。          安全にかつ楽しさを満喫しながら身体能力が高められる本コースでは、初心者を対象にして実施されるので、未経験者も安心して履修できる(他大学には見られない)ユニークなプログラムといえよう。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 器具、用具に扱い方(セッティング・カッティング)</li> <li>2) 基本技に種類を学ぶ              基本技a(垂直跳びと停止方法)              基本技b(抱え込み、開脚、閉脚・・・の跳び方)              基本技c(腰、膝、四つん這い、腹、背・・・の跳び方)              基本技に捻りを加える              各種の基本技を連続する              自由に演技構成してみる</li> </ol> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>          必要に応じて資料(プリント)を配布する。</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>          成績評価は総時間数の2/3以上の出席(遅刻、見学、早退を含む)をもって評価対象者とし、その対象者の受講態度および実技試験等の到達度を参考に以下の基準で評価する。</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>          秀：全て出席し、受講態度と実技試験等の到達度が9割以上に評価されたもの          優：9割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が8割以上に評価されたもの          良：8割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が7割以上に評価されたもの          可：7割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が6割以上評価されたもの</p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>          綿製の靴下を着用すること。</p>			

科目名<Subject>	健康スポーツ a1, a2, a3	< Exercise and Sports >	硬式テニス
単位数<Credits>	1	配当年次<Years>	前期
担当教員名<Name>	花輪 啓一 <Keiichi HANAWA>	研究室番号<Office>	3 5 4
Office Hours	木曜日 9:00~17:30		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> テニスは体の素早い反応と瞬発力を必要とするスポーツで、見かけよりも非常に激しい運動です。しかも技術もかなり難しく、初心者がいきなり自分の思ったところへ打てることはまずなく、ボールを追いかけるだけで、たちまちお手上げとなってしまいます。しかし、テニスの基本をしっかりとマスターすれば、あとは自分の体力に合ったテニスができ、生涯に渡って楽しめるスポーツです。つまり、健康づくりや生涯スポーツとして最適な種目の一つです。 本コースでは初心者および初級者を対象にテニスの基本的な技術とルールを習得し、楽しいゲームができることを目標に展開する。		<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 本コースで必要とされる用具は、すべて健康科学科で用意するが、自分専用のラケットを持っている人は持参した方が望ましい。また、テニスシューズは各自が用意すること。使用するコートはオムにコート(全天候型)2面、クレーコート1面を使用する。雨天時は第1体育館の1面を使用する。	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 1) テニスの歴史と用具 2) テニスの初歩的技術の習得(ボールとラケット操作に慣れる) 3) ストロークの基本の習得(ラケットの振り姿勢) 4) グランドストローク(フォア・バック)の習得 5) グランドストロークでの実践的練習(半面コートを使用) 6) ボレーとサーブの初歩的技術の習得と実際 7) ゲームにおけるポジションのその役割の解説 8) ゲームの展開の仕方とルールの解説(プリントを用意) 9) 授業の後半は主にゲームが中心となる		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 成績評価は総時間数の3分の2以上の出席(遅刻、見学、早退を含む)をもって評価の対象とし、その対象者の受講態度および実技試験等の到達度を参考に以下の基準で評価する。	
		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 「秀」: 全て出席し、受講態度と実技試験等の到達度が9割以上に評価されたもの 「優」: 9割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が8割以上に評価されたもの 「良」: 8割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が7割以上に評価されたもの 「可」: 7割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が6割以上に評価されたもの	
		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> ・全コースとも共通実施種目として『体力テスト』を行う。 ・グループ別学習形態をとることから、安易な履修取り消しは避けてもらいたい	

科目名<Subject>	健康スポーツ a1,a5	<Exercise and Sports>	ウォーキング
単位数<Credits>	1	配当年次<Years>	前期
担当教員名<Name>	中川 喜直 <Yoshinao Nakagawa>	研究室番号<Office>	3 5 6
Office Hours	mail にて調整 : nak@res.otaru-uc.ac.jp		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 本コースは、大学・社会人になって活用できる健康づくりの方法を学び、自ら積極的に健康の保持増進が推進できる能力を体得する。ウォーキングでは歩くことを通して自然環境に触れ、歩行が心身に与える効果について学習する。将来の社会生活において健康づくりになる運動の仕方や方法論の基礎を修得し、運動習慣を身につけることを目的とする。本コースはスポーツ・運動が苦手不得意な者に履修を勧めたい。		<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 本コースで必要とされる用具は、すべて健康スポーツ担当教員側で用意する。但し、屋内用および屋外用運動靴に関しては各自用意すること。 また、講義ではDVDなども活用し、PCを使った教材によって理解を深めて学習をする。	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> <講義> ウォーキングの効用と各種歩行について、テキスト用いて解説する。また、定期的に歩数計とGPSを用いて歩行距離・消費カロリー・歩数・運動強度・主観的運動強度や歩行速度を測り、生活習慣病予防と健康の保持増進との関係について考察する。 <実技> 自然と触れ合う「エコ・ウォーキング」、ゆっくり歩く「ランプリング」、全身運動の「ストックウォーキング」、競技スポーツとしての「競歩」「急歩」、日本古来の「なんば歩き」、普段使わない筋肉を使用する横歩き、後ろ歩きなどを体験する。また、効率の良い歩き方や、ピッチ走法・ストライド走法などを学習する。尚、ウォーキングは高大に隣接する遊歩道や公道、公園を利用する。集合場所は体育館前、雨天時は体育館内にて実施する。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> ・成績評価は総時間数の3分の2以上の出席(遅刻、見学、早退を含む)をもって評価の対象とし、その対象者の受講態度および実技試験等の到達度を参考に以下の基準で評価する。	
		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 秀: 全て出席し、受講態度と実技試験等の到達度が9割以上に評価されたもの 優: 9割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が8割以上に評価されたもの 良: 8割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が7割以上に評価されたもの 可: 7割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が6割以上に評価されたもの	
		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> ・全コースとも共通実施種目として「体力テスト」を行う。 ・グループ別学習形態を採ることから、安易な履修取り消しは避けてもらいたい。	

科目名<Subject>	健康スポーツ a2,a4,b1	<Exercise and Sports>	軽スポーツ
単位数<Credits>	1	配当年次<Years>	前・後期
担当教員名<Name>	石崎 香理 <Kaori Ishizaki>	研究室番号<Office>	310
Office Hours	e-mail にて、事前に日時を予約、確認して下さい。		
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 生涯に渡って手軽にスポーツ活動が続けられるよう、積極的に身体を動かし健康的かつ活動的に体力づくりを行うことを目的とする。そのためには身体を動かすことの楽しさや重要性を体得していくことが望まれる。また、スポーツを通しての社会性やチームワークの大切さにも触れてほしい。様々な種目のスポーツを取り入れ、1人でも出来る運動や2人以上で行うゲームを実践する。		<b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 「秀」: 全て出席し、受講態度と実技試験等の到達度が9割以上に評価されたもの 「優」: 9割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が8割以上に評価されたもの 「良」: 8割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が7割以上に評価されたもの 「可」: 7割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が6割以上に評価されたもの	
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> ソフトバレーボール・ユニホック・バドミントン・ドッジボール・フォークダンスなど、その他にも簡単に楽しめる種目を随時取り入れる。またスポーツを行う上での準備体操の方法や、ゲームに際しての基本的な動き方、展開方法などを学習する。		<b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> ・全コースとも共通実施種目として『体力テスト』を行う。 ・グループ別学習形態をとることから、安易な履修取り消しは避けてもらいたい。	
<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 本コースで必要とされる用具は、全て健康スポーツ担当教員側で用意する。但し、屋内用および屋外用運動靴に関しては各自用意すること。(雨天時は上靴が必要となる)			
<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 成績評価は総時間の3分の2以上の出席(遅刻、見学、早退)をもって評価の対象とし、その対象者の受講態度および実技試験等の到達度を参考に以下の基準で評価する。			

科目名<Subject>	健康スポーツ a3,a4	<Exercise and Sports>	ソフトボール
単位数<Credits>	1	配当年次<Years>	前期
担当教員名<Name>	細川 賢一 Kenichi Hosokawa	研究室番号<Office>	
Office Hours			
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> スポーツを通して、学生の心身共に健全な人格の育成、自主的に運動を行うことにより自らを鍛え且つ楽しみ大学生活を豊かなものにし、生涯にわたって健康な生活を過ごすことのできる知識・技能・態度の体得やスポーツを楽しみながら実践していく基礎を養成する。		<b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 「秀」: 全て出席し、受講態度と実技試験等の到達度が9割以上に評価されたもの 「優」: 9割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が8割以上に評価されたもの 「良」: 8割以上出席し、受講態度と実技等の到達度が7割以上に評価されたもの 「可」: 7割以上出席し、受講態度と実技等の到達度が6割以上に評価されたもの	
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 個人技の獲得 ボールの握り～投げかた キャッチング～スローイング、 ピッチング、バッティング、 守備等の各種基本知識と基本技術練習 ルールの理解と実践 試合		<b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 全コースとも共通実施種目として『体力テスト』を行い、本コースの参考資料とする。 履修決定後の履修コースの変更は認められない。また、安易な履修取り消し等は断じて避けなければならない。 ソフトボールの実技に適した運動着、屋外用運動靴以外の着用は認められないので注意すること。	
<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 本コースで必要とされる用具類は、すべて健康スポーツ担当教員側で用意する。但し、屋内用および屋外用運動靴に関しては各自用意すること。(雨天時には、屋内用運動靴が必要)		<b>7. その他</b> *実施場所は本学「野球場」。 *用具係(用具の持出/運搬/収納)は当番制。	
<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> ・成績評価は総時間数の2/3以上の出席(遅刻、見学、早退を含む)をもって評価の対象とし、その対象者の受講態度および実技試験等の			

科目名<Subject>	健康スポーツ a3, b2	<Exercise and Sports> バドミントン/卓球	
単位数<Credits>	1	配当年次<Years>	前・後期
担当教員名<Name>	中川 喜直 <Yoshinao Nakagawa>	研究室番号<Office>	3 5 6
Office Hours	mail にて調整 : nak@res.otaru-uc.ac.jp		
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>  本コースでは、大学・社会人になって活用できる健康づくりの方法を学び、健康保持増進ができる能力を体得する。バドミントンと卓球は手軽に実施できるスポーツ種目であり、比較的狭い場所で安全に楽しめる。本コースではコート毎のグループに別れて攻守の練習をおこない、ゲームができるようにスキルを学習する。また、生涯スポーツとして運動習慣を身につけ、将来の社会生活において健康づくりとなる運動の仕方や方法論を修得する。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>  &lt;講義&gt;  バドミントンと卓球の概要：歴史とマナー、定期的に歩数計を用いてバドミントンと卓球の運動強度と消費エネルギー量を測定し、健康の保持増進の関係について考察する。  &lt;実技&gt;  基礎練習：グリップの握り方と手首の使い方・腕の振り方、構え、ポジションの基本動作について練習する。  『バドミントン』：ハイクリアー・ドロップショット・ヘアピン・スマッシュ・ドライブ・サーブ：ロングハイ・ショートローサーブについて各種ショット練習する。  『卓球』：シェーク・ペンハンドのグリップの握り方、構え、ポジションの基本動作について練習する。上回転・下回転・つつきの各種ショットとサーブ練習をする。</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>  本コースで必要とされる用具は、すべて健康スポーツ担当教員側で用意する。但し、屋内用および屋外用運動靴に関しては各自用意すること。また、講義では DVD なども活用し、PC を使った教材によって理解を深めて学習をする。</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>  ・成績評価は総時間数の3分の2以上の出席（遅刻、見学、早退を含む）をもって評価の対象とし、その対象者の受講態度および実技試験等の到達度を参考に以下の基準で評価する。</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>  「秀」：全て出席し、受講態度と実技試験等の到達度が9割以上に評価されたもの  「優」：9割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が8割以上に評価されたもの  「良」：8割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が7割以上に評価されたもの  「可」：7割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が6割以上に評価されたもの</p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>  ・全コースとも共通実施種目として「体力テスト」を行う。  ・グループ別学習形態を採ることから、安易な履修取り消しは避けてもらいたい。</p>			

科目名<Subject>	健康スポーツ a4, b3	<Exercise and Sports> 卓球	
単位数<Credits>	1	配当年次<Years>	前・後期
担当教員名<Name>	田野 有一 <Yuichi Tano>	研究室番号<Office>	4 5 2
Office Hours	時間帯については、e-mail にて問い合わせの上、調整する。		
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>  学生時代のみならず、卒業後、社会人としても「健康に対する正しい知識と実践力を身に付け、自己の健康管理能力を備えつけた心身共にバランスのとれた人材教育を施す」ために開講される健康科学科目の実技編として位置づけられる。  卓球は各人の技術水準に応じて楽しめるスポーツの一つとして広く国民に親しまれている。  本コースは、いつでも、だれもが手軽に行える大衆スポーツとしての卓球」といった観点から、それに必要な基本技術やルールをはじめ、ゲーム展開上での戦法とその技術を学ぶ。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>  基本技術の獲得  ・ラケットの種類と選択方法  ・各種ストローク...フォアバック（ロング、ショート、ドライブ、カット）  ・つつき打法  ・各種サービスとレシーブ方法  ルールを学ぶ  ・シングルス  ・ダブルス  ゲーム(試合)の展開  ・シングルス・ダブルス  ・各種戦法とその対処方法  ・戦績記録と反省</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>  本コースで必要とされる用具類は、すべて健康スポーツ担当教員側で用意する。但し屋内用運動靴に関しては各自用意すること。  *自己愛用のラケットを使用してもよい。</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>  成績評価は総時間数の2/3以上の出席（遅刻、見学、早退を含む）をもって評価対象者とし、その対象者の受講態度および実技試験等の到達度を参考に以下の基準で評価する。</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>  秀：全て出席し、受講態度と実技試験等の到達度が9割以上に評価されたもの  優：9割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が8割以上に評価されたもの  良：8割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が7割以上に評価されたもの  可：7割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が6割以上に評価されたもの</p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>  全コースとも共通実施種目として『体力テスト』を行い本コースの参考資料とする。  履修が決定後の履修コースの変更は認められない。また、安易な履修取り消し等は断じて避けなければならない。卓球の実技の適した運動着、室内運動靴以外の着用は認められないので注意すること</p>			

科目名<Subject>	健康スポーツ a5	<Exercise and Sports>	ソフトボール
単位数<Credits>	1	配当年次<Years>	前期
担当教員名<Name>	田野 有一 <Yuici Tano>	研究室番号<Office>	4 5 2
Office Hours	時間帯については、e-mail にて問い合わせの上、調整する。		
1.授業の目的・方法<Course objective and method>	<p>学生時代のみならず、卒業後、社会人としても「健康に対する正しい知識と実践力を身に付け、自己の健康管理力を備えた心身共にバランスのとれた人材教育を施す」ために開講される健康科学科目の実技編として位置づけられる。</p> <p>ソフトボールは、各人の技術水準に応じて楽しめるスポーツの一つとして広く国民に親しまれている。一発逆転の意外性の体験、また仲間同志の協調性や適度な運動負荷が求められる人生上ででの生涯スポーツの定着化を目指している。</p>		
2.授業内容<Course contents>	<p>個人的技術の獲得 キャッチボール、守備、ピッチング、バッティング...などの各種基本的な知識・技術の練習と体得 集団的技術の獲得 連携プレーの技術練習（走者がいる場合とそうでない場合のプレーの違いについて） ゲーム（試合）の展開 簡易ゲーム 正規のゲーム（審判、球審、塁審を含む） 勝因と敗因の分析と課題発見、克服方法の模索。チーム戦績結果（勝敗/勝率）記録。</p>		
3.使用教材<Teaching materials>	<p>本コースで必要とされる用具類は、すべて健康スポーツ担当教員側で用意する。但し、屋内用および屋外用運動靴に関しては各自用意すること。（雨天時には、屋内用運動靴が必要）</p>		
4.成績評価の方法<Grading>	<p>*自己愛用のグローブを使用してもよい。</p> <p>成績評価は総時間数の2/3以上の出席（遅刻、見学、早退を含む）をもって評価対象者とし、受講態度および実技試験等の到達度を参考に以下の基準で評価する。</p>		
5.成績評価の基準<Grading Criteria>	<p>秀：全て出席し、受講態度と実技試験等の到達度が9割以上に評価されたもの 優：9割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が8割以上に評価されたもの 良：8割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が7割以上に評価されたもの 可：7割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が6割以上に評価されたもの</p>		
6.履修上の注意事項<Remarks>	<p>全コースとも共通実施種目として『体力テスト』を行い、本コースの参考資料とする。 履修決定後の履修コースの変更は認められない。また、安易な履修取り消し等は断じて避けなければならない。 ソフトボールの実技に適した運動着、室外用運動靴以外の着用は認められないので注意すること。</p>		
7.その他	<p>*実施場所は本学「野球場」 *用具係（用具の持出/運搬/収納）は当番制。</p>		

科目名<Subject>	健康スポーツ a5, b2	<Exercise and Sports>	バレーボール
単位数<Credits>	1	配当年次<Years>	前・後期
担当教員名<Name>	石崎 香理 <Kaori Ishizaki>	研究室番号<Office>	3 1 0
Office Hours	e-mail にて、事前に日時を予約、確認して下さい。		
1.授業の目的・方法<Course objective and method>	<p>バレーボールは今から約 100 年前にアメリカで始まったスポーツです。日本では、学校や職場、クラブ活動、ママさんバレー、実業団からオリンピック競技までと、幅広い場で親しまれている競技です。</p> <p>授業では、バレーボールの競技特性を把握し、バレーボールの構成する基本技能や動き、基本的なルールを学習する事を目標とする。その指導過程においては、社会性の育成、健全なる競技精神や、授業における安全性について習慣や態度の育成を目指す。また、プレーヤーの相互の協力と信頼を養うことにより、チームプレーの達成目標とする。</p>		
2.授業内容<Course contents>	<p>バレーボールの競技特性と、技術的な動きの説明。パスやサーブ、スパイクなどの基本技術の習得のための、効果的な練習方法とその実践。チーム設計として、ポジショニング、連携プレー、フォーメーションプレーを行い、6人制の試合形式を学習する。ゲーム運営や審判も全員が協力し行うようにする。ミニソフトバレーを使用することもある。</p>		
3.使用教材<Teaching materials>	<p>本コースで必要とされる用具は、全て健康スポーツ担当教員側で用意する。但し、屋内用および屋外用運動靴に関しては各自用意すること。（雨天時は上靴が必要となる）</p>		
4.成績評価の方法<Grading>	<p>成績評価は総時間の3分の2以上の出席（遅刻、見学、早退）をもって評価の対象とし、その対象者の受講態度および実技等の到達度を参考に以下の基準で評価する。</p>		
5.成績評価の基準<Grading Criteria>	<p>「秀」：全て出席し、受講態度と実技試験等の到達度が9割以上に評価されたもの 「優」：9割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が8割以上に評価されたもの 「良」：8割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が7割以上に評価されたもの 「可」：7割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が6割以上に評価されたもの</p>		
6.履修上の注意事項<Remarks>	<p>・全コースとも共通実施種目として『体力テスト』を行う。 ・グループ別学習形態をとることから、安易な履修取り消しは避けてもらいたい。</p>		



科目名<Subject>	健康スポーツb1	<Exercise and Sports>バドミントン	
単位数<Credits>	1	配当年次<Years>	後期
担当教員名<Name>	田野 有一 <Yuichi Tano>	研究室番号<Office>	4 5 2
Office Hours	時間帯については、e-mail にて問い合わせの上、調整する。		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 学生時代のみならず、卒業後、社会人としても「健康に対する正しい知識と実践力を身に付け、自己の健康管理能力を備えた心身共にバランスのとれた人材教育を施す」ために開講される健康科学科目の実技編として位置づけられる。 本コースは、いつでも、どこでも、だれもが手軽に行える「大衆スポーツ」として広く親しまれているバドミントンを取り上げる。 大学卒業後も“生涯スポーツ”として自ら実践していけることを目指している。		<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 本コースで必要とされる用具類は、すべて健康スポーツ担当教員側で用意する。但し、屋内用および屋外用運動靴に関しては各自用意すること。 (雨天時には、屋内用運動靴が必要)	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 大衆スポーツ・生涯スポーツとしての本コースでは、次に掲げる技術練習をはじめ、ルール・マナー・楽しみ方、協調性の大切さも学ぶ。 技能程度に合わせ、簡易ゲームを中心に展開。 技能程度に合わせ、簡易ゲームを中心に展開。 <技能練習> * 初歩編...ラケットのグリップ方法、扱い方、フットワーク、コート区分など...。 * 基本編...各種ストローク練習(クリア、ドロップ、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ) * 応用編...シングルゲーム、ならびにダブルスゲーム時における、攻め・守りのフォーメーションなど <ルールと審判法>		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 成績評価は総時間数の2/3以上の出席(遅刻、見学、早退を含む)をもって評価対象者とし、その対象者の受講態度および実技試験等の到達度を参考に総合評価する。 <b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 秀: 全て出席し、受講態度と実技試験等の到達度が9割以上に評価されたもの 優: 9割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が8割以上に評価されたもの 良: 8割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が7割以上に評価されたもの 可: 7割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が6割以上に評価されたもの	
		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 全コースとも共通実施種目として『体力テスト』を行い、本コースの参考資料とする。 履修が決定後の履修コースの変更は認められない。 安易な履修取り消し等は断じて避けなければならない。 本コースの履修者数、他コースの履修者数等によって、実施場所の変更がある。 用具係り(用具の持出/運搬/収納)当番制とする予定。	

科目名<Subject>	健康スポーツ b1, b4	< Exercise and Sports > 卓 球	
単位数<Credits>	1	配当年次<Years>	後期
担当教員名<Name>	花輪 啓一 <Keiichi HANAWA>	研究室番号<Office>	3 5 4
Office Hours	木曜日 9:00~17:30		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 卓球は比較的手軽に行うことができる身近なスポーツで、一般市民に愛好される室内スポーツで天候や季節に影響されずに実施できる運動種目である。この授業を受講しようとしている学生の多くは、一度は体験しその楽しさを経験されていると思われる。 この授業では卓球の基本的な動作からスタートし、基本的な練習とゲームを中心に繰り返し実践しながら、卓球の高い技術を習得し、卓球を通して楽しく健康・体力の向上を目指すことを目標に展開する。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 成績評価は総時間数の3分の2以上の出席(遅刻、見学、早退を含む)をもって評価の対象とし、その対象者の受講態度および実技試験等の到達度を参考に以下の基準で評価する。	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 1) ペンラケット、シェークラケットの握り方 2) フォアハンド、バックハンドストロークの基本動作の習得 3) ドライブストロークとカットストロークの基本動作の習得 4) スマッシュの習得 5) 突つき打法の習得 6) 各種サービスの仕方と対処法の習得 7) ダブルスおよびシングルス・ゲームの仕方とルールの解説 8) 授業の後半はゲームが中心となる		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 「秀」: 全て出席し、受講態度と実技試験等の到達度が9割以上に評価されたもの 「優」: 9割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が8割以上に評価されたもの 「良」: 8割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が7割以上に評価されたもの 「可」: 7割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が6割以上に評価されたもの	
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 本コースで必要とされる用具類は、すべて健康科学科で用意するが、ラケットを自分専用に持っている人は持参した方が望ましい。		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> ・全コースとも共通実施種目として『体力テスト』を行う。 ・グループ別学習形態をとることから、安易な履修取り消しは避けてもらいたい	

科目名<Subject>	健康スポーツb3, b4	<Exercise and Sports> バドミントン	
単位数<Credits>	1	配当年次<Years>	後期
担当教員名<Name>	森田 憲輝 <Noriteru Morita>	研究室番号<Office>	
Office Hours			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> バドミントンは手軽に行えるスポーツで、年齢や性別にとらわれず誰でも競い合える生涯スポーツでもあります。その魅力は、打球感であったり、ラリーの応酬であったりします。したがって、授業では、第一に相手と長く打ち合えることを目標とします。また、シングルスやダブルスのゲームも行い、それぞれの戦術についても学びます。この種目が受講者の健康づくりの一手段となることを目標に展開していきたいと思ひます。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 成績評価は総時間数の2/3以上の出席者を(遅刻、見学、早退を含む)をもって評価の対象とし、その対象者の受講態度および実技試験等の到達度を参考に以下の基準で評価する。	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 1) シャトル合ひ、ラケットさばき 2) 基本ストロークの打ち方(クリア、ドロップ、ドライブなど) 3) シングルのルールと簡易ゲーム 4) シングルのゲームプラン 5) ダブルスのルールと簡易ゲーム 6) ダブルスのゲームプラン 7) チーム対抗のバドミントン大会(リーグ戦) 8) ゲーム結果とアドバイスを記録		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 「秀」: 全て出席し、受講態度と実技試験等の到達度は9割以上に評価されたもの 「優」: 9割以上出席し、受講態度と実技等の到達度が8割以上に評価されたもの 「良」: 8割以上出席し、受講態度と実技試験の到達度が7割以上に評価されたもの 「可」: 7割以上出席し、受講態度と実技等の到達度が6割以上に評価されたもの	
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 本コースで必要とされる用具類は、すべて健康科学科で用意するが、ラケットを自分専用を持っている人は持参した方が望ましい。		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 全コースとも共通実施種目として『体力テスト』を行う。グループ別学習形態をとることから、安易な履修取り消しは避けてもらいたい。	

科目名<Subject>	健康スポーツ b5	< Exercise and Sports > バドミントン	
単位数<Credits>	1	配当年次<Years>	後期
担当教員名<Name>	花輪 啓一 <Keiichi HANAWA>	研究室番号<Office>	3 5 4
Office Hours	木曜日 9:00~17:30		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> バドミントンは19世紀前半からインドのボンベイ州プーナ付近で行われていたプーナ(Poona)というゲームが、1973年インド駐留の英国陸軍士官によって英国に伝えられ、それが改良されたのがバドミントンである。わが国に渡来したのは昭和初期といわれているが、競技としてプレーされたのは昭和10年以降横浜YMCAにおいてであると言われている。このバドミントンはコートが卓球を除けば比較的狭いところで行う競技である。また、シャトルの初速は他の球技種目と比較して最も速く、一方、終速は最も遅いのが他の競技種目と違う唯一の特徴をもっている種目である。さらに、バドミントンはラケットやシャトルの持つ特性から性別、年齢に関係なく初心者かたでも手軽に行える運動種目である。このような特性を持っているバドミントンを通して運動不足がちな冬季の生活の中で健康、体力の向上および生涯スポーツの一つとして楽しんで頂くことを目標に展開する。		<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 本コースで必要とされる用具類は、すべて健康科学科で用意するが、ラケットを自分専用を持っている人は持参した方が望ましい。	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 1) ラケットの握り方と扱い方 2) ストロークの基本 クリアー、ハイクリアー、ドロップショット ドライブ、スマッシュ、ヘアピン 3) フットワーク サイドステップ、クロスステップ 4) ダブルス・シングルスゲームのフォーメーション 5) ゲームの仕方とルールの解説		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 成績評価は総時間数の3分の2以上の出席(遅刻、見学、早退を含む)をもって評価の対象とし、その対象者の受講態度および実技試験等の到達度を参考に以下の基準で評価する。	
		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 「秀」: 全て出席し、受講態度と実技試験等の到達度が9割以上に評価されたもの 「優」: 9割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が8割以上に評価されたもの 「良」: 8割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が7割以上に評価されたもの 「可」: 7割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が6割以上に評価されたもの	
		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> ・全コースとも共通実施種目として『体力テスト』を行う。 ・グループ別学習形態をとることから、安易な履修取り消しは避けてもらいたい	

科目名<Subject>	健康スポーツ b5	<Exercise and Sports>	軽スポーツ
単位数<Credits>	1	配当年次<Years>	後期
担当教員名<Name>	中川 喜直 <Yoshinao Nakagawa>	研究室番号<Office>	3 5 6
Office Hours	mail にて調整 : nak@res.otaru-uc.ac.jp		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 本コースは、大学・社会人になって活用できる健康づくりの方法を学び、健康の保持増進ができる能力を体得する。軽スポーツは様々な運動・スポーツを体験しながら、生涯に亘って継続できるスポーツを見出すことを目的とする。また、将来の社会生活において健康づくりとなる運動の仕方や方法論を修得する。		<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 本コースで必要とされる用具は、すべて健康スポーツ担当教員側で用意する。但し、屋内用および屋外用運動靴に関しては各自用意すること。 また、講義ではDVDなども活用し、PCを使った教材によって理解を深めて学習をする	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> <講義> 各種スポーツの概要：歴史とマナー・ルールを学ぶ。歩数計を用いて定期的に各種スポーツの歩数・運動強度と消費カロリー及び健康の保持増進との関係について考察する。 <実技> 各種スポーツの基礎技術の習得を中心に、ゲームの楽しみ方やチームプレーを実技の中で学ぶ。以下の各種スポーツの中から、2週毎に種目を選択する。学生の希望を取り入れる予定で、ユニークな種目は体験のために取り入れる。時間的にできない種目もある。 ミニテニス、フットサル、ユニホック、ストックウオーキング、バレーボール、ソフトバレーボール、ソフトボール、アルチメット、バスケットボール、バドミントン、卓球、野球、ブーメラン・フリスビー、キンボール、ウォーキング		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> ・成績評価は総時間数の3分の2以上の出席（遅刻、見学、早退を含む）をもって評価の対象とし、その対象者の受講態度および実施する実技試験等の到達度を参考に以下の基準で評価する。	
		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 「秀」: 全て出席し、受講態度と実技試験等の到達度が9割以上に評価されたもの 「優」: 9割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が8割以上に評価されたもの 「良」: 8割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が7割以上に評価されたもの 「可」: 7割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が6割以上に評価されたもの	
		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> ・全コースとも共通実施種目として「体力テスト」を行う。 ・グループ別学習形態を採ることから、安易な履修取り消しは避けてもらいたい。	

科目名<Subject>	健康スポーツ b5	<Exercise and Sports>	バスケットボール
単位数<Credits>	1	配当年次<Years>	後期
担当教員名<Name>	石崎 香理 <Kaori Ishizaki>	研究室番号<Office>	3 1 0
Office Hours	e-mail にて、事前に日時を予約、確認して下さい。		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> バスケットボールは世界中の多くの人々に親しまれているスポーツですが、日本ではまだまだ野球やサッカーのようなメジャースポーツになっているとは言えません。それらにはチームプレーばかりが先行し、個人技術の不足がゲームの内容をつまらなくしているのです。個人技術が高まればバスケットボール特有のスピード感あふれる試合展開が出来、それらがチームプレーに繋がってきます。そのためには、まず基礎をしっかりと身につけるルールやチームプレーを学び、更に瞬発力や敏捷性・持久力を養いながら体力の向上、健康増進に繋がることを目的とします。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 成績評価は総時間数の3分の2以上の出席（遅刻、見学、早退を含む）をもって評価の対象とし、その対象者の受講態度および実技試験等の到達度を参考に以下の基準で評価する。	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> バスケットボールに慣れることから始め、初心者でも、最終的に試合が行える様にすすめていく。基本的な持ち方、ドリブルやパスなどのボールコントロール（シュート、リバウンド、スピードなど含む）を行う。また的確なボディコントロール（フェイント、ピボット、ステップ、ストップターンなどのフットワーク）を取り入れ、最終的に5対5の試合を行う。		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 「秀」: 全て出席し、受講態度と実技試験等の到達度が9割以上に評価されたもの 「優」: 9割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が8割以上に評価されたもの 「良」: 8割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が7割以上に評価されたもの 「可」: 7割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が6割以上に評価されたもの	
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 本コースで必要とされる用具は、全て健康スポーツ担当教員側で用意する。但し、屋内用および屋外用運動靴に関しては各自用意すること。（雨天時は上靴が必要となる）		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> ・全コースとも共通実施種目として『体力テスト』を行う。 ・グループ別学習形態をとることから、安易な履修取り消しは避けてもらいたい。	

科目名<Subject>	健康スポーツ c1	<Exercise and Sports>	レクリエーション・トランポリン
単位数<Credits>	1	配当年次<Years>	前期
担当教員名<Name>	田野 有一 <Yuici Tano>	研究室番号<Office>	452
Office Hours	e-mail にて受け付け、時間調整の上、対応することとする。		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 1959年(昭34)日本に初めて紹介された「トランポリン」はその後、大学を中心に国内に普及・啓蒙されていった歴史をもっている。 トランポリン運動は、「跳躍運動(ジャンプ)は足で」といった常識を打ち破り、膝・腹・背・四つん這いによる跳躍運動を可能にした。 安全にかつ楽しさを満喫しながら身体能力が高められる本コースでは、初心者を対象にして実施されるので、未経験者も安心して履修できる(他大学には見られない)ユニークなプログラムといえよう。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 成績評価は総時間数の2/3以上の出席(遅刻、見学、早退を含む)をもって評価対象者とし、その対象者の受講態度および実技試験等の到達を参考に以下の基準で評価する。	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 1) 器具、用具に扱い方(セッティング・カットイング) 2) 基本技の種類を学ぶ 基本技a(垂直跳びと停止方法) 基本技b(抱え込み、開脚、閉脚…の跳び方) 基本技c(腰、膝、四つん這い、腹、背…の跳び方) 基本技に捻りを加える 各種の基本技を連続する 自由に演技構成してみる		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 秀: 全て出席し、受講態度と実技試験等の到達度が9割以上に評価されたもの 優: 9割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が8割以上に評価されたもの 良: 8割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が7割以上に評価されたもの 可: 7割以上出席し、受講態度と試験等の到達度が6割以上評価されたもの	
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 必要に応じて資料(プリント)を配布する。		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 綿製の靴下を着用すること。	

科目名<Subject>	健康スポーツ c1	< Exercise and Sports >	硬式テニス
単位数<Credits>	1	配当年次<Years>	前期
担当教員名<Name>	花輪 啓一 <Keiichi HANAWA>	研究室番号<Office>	354
Office Hours	木曜日 9:00~17:30		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> テニスは体の素早い反応と瞬発力を必要とするスポーツで、見かけよりも非常に激しい運動です。しかも技術もかなり難しく、初心者がいきなり自分の思ったところへ打てることはまずなく、ボールを追いかけるだけで、たちまちお手上げとなってしまいます。しかし、テニスの基本をしっかりとマスターすれば、あとは自分の体力に合ったテニスができ、生涯に渡って楽しめるスポーツです。つまり、健康づくりや生涯スポーツとして最適な種目の一つです。 本コースでは初心者および初級者を対象にテニスの基本的な技術とルールを習得し、楽しいゲームができることを目標に展開する。		<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 本コースで必要とされる用具は、すべて健康科学科で用意するが、自分専用のラケットを持っている人は持参した方が望ましい。また、テニスシューズは各自が用意すること。使用するコートはオムにコート(全天候型)2面、クレーコート1面を使用する。雨天時は第1体育館の1面を使用する。	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 1) テニスの歴史と用具 2) テニスの初歩的技術の習得(ボールとラケット操作に慣れる) 3) ストロークの基本の習得(ラケットの振りと姿勢) 4) グランドストローク(フォア・バック)の習得 5) グランドストロークでの実践的練習(半面コートを使用) 6) ボレーとサービスの初歩的技術の習得と実際 7) ゲームにおけるポジションのその役割の解説 8) ゲームの展開の仕方とルールの解説(プリントを用意) 9) 授業の後半は主にゲームが中心となる		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 成績評価は総時間数の3分の2以上の出席(遅刻、見学、早退を含む)をもって評価の対象とし、その対象者の受講態度および実技試験等の到達度を参考に以下の基準で評価する。	
		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 「秀」: 全て出席し、受講態度と実技試験等の到達度が9割以上に評価されたもの 「優」: 9割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が8割以上に評価されたもの 「良」: 8割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が7割以上に評価されたもの 「可」: 7割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が6割以上に評価されたもの	
		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> ・全コースとも共通実施種目として『体力テスト』を行う。 ・グループ別学習形態をとることから、安易な履修取り消しは避けてもらいたい	

科目名<Subject>	健康スポーツ c1, c2	<Exercise and Sports>	ウォーキング
単位数<Credits>	1	配当年次<Years>	前期
担当教員名<Name>	中川 喜直 <Yoshinao Nakagawa>	研究室番号<Office>	356
Office Hours	mail にて調整 : nak@res.otaru-uc.ac.jp		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 本コースは、大学・社会人になって活用できる健康づくりの方法を学び、自ら積極的に健康の保持増進が推進できる能力を体得する。ウォーキングでは歩くことを通して自然環境に触れ、歩行が心身に与える効果について学習する。将来の社会生活において健康づくりになる運動の仕方や方法論の基礎を修得し、運動習慣を身につけることを目的とする。本コースはスポーツ・運動が苦手不得意な者に履修を勧めたい。		<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 本コースで必要とされる用具は、すべて健康スポーツ担当教員側で用意する。但し、屋内用および屋外用運動靴に関しては各自用意すること。 また、講義ではDVDなども活用し、PCを使った教材によって理解を深めて学習をする。	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> <講義> ウォーキングの効用と各種歩行について、テキスト用いて解説する。また、定期的に歩数計とGPSを用いて歩行距離・消費カロリー・歩数・運動強度・主観的運動強度や歩行速度を測り、生活習慣病予防と健康の保持増進との関係について考察する。 <実技> 自然と触れ合う「エコ・ウォーキング」、ゆっくり歩く「ランプリング」、全身運動の「ストックウォーキング」、競技スポーツとしての「競歩」「急歩」、日本古来の「なんば歩き」、普段使わない筋肉を使用する横歩き、後ろ歩きなどを体験する。また、効率の良い歩き方や、ピッチ走法・ストライド走法などを学習する。尚、ウォーキングは商大に隣接する遊歩道や公道、公園を利用する。集合場所は体育館前、雨天時は体育館内にて実施する。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> ・成績評価は総時間数の3分の2以上の出席(遅刻、見学、早退を含む)をもって評価の対象とし、その対象者の受講態度および実技試験等の到達度を参考に以下の基準で評価する。	
		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 秀: 全て出席し、受講態度と実技試験等の到達度が9割以上に評価されたもの 優: 9割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が8割以上に評価されたもの 良: 8割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が7割以上に評価されたもの 可: 7割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が6割以上に評価されたもの	
		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> ・全コースとも共通実施種目として「体力テスト」を行う。 ・グループ別学習形態を採ることから、安易な履修取り消しは避けてもらいたい。	

科目名<Subject>	健康スポーツ c2	<Exercise and Sports>	ソフトボール
単位数<Credits>	1	配当年次<Years>	前期
担当教員名<Name>	田野 有一 <Yuichi Tano>	研究室番号<Office>	452
Office Hours	時間帯については、e-mail にて問い合わせの上、調整する。		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 学生時代のみならず、卒業後、社会人としても「健康に対する正しい知識と実践力を身に付け、自己の健康管理力を備えた心身共にバランスのとれた人材教育を施す」ために開講される健康科学科目の実技編として位置づけられる。 ソフトボールは、各人の技術水準に応じて楽しめるスポーツの一つとして広く国民に親しまれている。一発逆転の意外性の体験、また仲間同志の協調性や適度な運動負荷が求められる人生上での生涯スポーツの定着化を目指している。		教員側で用意する。但し、屋内用および屋外用運動靴に関しては各自用意すること。(雨天時には、屋内用運動靴が必要) * 自己愛用のグローブを使用してもよい。	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 個人的技術の獲得 キャッチボール、守備、ピッチング、バッティング...などの各種基本的な知識・技術の練習と体得 集団的技術の獲得 連携プレーの技術練習(走者がいる場合とそうでない場合のプレーの違いについて) ゲーム(試合)の展開 簡易ゲーム 正規のゲーム(審判、球審、塁審を含む) 勝因と敗因の分析と課題発見、克服方法の模索。チーム戦績結果(勝敗/勝率)記録。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 成績評価は総時間数の2/3以上の出席(遅刻、見学、早退を含む)をもって評価対象者とし、受講態度および実技試験等の到達度を参考に以下の基準で評価する。	
		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 秀: 全て出席し、受講態度と実技試験等の到達度が9割以上に評価されたもの 優: 9割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が8割以上に評価されたもの 良: 8割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が7割以上に評価されたもの 可: 7割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が6割以上に評価されたもの	
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 本コースで必要とされる用具類は、すべて健康スポーツ担当		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 全コースとも共通実施種目として『体力テスト』を行い本コースの参考資料とする。 履修決定後の履修コースの変更は認められない。また、安易な履修取り消し等は断じて避けなければならない。ソフトボールの実技に適した運動着、屋外用運動靴以外の着用は認められないので注意すること。	
		<b>7.その他</b> * 実施場所は本学「野球場」 * 用具係(用具の持出/運搬/収納)は当番制。	

科目名<Subject>	健康スポーツ d1	< Exercise and Sports > バドミントン	
単位数<Credits>	1	配当年次<Years>	後期
担当教員名<Name>	田野 有一 <Yuichi Tano>	研究室番号<Office>	4 5 2
Office Hours	時間帯については、e-mail にて問い合わせの上、調整する。		
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 学生時代のみならず、卒業後、社会人としても「健康に対する正しい知識と実践力を身に付け、自己の健康管理能力を備えた新進共にバランスのとれた人材教育を施す」ために開講される健康科学科目の実技編として位置づけられる。 本コースは、いつでも、どこでも、だれもが手軽に行える「大衆スポーツ」として広く親しまれているバドミントンを取り上げる。 大学卒業後も“生涯スポーツ”として自ら実践していけることを目指している。		<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 本コースで必要とされる用具類は、すべて健康スポーツ担当教員側で用意する。但し、屋内用および屋外用運動靴に関しては各自用意すること。 (雨天時には、屋内用運動靴が必要)	
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 大衆スポーツ・生涯スポーツとしての本コースでは、次に掲げる技術練習をはじめ、ルール・マナー。楽しみ方、協調性の大切さも学ぶ。 技能程度に合わせ、簡易ゲームを中心に展開。 技能程度に合わせ、簡易ゲームを中心に展開。 <技能練習> * 初歩編...ラケットのグリップ方法、扱い方、フットワーク、コート区分など...。 * 基本編...各種ストローク練習(クリア、ドロップ、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ) * 応用編...シングルゲーム、ならびにダブルスゲーム時における、攻め・守りのフォーメーションなど <ルールと審判法>		<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 成績評価は総時間数の2/3以上の出席(遅刻、見学、早退を含む)をもって評価対象とし、その対象者の受講態度および実技試験等の到達度を参考に以下の基準で評価する。 <b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 秀: 全て出席し、受講態度と実技試験等の到達度が9割以上に評価されたもの 優: 9割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が8割以上に評価されたもの 良: 8割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が7割以上に評価されたもの 可: 7割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が6割以上に評価されたもの <b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 全コースとも共通実施種目として『体力テスト』を行い、本コースの参考資料とする。 履修が決定後の履修コースの変更は認められない。 安易な履修取り消し等は断じて避けなければならない。 本コースの履修者数、他コースの履修者数等によって、実施場所の変更がある。 用具係り(用具の持出/運搬/収納)当番制とする予定。	

科目名<Subject>	健康スポーツ d1	< Exercise and Sports > 卓球	
単位数<Credits>	1	配当年次<Years>	後期
担当教員名<Name>	花輪 啓一 <Keiichi HANAWA>	研究室番号<Office>	3 5 4
Office Hours	木曜日 9:00~17:30		
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 卓球は比較的手軽に行うことができる身近なスポーツで、一般市民に愛好される室内スポーツで天候や季節に影響されずに実施できる運動種目である。この授業を受講しようとしている学生の多くは、一度は体験しその楽しさを経験されていると思われる。 この授業では卓球の基本的な動作からスタートし、基本的な練習とゲームを中心に繰り返し実践しながら、卓球の高い技術を習得し、卓球を通して楽しく健康・体力の向上を目指すことを目標に展開する。		<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 本コースで必要とされる用具類は、すべて健康科学科で用意するが、ラケットを自分専用を持っている人は持参した方が望ましい。	
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 1) ペンラケット、シェークラケットの握り方 2) フォアハンド、バックハンドストロークの基本動作の習得 3) ドライブストロークとカットストロークの基本動作の習得 4) スマッシュの習得 5) 突っつき打法の習得 6) 各種サービスの仕方と対処法の習得 7) ダブルスおよびシングルス・ゲームの仕方とルールの解説 8) 授業の後半はゲームが中心となる		<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 成績評価は総時間数の3分の2以上の出席(遅刻、見学、早退を含む)をもって評価の対象とし、その対象者の受講態度および実技試験等の到達度を参考に以下の基準で評価する。 <b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 「秀」: 全て出席し、受講態度と実技試験等の到達度が9割以上に評価されたもの 「優」: 9割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が8割以上に評価されたもの 「良」: 8割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が7割以上に評価されたもの 「可」: 7割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が6割以上に評価されたもの <b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> ・全コースとも共通実施種目として『体力テスト』を行う。 ・グループ別学習形態をとることから、安易な履修取り消しは避けてもらいたい	

科目名<Subject>	健康スポーツd1	<Exercise and Sports>	軽スポーツ
単位数<Credits>	1	配当年次<Years>	後期
担当教員名<Name>	石崎 香理 <Kaori Ishizaki>	研究室番号<Office>	310
Office Hours	e-mail にて、事前に日時を予約、確認して下さい。		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 生涯に渡って手軽にスポーツ活動が続けられるよう、積極的に身体を動かし健康的かつ活動的に体力づくりを行うことを目的とする。そのためには身体を動かすことの楽しさや重要性を体得していくことが望まれる。また、スポーツを通しての社会性やチームワークの大切さにも触れてほしい。様々な種目のスポーツを取り入れ、1人でも出来る運動や2人以上で行うゲームを実践する。		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 「秀」: 全て出席し、受講態度と実技試験等の到達度が9割以上に評価されたもの 「優」: 9割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が8割以上に評価されたもの 「良」: 8割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が7割以上に評価されたもの 「可」: 7割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が6割以上に評価されたもの	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> ソフトバレーボール・ユニホック・バドミントン・ドッジボール・フォークダンスなど、その他にも簡単に楽しめる種目を随時取り入れる。またスポーツを行う上での準備体操の方法や、ゲームに際しての基本的な動き方、展開方法などを学習する。		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> ・全コースとも共通実施種目として『体力テスト』を行う。 ・グループ別学習形態をとることから、安易な履修取り消しは避けてもらいたい。	
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 本コースで必要とされる用具は、全て健康スポーツ担当教員側で用意する。但し、屋内用および屋外用運動靴に関しては各自用意すること。(雨天時は上靴が必要となる)			
<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 成績評価は総時間の3分の2以上の出席(遅刻、見学、早退)をもって評価の対象とし、その対象者の受講態度および実技試			

科目名<Subject>	健康スポーツ d2	< Exercise and Sports >	バドミントン
単位数<Credits>	1	配当年次<Years>	後期
担当教員名<Name>	花輪 啓一 <Keiichi HANAWA>	研究室番号<Office>	354
Office Hours	木曜日 9:00~17:30		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> バドミントンは19世紀前半からインドのボンベイ州プーナ付近で行われていたプーナ(Poona)というゲームが、1973年インド駐留の英国陸軍士官によって英国に伝えられ、それが改良されたのがバドミントンである。わが国に渡来したのは昭和初期といわれているが、競技としてプレーされたのは昭和10年以降横浜YMCAにおいてであると言われている。このバドミントンはコートが卓球を除けば比較的狭いところで行う競技である。また、シャトルの初速は他の球技種目と比較して最も速く、一方、終速は最も遅いのが他の競技種目と違う唯一の特徴をもっている種目である。さらに、バドミントンはラケットやシャトルの持つ特性から性別、年齢に関係なく初心者かたでも手軽に行える運動種目である。このような特性を持っているバドミントンを通して運動不足がちな冬季の生活の中で健康、体力の向上および生涯スポーツの一つとして楽しんで頂くこと目標に展開する。		<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 本コースで必要とされる用具類は、すべて健康科学科で用意するが、ラケットを自分専用に持っている人は持参した方が望ましい。	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 1) ラケットの握り方と扱い方 2) ストロークの基本 クリアー、ハイクリアー、ドロップショット ドライブ、スマッシュ、ヘアピン 3) フットワーク サイドステップ、クロスステップ 4) ダブルス・シングルスゲームのフォーメーション 5) ゲームの仕方とルールの解説		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 成績評価は総時間数の3分の2以上の出席(遅刻、見学、早退を含む)をもって評価の対象とし、その対象者の受講態度および実技試験等の到達度を参考に以下の基準で評価する。	
		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 「秀」: 全て出席し、受講態度と実技試験等の到達度が9割以上に評価されたもの 「優」: 9割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が8割以上に評価されたもの 「良」: 8割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が7割以上に評価されたもの 「可」: 7割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が6割以上に評価されたもの	
		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> ・全コースとも共通実施種目として『体力テスト』を行う。 ・グループ別学習形態をとることから、安易な履修取り消しは避けてもらいたい	

科目名<Subject>	健康スポーツd2	<Exercise and Sports> 軽スポーツ	
単位数<Credits>	1	配当年次<Years>	後期
担当教員名<Name>	中川 喜直 <Yoshinao Nakagawa>	研究室番号<Office>	3 5 6
Office Hours	mail にて調整 : nak@res.otaru-uc.ac.jp		
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 本コースは、大学・社会人になって活用できる健康づくりの方法を学び、健康の保持増進ができる能力を体得する。軽スポーツは様々な運動・スポーツを体験しながら、生涯に亘って継続できるスポーツを見出すことを目的とする。また、将来の社会生活において健康づくりとなる運動の仕方や方法論を修得する。		<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 本コースで必要とされる用具は、すべて健康スポーツ担当教員側で用意する。但し、屋内用および屋外用運動靴に関しては各自用意すること。 また、講義ではDVDなども活用し、PCを使った教材によって理解を深めて学習をする	
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> <講義> 各種スポーツの概要：歴史とマナー・ルールを学ぶ。歩数計を用いて定期的に各種スポーツの歩数・運動強度と消費カロリー及び健康の保持増進との関係について考察する。 <実技> 各種スポーツの基礎技術の習得を中心に、ゲームの楽しみ方やチームプレーを実技の中で学ぶ。以下の各種スポーツの中から、2週毎に種目を選択する。学生の希望を取り入れる予定で、ユニークな種目は体験のために取り入れる。時間的にできない種目もある。 ミニテニス、フットサル、ユニホック、ストックウオーキング、バレーボール、ソフトバレーボール、ソフトボール、アルチメット、バスケットボール、バドミントン、卓球、野球、ブーメラン・フリスビー、キンボール、ウォーキング		<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> ・成績評価は総時間数の3分の2以上の出席（遅刻、見学、早退を含む）をもって評価の対象とし、その対象者の受講態度および実技試験等の到達度を参考に以下の基準で評価する。	
		<b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 「秀」：全て出席し、受講態度と実技試験等の到達度が9割以上に評価されたもの 「優」：9割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が8割以上に評価されたもの 「良」：8割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が7割以上に評価されたもの 「可」：7割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が6割以上に評価されたもの	
		<b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> ・全コースとも共通実施種目として「体力テスト」を行う。 ・グループ別学習形態を採ることから、安易な履修取り消しは避けてもらいたい。	

科目名<Subject>	健康スポーツ e	<Exercise and Sports> 水泳集中	
単位数<Credits>	1	配当年次<Years>	夏季集中
担当教員名<Name>	田野有一, 花輪啓一, 中川喜直, 石崎香理	研究室番号<Office>	
Office Hours			
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 水泳は水の抵抗の作用によりかなりの運動の量を要することから、短時間でエアロビクスの効果を得ることができ、肥満者にとってはシェイプアップ効果が大きい。また、浮力の作用により体重の負担が軽くなり運動がやりやすい。一方、運動したあとの水泳は、疲労回復に非常に役立つ。これは、他の運動で偏った使われ方をした筋肉が水泳で全身を動かすことにより調整されるからである。 このような、効用をもつ水泳について、水による事故防止の観点から、より確かな泳法の習得と向上および健康づくりを目的に展開される。		<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> ・成績評価は総時間数の3分の2以上の出席（遅刻、見学、早退を含む）をもって評価の対象とし、その対象者の受講態度および技能別グループが実施する実技試験等の到達度を参考に以下の基準で評価する。	
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 各自の技能レベルにより4班（初級、中級A・B、上級）に分けて実施する。 平成19年6月9日（土）・10日（日）・16日（土） 午前8時50分～午後4時00分 ・共通実習として救急処置についての実習がある。 ・実施会場は本学室内温水プール（25m×5コース）で行う。		<b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 「秀」：全て出席し、受講態度と実技試験等の到達度が9割以上に評価されたもの 「優」：9割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が8割以上に評価されたもの 「良」：8割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が7割以上に評価されたもの 「可」：7割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が6割以上に評価されたもの	
<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> ・各自が用意するもの..水着、バスタオル、その他（ゴーグル、耳せん等の使用は可）		<b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> ・短期集中授業であるため、欠席等により単位の修得が不可能になる場合があるので、十分注意すること。 ・修者自身の安易な履修取り消しは禁止する。 ・実技に先立って、ガイダンスが行われる。	



科目名<Subject>	健康スポーツf(スキー),g(スキ-) <Exercise and Sports>スキー集中		
単位数<Credits>	1	配当年次<Years>	冬季集中
担当教員名<Name>	田野有一,花輪啓一,中川喜直,石崎香理,山本哲二,山田 亮,堤 毅	研究室番号<Office>	
Office Hours			
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>  スキー集中では、一般的なスキー技能の習得を目標に冬期スポーツの一つとして開講する。冬期の運動不足の解消として健康的な体力の保持増進のために、また、屋外の生涯スポーツとしてスキー技術を学習する。近年、カービングスキーが定着して、スキーの回転性能がアップした。これに伴い早くスキーが上達できるようになった。スキーのメッカ小樽の大学出身者として基礎技術をマスターしたい。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>  講義では初心者から上級者まで、7班に別けてレベルに応じた実習を行う。初心者は歩行から学習しリフトに乗り滑走できるまで、上級者はコブ、新雪スキーまでを実習する。また、簡単なポール滑走も行う予定である。</p> <p>1班 上級A 小回りターンの習得(急斜面・不整地)  2班 上級B 小回りターンの習得(急斜面)  3班 中級A 小回りターンの習得(緩斜面)  4班 中級B 大回りターンの習得(中斜面)  5班 中級C 大回りターンの習得(緩斜面)  6班 初級者 シュテムターンの習得(中斜面)  7班 初級者 プルークボーゲンの習得(中斜面)</p> <p>&lt;日程&gt;平成20年1月7,8,9日  午前8:50~午後4:00  &lt;場所&gt;朝里川温泉スキー場 現地集合</p>			
<p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>  特になし</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>  ・成績評価は総時間数の3分2以上の出席(遅刻、見学、早退を含む)をもって評価の対象とし、その対象者の受講態度および技能別グループが実施する実技試験等の到達度を参考に以下の基準で評価する。</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>  「秀」:全て出席し、受講態度と実技試験等の到達度が9割以上に評価されたもの  「優」:9割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が8割以上に評価されたもの  「良」:8割以上出席し、受講態度実技試験等の到達度が7割以上に評価されたもの  「可」:7割以上出席し、受講態度と実技試験等の到達度が6割以上に評価されたもの</p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>  ・リフト代は各自負担  (平成18年度1日当たり1300円)  ・スキー用具は各自準備すること。  ・実技に先立って、ガイドンスが行われる。</p>			

外国語科目  
(英語)

科目名<Subject>	英語 E101A【基礎クラス】	<English >	
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	通年
担当教員名<Name>	大島 稔 <Minoru OSHIMA>	研究室番号<Office>	3 5 3
Office Hours	月 10:30~14:20		
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> このクラスは、1年生英語A群の「基礎クラス」です。このクラスは、高校までの文法事項を復習しながら、文章の内容把握がスムーズにできるようになるための基礎的な英語読解能力とコミュニケーション能力を高めるための聴解能力を養うことを目的としています。視聴覚機器としてPower PointとCDを用います。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 第1週 オリエンテーション 第2~3週 Music: The Beatles (5つの基本文型) 第4~5週 Global Warning (進行形) 第6~7週 Communication (助動詞(1)) 第8~9週 Water (助動詞(2)) 第10~11週 Alternative Energy (未来形) 第12~13週 Paper (受動態) 第14~15週 Ecotourism (比較) 第16週 Smoking (現在完了) 第17週 Ecology: Wolves in Yellowstone Park (過去完了) 第18週 前期筆記試験 第19週 Discovery: The Sea Route to India (不定詞(1)) 第20週 Latitude and Longitude (不定詞(2)) 第21週 Overfishing (分詞) 第22週 Time (動名詞) 第23週 Vikings (関係代名詞(1)) 第24週 New Zealand (関係代名詞(2)) 第25週 The Industrial Revolution (関係副詞(1)) 第26週 Language (関係副詞(2))</p> <p>第27週 Religion (間接疑問) 第28週 Volcanoes: Krakatoa (接続詞(1)) 第29週 Rainforests (接続詞(2)) 第30週 後期筆記試験</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> Tomi, Hiroyuki, Bill Benfield (2007), <i>Polish Up Your English</i>, 成美堂</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 基礎クラスなので成績評価の秀(90~100点)は、極めて少ないことを覚悟して履修するように。成績は、つぎの3点の総合点で評価する。 1. 出席点(20%) 2. 読解能力と聴解能力を問う授業中のテスト(60%) 3. 読解能力と聴解能力を問う2回の筆記試験(20%)</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 秀(100~90) 文法事項、読解能力、聴解能力に関し秀でた理解力が見られること。 優(89~80) 文法事項、読解能力、聴解能力に関し優れた理解力が見られること。 良(79~70) 文法事項、読解能力、聴解能力に関し十分な理解力が見られること。 可(69~60) 文法事項、読解能力、聴解能力に関し最低限の理解力が見られること。 不可(59点以下)</p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> このクラスでは、教科書の予習を前提として授業を進めますので、予習は必至です。授業はLLで行いますので、自分のPCに配布された資料を記憶する媒体(FD, MD, メモリースティック)を用意すること。</p>			

科目名<Subject>	英語 E102A【発展クラス】	<English >	
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	通年
担当教員名<Name>	吉田 直希 <Naoki Yoshida>	研究室番号<Office>	4 3 3
Office Hours	月 14:30~17:00		
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> このクラスは英語I A 発展クラスです。 対話型、双方向型の授業 情報機器、視聴覚機器を使用 英語による発信能力を養うことを目的とするクラスです。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 大学生の知的好奇心を刺激する比較的高度な内容の英文を題材とします。TOEIC、TOEFLの試験問題、小説、エッセイ、雑誌記事、映画、授業ビデオ等を用いて、リスニング、リーディング、ライティングの総合的な応用力を養います。また毎回の授業で暗誦(音読)、プレゼンテーションなどの口頭発表を全員に行ってもらいます。</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 主にプリントを使用します。自習用に副教材を指定します。また前期・後期各1冊、原書の講読を課題としレポートを課します。これらについては第1回目授業時に配布、指示します。</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 授業への参加状況: 50点 試験およびレポート: 50点</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 秀(100~90): 英語の発信能力に秀でている。 優(89~80): 優れた英語の発信能力を有している。 良(79~70): 十分な英語の発信能力を有している。 可(69~60): 基本的な英語の発信能力を有している。 不可(59~0): 基本的な英語の発信能力を習得していない。</p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 前期・後期とも3回まで欠席(遅刻は欠席扱い)を認めます。また欠席時の小テスト、課題、平常点は全て0点となりますので注意してください。毎回積極的に参加できる学生の履修を望みます。オリエンテーションには必ず参加すること。</p>			

科目名<Subject>	英語 E103A	<English >	
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	通年
担当教員名<Name>	鈴木 良克	<Yoshikatsu Suzuki>	研究室番号<Office>
Office Hours			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 内容把握が最終目的であるが、発音及び文法も重視するので、それらの面の予習も怠らないで下さい。		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 定期試験2回の平均点が90点以上が「秀」、80-89が「優」、70-79点が「良」、60-69点が「可」、59点以下が「不可」であるが、出席が良い学生には加点する予定です。	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 第1週はオリエンテーションを、第2週は音声学の講義をおこない、第3週から John Barton の著書、Knowledge is Power の Chapter1.5.10.12.14.16.18.20 を精読します。		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 講義には必ず辞書を用意して下さい。	
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> John Barton : Knowledge is Power-成美堂 ¥1,800			
<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 前期1回、後期1回の試験、及び小テスト、出席回数及び予習内容を考慮して最終評価とします。			

科目名<Subject>	英語 E104A	<English >	
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	通年
担当教員名<Name>	鈴木 良克	<Yoshikatsu Suzuki>	研究室番号<Office>
Office Hours			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 内容把握が最終目的であるが、発音及び文法も重視するので、それらの面の予習も怠らないで下さい。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 前期1回、後期1回の試験、及び小テスト、出席回数及び予習内容を考慮して最終評価とします。	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 第1週はオリエンテーションを、第2週は音声学の講義をおこない、第3週から John Barton の著書、Knowledge is Power の Chapter1.4.9.11.13.15.17.19を精読します。		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 定期試験2回の平均点が90点以上が「秀」、80-89点が「優」、70-79点が「良」、60-69点が「可」、59点以下が「不可」であるが、出席が良い学生には加点する予定です。	
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> John Barton : Knowledge is Power-成美堂 ¥1,800			
<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 講義には必ず辞書を用意して下さい。			

科目名<Subject>	英語 E105A・E107A【基礎クラス】	<English >	
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	通年
担当教員名<Name>	山本久雄 <Hisao Yamamoto>	研究室番号<Office>	5 2 6
Office Hours	金曜 14:00 ~ 15:30		
1.授業の目的・方法<Course objective and method>	<p>目的：英文読解力の向上 方法：学生の和訳に対する教官の補足説明</p>		
2.授業内容<Course contents>	<p>第1週 オリエンテーション 第2～30週 本文の読解</p>		
3.使用教材<Teaching materials>	<p>テキスト：Language and Culture Joan McConnell 著 成美堂</p>		
4.成績評価の方法<Grading>	<p>年2回の定期試験・出席・授業内での発表による総合評価</p>		
5.成績評価の基準<Grading Criteria>	<p>秀(100～90)：秀でた英文読解力を有す。 優(89～80)：優れた英文読解力を有す。 良(79～70)：良い英文読解力を有す。 可(69～60)：英文読解力を有す。 不可(59～0)：十分な英文読解力を有しない。</p>		
6.履修上の注意事項<Remarks>	<p>全授業数の1/3以上の欠席は受験不可</p>		

科目名<Subject>	英語 E106A【発展クラス】	<English >	
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	通年
担当教員名<Name>	小林 敏彦 <Toshihiko Kobayashi>	研究室番号<Office>	3 1 9
Office Hours	水曜日 12:15 ~ 12:45 / 金曜日 12:15 ~ 12:45		
1.授業の目的・方法<Course objective and method>	<p>CAL 教室におけるパソコンと大型スクリーンを活用し、オンライン・インターアクション(ブログ、ウェブサイト、掲示板、チャット、メール)を併用した、わかりやすく、楽しく、ためになる授業を目指す。発展クラスの授業は英語で行うが、授業終了前の5分間は日本語で捕捉し、質疑応答を行う。前期は洋楽と洋画を活用したリスニングを主に行い、「洋楽が聞き取れカラオケで歌え、洋画を字幕を見ないで理解できる」ことに一歩でも近づくことを目指す。後期は洋楽およびニュースの聞き取りと素材を活用したライティングを中心とした四技能活動を行い、「ニュースの聞き取りと背景知識を喚起してメディア・リテラシーを高め、自らの意見を英語で世界に発信する」ための訓練を行い、英字新聞への投稿を数度行う。教授法および授業活動は以下を使用する：Communicative Approach (Communicative Language Teaching) / Content-Based Teaching / Information Gap Activities / Communication Strategies / Shadowing (Whispering, Liping, Thinking Aloud) / Focused Listening / Pattern Practice (Repetition, Substitution, Conversion, Sentence Expansion) / Dialog Writing / Process Writing (writing on the BBS &amp; writing to a letter to the editor) / E-Learning (Blog &amp; Chat)</p> <p>授業の流れ 1) ポップス歌詞聞き取りと合唱、2) 対話文の聞き取り演習、3) 発話タスク、4) 洋画(前期) / ニュース(後期)の聞き取り、5) BBS とチャットを活用したタスク</p>		
2.授業内容<Course contents>	<p>洋楽 1: Honesty 2: Chiquitita 3: Dancing Queen 4: Yesterday Once More 5: Believe 6: Bridge Over Troubled Water 7: My Heart Will Go On 8: Crazy For You 9: Go West 10: New York City Boy 11: Y.M.C.A. 12: In The Navy 13: Sukiyaki 14: Stand By Me 15: Yesterday 16: Take Me Home Country Road 17: Unchained Melody 18: Candle In The Wind 19: Pretty Woman 20: Imagine 21: Love Me Tender 22: Can't Help Falling In Love 23: Mr. Lonely 24: El Condor Pasa 25: Top Of The World 26: Last Christmas 27: Tears In Heaven 28: What A Wonderful World 29: That's What Friends Are For 30: We Are The World</p>		
3.使用教材<Teaching materials>	<p>『誕生から永遠の別れまで英語で言ってみる My Life』(ネイティブ8) 語研 『The Earth and Our Health (私たちの地球と健康)』 成美堂</p>		
4.成績評価の方法<Grading>	<p>洋画 1. Rocky IV 2. Babe 3. Armageddon 4. Leon 5. Bean 6. Titanic 7. The Fugitive 8. Star Wars IV 9. Terminator 2 10. Contact 11. Independence day 12. Die Hard 3 13. The Matrix 14. The negotiator 15. The Last Emperor</p>		
5.成績評価の基準<Grading Criteria>	<p>「秀」は授業態度が優秀で、通年で無遅刻無欠席、課題をすべて提出し、かつ小テスト及び前期後期試験の平均点が90点を超えた者の中から最大上位3名に与えられる。「優」は授業態度が優秀で、通年で欠席および遅刻が1回のみ、かつ課題をすべて提出し、小テスト及び前期後期試験の平均点が80点を超えた者の中から最大上位10名に与えられる。「良」は授業態度が優秀で通年で欠席および遅刻が2回課題をすべて提出し、かつ小テスト及び前期後期試験の平均点が70～79点の者に与えられる。「可」は授業態度が優秀で、通年で遅刻および欠席が3または4回、かつ課題をすべて提出し、小テスト及び前期後期試験の平均点が60～69点の者に与えられる。「不可」は通年で遅刻および欠席が5回に達した者、課題を一度でも提出しなかった者、または小テスト及び前期後期試験の平均点が60点に達しなかった者に与えられる。体育会系部活動の大会遠征(宿舎は認めない)については英文での報告を翌週間の出席日深夜までに行うことで2回までのみ認め、欠席にカウントしない。ただし、この権利を有するのは大会出場選手及び補欠選手に限定される。その他、事情を考慮しケースバイケースで対応する。また、授業準備不足や成績(授業態度)不良の受講生には特別課題と補講が課される。また、2週連続休むと自動的に不可になる。</p>		
6.履修上の注意事項<Remarks>	<p>授業には積極的に参加し、配布物は必ずバインダーに保存し、毎回持参すること。私語は絶対慎むこと。遅刻は欠席扱いとする。座席は出席順で指定される。飲食物の持ち込みや帽子、兜、ヘルメット、その他の冠りものは医療上または宗教上の理由に因るもの以外は認めない。また、事後学習として指定ブログ上の学習講座を毎日10～15分することが義務付けられる。</p>		

科目名<Subject>	英語 E108A・E113A	<English >	
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	通年
担当教員名<Name>	羽村 貴史	<HAMURA Takashi>	研究室番号<Office> 532
Office Hours	月曜日 15:00-18:00 (言語センター)		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 文化に関する英文の精読、音読および聞き取りの訓練をする。		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 総合評価。	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 1. Culture 2. Communication 3. Multicultural Understanding 4. Sex and Gender 5. English Language in Culture 6. Cosmopolitan London 7. Ethnic Problem: Asian Americans		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 予習復習の際、指示したとおりの方法で学習すること。理由にならない理由で年間5回以上の欠席がある場合は不可。厳しく指導する。	
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 『カルチュラル・スタディーズ』(英宝社、2005年) ほかに、独自に作成したプリント教材を毎週配布する。			
<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 小テスト(授業時間内に年間数回) 予習状況、出席率。			

科目名<Subject>	英語 E109A・E114A	<English >	
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	通年
担当教員名<Name>	佐藤 幸子	<Sachiko Sato>	研究室番号<Office>
Office Hours			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 現代に生きる我々は世界のニュースを避けて生きることが出来ない。常に英語ニュースに取り囲まれ、それに対する知識、理解能力を必要とされている。従って、時事英語に係わる単語の知識、内容理解、ヒアリングの能力などを習得することを目的とする。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 出席率、発表、レポートの内容などを総合して評価する。単語のテストは6割を条件とします。	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 毎時間、講義の最初に数名の学生にスピーチをします。テキストを使用して、時事英語を学習した後、前回学んだ範囲の単語のテストを行います。その後プリントを使用してニュージーランドについて学びます。		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>	
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 宮本倫好 ; The Half-Edition of English through the News Media Asahi Press 1,100円		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 遅刻は認めない。連続4回無断欠席したものは受講資格を失います。	

科目名<Subject>	英語 E110A【基礎クラス】	<English >	
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	通年
担当教員名<Name>	鈴木 良克	<Yoshikatsu Suzuki>	研究室番号<Office>
Office Hours			
1.授業の目的・方法<Course objective and method>	内容把握が最終目的であるが発音及び文法も重視するので、それらの面の予習も怠らないで下さい。		
2.授業内容<Course contents>	第1週はオリエンテーションを、第2週は音声学の講義をおこない、第3週からMilada Broukaの著書、Read and Practice Basic Englishを使用します。 第1課 Nouns(名詞) 第2課 Pronouns(代名詞) 第3課 verbs(動詞) 第4課 Parts of a Sentence(文の構成要素) 第5課 Articles(冠詞) 第6課 Preposition(前置詞) 第7課 Comparative and Superlative(比較級と最上級) 第8課 Parallel Structure(共通構文) 第9課 Prepositional Phrases(前置詞句) 第10課 Noun Clauses(名詞節) 第11課 Adjective Clauses(形容詞節) 第12課 Adverb Clauses(副詞節) 第13課 Conjunctions(接続詞) 第14課 Word order(語順) 第15課 Word Forms(語形)		
3.使用教材<Teaching materials>	Milada Brouka: Read and Practice Basic English 成美堂 ¥1.800		
4.成績評価の方法<Grading>	前期1回、後期1回の試験、及び小テスト、出席回数及び予習内容を考慮して最終評価とします。		
5.成績評価の基準<Grading Criteria>	定期試験2回の平均点が90点以上が「秀」、80-89が「優」、70-79点が「良」、60-69点が「可」、59点以下が「不可」であるが、出席が良い学生には加点する予定です。		
6.履修上の注意事項<Remarks>	講義には必ず辞書を用意して下さい。		

科目名<Subject>	英語 E111A	<English >	
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	通年
担当教員名<Name>	小林 敏彦	<Toshihiko Kobayashi>	研究室番号<Office> 319
Office Hours	水曜日 12:15~12:45 / 金曜日 12:15~12:45		
1.授業の目的・方法<Course objective and method>	CAL教室におけるパソコンと大型スクリーンを活用し、オンライン・インターネット活用(ブログ、ウェブサイト、掲示板、チャット、メール)を併用した、わかりやすく、楽しく、ためになる授業を目指す。発展クラスの授業は英語で行うが、授業終了前の5分間は日本語で質疑応答を行う。前期は洋楽と洋画を活用したリスニングを主に行い、「洋楽が聞き取れ、カラオケで歌え、洋画を字幕を見ないで理解できる」ことに一歩でも近づくことを目指す。後期は洋楽およびニュースの聞き取りと素材を活用したライティングを中心とした4技能活動を行い、「硬派なニュースの聞き取りと背景知識を喚起してメディア・リテラシーを高め、自らの意見を英語で世界に発信する」ための訓練を行い、英字新聞への投書を数度行う。教授法および授業活動は以下を使用する: Communicative Approach (Communicative Language Teaching) / Content-Based Teaching / Information Gap Activities / Communication Strategies / Shadowing (Whispering, Liping, Thinking Aloud) / Focused Listening / Pattern Practice (Repetition, Substitution, Conversion, Sentence Expansion) / Dialog Writing / Process Writing (writing on the BBS & writing to a letter to the editor) / E-Learning (Blog & Chat)		
2.授業内容<Course contents>	洋楽 1: Honesty 2: Chiquitita 3: Dancing Queen 4: Yesterday Once More 5: Believe 6: Bridge Over Troubled Water 7: My Heart Will Go On 8: Crazy For You 9: Go West 10: New York City Boy 11: Y.M.C.A. 12: In The Navy 13: Sukiyaki 14: Stand By Me 15: Yesterday 16: Take Me Home Country Road 17: Unchained Melody 18: Candle In The Wind 19: Pretty Woman 20: Imagine 21: Love Me Tender 22: Can't Help Falling In Love 23: Mr. Lonely 24: El Condor Pasa 25: Top Of The World 26: Last Christmas 27: Tears In Heaven 28: What A Wonderful World 29: That's What Friends Are For 30: We Are The World 洋画 1. ROCKY IV 2. BABE 3. ARMAGEDDON 4. LEON 5. BEAN 6. TITANIC 7. THE FUGITIVE 8. STAR WARS IV 9. TERMINATOR 2 10. CONTACT		
3.使用教材<Teaching materials>	『細かく言い表わし伝えたい 英会話フレーズ2220』三修社 『The Earth and Our Health(私たちの地球と健康)』成美堂		
4.成績評価の方法<Grading>	11. INDEPENDENCE DAY 12. DIE HARD 13. THE MATRIX 14. THE NEGOTIATOR 15. THE LAST EMPEROR		
5.成績評価の基準<Grading Criteria>	「秀」は授業態度が優秀で、通年で無遅刻無欠席、課題をすべて提出し、かつ小テスト及び前期後期試験の平均点が90点を越えた者の中から最大上位3名に与えられる。「優」は授業態度が優秀で、通年で欠席および遅刻が1回のみ、かつ課題をすべて提出し、小テスト及び前期後期試験の平均点が80点を越えた者の中から最大上位10名に与えられる。「良」は授業態度が優秀で通年で欠席および遅刻が2回、課題をすべて提出し、かつ小テスト及び前期後期試験の平均点が70~79点の者に与えられる。「可」は授業態度が優秀で、通年で遅刻および欠席が3または4回、かつ課題をすべて提出し、小テスト及び前期後期試験の平均点が60~69点の者に与えられる。「不可」は通年で遅刻および欠席が5回に達した者、課題を一度でも提出しなかった者、または小テスト及び前期後期試験の平均点が60点に達しなかった者に与えられる。体育会系部活動の大会遠征(合宿は認めない)については英文での報告を翌週間の出席日深夜までに行うことで2回までのみ認め、欠席にカウントしない。ただし、この権利を有するのは大会出場選手及び補欠選手に限定される。その他、事情を考慮しケースバイケースで対応する。また、授業準備不足や成績(授業態度)不良の受講生には特別課題と補講が課される。また、2週連続休むと自動的に不可になる。		
6.履修上の注意事項<Remarks>	授業には積極的に参加し、配布物は必ずバインダーに保存し、毎回持参すること。私語は絶対禁むこと。遅刻は欠席扱いとする。座席は出席順で指定される。飲食物の持ち込みや帽子、兎、ヘルメット、その他の冠りものは医療上または宗教上の理由に因るもの以外は認めない。また、事後学習として指定ブログ上の学習講座を毎日10~15分することが義務付けられる。		

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	英語 E112A	<English >		
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	2	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>		通年
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	斉藤 京子	<Kyoko Saito>	<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	
<b>Office Hours</b>				
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> TOEFL の問題を解きながら、 Listening と文法力を養う。 日本語にない発音を習得し、 自己紹介などのスピーチが出来る。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 試験、課題、授業への参加状況、出席状況を総合評価する。		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 「聴き取り対策の要点」と「リーディング対策」のテキスト にそって授業を進める。 プリントを使用し、発音練習と簡単な会話に慣れる。 ビデオを観て、更に Listening 力を養う。		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 授業開始後に文書で指示する。		
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 5-Minute Quizzes For TOEFL Listening Comprehension 著 者 Joseph Tashiro 出版社 Macmillan Languagehouse 5-Minute Quizzes For TOEFL Reading Comprehension 著 者 Joseph Tashiro 出版社 Macmillan Languagehouse プリント		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 通年 5 回欠席した時点で受講資格を失います。 (欠席理由を書いた届けを提出の事)		

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	英語 E121B【基礎クラス】	<English >		
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	2	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>		通年
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	ダニエラ・カルヤヌ	<Daniela Caluianu>	<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	5 3 6
<b>Office Hours</b>	Tue 12:00- 14:00			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> This is a basic course in all four skills, with special stress on listening and speaking. Classes will consist mainly of pair or group discussions on the topics in the textbook. Students are expected to prepare for class by listening to the textbook CD and doing the reading/ writing assignments.		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> class activity;40% assignments; 30% test 30%		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> We will discuss the following topics: (1)Family; (2)Food; (3)Time; (4)House&Home; (5)Music; (6)Transportation; (7)Sports; (8)Numbers; (9)Best friends; (10)TV; (11)Work; (12)Vacation; (13)School; (14)Movies; (15) Money; (16)Restaurants; (17) Animals; (18)Shopping (19)Fashion; (20)Travel; (21)Books, Magazines and Newspapers; (22) Sickness; (23)Holidays; (24)Fears; (25) Dating; (26)Marriage; (27)Beliefs; (28)Crime; (29)Health&Fitness;		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> Grading will depend on the degree achievement of goals a-d, as follows: 100-90: performance above expectations 89-80: strong performance 79-70: meets expectations 69:60: meets expectations with support 59-0: below expectations Goals (a) master the required vocabulary (b) show adequate listening skills (c) fluency (adequate speed, pronunciation, intonation) (d) be able to express opinions on the relevant topics		
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> David Martin, Topic Talk 2nd edition, EFL Press Additional materials will be provided by teacher		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> You will need a note-book. NO SLEEPING IN CLASS IS ALLOWED.		



科目名<Subject>	英語 E122B・E129B 【発展クラス】	<English >	
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	通年
担当教員名<Name>	ティモシー・ブランクレー <Timothy Blankley>	研究室番号<Office>	
Office Hours			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> To gain practical experience in the four skills at a beginner to intermediate level. Students communicate their own ideas, practice language features, interact with others, use specific strategies and expansion activities. Students practice stages mentioned and finally demonstrate a level of expertise in the speaking genre as outlined within the lessons.		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> Based on class participation and two oral tests.	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> Interesting and realistic content on topics such as spending time, lifestyles, customs, clothing, technology, gift-giving, movies, health and plans and goals.		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>	
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> GEAR UP Plan For Success in English Conversation (Student Book 2) Steven Gershon and Chris Mares ISBN 1 405 06046 8 Macmillan		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>	

科目名<Subject>	英語 E123B 【基礎クラス】	<English >																																	
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	通年																																
担当教員名<Name>	マーク・ホルスト <Mark Holst>	研究室番号<Office>	3 5 9																																
Office Hours	月 13:30~17:30; 水 13:00~14:00; 木 10:30~12:00																																		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> This course aims to develop your speaking and writing skills in English, and make you feel more confident about using the language. The stress is on language fluency. You are expected to participate fully in the class and to try your best to use only English. The class practices are intended to be as interesting and relevant to you as possible.		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> Presentations: 25%      Written Homework: 30% Vocabulary tests: 20%      Speaking test: 25%																																	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> <table border="0"> <tr> <td>前期</td> <td>後期</td> </tr> <tr> <td>1 Introductions</td> <td>1 Summer Vacation</td> </tr> <tr> <td>2 Learning English</td> <td>2 University Life</td> </tr> <tr> <td>3 Learning Japanese</td> <td>3 Work</td> </tr> <tr> <td>4 Questions &amp; Answers</td> <td>4 Diet &amp; Health</td> </tr> <tr> <td>5 Describing Places</td> <td>5 Mass media</td> </tr> <tr> <td>6 Describing People</td> <td>6 Travel</td> </tr> <tr> <td>7 Explaining concepts and ideas</td> <td>7 Driving</td> </tr> <tr> <td>8 Giving Instructions</td> <td>8 Japan</td> </tr> <tr> <td>9 Giving Advice</td> <td>9 Going Abroad</td> </tr> <tr> <td>10 Presentation Practice</td> <td>10 Superstitions</td> </tr> <tr> <td>11 Presentations</td> <td>11 Presentations</td> </tr> <tr> <td>12 Speaking Test Preparation</td> <td>12 Winter vacations</td> </tr> <tr> <td>13 Giving Opinions</td> <td>13 Discussion practice - Relationships</td> </tr> <tr> <td>14 Speaking Test</td> <td>14 Discussion practice - Future Plans</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15 Speaking Test</td> </tr> </table>		前期	後期	1 Introductions	1 Summer Vacation	2 Learning English	2 University Life	3 Learning Japanese	3 Work	4 Questions & Answers	4 Diet & Health	5 Describing Places	5 Mass media	6 Describing People	6 Travel	7 Explaining concepts and ideas	7 Driving	8 Giving Instructions	8 Japan	9 Giving Advice	9 Going Abroad	10 Presentation Practice	10 Superstitions	11 Presentations	11 Presentations	12 Speaking Test Preparation	12 Winter vacations	13 Giving Opinions	13 Discussion practice - Relationships	14 Speaking Test	14 Discussion practice - Future Plans		15 Speaking Test	<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 「秀」: Able to communicate about general and academic matters with a very high degree of fluency. Able to write very accurately, fluently and in detail in English on the weekly homework topics. Extremely confident and able when giving presentations in English. 「優」: Able to communicate in English about general matters fluently and with good accuracy. Able to write fluently about the weekly homework topics, with few accuracy problems. Good presentation ability in English. 「良」: Reasonably confident and accurate when speaking or writing in English on general topics, but shows vocabulary or grammatical problems when faced with more challenging topics. Able to give reasonably clear presentations in English, but may suffer from fluency problems, showing a limited range of vocabulary. 「可」: Displays sufficient speaking and writing skills in English to be able to communicate general ideas with reasonable level of accuracy and fluency, but sometimes struggling to attain the standard required in written or spoken tests. Able to give short presentations in English, but with slow, hesitant speech, and a tendency to use short, memorized utterances.	
前期	後期																																		
1 Introductions	1 Summer Vacation																																		
2 Learning English	2 University Life																																		
3 Learning Japanese	3 Work																																		
4 Questions & Answers	4 Diet & Health																																		
5 Describing Places	5 Mass media																																		
6 Describing People	6 Travel																																		
7 Explaining concepts and ideas	7 Driving																																		
8 Giving Instructions	8 Japan																																		
9 Giving Advice	9 Going Abroad																																		
10 Presentation Practice	10 Superstitions																																		
11 Presentations	11 Presentations																																		
12 Speaking Test Preparation	12 Winter vacations																																		
13 Giving Opinions	13 Discussion practice - Relationships																																		
14 Speaking Test	14 Discussion practice - Future Plans																																		
	15 Speaking Test																																		
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> The teacher will give you weekly worksheets.		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> You are expected to attend class, participate fully and use only English.. This class requires preparation time outside class every week to do written homework and project work.																																	

科目名<Subject>	英語 E124B, E128B, E131B, E133B	<English >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>		通年
担当教員名<Name>	マーティン・マーフィー <Martin Murphy>	研究室番号<Office>		
Office Hours				
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> This class is designed with a focus on listening and speaking proficiency through exploring practical, functional language that is used in everyday English Communication. The emphasis is on classroom participation in listening and communicative activities as a method of developing already acquired English.		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> Preliminary tests (40%), Final and midterm tests (30%), Presentations and homework (15%), Attendance and participation (10%).		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 1. From the textbook, practical and everyday conversation topics include: <ul style="list-style-type: none"> <li>• Introductions</li> <li>• Asking for information</li> <li>• Describing things</li> <li>• Making requests</li> <li>• Giving instructions</li> <li>• Asking for permission</li> <li>• Making excuses and giving reasons</li> <li>• Giving opinions</li> <li>• Comparing things</li> <li>• Giving advice</li> <li>• Talking about experiences</li> <li>• Making invitations</li> <li>• Making predictions</li> </ul> *Again, the focus is on practical, real-world English. 2. Students will be asked short presentations on topics to be announced at the beginning of the school year.		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> The goal of this class is good communication in English. The amount of effort to improve spoken English will be considered in the final grade. 秀 (100 ~ 90): Smooth, understandable spoken English with few major grammatical errors. A good command of standard English conversational expressions. 優 (89 ~ 80): Understandable spoken English with occasional errors and some unnatural word usage. 良 (79 ~ 70): Understandable but slightly broken English with many and frequent grammatical errors (for example: subject-verb agreement, dropped articles, poor choice of wording according to the context of the conversation). Not smoothly spoken English. 可 (69 ~ 60): Broken English with a poor pronunciation; many grammatical errors. Poor effort to master the minimum goals of the course. 不可 (59 ~ 0): Did not acquire nor retain good, communicative English as taught in the course. Unable to communicate. Little effort to improve, and very little participation in class activities.		
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> Fifty Fifty Book 2 (Pearson Longman) by Warren Wilson and Roger Barnard, 3rd Edition 2007. ISBN 962-00-5666-3		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> *Important note: This course is based of practice and doing classroom exercises. Poor attendance will greatly affect final grade. On the other hand, positive effort and good attendance will also affect the final grade.		

科目名<Subject>	英語 E125B E130B	<English >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	I	通年
担当教員名<Name>	ジェイミー ケンプ <Jamie Kemp>	研究室番号<Office>		
Office Hours				
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> The purpose of this course is to develop students skills in communication and conversation. This course will also focus on improving listening, writing and speaking skills.		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> Attendance and participation (50%) Presentations and tests (50%)		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> Most class work will be in small groups. Students will be encouraged to speak about various topics together in English. Course work will include discussion, presentations, listening and role-plays etc.		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> Good attendance is necessary to receive a passing grade. Satisfactory completion of the majority of tests and presentations is also necessary.		
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> Textbook <i>AMERICAN HEADWAY 3</i> Student Book With CD. Handouts will also be provided for many classes. You will need a notebook for your own notes etc.		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>		

科目名<Subject>	英語 E126B・E132B・E134B	<English >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>		通年
担当教員名<Name>	ジェイミー ケンプ <Jamie Kemp>	研究室番号<Office>		
Office Hours				
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> The purpose of this course is to develop students skills in communication and conversation. This course will also focus on improving listening, writing and speaking skills.		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> Attendance and participation (50%) Presentations and tests (50%)		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> Most class work will be in small groups. Students will be encouraged to speak about various topics together in English. Course work will include discussion, presentations, listening and role-plays etc.		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> Good attendance is necessary to receive a passing grade. Satisfactory completion of the majority of tests and presentations is also necessary.		
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> Textbook <i>AMERICAN HEADWAY 3</i> Student Book With CD. Handouts will also be provided for many classes. You will need a notebook for your own notes etc.		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>		

科目名<Subject>	英語 E127B 【基礎クラス】	<English >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>		通年
担当教員名<Name>	マーティン・マーフィー <Martin Murphy>	研究室番号<Office>		
Office Hours				
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> This class is designed with a focus on listening and speaking proficiency through exploring practical, functional language that is used in everyday English Communication. The emphasis is on classroom participation in listening and communicative activities as a method of developing already acquired English.		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> Preliminary tests (40%), Final and midterm tests (30%), Presentations and homework (15%), Attendance and participation (10%).		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 1. From the textbook, practical and everyday conversation topics include: <ul style="list-style-type: none"> <li>• Introductions</li> <li>• Asking for information</li> <li>• Describing things</li> <li>• Making requests</li> <li>• Giving instructions</li> <li>• Asking for permission</li> <li>• Making excuses and giving reasons</li> <li>• Giving opinions</li> <li>• Comparing things</li> <li>• Giving advice</li> <li>• Talking about experiences</li> <li>• Making invitations</li> <li>• Making predictions</li> </ul> *Again, the focus is on practical, real-world English. 2. Students will be asked short presentations on topics to be announced at the beginning of the school year.		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> The goal of this class is good communication in English. The amount of effort to improve spoken English will be considered in the final grade. 秀 (100 ~ 90): Smooth, understandable spoken English with few major grammatical errors. A good command of standard English conversational expressions. 優 (89 ~ 80): Understandable spoken English with occasional errors and some unnatural word usage. 良 (79 ~ 70): Understandable but slightly broken English with many and frequent grammatical errors (for example: subject-verb agreement, dropped articles, poor choice of wording according to the context of the conversation). Not smoothly spoken English. 可 (69 ~ 60): Broken English with a poor pronunciation; many grammatical errors. Poor effort to master the minimum goals of the course. 不可 (59 ~ 0): Did not acquire nor retain good, communicative English as taught in the course. Unable to communicate. Little effort to improve, and very little participation in class activities.		
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> Fifty Fifty Book 2 (Pearson Longman) by Warren Wilson and Roger Barnard, 3rd Edition 2007. ISBN 962-00-5666-3		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> *Important note: This course is based of practice and doing classroom exercises. Poor attendance will greatly affect final grade. On the other hand, positive effort and good attendance will also affect the final grade.		

科目名<Subject>	英語 E201A1・E205A1	<English >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>		通年
担当教員名<Name>	羽村 貴史 <Takashi Hamura>	研究室番号<Office>	5 3 2	
Office Hours	月曜日 15:00-18:00 (言語センター)			
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 英文を徹底的に精読する。また、音読と聞き取りの訓練を行う。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 前期は、ユダヤ系作家 Isaac Bashevis の短篇小説を精読する。後期は、小説が評論を読むが、内容は未定。ほかに、歴史問題や社会問題等に関する内容のプリント教材で、音読と聞き取りの訓練をする。</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> プリントを配布する。</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 定期試験、予習状況、出席率。</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 総合評価。</p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 予習復習の際、指示したとおりの方法で学習すること。理由にならない理由で年間 5 回以上の欠席がある場合は不可。厳しく指導する。</p>				

科目名<Subject>	英語 E202A1	<English >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>		通年
担当教員名<Name>	君羅久則・山本久雄 <Hisanori Kimira・Hisao Yamamoto>	研究室番号<Office>	3 2 2	
Office Hours	君羅 月曜 16:00 ~ 17:45			
<p>前期：君羅教員分</p> <p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 現代イギリスの作家ミュアリエル・スパークの短編を利用することにします。亡霊の出現や psychic phenomena などの超自然現象をも利用し、ファンタジーとユーモアを織りまぜた興味深い世界が展開されている。それだけに生半可な常識では通用せず、正確な解釈の力が試されると思われます。会話を多用した、平易な散文で書かれていますが、実に多様な表現や構文が使われています。この作品を利用し、読解力、リスニング、語彙力、構文の理解等の鍛錬を目標とします。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> この短編集には 3 作品が収められています。最初の週はオリエンテーションとしますが、その後、毎週 3、4 ページずつ、構文、語彙、表現、コンテキストの理解を中心に、さらには文化的な背景の理解等も含めて進め、The Portobello Road を読み終える予定です。随時(予告無しに)授業開始時に小テストを実施しますので、予めよく読んでおくことが不可欠になります。</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> Muriel Spark, The Portobello Road and Other Stories (朝日出版)</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 成績の評価は平常時間内に随時行う小テストと、前・後期の試験、それにクラスワーク、授業参加度を加味して総合的に行います。授業実施時数の 2 / 3 以上出席しなければ評価の対象外(単位の認定はしない)とします。</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 不可：授業内容の 60 パーセントまで理解できていない場合。 可：授業内容の 60 パーセント以上理解できている場合。 良：授業内容の 70 パーセント以上理解できている場合。 優：授業内容の 80 パーセント以上理解できている場合。 秀：授業内容の 90 パーセント以上理解できている場合</p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 前掲の短編集には朗読テープがありますので、必ず各自で用意して下さい。(詳細は第 1 週の授業時に知らせます。)</p>				

科目名<Subject>	英語 E202A1	<English >	
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	通年
担当教員名<Name>	君羅久則・山本久雄<Hisanori Kimira・Hisao Yamamoto>	研究室番号<Office>	5 2 6
Office Hours	金曜 14:00 ~ 15:30		
後期：山本教員分	4.成績評価の方法<Grading> 後期の定期試験・出席・授業内での発表による総合評価		
1.授業の目的・方法<Course objective and method>	5.成績評価の基準<Grading Criteria> 秀 (100~90): 秀でた英文読解力を有す。 優 (89~80): 優れた英文読解力を有す。 良 (79~70): 良い英文読解力を有す。 可 (69~60): 英文読解力を有す。 不可 (59~0): 十分な英文読解力を有しない。		
目的：英文読解力の向上 方法：学生の和訳に対する教官の補足説明			
2.授業内容<Course contents> 第16週 オリエンテーション 第17~30週 本文の読解			
3.使用教材<Teaching materials> 未定	6.履修上の注意事項<Remarks> 全授業数の1/3以上の欠席は受験不可		

科目名<Subject>	英語 E203A1	<English >	
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	通年
担当教員名<Name>	佐藤 幸子 <Sachiko Sato>	研究室番号<Office>	
Office Hours			
1.授業の目的・方法<Course objective and method> 現代は世界のニュースが瞬時に我々に届く時代である。日々、英語ニュースに囲まれ、その理解能力を必要とされている。従って、内容理解、単語の知識、ヒアリングの能力など、様々な力を習得することを目的とする。	5.成績評価の基準<Grading Criteria>		
2.授業内容<Course contents> 毎時間、講義の最初に数名の学生に英語のショートスピーチをしてもらいます。テキストを使用した後、前の時間に進んだ範囲の単語テストを行う。5点満点のうち必ず3点をとることを条件とします。	6.履修上の注意事項<Remarks> 遅刻は認めない。連続4回無断欠席したものは受講資格を失います。		
3.使用教材<Teaching materials> 宮本倫好； English through the News Media Asahi Press 1,600円			
4.成績評価の方法<Grading> 出席率、発表、レポートの内容などを総合して評価する。単語テストは6割を条件とします。			

科目名<Subject>	英語 E204A1	<English >	
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	通年
担当教員名<Name>	三浦 京子 <Kyoko Miura>	研究室番号<Office>	
Office Hours			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> (テーマ) 英国の文学作品を読み、批評する。 英国小説家D.H.ロレンスの短編小説The Shadow in the Rose Garden 『バラ園の影』を精読する。作品に出現する象徴的な言葉を手がかりに、想像力を開放することによって、魅力溢れるものとして受容したい。たとえば「薔薇」は、文学の世界においてどのような存在であろうか。その象徴性を心理学的観点に基づいて理解するとともに、物語の展開にもたらす効果について論じ、主題を究明する。		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 五段階評価(秀、優、良、可、不可)に基づく。	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 輪読形式でテキストを読み、議論する。 授業内容に関するガイダンス 正確に和訳した上で、段落ごとに解釈する。 象徴的な意味内容をもつと考えられる語句に関しては、可能な限り事典などを用いて調べる。 例： 薔薇、海、教会、フクロウ、ツタ		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 出席を重視する。	
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> The Shadow in the Rose Garden 南雲堂			
<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 前期および後期授業の最終日に行なうテストの他、毎回授業で課す宿題(和訳)も加味して評価する。			

科目名<Subject>	英語 E206A1	<English >	
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	通年
担当教員名<Name>	鈴木 良克 <Yoshikatsu Suzuki>	研究室番号<Office>	
Office Hours			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 内容把握が最終目的であるが、発音及び文法も重視するので、それらの面の予習も怠らないで下さい。		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 定期試験2回の平均点が90点以上が「秀」、80-89が「優」、70-79点が「良」、60-69点が「可」、59点以下が「不可」であるが、出席が良い学生には加点する予定です。	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 第1週はオリエンテーションを、第2週は音声学の講義をおこない、第3週から John Barton の著書、Knowledge in the Making を使用し前期、後期を通して精読する予定です。		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 講義には必ず辞書を用意して下さい。	
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> John Barton : Knowledge in the Making 成美堂 ¥1,800			
<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 前期1回、後期1回の試験、及び小テスト、出席回数及び予習内容を考慮して最終評価とします。			

科目名<Subject>	英語 E207A1	<English >	
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	通年
担当教員名<Name>	斉藤 京子	<Kyoko Saito>	研究室番号<Office>
Office Hours			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 日本語にない発音とテキストの基本文型を習得し、簡単なスピーチが出来る。 TOEFLの問題を解きながら、Listeningと文法力を養う。		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 授業開始後に文書で指示する。	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> テキストの会話文を理解し、授業中に基本文を使えるようにする。 TOEFLはプリントにより、Listeningと文法に重点を置く。 ビデオを観て、更にListening力を養う。		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 通年5回欠席した時点で受講資格を失います。 (欠席理由を書いた届けを提出の事)	
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> Interchange student's book2 (Third Edition) 著者 Jack C Richards 出版社 Cambridge University Press プリント			
<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 試験、課題、授業への参加状況、出席状況を総合評価する。			

科目名<Subject>	英語 E208A1・E209A1	【発展クラス】	<English >
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	前期
担当教員名<Name>	吉田 直希	<Naoki Yoshida>	研究室番号<Office> 433
Office Hours	月 14:30 ~ 17:00		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> このクラスは英語 II A 発展クラスです。一年次の英語 IA, IB の成績が秀 (標準クラス履修の場合)、優または秀 (発展クラス履修の場合)であることを条件とします。それ以外の場合は事前に相談すること。 対話型、双方向型の授業 情報機器、視聴覚機器を使用  一年次に養われた英語による発信能力をさらに高めることを目的とするクラスです。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 授業への参加状況：50点 試験およびレポート：50点	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 大学生の知的好奇心を刺激する比較的高度な内容の英文を題材とします。TOEIC、TOEFLの試験問題、小説、エッセイ、雑誌記事、映画、授業ビデオ等を用いて、リスニング、リーディング、ライティングの総合的な応用力を養います。また毎回の授業で暗誦(音読)、プレゼンテーションなどの口頭発表を全員に行ってもらいます。		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 秀(100~90): 英語の発信能力に秀でている。 優(89~80): 優れた英語の発信能力を有している。 良(79~70): 十分な英語の発信能力を有している。 可(69~60): 基本的な英語の発信能力を有している。 不可(59~0): 基本的な英語の発信能力を習得していない。	
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 主にプリントを使用します。自習用に副教材を指定します。また原書の講読を課題とし、レポートを課します。これらについては第1回目授業時に配布、指示します。		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> このクラスは週2回(月曜日、水曜日)の授業が行われる前期集中のクラスです。月曜日は実習室にてTA(ティーチング・アシスタント)の指示に従って各自がコンピュータを使って課題に取り組みます。課題はe-learning教材を使った小テスト、エッセイライティング等です。事前にテスト範囲・課題を指示しますので、各自きちんと予習を行っておいてください。水曜日はLL教室にて教員と双方向型授業(リーディング、プレゼンテーション中心)を行ないます。この授業においても十分な予習が求められます。したがってかなりの時間を週2回の授業準備に使わなければなりません。5回以上欠席すると単位は認定されません。遅刻は欠席として扱います。また欠席時の小テスト、課題、平常点は全て0点となりますので注意してください。毎回積極的に参加できる学生の履修を望みます。オリエンテーションには必ず参加すること。	

科目名<Subject>	英語 II E211A2・E212A2	<English II >	
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	通年
担当教員名<Name>	川内 裕子	<Hiroko Kawauchi>	研究室番号<Office>
Office Hours			
1. 授業の目的・方法<Course objective and method>	リスニング、シャドーイング、ディクテーション、サイトトランスレーション、リーディング、リプロダクション、英作文など、通訳技能訓練に関わるさまざまな実践的作業を通して、総合的な英語の力を身につけ、耳で聞いて理解する能力および英語、日本語の表現力を伸ばすことを目的とする。		
2. 授業内容<Course contents>	1) 教科書全 12 章 (各章 E J J E の全 6 ページ) Unit 1. スポーツ交流 (アジアの野球) Unit 2. 映画 (ハリウッドと千尋の世界) Unit 3. 環境保護 (未来への遺産) Unit 4. 環境問題 (温暖化現象) Unit 5. 国際交流 (文化交流と留学生招致プログラム) Unit 6. インタビュー1 (言語教育) Unit 7. インタビュー2 (日本の政治) Unit 8. 社会現象 (女性と社会) Unit 9. 先端技術 (遺伝子操作とロボット開発) Unit 10. 映像文化 (Some Changes) Unit 11. 経済1 (企業誘致) Unit 12. 経済2 (自由貿易協定)		
3. 使用教材<Teaching materials>	教科書 "Applying Interpreting Skills for Communication" コミュニケーションと通訳演習		
4. 成績評価の方法<Grading>	年二回の試験と出席日数および受講態度を総合的に評価する。		
5. 成績評価の基準<Grading Criteria>	秀 (90 点以上) 優 (80-89 点) 良 (70-79 点) 可 (60-69 点) 不可 (59 点以下) の評価は、年二回の試験結果に基づくものとする。普段の授業における態度 (課題への取り組みおよび理解度、積極性) はプラス要因として加味する。すべての授業に出席しながら平均点が 60 点に達しない場合には、課題の提出を受けた上でその内容を評価に加える。正当な理由のない欠席が多い場合には、程度に応じて減点もしくは不可とする。		
6. 履修上の注意事項<Remarks>	・ 自分の出席日数およびやむなく欠席した日の授業内容について、自己管理を自覚すること。 ・ 授業中には必ず発言および板書で解答する機会が与えられる。受動的態度ではなく、積極的に聞き取る能力や実践的な力を伸ばすことに意欲をもつ学生のみ、履修を勧める。 ・ 教科書、辞書必携。		

科目名<Subject>	英語 E213A2	<English >	
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	通年
担当教員名<Name>	小林 敏彦	<Toshihiko Kobayashi>	研究室番号<Office>
Office Hours	水曜日 12:15 ~ 12:45 / 金曜日 12:15 ~ 12:45		
1. 授業の目的・方法<Course objective and method>	CAL 教室におけるパソコンと大型スクリーンを活用し、オンライン・インタラクティブ (ブログ、ウェブサイト、掲示板、チャット、メール) を併用した、わかりやすく、楽しく、ためになる授業を目指す。前期は洋楽と洋画を活用したリスニングを主に行い、「洋楽が聞き取れ、カラオケで歌え、洋画を字幕を見ないで理解できる」ことに一歩でも近づくことを目指す。後期は洋楽およびニュースの聞き取りと素材を活用したライティングを中心とした四技能活動を行い、「ニュースの聞き取りと背景知識を喚起してメディア・リテラシーを高め、自らの意見を英語で世界に発信する」ための訓練を行い、英字新聞への投書を数度行う。教授法および授業活動は以下を使用する: Communicative Approach (Communicative Language Teaching) / Content-Based Teaching / Information Gap Activities / Communication Strategies / Shadowing (Whispering, Liping, Thinking Aloud) / Focused Listening / Pattern Practice (Repetition, Substitution, Conversion, Sentence Expansion) / Dialog Writing / Process Writing (writing on the BBS & writing to a letter to the editor) / E-Learning (Blog & Chat)		
2. 授業内容<Course contents>	洋楽 1: Honesty 2: Chiquitita 3: Dancing Queen 4: Yesterday Once More 5: Believe 6: Bridge Over Troubled Water 7: My Heart Will Go On 8: Crazy For You 9: Go West 10: New York City Boy 11: Y.M.C.A. 12: In The Navy 13: Sukiyaki 14: Stand By Me 15: Yesterday 16: Take Me Home Country Road 17: Unchained Melody 18: Candle In The Wind 19: Pretty Woman 20: Imagine 21: Love Me Tender 22: Can't Help Falling In Love 23: Mr. Lonely 24: El Condor Pasa 25: Top Of The World 26: Last Christmas 27: Tears In Heaven 28: What A Wonderful World 29: That's What Friends Are For 30: We Are The World		
3. 使用教材<Teaching materials>	『ネイティブならこう言う! 英会話フレーズ 600』(ネイティブ7) 語研 『VOA 経済ニュースの聴き方』 語研		
4. 成績評価の方法<Grading>	洋画 1: Air Force One 2: Courage Under Fire 3: Sar Wars I 4: Top Gun 5: The Matrix Reloaded 6: Spiderman 7: Deep Impact 8: JFK 9: Bagdad Cafe 10: Harry Potters 11: Spirited Away 12: Ghost 13: Home Alone 14: 13 Days 15: The Last Samurai		
5. 成績評価の基準<Grading Criteria>	「秀」は授業態度が優秀で、通年で無遅刻無欠席、課題をすべて提出し、かつ小テスト及び前期後期試験の平均点が 90 点を超えた者の中から最大上位 3 名に与えられる。「優」は授業態度が優秀で、通年で欠席および遅刻が 1 回のみ、かつ課題をすべて提出し、小テスト及び前期後期試験の平均点が 80 点を超えた者の中から最大上位 10 名に与えられる。「良」は授業態度が優秀で通年で欠席および遅刻が 2 回、課題をすべて提出し、かつ小テスト及び前期後期試験の平均点が 70 ~ 79 点の者に与えられる。「可」は授業態度が優秀で、通年で遅刻および欠席が 3 または 4 回、かつ課題をすべて提出し、小テスト及び前期後期試験の平均点が 60 ~ 69 点の者に与えられる。「不可」は通年で遅刻および欠席が 5 回に達した者、課題を一度でも提出しなかった者、または小テスト及び前期後期試験の平均点が 60 点に達しなかった者に与えられる。体育会系部活動の大会遠征 (合宿は認めない) については英文での報告を翌週間の出席日深夜までに行うことで 2 回までのみ認め、欠席にカウントしない。ただし、この権利を有するのは大会出場選手及び補欠選手に限定される。その他、事情を考慮しケースバイケースで対応する。また、授業準備不足や成績 (授業態度) 不良の受講生には特別課題と補講が課される。また、2 週連続休むと自動的に不可になる。		
6. 履修上の注意事項<Remarks>	授業には積極的に参加し、配布物は必ずバインダーに保存し、毎回持参すること。私語は絶対禁むこと。遅刻は欠席扱いとする。座席は出席順で指定される。飲食物の持ち込みや帽子、兜、ヘルメット、その他の冠りものは医療上または宗教上の理由に因るもの以外は認めない。また、事後学習として指定ブログ上の学習講座を毎日 10 ~ 15 分することが義務付けられる。		



科目名<Subject>	英語 E214A2	<English >	
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	通年
担当教員名<Name>	上野 之江	<Yukie Ueno>	研究室番号<Office>
Office Hours			
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> TOEIC(Test of English for International Communication) で C レベルのスコアをめざす。 1) TOEIC の問題形式を理解する。 2) 「Listening」能力を伸ばす練習をする。 TOEICはアジア,ヨーロッパをはじめ世界50カ国で採用されている英語能力試験です。日本でも多くの企業が採用し,ビジネスマンや大学生を中心に 60 万人が受験しています。就職後社員に実施する企業もたくさんあります。 TOEIC の試験で取り上げられている内容は,主にビジネス文書でこれを学習することにより,ビジネス英語の表現を学ぶことができます。2006 年度から TOEIC はリニューアルされ,リスニングは英,米,カナダ,豪の英語で出題されます。 このクラスでは特に「Listening」に重点をおいて練習します。毎週の授業は解答と解説,テストの単調な繰り返しです。この繰り返しの中で,TOEIC の語彙,文法,解答方法をしっかり身につけて下さい。 授業では個人練習,グループ練習もあります。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> (第1・2学期共通) 第1回 オリエンテーション, Pretest 第2回 ~ 第6回 Listening (Parts 1-4) 文法問題 (Parts5-6)</p>		<p>第7回 中間試験 第8回 ~ 第12回 Listening (Parts 1-4) 文法問題 (Parts5-6) 第13 ~ 14回 Part4 &amp; Part7 実践問題, Posttest 第15回 期末テスト</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 『The TOEIC Test Trainer Target 650』トムソンラーニング社, 2007年, 2,100円</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 中間試験(50%)と期末試験(50%)、この2回のテストの平均正答率60%以上を合格とします。各試験とも既習問題半分+未習(応用)問題半分の出題です。</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 本学の「成績評価基準」に準じます。</p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 各学期欠席4回以上の者は中間,期末試験の受験資格を失います。 授業には予習して出席してください。 初講時に Pretest を実施します。鉛筆と消しゴムを持参してください。</p>	

科目名<Subject>	英語 E215A2	<English >	
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	通年
担当教員名<Name>	上野 之江	<Yukie Ueno>	研究室番号<Office>
Office Hours			
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> TOEIC(Test of English for International Communication) で C レベルのスコアをめざす。 1)TOEIC の問題形式を理解する。 2)「Reading/Grammar」の能力を伸ばす練習をする。 TOEICはアジア,ヨーロッパをはじめ世界50カ国で採用されている英語能力試験です。日本でも多くの企業が採用し,ビジネスマンや大学生を中心に 60 万人が受験しています。就職後社員に実施する企業もたくさんあります。 TOEIC の試験で取り上げられている内容は,主にビジネス文書でこれを学習することにより,ビジネス英語の表現を学ぶことができます。2006 年度から TOEIC はリニューアルされ,リスニングは英,米,カナダ,豪の英語で出題されます。 このクラスでは特に「Reading/Grammar」に重点をおいて練習します。毎週の授業は解答と解説,テストの単調な繰り返しです。この繰り返しの中で,TOEIC の語彙,文法,解答方法をしっかり身につけて下さい。 授業では個人練習,グループ練習もあります。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> (第1・2学期共通) 第1回 オリエンテーション, Pretest 第2回 ~ 第6回 Listening (Parts 1-4) 文法問題 (Parts5-6)</p>		<p>第7回 中間試験 第8回 ~ 第12回 Listening (Parts 1-4) 文法問題 (Parts5-6) 第13 ~ 14回 Part4 &amp; Part7 実践問題, Posttest 第15回 期末テスト</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 『The TOEIC Test Trainer Target 650』トムソンラーニング社, 2007年, 2,100円</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 中間試験(50%)と期末試験(50%)、この2回のテストの平均正答率60%以上を合格とします。各試験とも既習問題半分+未習(応用)問題半分の出題です。</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 本学の「成績評価基準」に準じます。</p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 各学期欠席4回以上の者は中間,期末試験の受験資格を失います。 授業には予習して出席してください。 初講時に Pretest を実施します。鉛筆と消しゴムを持参してください。</p>	

科目名<Subject>	英語 E216A2【発展クラス】	<English >	
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	通年
担当教員名<Name>	高井 収 <Osamu Takai>	研究室番号<Office>	501
Office Hours	金 14 : 30 ~ 15 : 30		
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>          エッセイ・ライティングとそれを基にしたプレゼンテーションを通して、英語での自己表現の養成を目的とします。エッセイの書き方はパラグラフの構成指導から発展させます。プレゼンテーションの方法は最初、オーラル・インタープリテーションの手法で英語での発表方法を学び、グループ活動を通して、それぞれのテーマについてリサーチし、発表してゆきます。テーマは身近な文化（日本を含めアジア文化、欧米文化など）に焦点を当ててゆきたいと思えます。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>          1. 教科書の練習問題を解答する。          2. 発表の基となる原稿（エッセイ）の作成          3. パワーポイントを使ったプレゼンテーション          4. 小テストと定期テスト</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>          斉藤宏・Eleanor C. Kelly 著『Let's write about Japan（日本文化を英語で表現）』Seibido 出版</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>          授業実施総回数の2/3以上の出席者を「成績評価対象者」とし、出席状況、授業への参加態度、エッセイなど課題、プレゼンテーション、テスト（定期テストを含む）などを総合的に評価する。</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>          秀（100～90）：総合評価100～90%          優（89～80）：総合評価89～80%          良（79～70）：総合評価79～70%          可（69～60）：総合評価69～60%          不可（59～0）：授業実施総回数の2/3以上出席していないか、または、総合評価59%以下</p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>          このクラスは基本的には英語で授業が行われ、学生主導型の発展クラスですので、履修者の英語に対するはきりした目的意識が問われます。また、情報機器を使用しますのでフロッピーディスクまたはメモリーディスクが必要です。</p>			

科目名<Subject>	英語 E217A2【発展クラス】	<English >	
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	通年
担当教員名<Name>	小林 敏彦 <Toshihiko Kobayashi>	研究室番号<Office>	319
Office Hours	水曜日 12 : 15 ~ 12 : 45 / 金曜日 12 : 15 ~ 12 : 45		
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>          CAL 教室におけるパソコンと大型スクリーンを活用し、オンライン・インターアクション（ブログ、ウェブサイト、掲示板、チャット、メール）を併用した、わかりやすく、楽しく、ためになる授業を目指す。発展クラスの授業は英語で行うが、授業終了前の5分間は日本語で捕捉し、質疑応答を行う。前期は洋楽と洋画を活用したリスニングを主に行い、「洋楽が聞き取り、カラオケで歌え、洋画を字幕を見ないで理解できる」ことに一歩でも近づくことを目指す。後期は洋楽およびニュースの聞き取りと素材を活用したライティングを中心とした四技能活動を行い、「ニュースの聞き取りと背景知識を喚起してメディア・リテラシーを高め、自らの意見を英語で世界に発信する」ための訓練を行い、英字新聞への投書を数度行う。教授法および授業活動は以下を使用する：Communicative Approach (Communicative Language Teaching) / Content-Based Teaching / Information Gap Activities / Communication Strategies / Shadowing (Whispering, Liping, Thinking Aloud) / Focused Listening / Pattern Practice (Repetition, Substitution, Conversion, Sentence Expansion) / Dialog Writing / Process Writing (writing on the BBS &amp; writing to a letter to the editor) / E-Learning (Blog &amp; Chat)          授業の流れ          1) ポップス歌詞聞き取りと合唱、2) 対話文の聞き取り演習、3) 発話タスク、4) 洋画（前期）/ ニュース（後期）の聞き取り、5) BBS とチャットを活用したタスク</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>          洋楽          1: Honesty 2: Chiquitita 3: Dancing Queen 4: Yesterday Once More 5: Believe 6: Bridge Over Troubled Water 7: My Heart Will Go On 8: Crazy For You 9: Go West 10: New York City Boy 11: Y.M.C.A. 12: In The Navy 13: Sukiyaki 14: Stand By Me 15: Yesterday 16: Take Me Home Country Road 17: Unchained Melody 18: Candle In The Wind 19: Pretty Woman 20: Imagine 21: Love Me Tender 22: Can't Help Falling In Love 23: Mr. Lonely 24: El Condor Pasa 25: Top Of The World 26: Last Christmas 27: Tears In Heaven 28: What A Wonderful World 29: That's What Friends Are For 30: We Are The World</p> <p>洋画          1: Air Force One 2: Courage Under Fire 3: Sar Wars I 4: Top Gun 5: The Matrix Reloaded 6: Spiderman 7: Deep Impact 8: JFK 9: Bagdad Cafe 10: Harry Potters 11: Spirited Away 12: Ghost 13: Home Alone 14: 13 Days 15: The Last Samurai</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>          『3文型で広がる日常英会話ネイティブの公式』（ネイティブ5）語研          『VOA 経済ニュースの聴き方』語研</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>  <b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>          「秀」は授業態度が優秀で、通年で無遅刻無欠席、課題をすべて提出し、かつ小テスト及び前期後期試験の平均点が90点を超えた者の中から最大上位3名に与えられる。「優」は授業態度が優秀で、通年で欠席および遅刻が1回のみ、かつ課題をすべて提出し、小テスト及び前期後期試験の平均点が80点を超えた者の中から最大上位10名に与えられる。「良」は授業態度が優秀で通年で欠席および遅刻が2回、課題をすべて提出し、かつ小テスト及び前期後期試験の平均点が70～79点の者に与えられる。「可」は授業態度が優秀で、通年で遅刻および欠席が3または4回、かつ課題をすべて提出し、小テスト及び前期後期試験の平均点が60～69点の者に与えられる。「不可」は通年で遅刻および欠席が5回に達した者、課題を一度でも提出しなかった者、または小テスト及び前期後期試験の平均点が60点に達しなかった者に与えられる。体育会系部活動の大会遠征（宿舎は認めない）については英文での報告を翌週間の出席日深夜までに行うことで2回までのみ認め、欠席にカウントしない。ただし、この権利を有するのは大会出場選手及び補欠選手に限定される。その他、事情を考慮しケースバイケースで対応する。また、授業準備不足や成績（授業態度）不良の受講生には特別課題と補講が課される。また、2週連続休むと自動的に不可になる。</p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>          授業には積極的に参加し、配布物は必ずバインダーに保存し、毎回持参すること。私語は絶対禁むこと。遅刻は欠席扱いとする。座席は出席順で指定される。飲食物の持ち込みや帽子、兜、ヘルメット、その他の冠りものは医療上または宗教上の理由に因るもの以外は認めない。また、事後学習として指定ブログ上の学習講座を毎日10～15分することが義務付けられる。</p>			

科目名<Subject>	英語 E218A2	<English >	
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	通年
担当教員名<Name>	坪谷 雍子	<Yoko Tsuboya>	研究室番号<Office>
Office Hours			
<p><b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>          目的: This course will help the students read English newspapers through English.          内容: This class will teach the students how to read English papers, how English papers are organized and how to get informations from the papers.          方法: The students will learn how to understand English papers by reading "The Japan Times" and the text book, "Newspaper English". They will also have the opportunity to write and speak out their opinions in English.</p> <p><b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Reading English Newspapers-why</li> <li>• Reading English Newspapers-how</li> <li>• Organization of Newspapers-what</li> <li>• Organization of Newspapers-where</li> <li>• Headlines-grammar</li> <li>• Headlines-Abbreviations and special vocabulary</li> <li>• Parts of News Articles</li> </ul>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>• News Articles-grammar</li> <li>• Information Feature story</li> <li>• Sports News</li> <li>• Editorial</li> <li>• Opinion Column</li> <li>• Business News Story</li> <li>• Review</li> <li>• Miscellaneous</li> </ul> <p><b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>          Bill Benfield.          New Windows on the World.          Seibido.</p> <p><b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>          Weekly assignments, presentations, class attendance, and examinations</p> <p><b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b></p> <p><b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>          Excessive class absences (more than 1/3) and poor report and presentation will damage your grade.</p>			

科目名<Subject>	英語 E219A2	<English >																															
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	通年																														
担当教員名<Name>	マーク・ホルスト	<Mark Holst>	研究室番号<Office>																														
Office Hours	月 13:30~17:30; 水 13:00~14:00; 木 10:30~12:00																																
<p><b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>          This course aims to give you an opportunity to further develop your communicative skills in English, and learn about British culture. Each class will be based around a particular topic relating to an aspect of Britain.</p> <p><b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b></p> <table border="0"> <tr> <td>前期</td> <td>後期</td> </tr> <tr> <td>1 Introduction to the UK</td> <td>1 Newspaper Articles</td> </tr> <tr> <td>2 Education</td> <td>2 Work</td> </tr> <tr> <td>3 Universities</td> <td>3 Holidays</td> </tr> <tr> <td>4 Media #1 TV &amp; Radio (Start Project)</td> <td>4 Regions</td> </tr> <tr> <td>5 Media #2 - Newspapers</td> <td>5 Cultural Differences</td> </tr> <tr> <td>6 Sports</td> <td>6 Multiculturalism</td> </tr> <tr> <td>7 Houses &amp; Homes</td> <td>7 Politics</td> </tr> <tr> <td>8 Eating &amp; Drinking habits</td> <td>8 International relations</td> </tr> <tr> <td>9 Pop Music &amp; Fashion</td> <td>9 British Dialects</td> </tr> <tr> <td>10 Presentation Practice</td> <td>10 Ceremonies</td> </tr> <tr> <td>11 Presentations 1</td> <td>11 Presentation Practice</td> </tr> <tr> <td>12 Presentations 2</td> <td>12 Presentations 1</td> </tr> <tr> <td>13 Icons &amp; famous people</td> <td>13 Presentations 2</td> </tr> <tr> <td>14 Speaking Test preparation</td> <td>14 Speaking test preparation</td> </tr> </table> <p><b>Speaking Test</b></p>				前期	後期	1 Introduction to the UK	1 Newspaper Articles	2 Education	2 Work	3 Universities	3 Holidays	4 Media #1 TV & Radio (Start Project)	4 Regions	5 Media #2 - Newspapers	5 Cultural Differences	6 Sports	6 Multiculturalism	7 Houses & Homes	7 Politics	8 Eating & Drinking habits	8 International relations	9 Pop Music & Fashion	9 British Dialects	10 Presentation Practice	10 Ceremonies	11 Presentations 1	11 Presentation Practice	12 Presentations 2	12 Presentations 1	13 Icons & famous people	13 Presentations 2	14 Speaking Test preparation	14 Speaking test preparation
前期	後期																																
1 Introduction to the UK	1 Newspaper Articles																																
2 Education	2 Work																																
3 Universities	3 Holidays																																
4 Media #1 TV & Radio (Start Project)	4 Regions																																
5 Media #2 - Newspapers	5 Cultural Differences																																
6 Sports	6 Multiculturalism																																
7 Houses & Homes	7 Politics																																
8 Eating & Drinking habits	8 International relations																																
9 Pop Music & Fashion	9 British Dialects																																
10 Presentation Practice	10 Ceremonies																																
11 Presentations 1	11 Presentation Practice																																
12 Presentations 2	12 Presentations 1																																
13 Icons & famous people	13 Presentations 2																																
14 Speaking Test preparation	14 Speaking test preparation																																
<p><b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>          The teacher will give you weekly worksheets.</p> <p><b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>          Presentations: 25%    Written Homework: 30%          Vocabulary tests: 20%    Speaking test: 25%</p> <p><b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>          「秀」: Able to communicate about general and academic matters with a very high degree of fluency. Able to write very accurately, fluently and in detail in English on the weekly homework topics. Extremely confident and able when giving presentations in English.          「優」: Able to communicate in English about general matters fluently and with good accuracy. Able to write fluently about the weekly homework topics, with few accuracy problems. Good presentation ability in English.          「良」: Reasonably confident and accurate when speaking or writing in English on general topics, but shows vocabulary or grammatical problems when faced with more challenging topics. Able to give reasonably clear presentations in English, but may suffer from fluency problems, showing a limited range of vocabulary.          「可」: Displays sufficient speaking and writing skills in English to be able to communicate general ideas with reasonable level of accuracy and fluency, but sometimes struggling to attain the standard required in written or spoken tests. Able to give short presentations in English, but with slow, hesitant speech, and a tendency to use short, memorized utterances.</p> <p><b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>          You are expected to attend class, participate fully and use only English. This class requires preparation time outside class every week to do written homework and project work.</p>																																	

科目名<Subject>	英語 E231B	<English >	
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	通年
担当教員名<Name>	大島稔 <Minoru OSHIMA> / 横村栄美 <Emi Yokomura>		研究室番号<Office> 353 / 313
Office Hours	月 10:30~14:20		
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> このクラスは、英語 のB群のクラスで、80人規模の大人数クラスである。クラスは40人程度からなる2つのグループ(A・B)に分けられ、隔週で実習室(横村栄美担当)とLL(大島稔担当)での授業が行われる。実習室では、各自がコンピュータを使って教科書付随の自習用DVDを見ながら教科書の問題を解く予習を行う。実習室では、ディクテーション、音読の練習、内容把握、ライティングに関する問題を解いて十分に予習して、教材理解の基礎を作る。LLでは、教科書とDVDを使って教員との双方向型の授業を行う。LLでは、英語によりQ &amp; Aで内容理解を確認し、英語で表現する能力の養成を目的とする。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 第1-2週 オリエンテーションとグループ分け 第3-4週 Another Kotoshū 第5-6週 Brain Trainer 第7-8週 World Heritage: Shiretoko 第9-10週 Vanishing Tradition 第11-12週 Pet Hotels 第13-14週 前期筆記試験 第15-16週 Bird Flue Response 第17-18週 Population Decrease 第19-20週 Lifelong Craft 第21-22週 Plastic Bottle Life Savor 第23-24週 Moving Cost 第25-26週 Can Art 第27-28週 Ozawa Wins 第29-30週 後期筆記試験</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 山崎達郎・Stella M. Yamazaki (2007), What's on Japan (NHK BS English News Stories), 金星堂</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 隔週のLLの授業の最後に、文法事項、読解、聴き取り、ライティングに関する確認テストを行う。確認テスト(70%)と学期末定期試験(30%)の総合点で成績を評価する。</p> <p><b>5.成績評価の基準</b> 秀(100-90) 文法事項、読解、聴き取り、ライティングに関し秀でた理解力が見られること。 優(89-80) 文法事項、読解、聴き取り、ライティングに関し優れた理解力が見られること。 良(79-70) 文法事項、読解、聴き取り、ライティングに関し十分な理解力が見られること。 可(69-60) 文法事項、読解、聴き取り、ライティングに関し十分な理解力が見られること。 不可(59点以下)</p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 最初の授業でグループ分けのテストを行い、DVD教材の使い方を説明するが、Word processorの操作やTypewritingにできる限り早く慣れるようにしてください。また、自分のPCに配布された資料を記憶する媒体(FD, MD, メモリースティック)を用意すること。</p>			

科目名<Subject>	英語 E232B	<English >	
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	通年
担当教員名<Name>	大島稔 <Minoru OSHIMA> / 横村栄美 <Emi Yokomura>		研究室番号<Office> 353 / 313
Office Hours	月 10:30~14:20		
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> このクラスは、英語 のB群のクラスで、80人規模の大人数クラスである。クラスは40人程度からなる2つのグループ(A・B)に分けられ、隔週で実習室(横村栄美担当)とLL(大島稔担当)での授業が行われる。実習室では、各自がコンピュータを使って教科書付随の自習用CDを聞きながら教科書の問題を解く予習を行う。実習室では、シャドウイング、内容把握、語彙、慣用句、ライティングに関する問題を解いて十分に予習して、教材理解の基礎を作る。LLでは、教科書とCDを使って教員との双方向型の授業を行う。LLでは、英語によるQ &amp; Aで内容理解を確認し、英語で表現する能力の養成を目的とする。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 第1-2週 オリエンテーションとクラス分け 第3-4週 Blogging 第5-6週 Blockbuster Movies 第7-8週 The Tour de France 第9-10週 Left-Handedness 第11-12週 Jennifer Lopez 第13-14週 前期筆記試験 第15-16週 Body Language 第17-18週 Cosmetic Surgery 第19-20週 Speed Dating 第21-22週 Mystery Mansion 第23-24週 White Sands 第25-26週 Getting Married 第27-28週 Car Culture 第29-30週 後期筆記試験</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> Malarcher, Casey (2007), <i>Reading In 3 (Practical Reading Course of English)</i>, Thomson Heinle</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 隔週のLLの授業の最後に、文法事項、読解、聴き取り、ライティングに関する確認テストを行う。確認テスト(70%)と学期末定期試験(30%)の総合点で成績を評価する。</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 秀(100-90) 文法事項、読解、聴き取り、ライティングに関し秀でた理解力が見られること。 優(89-80) 文法事項、読解、聴き取り、ライティングに関し優れた理解力が見られること。 良(79-70) 文法事項、読解、聴き取り、ライティングに関し十分な理解力が見られること。 可(69-60) 文法事項、読解、聴き取り、ライティングに関し十分な理解力が見られること。 不可(59点以下)</p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 最初の授業でグループ分けのテストを行い、CD教材の使い方を説明するが、Word processorの操作やTypewritingにできる限り早く慣れるようにしてください。また、PCで配布された資料を記憶する媒体(FD, MD, メモリースティック)を用意すること。</p>			

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	英語 E233B	<English >		
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	2	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>		通年
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	斉藤京子/ 横村栄美 <Kyoko Saito/Emi Yokomura>		<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	横村313
<b>Office Hours</b>				
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> インターネットを通し、the U.S.A., Canada, Mexicoの国立公園や遺跡を訪れ、それぞれの公園や遺跡について知る。 ビデオを観て、公園や遺跡の知識を更に深める。 TOEFLの問題を解きながら、Listeningと文法力を養う。		<b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 授業開始後に文書で指示する。		
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> LL 教室と教室での授業を隔週で行う。 LL 教室では、インターネットを使用し、指示された公園又は遺跡を調べ、英文のレポートを書く。 レポートは教室での授業の時に提出する。 教室での授業で、レポートの発表もありうる。 TOEFL はプリントにより、Listening と文法に重点を置く。		<b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 通年5回欠席した時点で受講資格を失います。 (欠席理由を書いた届けを提出の事)		
<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> プリントを使用				
<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 試験、課題、授業への参加状況、出席状況を総合評価する。				

外国語科目  
(英語以外)

## ドイツ語学習の目標とプロセス

### 目標設定

本学のドイツ語教育は、基本文法の理解と併せて「話し」「聞き」「読み」「書く」いわゆる4技能の総合されたコミュニケーション能力(言語行動能力)の育成をも重視しています。ドイツ語 と では基本文法を理解しつつこの総合コミュニケーション能力の基本を習得することが学習目標となります。しかしこの基本の上に更に準専門的なドイツ語総合能力の獲得を目指すことも可能です。その際「国際コミュニケーション(ドイツ語)」「(2年次配当) 上級外国語(ドイツ語)」「(3・4年次配当)と「上級外国語(ドイツ語)」「(3・4年次配当)」、「研究指導」(専門ゼミ)と段階的に学習を進めながら、その間にドイツ語圏の大学での「夏期短期語学留学」(毎夏実施。単位にもなる。)に参加して日頃の学習にさらに磨きを掛けるのも有効です。

そして最終的には、本学の姉妹校であるバイロイト大学、ウィーン経済大学、ベルリン経済大学へ交換留学し、語学力と専門的知識との融合を目指すことです[恵まれた条件での留学生活が保証されており、単位の取得も可能。バイロイト大学の場合には奨学金制度もある]。またインターナショナルタイプのドイツ語検定試験[オーストリア・ドイツ語検定試験(年2回本学で実施)およびゲーティンステイトゥート(ドイツ)の能力資格試験]や日本のドイツ語技能検定試験[通称独検(年2回。春は本学で実施)]等は、折りに触れて自分の到達レベルを知る目安として極めて有効です。

このように本学のドイツ語学習をステップとしてドイツ語圏の大学への留学やその後の内外での職業活動や研究活動を目指す諸君が出現することを願っています。

## 4年間の学習モデル

### 【第一段階】

ドイツ語 / 外国語コミュニケーション

目標：基本文法 / 4技能の初歩 / ドイツ語圏の日常文化  
目安：独検4級

### 【第二段階】

ドイツ語 / 国際コミュニケーション

目標：4技能総合力(1) / ドイツ語圏の社会文化(1) / 自力での旅行や簡単な日常的受信能力

関連目標：短期語学留学(バイロイト大夏季コース)

目安：オーストリア・ドイツ語検定基礎級 / 独検3級

### 【第三段階】

上級外国語 / 研究指導[3年ゼミ]

目標：4技能総合力(2) [「本物」をごくゆっくりこなす力 / ドイツ語圏の社会文化(2) / 日常的自己発信能力

関連目標：「交換留学」の準備と実行

目安：オーストリア・ドイツ語検定基礎級・標準級

ゲーテ・ドイツ語検定標準級

2級

### 【第四段階】

上級外国語 / 研究指導[4年ゼミ]

目標：4技能総合力(3) [「本物」をゆっくりこなす力 / ドイツ語圏の社会文化(3) / 本格的自己発信力

関連目標：交換留学

目安：オーストリア・ドイツ語検定標準級・中級・上級

ゲーテ・ドイツ語検定中級 / 独検2級・1級

DSH[ドイツ大学語学能力試験]

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	ドイツ語 <German >		
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	4	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	通年
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	- 1ダニエル・アルノルト(火) / 副島 美由紀(木) - 2副島 美由紀(火) / 佐藤和枝(木) - 3鈴木将史(火) / 鈴木将史(木) - 4大塚 謙(火) / 大塚 謙(木)	<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	大塚439 鈴木456 副島420
<b>Office Hours</b>			
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> ドイツ語は「会話」「文法」「生活文化の紹介」に配慮した総合教科書(DVDとCD付き)を使って週2回(火・木)の授業を行ないます。舞台はドイツの首都ベルリン。そこで留学生生活を送っている日本人女子学生「ユイ」の視点に立ってドイツ語を学びドイツの日常生活を観察してゆきます。各課とも、まずパン屋でパンを買ったり木陰のビアガーデンでビールを飲むといった日常の場面の中で普通の「会話表現」に触れます。これを理解・習得した上でさらに簡単な自己表現練習へ進んでゆきます。あわせて付属のCDやDVDによって良い耳を作ってゆきます(因みにこの教科書の最大の特長のひとつは、使用される全てのドイツ文が丁寧にCDやDVDに収録されている点にあり積極的に活用して良い「聴解力」を培ってください)。次は十分に理解した会話表現にもとづいて文法を学ぶ番です。ここでは的確な文法説明と多様豊富な練習(文法ドリル、パートナー練習、作文練習など)を通して体系的な文法知識を身に付けてゆきます。各課は最後にしっかりしたドイツ語の「書き言葉」で綴られたコラムで締めくくられますが、それはドイツ語圏の生活文化を整理した形で紹介したもので、課を追うごとにその内容と語法のレベルを高めてゆきます。また各課末尾には現代のドイツ語圏のさまざまな生活文化(ベルリン紹介・パンの国ドイツ・交通事情・医療事情など)を紹介する日本語のコラムも用意されており、生きた社会的背景と融合させながらコトバを総合的に学んでゆくこととなります。従って真面目に参加していれば必ずから総合的なドイツ語能力が身に着くことでしょう。また、外国語の授業は何よりもまずコミュニケーションの方法を学ぶ時間ですから、コトバの学習に限らず「話す」という行為が非常に大切です。皆さんの積極的な参加を期待します。		29~30週: 第12課【接続法】【接続法2式の人称変化】【非現実話】《愚痴・悔い・夢などを語る》 帰国前	
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 【 】 = 文法項目 / 《 》 = 会話項目 / = 生活文化項目 1-2週: 【文字と発音】【あいさつ】【季節・月・曜日】【数字】 3-4週: 第1課【動詞の現在人称変化】《自己紹介》ベルリン到着 5-7週: 第2課【名詞の性、各変化】《持ち物を尋ね合う》パン屋にて 8-9週: 第3課【不規則動詞の人称変化】【名詞の複数形】【名詞の3格】《~するのが好き》語学コース 10-11週: 第4課【前置詞と名詞の格】【副文】《週の予定》学生食堂 12-14週: 第5課【人称代名詞の3・4格】【再帰代名詞と再帰動詞】【名詞の2格】《体の部分の名称・体の不調を訴える》お医者 15-16週: 第6課【定冠詞類】【不定冠詞類】【否定冠詞kein】《誕生日には誰に何をプレゼント?》学生寮で 17-18週: 第7課【zu 不定詞句】【分離動詞】《週末予定》ヴァンゼーへのサイクリング 19-21週: 第8課【話法の助動詞】《夏休み / 冬休みの予定》美容院にて 22-23週: 第9課【過去形】【現在完了形】【受動態】《昨日・週末に何をした?》ビアガーデン 24-25週: 第10課【形容詞の格変化】【比較級と最上級】《好きな食べ物・飲み物・・・》ブティック 26~28週: 第11課【関係代名詞】【命令形】《自分の部屋を描写》フィリップの誕生日		<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 『ドイツ語の時間(ビデオ教材恋するベルリン)DVD付き』(清野智昭著、朝日出版社)	
<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 授業回数の1/3以上欠席すると単位取得の権利を失います。前期試験・中間試験・期末試験の結果を主軸として、授業での積極性(出席率、発言、宿題等の提出)も参考材料としながら総合的に評価します。		<b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> ドイツ語は、ドイツ語の履修に耐えうる基礎学力の修得をもって合格とします。具体的には以下の通り。 ドイツ語の基本文法・基本語彙を習得している。 ごく平易な文章を読むことができる。 ごく平易な文章を書くことができる。 ごく平易な発話を聞き取ることができる。 ごく平易な発話を行うことができる。	
<b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 火曜と木曜の授業は連動しており、4単位は一括して出ますから各曜日もれなく出席すること。			



科目名<Subject>	ドイツ語 (9年度カリ用) <German >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	通年
担当教員名<Name>	大塚 謙	研究室番号<Office>	439
Office Hours	在室時ならいつでも		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 火曜と木曜の授業を補完する目的で、「聞く」「読む」「話す」「書く」の4技能の技術向上に努めます。特に文法的な理解を基礎におき、着実にゆっくり授業を進める予定です。		<b>5.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 火曜・木曜の授業と連動しているので、週3回授業には必ず出席すること。	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 実生活の様々な場面に即したテキストを適宜選択し、練習問題中心に授業を進めます。			
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> テキストは特に指定しません。適宜プリント等を用意します。			
<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 全授業の2/3以上の出席が、単位認定の前提条件となります。成績は定期試験の結果と、平常点を勘案した総合評価とします。			

科目名<Subject>	ドイツ語 A1・A2 <German >		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	通年
担当教員名<Name>	A1: ダニエル・アルノルト(火)・副島 美由紀(木) A2: ゲーザ・オルデハーフェル(火)・大塚 謙(木)	研究室番号<Office>	大塚439 副島420
Office Hours			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 基礎文法の学習を中心とした1年次の学習に続き、今年は文法知識を駆使して生きた会話能力に磨きをかけていきます。ドイツ語圏(ドイツ・オーストリア・スイス)の生活・文化・社会などについての最新・多様な情報(歌や自然な日常会話、またインターネットなど、目や耳からの情報)を題材に、4技能の総合力を育成していきます。自分の意見を表明し、人と意見の交換をすることも大切な課題となってきます。週の1回はネイティブ・スピーカーの教師、1回は日本人教師に学びます。使用する教科書“TANGRAM”はドイツ生まれの総合教科書で、日本語は一切ありませんが、日本語の上手なネイティブ・スピーカーも含めて教師が適切に道案内しますので、恐れる必要はありません。		<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 『TANGRAM aktuell 1, A1/2(Lektion 5-8)』(Hueber Verlag)	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 授業で扱うテーマは「家族と家事」「今日の若者」「休暇と旅行」「食事と健康」「ファッション」など、日本人にとっても身近なものばかりです。ドイツ語圏の人々はこれらのテーマについて、どのように考え、どのように語り合おうでしょうか? それぞれのテーマに関し、様々なタイプの練習を重ねることにより、異文化の理解力と総合的な語学力とを養います。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 平常点、試験の総合評価。	
		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> ドイツ語は、以下のドイツ語能力の修得をもって合格とする。 ドイツ語の基本文法・基本語彙に習熟している。 平易な文章を読むことができる。 平易な文章を書くことができる。 平易な発話を聞き取ることができる。 平易な発話を行うことができる。	
		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 週2回の授業は連携しています。一つの授業は次回の授業の準備となりますから出席は絶対重視です。また、授業は教師と学生の共同作業で成り立っていますから、質問・要望などは大いに歓迎します。	

科目名<Subject>	ドイツ語 B 1 (火)	<German >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>		通年
担当教員名<Name>	鈴木 将史	<Masafumi Suzuki>	研究室番号<Office>	4 5 6
Office Hours	在室時			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 読解を中心に、ドイツ語の運用力を総合的に向上させることを目的とする。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 定期的に行われる試験の結果に、平常点を加えて評価する。3分の1以上欠席した者は、自動的に不合格となる。		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 中級程度のドイツ語を読解し、1年で学んだ文法事項を包括的に復習する。テキストは読解用長文のみならず、文法問題・応用問題も数多く収録しているため、より総合的なドイツ語授業となることだろう。テキストを終了した際には、より高度な文章にチャレンジする。		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 秀：ドイツ語文法を包括的に理解し、自由に应用することができ、秀でた語彙力を持っている。 優：ドイツ語文法を十分に理解し、十分に应用することができ、十分な語彙力を持っている。 良：ドイツ語文法を相応に理解し、ある程度应用することができ、相応の語彙力を持っている 可：ドイツ語文法を最低限理解し、若干の応用ができ、最低限の語彙力を持っている。 不可：ドイツ語文法をほとんど理解しておらず、応用できず、ほとんど語彙力がない。		
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 「ドイツ語表現練習読本」(尾崎盛景、三修社、1350円)		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 日々の予習・復習が語学学習には一番肝要。学期末になってあわてても取り返しがつかない。		

科目名<Subject>	ドイツ語 B 2 (火)	<German >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>		通年
担当教員名<Name>	副島 美由紀	<Miyuki Soejima>	研究室番号<Office>	4 2 0
Office Hours	在室時いつでも可			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> ドイツ語による総合的なコミュニケーション能力を養うことを目的とします。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 定期試験の結果を基本としますが、平常点も加味します。		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 多様な教材とテーマを用いて、ドイツ語による基礎的なテキストを理解することから始まりますが、最終的にはそれぞれのテーマについて自分の意見を形成し、それを発信することが目標です。自分でものを考えようとする姿勢と、コミュニケーションに対する積極性が大切な鍵となるでしょう。外国語で話すことを“楽しみたい”という気持ちで臨んで下さい。		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 授業開始後、なるべく早い時期に文書にて通達します。		
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 教室にて指示。		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 3分の1以上欠席した者は履修資格を失います。		

科目名<Subject>	ドイツ語 B 3 (木)	<German >	
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	通年
担当教員名<Name>	佐藤 和枝 <Kazue Satoh>	研究室番号<Office>	
Office Hours			
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 〔目的〕外国語学習の本来の目的は、異なる言語とその背景をなす文化を学ぶことによって世界に関する認識の地平を広げ、自らの価値観を相対化してより公正な判断能力を養うことにあります。この目的を念頭に置きつつ、身近なテーマに関して外国語を話し、読み、理解する能力を養っていきます。  〔方法〕1年次で学習した初級文法を復習しながら、聞き取り、会話、作文練習によって、コミュニケーション能力を含めた、総合的なドイツ語の能力を高めます。さらに、テーマごとに視聴覚教材や他の資料も利用し、幅広くドイツ語圏の文化や生活を紹介していきます。		<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 『Szenen 2 場面で学ぶドイツ語 integriert』佐藤修子、下田恭子、Heike Papenthin, Gesa Oldehaver 著(三修社)	
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 1 課 旅行と交通 2 課 レストランとホテルで 3 課 街で 4 課 天気 5 課 病気と清潔習慣 6 課 贈り物と招待 7 課 人物描写、買い物 8 課 ゴミと環境 9 課 禁止と命令 10 課 履歴と学校制度 11 課 祝祭と祝日 12 課 年末年始		<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 試験と平常点の総合評価。	
		<b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 1) ドイツ語 I の学習内容を身につけていること。 2) 基本的なドイツ語を聞き取り、理解することができる。 3) 身近な事柄について、ドイツ語で表現することができる。 4) ドイツ語で簡単な日常会話をすることができる。 5) 比較的平易なドイツ語の文章を読みこなすことができる。	
		以上を合格ラインとする。具体的な評価の基準は、評価確定後、掲示にて通達する。	
		<b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 授業回数の 1/3 以上を欠席すると単位取得資格を失います。 授業をよく理解するためには予習は必須条件です。	

科目名<Subject>	ドイツ語 B 4 (木)	<German >	
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	通年
担当教員名<Name>	鈴木 将史 <Masafumi Suzuki>	研究室番号<Office>	4 5 6
Office Hours	在室時		
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 読解を中心に置きながらも、リスニング、作文等の練習も織り込み、ドイツ語の運用力を総合的に向上させることを目的とする。		<b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 秀：ドイツ語文法を包括的に理解し、自由に应用することができる。秀でた語彙力を持っている。 優：ドイツ語文法を十分に理解し、十分に应用することができ、十分な語彙力を持っている。 良：ドイツ語文法を相応に理解し、ある程度应用することができる。相応の語彙力を持っている。 可：ドイツ語文法を最低限理解し、若干の応用ができ、最低限の語彙力を持っている。 不可：ドイツ語文法をほとんど理解しておらず、応用できず、ほとんど語彙力がない。	
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 最新のドイツ事情に関するテキストを使用する。テキストの読解用長文は、全体の 3 分の 1 程度であり、残りは文法問題・作文問題、リスニング問題となる。従って、かなり総合的なドイツ語授業となることだろう。テキストを終了した場合には、より高度な文章を含んだ新たなテキストに移行する。		<b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 日々の予習・復習が語学学習には一番肝要。学期末になってあわてても時既に遅し。	
<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 「人を知る 9 章 + 1」(大谷弘道著、三修堂、2500 円)			
<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 定期的に行われる試験の結果に、平常点を加えて評価する。3 分の 1 以上欠席した者は、自動的に不合格となる。			

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	フランス語 1(火・木)	<French >		
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	4	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	I	通年
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	高橋 純	<Atsushi Takahashi>	<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	525
<b>Office Hours</b>	火曜日・木曜日 12:00~14:30			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>		数詞		
<p>〔目的〕「読む、書く、聴く、話す」の4技能の訓練を通じてのフランス語の基本構造の体験的把握。</p> <p>〔方法〕応用練習においてのみでなく、授業内での説明や指示にもできるだけフランス語を用いて、フランス語の表現に耳を慣らし、フランス語で言われたことに対して言葉（フランス語）やしぐさや行動で反応が起こせるようにする。次いで、いくつかのグループを編成し、覚えた表現をパートナー間で使いこなす訓練をする。さらに、様々なシチュエーションを設定して、役割ゲームを展開するなかで、必要に応じて新たな表現や文法知識を与えてゆく。個人的努力と協調性あるグループ作業の両方が不可欠である。授業は、①フランス語の表現を覚える、②文の仕組みを理解する、③自分の考えを表現する手段として使いこなす、の3段階で構成される。着実に学習を進めるためには、添付のCDを繰り返し聞いて、音としてのフランス語に慣れることが絶対に必要である。</p>		<p>⑧非人称動詞、中性代名詞(2)、形容詞・副詞の比較</p> <p>⑨半過去、大過去、受動態、不定代名詞</p> <p>⑩単純未来、前未来、現在分詞、ジェロンディフ</p> <p>⑪単純過去、前過去、関係代名詞(2)</p> <p>⑫条件法</p> <p>⑬接続法</p>		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>		<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>		
<p>13課68項目の文法事項をおよそ以下の順序で教授する。</p> <p>①名詞の性と数、不定冠詞・定冠詞、リエゾン・アンシェヌマン・エリゾン。</p> <p>②主語人称代名詞、第1群規則動詞の直説法現在、否定文</p> <p>③être/avoirの直説法現在、疑問文、否定文</p> <p>④直接目的補語人称代名詞、中性代名詞(1)、aller/venirの直説法現在</p> <p>⑤間接目的補語人称代名詞、代名詞の語順、人称代名詞強勢形</p> <p>⑥代名動詞、命令法、関係代名詞(1)</p> <p>⑦直説法複合過去、過去分詞の一致、pouvoir/vouloirの直説法現在、序</p>		<p>天羽均他著『初級フランス語文法(改訂2007年度版)』朝日出版社、¥2310</p>		
<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>		
読み、書き、聞き、話す4技能を対象として総合的に評価する。定期試験のみでなく平常時の小テストも課す。		<p>合否の基準についてはシラバス43ページを参照のこと。平常点の割合、配分等具体的な評価方法については最初の授業時に説明する。</p>		
<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>		
火曜日、木曜日共通のテキスト。出席重視。授業では、応用練習のために視聴覚教材を利用し、補足説明のために適宜プリントを配布する。		火曜日、木曜日共通のテキスト。出席重視。授業では、応用練習のために視聴覚教材を利用し、補足説明のために適宜プリントを配布する。		

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	フランス語 I 2 (火・木)	<French I >		
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	4	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	I	通年
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	尾形 弘人	<Hiroto Ogata>	<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	521
<b>Office Hours</b>	火・木 13:00 から 14:30			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>		
<p>基本的なフランス語の運用能力(話す、聞く、読む、書く)の養成を目指します。口、耳、目、手を総動員して練習に取り組んでください。初めて学ぶ言葉ですから間違っうのは当たり前。誤りを恐れずに、積極的に授業に参加してください。</p>		<p>定期試験の他、小テスト、出席率、予習の有無、積極性、課題の提出など、総合的に判断する。</p>		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>		<b>5.成績評価の基準</b>		
<p>以下に紹介する各課を、補助プリントも含め4回程度の授業で消化していく予定です。</p> <p>第1課：挨拶、職業、国籍</p> <p>第2課：好き嫌い、飲み物、趣味</p> <p>第3課：日常生活、日常品、曜日</p> <p>第4課：道順、住まい、位置関係</p> <p>第5課：食事、料理、食品</p> <p>第6課：天候、時刻、季節、衣服</p> <p>第7課：比較する、過去について語る</p> <p>第8課：体の調子を語る</p> <p>(以下略、計12課)</p>		<p>合否の基準についてはシラバス43ページを参照のこと。「秀、優、良、可」については、評価確定後、基準を掲示する。</p>		
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>		
阿南婦美代、セシル・モラン著『パシヨネマン』、第三書房、¥2100		いくら文法を覚えても、フランス語は発音できなければ面白くない。とにかくCDをまねて、口を動かしましょう。		

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	フランス語 I 3 (火・木)	<French I>		
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	4	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	I	通年
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	江口 修・遠藤史子<Osamu Eguchi/Fumiko Endo>		<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	江口 523
<b>Office Hours</b>	江口：火・木 14：30～16：00（メールでの事前連絡が望ましい）			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 木曜日の授業（遠藤先生担当）と連携して、「読む、書く、聴く、話す」の4技能の訓練を通じてフランス語の基本構造の習得を目指す。五感を総動員しながら、身振りなどの失敗も恐れず、フランス語をまさに身に付けて行こう。		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 可否の基準についてはシラバス43ページを参照のこと。「秀、優、良、可」については、評価確定後、基準を掲示する。		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 10課からなる教科書の内容に沿って進む。概ね過去と未来について語れるまで順を追う展開となっている。特にフランス語の「音」について初歩の獲得過程に工夫の見られる教材で、最初が肝心。		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 出席を重視する。江口の授業は情報処理センターの演習室かLLになる予定。どちらにせよキーボードに慣れておくこと。		
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 阿南婦美代他著『新アンパロール』朝日出版社、¥2,500				
<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 統一基準に依拠しつつ、定期試験のみでなく平常時にも小テストを行い、それらも含め、総合的に判断する				

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	フランス語 I 4 (火・木)	<French I>		
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	4	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	I	通年
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	ニコラ・ジェゴンド・江口 修<Nicolas Jegonday/Osamu Eguchi>		<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	江口 523
<b>Office Hours</b>	江口：火・木 14：30～16：00（メールでの事前連絡が望ましい）			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 基本的なフランス語の運用能力（話す、聞く、読む、書く）の養成を目指す。 口、耳はもとより身体、五感（場合によっては第六感まで）総動員して練習に取り組むこと。初めて学ぶ言葉ですから間違えるのは当たり前。誤りを恐れずに積極的に授業に参加してください。江口は様子を見て補助教材を使用するかも知れません。		<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> CREPIEUX, CALLENS, TAKASE, NEGISHI 著『スパイラルー日本人初心者のためのフランス語教材』HACHETTE-PEARSON EDUCATION JAPAN (税込) 2,499円		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 1) 挨拶、その1 2) 挨拶、その2 3) さあ、自己紹介 4) 今度は人も紹介してみよう 5) 好きなものを言う、好きか嫌いか 6) 注文してみよう 7) どこかへ行こう 8) どんな人か、どんな物か言ってみよう 9) 買い物をしよう 10) 過去のことを語ってみよう		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 統一基準に依拠しつつ、定期試験のみでなく平常時にも小テストを行い、それらも含め、総合的に判断する。		
<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 可否の基準についてはシラバス43ページを参照のこと。「秀、優、良、可」については、評価確定後、基準を掲示する。				
<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 昨年度と同じ教科書を使うが、再履修者以外は必ず教科書を新たに購入すること。辞書については追って指示する。				

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	フランス語 I (9年度カリ用) <French I>		
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	2	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	I 通年
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	尾形 弘人 <Hiroto Ogata>	<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	5 2 1
<b>Office Hours</b>	火・木 13:00 から 14:30		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>	辞書を片手に簡単な文章をじっくり読みながら、フランス語の基本構造を理解する。		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>	テキストは皆さんと相談の上、決定します。		
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>	未定		
<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>	総合的に判断する。		
<b>5.成績評価の基準</b>	評価確定後、基準を掲示する。		
<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>	とにかく、出席重視		

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	フランス語IIA1 (火・木) <French II >		
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	4	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	II 通年
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	ニコラ・ジェゴンド・江口 修 <Nicolas Jegonday/Osamu Eguchi >	<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	江口 5 2 3
<b>Office Hours</b>	江口：火・木 14：30～16：00 (メールでの事前連絡が望ましい)		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>	一年次で身につけたフランス語の運用能力(話す、聴く、読む、書く)をさらに定着・発展させることが目的。主役は学生諸君。教師とのやり取りやグループ活動では、間違いを恐れずに積極的に参加してください。		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>	ジェゴンドは1年次の教科書『ディアログ』を継続し、会話中心の口頭練習を主に行う。木曜日の江口の授業は2号館の第3演習室が使える場合は、様々なメディアを用いてフランス語へのアプローチを試みる。		
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>	ジェゴンド：1年次の『ディアログ』を継続使用(持っていない学生は下記の5「注意事項」を参照のこと。江口は履修学生諸君とのインタビューの後自作教材を使うかあるいは適当な補助教材を使うか決定する。		
<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>	定期試験、課題、出席率、教室での関わり振りその他により、総合的に判断します。		
<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>	合否の基準についてはシラバス43ページを参照のこと。「秀、優、良、可」については、評価確定後、基準を掲示する。		
<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>	ジェゴンド使用の『ディアログ』をもっていない学生は、江口の授業で申し出ること。		

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	フランス語 A2(火・木) <French >			
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	4	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	II	通年
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	高橋 純・遠藤史子 <Atsushi Takahashi/Fumiko Endo>		<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	高橋 525
<b>Office Hours</b>	火曜日・木曜日 12:00~14:30			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>		Leçon 10: Ja souhaite qu' il fasse beau. +聴き取りテスト2回 以上に加え、映画シナリオ、旅行会話当の視聴覚教材を利用するとともに、適宜プリントを配布して学習の補助とする。		
<p>[目的] 一年次で習得したフランス語の知識を整理・復習をしながら自分の事を言う、そして聞き取りの力をつけることをポイントにする。</p> <p>[方法] フランス語 I で習得した知識を発展的に応用し活用して、フランス語の理解力・運用能力の向上を目指す。日常生活に始まる様々な領域から、そこで発信される多彩なフランス語の表現を取り上げ、それらを理解する努力を通じて、そのために必要な道具としてのフランス語の知識を増やし、背景にあるフランス文化・社会の理解を深める。コミュニケーションにおける成句的で有効な表現を集中的に教え、併せて、1年次の授業では尽くせなかった文法的知識の補足をする。</p>		<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 阿南婦美代著『私のホームステイ』白水社、¥2100		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 読み、書き、聞き、話す4技能を対象として総合的に評価する。定期試験のみでなく平常時の小テストも課す。		
<p>以下のような使用テキストの内容にしたがって進める。</p> <p>Leçon 0: Bonne journée Leçon 1: C' est la saison des cerises en fleur. Leçon 2: Qu' est-ce qu' elle fait dans la vie? Leçon 3: Quel temps fait-il au Japon ? Leçon 4: Ma mère y va avec nous. Leçon 5: J' ai téléphoné à ma mère. Leçon 6: Jet e raconterai ma première experience. Leçon 7: Je préfère acheter du riz rond. Leçon 8: Ah, je ne le savais pas. Leçon 9: J' aimerais apprendre à faire des crêpes.</p>		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 合否の基準についてはシラバス43ページを参照のこと。平常点の割合、配分等具体的な評価方法については最初の授業時に説明する。		
		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 火曜日、木曜日共通のテキスト。出席重視。		

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	フランス語IIB1 (火) <French II>			
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	2	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	II	通年
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	江口 修 <Osamu Eguchi>		<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	523
<b>Office Hours</b>	火・木 14:30~16:00 (メールでの事前連絡が望ましい)			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 合否の基準についてはシラバス43ページを参照のこと。「秀、優、良、可」については、評価確定後、基準を掲示する。		
<p>一年次で身につけたフランス語の運用能力をさらに発展させることが目的。しかし、週一回だけのこのクラスでは、少し変わったアングルから攻めてみよう。「カラオケでフランス語の歌を!」、すなわちフランス語の歌を一曲完全に歌えるようになるというのである。なぜならフランス語に固有のリズムやメロディーを的確に示しているのが「歌」なのだから。</p>		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 無断欠席が連続した場合(4回がめやす)は即「不可」(0点)となる。		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>				
<p>1) まずは聞いてみよういろいろな歌 2) 自分の好きなリズム、メロディーを見つけよう 3) 発音の矯正とリズムへの乗せ方 4) 歌詞を覚えてしまおう 5) さあシャンソンコンクールだ</p>				
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>				
『シャンソンで覚えるフランス語―1』、大野修平/野村二郎著 (第三書房) ¥2,940				
<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>				
このクラスは一曲を最後まで歌えるようななった時点で合格。歌の難易度や歌唱の完成度、歌詞の内容理解の表出法などが加算されて成績となる。試験は行わない。				

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	フランス語ⅡB2 (火) <French II>			
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	2	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	Ⅱ	通年
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	尾形 弘人 <Hiroto Ogata>	<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	521	
<b>Office Hours</b>	火・木 13:00 から 14:30			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 1年次で学んだ文法事項を完全に定着させるとともに、実用フランス語技能検定試験3級(あわよくば準2級)合格を目標として、フランス語文法修得の一応の完成を目指す。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 定期試験、課題、出席率、予習の有無、積極性など、総合的に判断する。		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 豊富な練習問題をひたすら解く。1課から12課までは名詞を軸に、代名詞、冠詞、形容詞、指示詞などを復習する(動詞は現在形)。13課から19課は動詞を軸に、様々な時制や法をマスターする。また、発音練習にも力を入れたい。		<b>5.成績評価の基準</b> 可否の基準についてはシラバス43ページを参照のこと。「秀、優、良、可」については、評価確定後、基準を掲示する。		
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 鈴木隆芳他著『フランス語文法の単位』、駿河台出版社、¥2500		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 予習は必須。また、予習の際には発音練習も怠らないこと。		

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	フランス語ⅡB3 (木) <French II>			
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	2	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	Ⅱ	通年
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	尾形 弘人 <Hiroto Ogata>	<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	521	
<b>Office Hours</b>	火・木 13:00 から 14:30			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 配布プリントにより、1年次に学んだ基礎を確認するとともに未習事項を補完した上で、中級程度の時事フランス語を読む。教科書は日本人学習者向けに書かれており、内容はアップ・トゥ・デート。やや骨のある文章の精密な読解を通じてフランス語のレヴェル・アップを目指すとともに、フランスの社会や文化の特徴、フランス人の考え方や物の見方などを読み取ってもらいたい。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 定期試験(持込可)、課題、出席率、予習の有無、積極性など、総合的に判断する。		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 以下にタイトルをいくつか紹介します。 第1課：パリっ子のための自転車サービス 第2課：美食の食堂 第3課：五月、黄金月間 第4課：ピレネーの熊たちを保護すべきか？ 第5課：星の王子様のデッサンが見つかった 第6課：スポーツ、それはヘルスだ 第7課：美術館のアルセーヌ・ルパン 第8課：北ヨーロッパ人はフランスが好きだ 第9課：フランスで最も有名な隠居ジダン 第10課：侵略者たち (以下略、計20課)		<b>5.成績評価の基準</b> 可否の基準についてはシラバス43ページを参照のこと。「秀、優、良、可」については、評価確定後、基準を掲示する。		
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> クリスチャン・ボームル著『時事フランス語(2007年度版)』、朝日出版社、¥1900		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 授業では読解が中心となるが、フランス語はやはり発音できなければ面白くない。予習に際しては、各自、発音も練習すること。		



科目名<Subject>	中国語 1 (火・木)	<Chinese >		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>		通年
担当教員名<Name>	裴 崢・今野美香 <Pei zheng/Mika Konno>	研究室番号<Office>	裴 308	
Office Hours	(裴)火 13:30~15:30			
<p>(火曜日：裴教員分)</p> <p><b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 中国語の基礎の習得。簡単な中国語を読み、書き、話し、聞ける能力の習得を目的とします。 発音や基本文型は耳から学び、使いこなせるように練習を繰り返します。受講者が授業活動に積極的に参加できるように配慮し、中国語の基礎を、実践を通して楽しく習得できるように努めます。</p> <p><b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 日本人学生と中国人留学生との会話を生き生きと描いたテキストを使って、基本的な表現を場面の中で勉強します。</p> <p><b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 楊凱栄・張麗群『表現する中国語 スリム版 初級会話テキスト』(白帝社)</p> <p><b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 定期試験 50%、出席 30%、授業態度 20%、授業回数の 1/3 以上欠席した者は、自動的に単位取得の権利を失います。</p> <p><b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 秀 前後期末の定期試験の点数の平均、および出席点、平常点、各授業時間内に適宜実施される小テストの点数などを総合的に評価した評点が 90 点以上の者。 初級程度の中国語文法、語彙力、四技能(聞く・話す・読む・書く)を完全に習得したと評価できる者。 優 前後期末の定期試験の点数の平均、および出席点、平</p> <p>常点、各授業時間内に適宜実施される小テストの点数などを総合的に評価した評点が 80 点以上、89 点未満の者。 初級程度の中国語文法、語彙力、四技能(聞く・話す・読む・書く)をほぼ完全に習得したと評価できる者。 良 前後期末の定期試験の点数の平均、および出席点、平常点、各授業時間内に適宜実施される小テストの点数などを総合的に評価した評点が 70 点以上、79 点未満の者。 初級程度の中国語文法、語彙力、四技能(聞く・話す・読む・書く)を相当程度に習得したと評価できる者。 可 前後期末の定期試験の点数の平均、および出席点、平常点、各授業時間内に適宜実施される小テストの点数などを総合的に評価した評点が 60 点以上、69 点未満の者。 初級程度の中国語文法、語彙力、四技能(聞く・話す・読む・書く)を過半は習得したと評価できる者。</p> <p><b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 二人の教官の授業は連動しており、4 単位は一括して認定します。受講者の皆さんには、積極的に授業に参加することを希望します。予習と復習をして授業に参加して下さい。中国語辞典は必須です。</p>				

科目名<Subject>	中国語 1 (火・木)	<Chinese >		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>		通年
担当教員名<Name>	裴 崢・今野美香 <Pei zheng/Mika Konno>	研究室番号<Office>	裴 308	
Office Hours	(裴)火 13:30~15:30			
<p>(木曜日：今野教員分)</p> <p><b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 中国語の学習を通して中国の文化思想を理解し、更には、他文化をいかに理解するのかを考える力を育むことを目的とする。中国語独特の発音、基本文法、日常的な語彙を習得することにより、平易な文章の読解、日常最低限の会話、簡単な作文ができるようにする。</p> <p><b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 視聴覚教材を活用し正確な発音を習得する。又、教科書を用いて、中国語の言語感覚を身につける。</p> <p><b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 『ひねくれ燕燕 - ジョークで中国語入門 - 』相原茂 郭雲輝 朝日出版社</p> <p><b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 定期試験 70%、平常点 30% で評価する。平常点とは、平常授業時に度々行う小テスト、出席、授業態度である。</p> <p><b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 秀：【4】における評価方法により、9 割以上を取得し、学習した内容をほぼ完璧に習得した者。 優：【4】における評価方法により 8 割以上 9 割未満を取得し、学習した内容を優良に習得した者。 良：【4】における評価方法により 7 割以上 8 割未満を取得し、学習した内容を良好に習得した者。 可：【4】における評価方法により 6 割以上 7 割未満を取得し、中国語 に進む最低限度の学力を備えた者。</p> <p><b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 言語は実生活において実際に使われているものです。学習と練習により必ず活用できるようになりますから、段階ごとにマスターしていきましょう。</p>				

科目名<Subject>	中国語 2 (火・木)	<Chinese >		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>		通年
担当教員名<Name>	谷内哲治・裴 崢<Tetsuji Taniuchi/Pei Zheng>	研究室番号<Office>	裴 308	
Office Hours	(裴)火 13:30~15:30			
<p>(火曜日：谷内教員分)</p> <p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>          これからますます重要となる中国語を、歴史、文化、生活習慣から生きた言葉として学び、言葉を通じて中国に対する理解を深めることを目的とする。ダイアログを繰り返し練習し、基本語彙、基本文型、基本文法を身につけることで、簡単な日常会話を習得する。</p> <p>前学期 - 中国語の音の構成を理解し、独特のイントネーションを覚えるためにテキストの録音テープやビデオを活用する。併せて、基本的な文型や文法、基本語彙の簡体字を学ぶことで中国語の特徴を理解し中国語のアウトラインを把握する。</p> <p>後学期 - 中国語の基本文型、短文を繰り返し練習し確実に身につけることで、実践でも応用出来る様にする。</p> <p>テキストは必ず予習しておくこと！ ビデオを鑑賞して、中国の文化や生活習慣を知る。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>          前学期 - テキスト発音編・第1課から第7課          後学期 - テキスト第8課から第16課</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>          『中国語ポイント55』白水社 本間史・孟広学 共著</p> <p>参考書          『標準中国語辞典』上野恵司 白帝社          『簡約現代中国語辞典』香坂順一 光生館          『プログレッシブ中国語辞典』小学館          『クラウン中日辞典』三省堂</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>          学期末試験 70%、平常点 30% (出席回数・小テスト・授業態度など)で総合評価する。</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>          授業開始時に配布する授業計画書及び口頭で説明する。</p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>          授業を楽しむ方法は、予習をして積極的に授業に参加することです。</p>				

科目名<Subject>	中国語 2 (火・木)	<Chinese >		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>		通年
担当教員名<Name>	谷内哲治・裴 崢<Tetsuji Taniuchi/Pei Zheng>	研究室番号<Office>	裴 308	
Office Hours	(裴)火 13:30~15:30			
<p>(木曜日：裴教員分)</p> <p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>          中国語の基礎の習得。簡単な中国語を読み、書き、話し、聞ける能力の習得を目的とします。          発音や基本文型は耳から学び、使いこなせるように練習を繰り返します。受講者が授業活動に積極的に参加できるように配慮し、中国語の基礎を、実践を通して楽しく習得できるように努めます。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>          日本人学生と中国人留学生との会話を生き生きと描いたテキストを使って、基本的な表現を場面の中で勉強します。</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>          楊凱栄・張麗群『表現する中国語 スリム版 初級会話テキスト』(白帝社)</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>          定期試験 50%、出席 30%、授業態度 20%、授業回数の1/3以上欠席した者は、自動的に単位取得の権利を失います。</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>          秀          前後期末の定期試験の点数の平均、および出席点、平常点、各授業時間内に適宜実施される小テストの点数などを総合的に評価した評点が90点以上の者。          初級程度の中国語文法、語彙力、四技能(聞く・話す・読む・書く)を完全に習得したと評価できる者。</p> <p>優          前後期末の定期試験の点数の平均、および出席点、平常点、各授業時間内に適宜実施される小テストの点数などを総合的に評価した評点が80点以上、89点未満の者。          初級程度の中国語文法、語彙力、四技能(聞く・話す・読む・書く)をほぼ完全に習得したと評価できる者。</p> <p>良          前後期末の定期試験の点数の平均、および出席点、平常点、各授業時間内に適宜実施される小テストの点数などを総合的に評価した評点が70点以上、79点未満の者。          初級程度の中国語文法、語彙力、四技能(聞く・話す・読む・書く)を相当程度に習得したと評価できる者。</p> <p>可          前後期末の定期試験の点数の平均、および出席点、平常点、各授業時間内に適宜実施される小テストの点数などを総合的に評価した評点が60点以上、69点未満の者。          初級程度の中国語文法、語彙力、四技能(聞く・話す・読む・書く)を過半は習得したと評価できる者。</p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>          二人の教官の授業は連動しており、4単位は一括して認定します。受講者の皆さんには、積極的に授業に参加することを希望します。予習と復習をして授業に参加して下さい。中国語辞典は必須です。</p>				

科目名<Subject>	中国語 3 (火・木)	<Chinese >		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>		通年
担当教員名<Name>	霜鳥かおり・楊志剛<Kaori Shimotori /Yang Zhigang>	研究室番号<Office>		
Office Hours				
<p>(火曜日：霜鳥教員分)</p> <p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 中国語の基礎語彙・文法を学び、簡単な会話・読解の力を身につけることを目的とします。テキストに従って基礎文法を学び、その上で、学んだ単語と文型を運用して表現できるよう、読む・書く・聞く・話す練習をします。視覚的にはなじみやすい中国語ですが、音声コミュニケーション能力を身につけることを目指し、口と耳を積極的に使って参加してください。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> まず初めの数時間でピンイン・発音を学びます。その後、課ごとに基礎語彙と文法を学んでいきます。また、それを運用した会話を練習します。</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 本間 史・孟 広学『中国語ポイント55』(白水社)</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 試験と平常点(出席・授業に臨む態度・小テストの成績)で評価します。</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 授業開始後に通知します。</p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 課ごとに小テストを行います。復習に力を入れて臨んでください。</p>				

科目名<Subject>	中国語 3 (火・木)	<Chinese >		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>		通年
担当教員名<Name>	霜鳥かおり・楊志剛<Kaori Shimotori /Yang Zhigang>	研究室番号<Office>		
Office Hours				
<p>(木曜日：楊教員分)</p> <p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 初めて中国語を学ぶ人を対象として、発音とその表記法(ピンイン)、簡単な文の基本構造と基本文型、及び違う場面における簡単な表現形式を学び、簡単な会話ができるようになることを目標とする。テキストによる会話練習や文法の説明を並行に行い、ビデオによる現代中国社会、文化事情の紹介。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 前期 (1) ガイダンス授業、中国語の発音(1) (2) 中国語の発音(2) (3) 中国語の発音(3) (4) 中国語の発音(4) (5) 第1課 発音段階テスト 会話：お名前は (6) 第1課 文法：1人称代名詞 2「是」の文 (7) 第2課 会話：これはなんですか (8) 第2課 文法：1疑問詞疑問文 2「的」の用法 (9) 第3課 会話：どこにゆきますか (10) 第3課 文法：1動詞の文 2「所有」を表す「有」 (11) 第4課 会話：この指輪はいくらですか (12) 第4課 文法：1助数詞 2形容詞の文 (13) 第5課 会話：食事しましたか (14) 第5課 文法：1完了を表す「了」 (15) 復習と試験 後期 (1) 第6課 会話：今晚、用事がありますか (2) 第6課 文法：1日付・時刻を表す語 (3) 第7課 会話：どこに住んでいますか (4) 第7課 文法：1介詞「在・離」 2反復疑問文 (5) 第8課 会話：週に何日働きますか (6) 第8課 文法：1時量詞 2助動詞「得」 (7) 第9課 会話：アメリカに行ったことがありますか (8) 第9課 文法：1経験を表す「過」 2「是・・・的」文 (9) テスト 第10課 会話：お酒につよいですか (10) 第10課 文法：1助動詞「能・会」 2程度補語 (11) 第11課 会話：何をしていますか (12) 第11課 文法：1動作の進行 2選択疑問 (13) 第12課 会話：北京の人口は上海より多いですか (14) 第12課 文法：1比較構文 2類似表現 (15) 復習と試験</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 『(最新版)中国語はじめの一步』 竹島金吾 白水社</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 出席度を重視し、本文の暗記、中間テストや定期試験の点数を合わせて総合に評価する。</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 秀(100~90)発音が綺麗にでき、文法項目も把握し、勉強した内容をめくって流暢に話すことができる。 優(89~80)発音が基本的にでき、文法項目もほぼ把握し、会話内容をゆくり話すことができる。 良(79~70)発音にすこし癖があり、基本的な文法項目を把握し、会話内容にしばしば間違いがある。 可(69~60)発音を訂正する必要がある、基本文法にしばしば間違いがあり、会話がある程度話せる。 不可(59~0)発音を聞きにくく、基本文法には頻繁に間違いがあり、会話がほぼできない。</p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 中国語辞典は必須。</p>				

科目名<Subject>	中国語 (9年度カリ用)	< Chinese I >	
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	通年
担当教員名<Name>	裴 崢 <Pei zheng>	研究室番号<Office>	308
Office Hours	火 13:00~15:00		
<p>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt; 中国語の基礎の習得。簡単な中国語を読み、書き、話し、聞ける能力の習得を目的とします。具体的な授業の進め方については、開講時に受講者と相談の上決めたいと思います。 この授業は、学生と教師との対話型・双方向性の授業です。</p> <p>2. 授業内容&lt;Course contents&gt; ・発音とピンインの習得 ・基本的な表現の習熟 ・簡体字の理解・習得 ・中国語の「態」や「補語」等の重要な文法事項</p> <p>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt; 陳淑梅 蘇明『中国を歩こう』(金星堂)</p> <p>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt; 前期・後期の定期試験の点数及び出席状況、平常点等を総合して評価します。</p> <p>5. 成績評価の基準 優 前後期末の定期試験の点数の平均、および出席点、平常点を総合的に評価した評点が80点以上の者。 初級程度の中国語文法、語彙力、四技能(聞く・話す・読む・書く)をおおむね習得したと評価できる者にこの評価を与える。</p> <p>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt; 予習と復習をして授業に参加して下さい。中国語辞典は必須です。</p>			

科目名<Subject>	中国語 A1 (火・木)	< Chinese >	
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	通年
担当教員名<Name>	裴 崢・楊志剛 <Pei Zheng/Yang Zhigang>	研究室番号<Office>	裴 308
Office Hours	(裴)火 13:30~15:30		
<p>(火曜日：裴教員分)</p> <p>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt; 中国語の基礎から応用レベルの習得。基礎文法の完成と中級程度の読書き、会話能力の育成を目的とします。授業は基本的にテキストに従って進めます。身近な話題に親しみ、文の構造と機能を十分理解した上、授業活動を通して応用力を高めます。学生と教師、学生相互間の反復実習を重視します。</p> <p>2. 授業内容&lt;Course contents&gt; 「文化紹介」「大学生活」「小さな物語」というバラエティーなテーマを取上げたテキストを使います。生き生きとした話題、いろいろな文体の文章を楽しみながら、現代中国の様々な側面への関心と理解も深めて行きましょう。</p> <p>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt; 杉野元子・黄漢青『大学生のための現代中国語 12 話』(白帝社)</p> <p>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt; 定期試験 50%、出席 30%、授業態度 20%。授業回数の 1/3 以上欠席した者は、自動的に単位取得の権利を失います。</p> <p>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt; 秀 前後期末の定期試験の点数の平均、および出席点、平常点、各授業時間内に適宜実施される小テストの点数などを総合的に評価した評点が90点以上の者。 中級程度の中国語文法、語彙力、四技能(聞く・話す・読む・書く)を完全に習得したと評価できる者。 優 前後期末の定期試験の点数の平均、および出席点、平常点、各授業時間内に適宜実施される小テストの点数などを総合的に評価した評点が80点以上、89点未満の者。 中級程度の中国語文法、語彙力、四技能(聞く・話す・読む・書く)をほぼ完全に習得したと評価できる者。 良 前後期末の定期試験の点数の平均、および出席点、平常点、各授業時間内に適宜実施される小テストの点数などを総合的に評価した評点が70点以上、79点未満の者。 中級程度の中国語文法、語彙力、四技能(聞く・話す・読む・書く)を相当程度に習得したと評価できる者。 可 前後期末の定期試験の点数の平均、および出席点、平常点、各授業時間内に適宜実施される小テストの点数などを総合的に評価した評点が60点以上、69点未満の者。 中級程度の中国語文法、語彙力、四技能(聞く・話す・読む・書く)を過半は習得したと評価できる者。</p> <p>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt; 二人の教官の授業は連動しており、4単位は一括して認定します。受講者の皆さんには、積極的に授業に参加することを希望します。予習と復習をして授業に参加して下さい。中国語辞典は必須です。</p>			

科目名<Subject>	中国語 A1 (火・木)	<Chinese >		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>		通年
担当教員名<Name>	裴 崢・楊志剛 <Pei Zheng/Yang Zhigang>	研究室番号<Office>		裴 308
Office Hours	(裴)火 13:30~15:30			
<p>(木曜日：楊教員分)</p> <p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>  1年に学習した事柄を復習しつつ、会話と作文を中心にして中国語の表現力を高めることをめざし、中国語文学作品の精読による中国人のものの考え方及び表現方法を理解することを目標とする。テキストやプリントによって文法ポイントの説明や会話練習を行う。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>  前期  (1)ガイダンス授業と復習  (2)第1課 会話：中国に行く  (3)第1課 文法：1 助動詞「可以・要」 2 主述語文  (4)第2課 会話：ウーロン茶を飲む  (5)第2課 文法：1 原因を表す「因為」 2 逆接を表す「可是」  (6)第3課 会話：友だちをつくる  (7)第3課 文法：1 連動文 2 「是..的」の文  (8)復習とテスト  (9)第4課 会話：長城に登ろう  (10)第4課 文法：1 「了」の用法 2 副詞「就」  (11)第5課 会話：漢字を覚えよう  (12)第5課 文法：1 結果補語(1) 2 副詞「有点儿」  (13)第6課 会話：街を歩こう  (14)第6課 文法：1 存現文 2 動詞構造  (15)復習と試験  後期  (1)復習  (2)第7課 会話：中国映画を見よう  (3)第7課 文法：1 動作の持続 2 部分否定  (4)第8課 会話：シルクを買おう  (5)第8課 文法：1 方向補語 2 使役表現</p> <p>(6)第9課 会話：中華を食べよう  (7)第9課 文法：1 可能補語 2 強調表現  (8)復習とテスト  (9)第10課 会話：太極拳を習おう  (10)第10課 文法：1 目的を表す「為了」 2  (11)第11課 会話：水滸伝を楽しもう  (12)第11課 文法：1 結果補語(2) 受身文  (13)第12課 会話：春節を過ごそう  (14)第12課 文法：1 処置文 2 「快・・・了」の用法  (15)復習と試験</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>  『新版 中国語さらなる一歩』 竹島 金吾 白水社</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>  出席度を重視し、中間テストと定期試験の点数を合わせて総合評価する。</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>  秀(100~90)発音には問題なく、普通のスピードでの中国語を聞き取り、長い文を文法通りに流暢に話せる。  優(89~80)発音には問題なく、ゆっくりめでの中国語を聞き取り、長い文を文法通りにある程度流暢に話せる。  良(79~70)発音には支障のないわずかな癖があり、誤差がわずかなら長文を話すことができる。  可(69~60)勉強した内容をほぼ把握し、まだ工夫する必要がある。  不可(59~0)以上の「可」の基準に達していないと認める</p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>  中国語辞典は必須</p>				

科目名<Subject>	中国語 A2 (火・木)	<Chinese >		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>		通年
担当教員名<Name>	谷内哲治・裴 崢 <Tetsuji Taniuchi/Pei Zheng>	研究室番号<Office>		裴 308
Office Hours	(裴)火 13:30~15:30			
<p>(火曜日：谷内教員分)</p> <p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>  中国語 で学んだ内容をさらに発展させ、併せて言葉を通じて中国の歴史や文化に対する理解をより深めることを目的とする。中国語による基本的なコミュニケーションを習得する。  前期 - 中国語 で学んだ基本的な文型や文法を再確認し、テキストの録音テープやビデオを活用してリスニングとリーディングのトレーニングを行う。  後期 - 前期に引き続き「話す」「聞く」「読む」さらに「書く」などの能力を習得し、実践にも応用できる能力を養う。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>  前学期 - テキスト第0課・第1課から第5課  後学期 - テキスト第6課から第10課・課外課</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>  『スタンダード・チャイニーズ2』上海旅行編 朝日出版社  八木章好 他共著</p> <p>参考書  『標準中国語辞典』上野恵司 白帝社</p> <p>『簡訳現代中国語辞典』香坂順一 光生館  『プログレッシブ中国語辞典』小学館  『クラウン中日辞典』三省堂  『クラウン中日辞典』三省堂</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>  学期末試験70%、平常点30% (出席回数・小テスト・授業態度など)で総合評価する。</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>  授業開始時に配布する授業計画書及び口頭で説明する。</p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>  授業を楽しむ方法は、予習をして積極的に授業に参加することです。</p>				

科目名<Subject>	中国語 A2 (火・木)	<Chinese >		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>		通年
担当教員名<Name>	谷内哲治・裴 嶸 <Tetsuji Taniuchi/Pei Zheng>	研究室番号<Office>	裴 308	
Office Hours	(裴)火 13:30~15:30			
<p>(木曜日：裴教員分)</p> <p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 中国語の基礎から応用レベルの習得。基礎文法の完成と中級程度の読書き、会話能力の育成を目的とします。授業は基本的にテキストに従って進行します。身近な話題に親しみ、文の構造と機能を十分理解した上、授業活動を通して応用力を高めます。学生と教師、学生相互間の反復実習を重視します。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 「文化紹介」「大学生生活」「小さな物語」というパラエティックなテーマを取上げたテキストを使います。生き生きとした話題、いろいろな文体の文章を楽しみながら、現代中国の様々な側面への関心と理解も深めていきましょう。</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 杉野元子・黄漢青『大学生のための現代中国語 12 話』(白帝社)</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 定期試験 50%、出席 30%、授業態度 20%。授業回数の 1/3 以上欠席した者は、自動的に単位取得の権利を失います。</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 秀 前後期末の定期試験の点数の平均、および出席点、平常点、各授業時間内に適宜実施される小テストの点数など</p>		<p>どを総合的に評価した評点が 90 点以上の者。 中級程度の中国語文法、語彙力、四技能(聞く・話す・読む・書く)を完全に習得したと評価できる者。 優 前後期末の定期試験の点数の平均、および出席点、平常点、各授業時間内に適宜実施される小テストの点数などを総合的に評価した評点が 80 点以上、89 点未満の者。 中級程度の中国語文法、語彙力、四技能(聞く・話す・読む・書く)をほぼ完全に習得したと評価できる者。 良 前後期末の定期試験の点数の平均、および出席点、平常点、各授業時間内に適宜実施される小テストの点数などを総合的に評価した評点が 70 点以上、79 点未満の者。 中級程度の中国語文法、語彙力、四技能(聞く・話す・読む・書く)を相当程度に習得したと評価できる者。 可 前後期末の定期試験の点数の平均、および出席点、平常点、各授業時間内に適宜実施される小テストの点数などを総合的に評価した評点が 60 点以上、69 点未満の者。 中級程度の中国語文法、語彙力、四技能(聞く・話す・読む・書く)を過半は習得したと評価できる者。</p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 二人の教官の授業は連動しており、4 単位は一括して認定します。受講者の皆さんには、積極的に授業に参加することを希望します。予習と復習をして授業に参加して下さい。中国語辞典は必須です。</p>		

科目名<Subject>	中国語 B1 (火)	<Chinese >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>		通年
担当教員名<Name>	霜鳥 かおり <Kaori Shimotori>	研究室番号<Office>		
Office Hours				
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 中国語 で学んだ基本的な単語や表現を復習し定着を図るとともに更に発展させ、テキストの単語と文法を運用して中国語で表現できるように、聞く・話す(読む・書く)練習をします。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 前期 1~6 課、後期 7~12 課</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 竹島金吾 監修 『新版 中国語さらなる一歩』(白水社)</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 試験と平常点(出席・授業に臨む態度・小テストの成績)で評価します。</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 授業開始後に通知します。</p>		<p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 課ごとに小テストを行います。復習に力を入れて臨んでください。</p>		

科目名<Subject>	中国語 B2 (木)	<Chinese >	
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	通年
担当教員名<Name>	今野 美香	<Mika Konno>	研究室番号<Office>
Office Hours			
<p><b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 中国語Ⅰで学んだ内容を基礎として実用的な中国語を習得することにより、中国語Ⅰよりも更に進んで中国の文化思想を理解し、又、他文化をいかに理解するのかを考える力を鍛えることを目的とする。文章の基本構造を理解した上で、応用力を用いた文章の読解、日常的な会話、正しく品格のある作文ができるようにする。</p> <p><b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 外国人が初めて中国を訪れる際、必ずと言って良いほど遭遇する場面ごとに用いられる実際のな会話を習得することにより、応用力を身につける。又、それにより、中国語による思考ができる能力を養う。</p> <p><b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 『場面別・機能別 実用中国語会話』呉川 文光茹 郁文堂</p> <p><b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 定期試験 70%、平常点 30%で評価する。平常点とは、平常授業時に度々行う小テスト、出席、授業態度である。</p>		<p><b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 秀：【4】における評価方法により、9割以上を取得し、学習した内容をほぼ完璧に習得した者。 優：【4】における評価方法により8割以上9割未満を取得し、学習した内容を優良に習得した者。 良：【4】における評価方法により7割以上8割未満を取得し、学習した内容を良好に習得した者。 可：【4】における評価方法により6割以上7割未満を取得し、中国語として最低限度の学力を備えた者。</p> <p><b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 実際に中国語を使えるようになった時、新しい世界が開けます。生き生きとした会話を楽しんで学習しましょう。</p>	

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	スペイン語 I (火・木) <Spanish I>	
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	4	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b> I 通年
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	山田真史・守下幸子 <Mafumi Yamada/Sachiko Morishita>	<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b> 山田 513
<b>Office Hours</b>	山田: Mediante cita concertada previamente	
<p>(火曜日) 山田教員分</p> <p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>          スペイン語の文法, 読解, 会話の基本を学びます。初めての外国語のはずです。授業への準備が必ず必要です。ちゃんとついてくれば, スペイン語IIの終わる頃にはスペインの新聞, 雑誌が読めるようになります。アカデミックな文体も読めるでしょう。しかし決して楽な語学ではありません。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>          発音から始めて, テクストの構成に従って, 進めます。</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>          スペイン語1 2課 マロト著, 白水社          現代スペイン語辞典, 白水社</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>          平常の授業での質問への答え, レポート数回, 小テスト, 定期試験, 出席によります。</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b></p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>          授業数の1/3を越える欠席があれば受験資格がありません。遅刻は認めません。毎回出席を確認します。</p> <p>(木曜日) 守下教員分</p> <p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>          初級のスペイン語を学習し, 聴く, 読む, 書く, 話すことを目標にする。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>          練習問題の多いテキストを使用するが, 更に口頭の練習も取り入れる。</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>          EN DIRECTO - NIVEL ELEMENTAL          著者: Aquilino Sánchez Pérez          発行: Sociedad General Española de Librería S. A. - Madrid</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>          作文, 小テスト, 定期試験, 出席, 積極的な参加を総合して評価する。</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b></p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b></p>		

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	スペイン語 I (9年度カリ用) <Spanish I>	
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	2	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b> I 通年
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	山田 真史 <Mafumi Yamada>	<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b> 5 1 3
<b>Office Hours</b>	Mediante cita concertada previamente	
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>          スペイン語の文法, 読解, 会話の基礎を学びます。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>          発音から始めてテキストの構成に従って進めます。          今年度はかなり厳しくすすめます。          相応の負担があります。</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>          スペイン語1 2課 マロト著, 白水社          現代スペイン語辞典, 白水社</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>          平常の授業での質問への答え, レポート数回, 小テスト, 定期試験, 出席によります。</p> <p><b>5.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>          授業数の1/3を越える欠席があれば受験資格がありません。遅刻は認めません。毎回出席を確認します。          数年越し履修を続け, 今もって単位修得がならないわけですから, 相当の努力, 全授業出席の心構えは必要です。          スペイン語IIAもしくはIIBとの同時履修は認められません。</p>		



<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	スペイン語II A (火・木)		〈Spanish II〉	
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	4	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	II	通年
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	山田真史・守下幸子 〈Mafumi Yamada/Sachiko Morishita〉		<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	山田 513
<b>Office Hours</b>	山田 : Mediante cita concertada previamente			
<p>(火曜日) 山田教員分</p> <p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> スペイン人やスペインの生活に密着したストーリーを読み、その内容についてのスペイン語の問いにスペイン語で答える。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> テキストの構成に従って進みます。予習が必ず必要です。そうしないと、何が何だかわからなくなります。</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> Nuevas Narraciones Españolas 2 (タイトル) SGEL (出版社)</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 平常の授業での質問への答え、レポート数回、小テスト、定期試験、出席によります。</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b></p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> スペイン語 I の単位をすべて修得していない限り、履修は認めません。授業数の 1 / 3 を越える欠席があれば受験資格がありません。遅刻は認めません。毎回出席を確認します。</p>		<p>(木曜日) 守下教員分</p> <p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 一年次に使用した教科書を継続し、スペイン語の文法を完成する。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> テキストを進行させながら、会話や作文の能力を伸ばさせる。</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> ESPAÑOL 2000 - NIVEL ELEMENTAL 著者 : J. Sanchez Lobato / N. García Fernandez 発行 : Sociedad General Española de Librería S. A. - Madrid</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 作文、小テスト、定期試験、出席、積極的な参加を総合して評価する。</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b></p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b></p>		

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	スペイン語IIB (木)		〈Spanish II〉	
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	2	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	II	通年
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	山田 真史 〈Mafumi Yamada〉		<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	5 1 3
<b>Office Hours</b>	Mediante cita concertada previamente			
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> スペイン人やスペインの生活に密着したストーリーを読み、その内容についてのスペイン語の問いにスペイン語で答える。(スペイン語II A と同様です。)</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> テキストの構成に従って進みます。予習が必ず必要です。そうしないと、何が何だかわからなくなります。</p>		<p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> Nuevas Narraciones Españolas 1 (タイトル) SGEL (出版社)</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 平常の授業での質問への答え、レポート数回、小テスト、定期試験、出席によります。</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b></p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> スペイン語 I の単位をすべて修得していない限り、履修は認めません。 授業数の 1 / 3 を越える欠席があれば受験資格がありません。遅刻は認めません。毎回出席を確認します。</p>		

科目名<Subject>	ロシア語 (火・木)	<Russian >		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>		通年
担当教員名<Name>	(火): 山田久就 (前期)・スペヴァコフスキー (後期) (木): 山田久就	研究室番号<Office>	山田 5 4 2	
Office Hours	在室時いつでも可			
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 実用的なロシア語の習得に必要な基礎知識を身につけることが主たる目的です。そのために必要な講義・練習を行います。 山田担当の授業ではコンピュータ画面をプロジェクターに投射し、必要に応じて、コンピュータ内の音声資料を利用して、授業を行います。		<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 定期試験(75%)および出席回数、遅刻回数、授業への参加態度、授業での応答(全体で25%)で評価します。 * 前後期別で半数以上の欠席をすると成績評価をしません。		
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 山田担当の授業では、文法、文字言語を中心とし、説明の後、多くの練習問題を行います。最初の数回、文字と発音に関する説明とそれに慣れるための練習を行い、その後、教科書の第1課から進めていきます。 後期に始まるスペヴァコフスキー担当の授業では音声言語を中心とし、ロシア語に慣れるための練習を様々なテーマに沿って繰り返し行います。		<b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 定期試験の基準の目安は、100点満点として、次のようになる。 90-100点: 授業で説明したロシア語の基礎に関する理解と知識が完全にある。 80-89点: 授業で説明したロシア語の基礎に関する理解と知識がかなりある。 70-79点: 授業で説明したロシア語の基礎に関する理解と知識が十分にある。 60-69点: 授業で説明したロシア語の基礎に関する理解と知識が最低限にある。 0-59点: 授業で説明したロシア語の基礎に関する理解と知識が不足している。		
<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> (山田) 教科書:「Курс русского языка I / ロシア語教程 (初級編)」、東京ロシア語学院。また、必要に応じてプリントを配布します。配布したプリントは下記のサイトに pdf ファイルで置きます。 <a href="http://www.otaru-uc.ac.jp/~hisanari/ja/classes/russian1">http://www.otaru-uc.ac.jp/~hisanari/ja/classes/russian1</a> (学内からのみアクセス可) (スペヴァコフスキー) プリントを配布します。		<b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> なし		

科目名<Subject>	ロシア語 (9年度カリ用)	<Russian >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>		通年
担当教員名<Name>	山田 久就	<Hisanari Yamada>	研究室番号<Office>	5 4 2
Office Hours	在室時いつでも可			
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 実用的なロシア語の習得に必要な基礎知識を身につけることが主たる目的です。		<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 定期試験(75%)および出席回数、遅刻回数、授業への参加態度、授業での応答(全体で25%)で評価します。 * 前後期別で半数以上の欠席をすると成績評価をしません。		
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 火、木のロシア語の授業の進度にあわせ、火、木の授業の予習と復習を兼ねて練習を繰り返します。ロシア語文法の中で具体的にどの点に重点を置いて練習するのかは授業への参加者の関心と必要性を考慮して決めます。		<b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 定期試験の基準の目安は、100点満点として、次のようになる。 90-100点: 授業で説明したロシア語の基礎に関する理解と知識が完全にある。 80-89点: 授業で説明したロシア語の基礎に関する理解と知識がかなりある。 70-79点: 授業で説明したロシア語の基礎に関する理解と知識が十分にある。 60-69点: 授業で説明したロシア語の基礎に関する理解と知識が最低限にある。 0-59点: 授業で説明したロシア語の基礎に関する理解と知識が不足している。		
<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 教科書:「Курс русского языка I / ロシア語教程 (初級編)」、東京ロシア語学院。また、必要に応じてプリントを配布します。		<b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> なし		

科目名<Subject>	ロシア語 A (火・木)	<Russian >		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>		通年
担当教員名<Name>	スベヴァコフスキー・山田久就 <Spevakovski/Hisanari Yamada>	研究室番号<Office>		5 4 2
Office Hours	在室時いつでも可			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> ロシア語 で学んだことを確定・発展させ、ロシア語の基礎的知識と運用能力を確実なものにすることを目的とします。 山田担当の授業ではコンピュータ画面をプロジェクターに投射し、必要に応じて、コンピュータ内の音声資料を利用して、授業を行います。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 定期試験(75%)および出席回数、遅刻回数、授業への参加態度、授業での応答(全体で25%)で評価します。 *前後期別で半数以上の欠席をすると成績評価をしません。		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 山田担当の授業では文法、文字言語を中心とし、多くの練習問題を行います。ロシア語 の授業で使用した教科書の残った箇所から始め、教科書を終わることを目指します。 スベヴァコフスキー担当の授業は音声言語中心に行われ、会話形式のテキストやビデオを使い、ロシア語に慣れるための練習を様々なテーマに沿って繰り返し行います。		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 定期試験の基準の目安は、100点満点として、次のようになる。 90-100点：授業で説明したロシア語の基礎に関する理解と知識が完全にある。 80-89点：授業で説明したロシア語の基礎に関する理解と知識がかなりある。 70-79点：授業で説明したロシア語の基礎に関する理解と知識が十分にある。 60-69点：授業で説明したロシア語の基礎に関する理解と知識が最低限にある。 0-59点：授業で説明したロシア語の基礎に関する理解と知識が不足している。		
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> (山田) 教科書：「Курс русского языка I / ロシア語教程 (初級編)」、東京ロシア語学院。また、必要に応じてプリントを配布します。配布したプリントは下記のサイトに pdf ファイルで置きます。 <a href="http://www.otaru-uc.ac.jp/~hisanari/ja/classes/russian2a">http://www.otaru-uc.ac.jp/~hisanari/ja/classes/russian2a</a> (学内からのみアクセス可) (スベヴァコフスキー) プリントを配布します。		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> なし		

科目名<Subject>	ロシア語 B (火)	<Russian >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>		通年
担当教員名<Name>	山田 久就 <Hisanari Yamada>	研究室番号<Office>		5 4 2
Office Hours	在室時いつでも可			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> ロシア語 で学んだことを確定・発展させ、ロシア語の基礎的知識と運用能力を確実なものにすることを目的とします。 コンピュータ画面をプロジェクターに投射し、必要に応じて、コンピュータ内の音声資料を利用して、授業を行います。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 定期試験(75%)および出席回数、遅刻回数、授業への参加態度、授業での応答(全体で25%)で評価します。 *前後期別で半数以上の欠席をすると成績評価をしません。		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 文法、文字言語を中心とし、多くの練習問題を行います。ロシア語 の授業で使用した教科書の残った箇所から始め、教科書を終わることを目指します。		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 定期試験の基準の目安は、100点満点として、次のようになる。 90-100点：授業で説明したロシア語の基礎に関する理解と知識が完全にある。 80-89点：授業で説明したロシア語の基礎に関する理解と知識がかなりある。 70-79点：授業で説明したロシア語の基礎に関する理解と知識が十分にある。 60-69点：授業で説明したロシア語の基礎に関する理解と知識が最低限にある。 0-59点：授業で説明したロシア語の基礎に関する理解と知識が不足している。		
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 教科書：「Курс русского языка I / ロシア語教程 (初級編)」、東京ロシア語学院。また、必要に応じてプリントを配布します。配布したプリントは下記のサイトに pdf ファイルで置きます。 <a href="http://www.otaru-uc.ac.jp/~hisanari/ja/classes/russian2b">http://www.otaru-uc.ac.jp/~hisanari/ja/classes/russian2b</a> (学内からのみアクセス可)		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> なし		

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	朝鮮語 I (火・木)		〈Korean I〉	
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	4	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	I	通年
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	宣 憲洋・小鹿照世<Hun-Yang Sun/Teruyo Koshika>		<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	
<b>Office Hours</b>				
<p><b>(火曜日) 宣教員分</b></p> <p><b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>  ハングル (文字) の創製原理を理解し、字母の名称を知り、正しく発音できる。簡単なあいさつができ、買い物や飲食店での注文ができる。ごく短い文を読み、書き、聞き取ることができる。口頭練習に重点を置きます。発音練習を兼ねて韓国のポップソングなど一緒に歌いましょう。</p> <p><b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b>  各課の内容は下記の通りですが、「朝鮮語1」では、このうち1～4と第1課～第19課までを学習します。  1. 「ハングル」文字と発音 (母音) 2. 子音  3. 名前をハングルで書いてみよう  4. 「かな」とハングル対照表  第1課 これは何ですか  第2課 これは机ですか  第3課 こんにちは  第4課 教室に何がありますか  第5課 今日どこで何をしていますか  第6課 人には顔があります  第7課 語幹・語尾・原形  第8課 今日は何日ですか  第9課 漢数詞  第10課 月日  第11課 今日は何曜日ですか  第12課 「hai」形  第13課 「hai」形の用法  第14課 固有数詞  第15課 数冠形詞  第16課 冠形詞</p> <p>第17課 冠形詞形語尾 (現在)  第18課 冠形詞形語尾 (過去)  第19課 冠形詞形語尾 (未来)  第20課 昨日何をしましたか  第21課 今日学校が終わったら何をするつもりですか  第22課 時間ができたら何をしたいですか  第23課 今度の休みに何をするつもりですか  第24課 将来何になりたいですか  第25課 宝くじで1億円当たったら、そのお金で何をしたいですか  第26課 言葉遊び (色彩形容詞と'ㅁ' 変則活用)  第27課 ことわざ ( )  第28課 (体)  第29課 間接語法  第30課 (端午)</p> <p><b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>  教科書: 『韓国語教科書 1』, 青山社, 2004年。  「コスモス朝和辞典」第2版 (白水社, 3,689円)、「新訂韓日辞典」(三修社, 5,600円)、「朝鮮語辞典」(小学館, 7,770円)の内いずれか一冊辞書を用意してください。</p> <p><b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>  出席 50%、試験の成績 50%</p> <p><b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b></p> <p><b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>  朝鮮語 I および朝鮮語 II Aは4単位分割不可能で、成績も2クラス分まとめて1本で出されます。</p>				

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	朝鮮語 I (火・木)		〈Korean I〉	
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	4	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	I	通年
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	宣 憲洋・小鹿照世<Hun-Yang Sun/Teruyo Koshika>		<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	
<b>Office Hours</b>				
<p><b>(木曜日) 小鹿教員分</b></p> <p><b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>  基本文字 (ハングル) の成り立ちを理解し、正しい発音ができる。基本文法、句型を学び簡単な日常会話の習得を目指します。文法を学習しそれと並行した対話型の授業です。パートナー練習では基礎的な語彙や言い回しを使って会話を楽しんでください。語学は積み重ねが大切ですから一課ごと確実に習得していきましょう。特に単語の習得に力を注いでください。</p> <p><b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b>  基本文字と発音、挨拶、名前をハングルで書く  自己紹介、物や人について尋ねる表現 (学生ですか、～です)  日常生活、習慣に関する表現 (丁寧形、動詞の活用、否定形、ドラマを見ます)  位置関係、存在に関する表現 (部屋の中になにがありますか)  うちつけた丁寧な表現 (略体丁寧形、動詞・形容詞の活用、否定形、学校に行きますか)  過去の行動に関する表現 (動詞の過去形、過去の否定形、土曜日に何をしましたか)  数字に関する表現 (漢、固有数詞、助数詞、物の値段など 3000ウォンです)  理由、原因、依頼の表現 (変則活用、写真見せてください)  願望、勧誘、比較、禁止の表現 (キムチチゲが食べたいです)  尊敬、予定の表現 (尊敬を表す特殊な言葉、尊敬の過去形 少々お待ちください)</p> <p><b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>  教科書; キャンパス韓国語 (曹美庚・李希姫著 白帝社)  辞書; ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典 (小学館)</p> <p><b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>  出席率 (35~40%) 定期試験 (45~50%) 小テスト (10%) その他 (授業参加姿勢、提出物等) により総合的に判断します。</p> <p><b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>  基本文字ハングルが書け、発音の規則を習得し正しく発音できる。  基礎文法を習得し、丁寧形、略体丁寧形を書き、発音し、聞き取ることが出来る。  基本的な動詞、形容詞の活用形を習得し簡単な日常会話ができる。  秀: 上記について秀でている  優: 上記について優れている  良: 上記について良好である  可: 上記について適宜対応できる。  不可: 上記について対応できない。</p> <p><b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>  新出の単語については予め自宅学習して授業に臨んでください。  プリントなどの配布物は必ずバインダーなどに保存すること。  単位については4単位分割不可能で、成績も火、木クラス分まとめて1本で出されます。</p>				

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	朝鮮語Ⅰ（9年度カリ用）		〈KoreanⅠ〉	
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	2	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	I	通年
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	宣 憲洋		<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	
<b>Office Hours</b>				
<p><b>(火曜日) 宣教員分</b></p> <p><b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>            ハングル（文字）の創製原理を理解し、字母の名称を知り、正しく発音できる。簡単なあいさつができ、買い物や飲食店での注文ができる。ごく短い文を読み、書き、聞き取ることができる。口頭練習に重点を置きます。発音練習を兼ねて韓国のポップソングなど一緒に歌いましょう。</p> <p><b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b>            各課の内容は下記の通りですが、「朝鮮語Ⅰ」では、このうち1～4と第1課～第19課までを学習します。            1. 「ハングル」文字と発音（母音） 2. 子音            3. 名前をハングルで書いてみよう            4. 「かな」とハングル対照表            第1課 これは何ですか            第2課 これは机ですか            第3課 こんにちは            第4課 教室に何がありますか            第5課 どこで何をしていますか            第6課 人には顔があります            第7課 語幹・語尾・原形            第8課 今日は何日ですか            第9課 漢数詞            第10課 月日            第11課 今日は何曜日ですか            第12課 「hai」形            第13課 「hai」形の用法            第14課 固有数詞            第15課 数冠形詞            第16課 冠形詞</p> <p>第17課 冠形詞形語尾（現在）            第18課 冠形詞形語尾（過去）            第19課 冠形詞形語尾（未来）            第20課 昨日何をしましたか            第21課 今日学校が終わったら何をするつもりですか            第22課 時間ができたら何をしたいですか            第23課 今度の休みに何をするつもりですか            第24課 将来何になりたいですか            第25課 宝くじで1億円当たったら、そのお金で何をしたいですか            第26課 言葉遊び（色彩形容詞と'ㅎ'変則活用）            第27課 ことわざ（ ）            第28課 （体）            第29課 間接話法            第30課 （端午）</p> <p><b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>            教科書：『韓国語教科書 1』、青山社、2004年。            「コスモス朝和辞典」第2版（白水社、3,689円）、「新訂韓日辞典」（三修社、5,600円）、「朝鮮語辞典」（小学館、7,770円）の内いずれか一冊辞書を用意してください。</p> <p><b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>            出席 50%、試験の成績 50%</p> <p><b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b></p> <p><b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>            旧カリ学生のためのクラス</p>				

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	朝鮮語ⅡA（火・木）		〈KoreanⅡ〉	
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	4	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	II	通年
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	宣 憲洋・小鹿照世<Hun-Yang Sun/Teruyo Koshika>		<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	
<b>Office Hours</b>				
<p><b>(火曜日) 宣教員分</b></p> <p><b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>            自分の意思や希望を韓国語で表現できる。            韓国語の論文が読める。</p> <p><b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b>            各課の内容は下記の通りですが、「朝鮮語ⅡA」では、このうち第28課～第30課までを学習し、第30課終了後は、韓国の自然と風土、産業などに関するプリント教材を学習します。            1. 「ハングル」文字と発音（母音） 2. 子音            3. 名前をハングルで書いてみよう            4. 「かな」とハングル対照表            第1課 これは何ですか            第2課 これは机ですか            第3課 こんにちは            第4課 教室に何がありますか            第5課 どこで何をしていますか            第6課 人には顔があります            第7課 語幹・語尾・原形            第8課 今日は何日ですか            第9課 漢数詞            第10課 月日            第11課 今日は何曜日ですか            第12課 「hai」形            第13課 「hai」形の用法            第14課 固有数詞            第15課 数冠形詞 第16課 冠形詞 第17課 冠形詞形語尾（現在）            第18課 冠形詞形語尾（過去）</p> <p>第19課 冠形詞形語尾（未来）            第20課 昨日何をしましたか            第21課 今日学校が終わったら何をするつもりですか            第22課 時間ができたら何をしたいですか            第23課 今度の休みに何をするつもりですか            第24課 将来何になりたいですか            第25課 宝くじで1億円当たったら、そのお金で何をしたいですか            第26課 言葉遊び（色彩形容詞と'ㅎ'変則活用）            第27課 ことわざ（ ）            第28課 （体）            第29課 間接話法            第30課 （端午）</p> <p><b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>            教科書：『韓国語教科書 1』、青山社、2004年。「コスモス朝和辞典」第2版（白水社、3,689円）、「新訂韓日辞典」（三修社、5,600円）、「朝鮮語辞典」（小学館、7,770円）の内いずれか一冊辞書を用意してください。</p> <p><b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>            出席 50%、試験の成績 50%</p> <p><b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b></p> <p><b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>            朝鮮語Ⅰおよび朝鮮語ⅡAは4単位分割不可能で、成績も2クラス分まとめて1本で出されます。</p>				

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	朝鮮語IIA (火・木)		〈Korean II〉	
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	4	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	II	通年
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	宣 憲洋・小鹿照世<Hun-Yang Sun/Teruyo Koshika>		<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	
<b>Office Hours</b>				
<b>(木曜日) 小鹿教員分</b> <b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 朝鮮語 I での学習を本に話す、聞く、読むの四技能をさらに高めます。各課の類型を使って文を作る練習を重ねていき、朝鮮語 I 同様ペアワークやゲームなどを通して表現力アップを目指します。課ごとの目標会話を暗記しながら類型を定着させます。文法を学習しそれと並行した対話型の授業です。日本語と共通の漢字語の単語を覚えることで語彙を増やしていきます。		<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 出席率 (35~40%) 定期試験 (45~50%) 小テスト、その他 (授業参加姿勢、提出物等) のより総合的に判断します。		
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 二つの事柄を並べて示す・逆説の表現— 韓国語は難しいですが面白いです。 二つ以上の動作の順序・尊敬の表現 (丁寧形、略体形の尊敬形、特別敬語) — 何をお探ですか 形容詞現在連体形、可、不可能形、仮定条件の表現— 明日の夕方に会えますか 経験・許可・禁止・意志の表現— ここで写真撮っても良いですか 勧誘・義務・確認の表現— 私達ご飯食べに行きましょう 動詞・存在詞の現在・過去・未来連体形— ちょっとお願いしたいことがあります		<b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 動詞、形容詞の変則活用などの作り方を理解し、使用することが出来る。 各接続語尾を適切に活用、使用することが出来る。 決まり文句を使って多様な表現が出来る。 秀：上記について秀でている 優：上記について優れている 良：上記について良好である 可：上記について適宜対応できる 不可：上記について対応できない		
<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 教科書：よくわかる韓国語 STEP 2 (入佐 信宏・金 炫辰 著) 白帝社		<b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 新出の単語については予め自宅学習して授業に臨んでください。 4 単位分割不可能で、成績も火・水クラス分まとめて一本で出されます。		

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	朝鮮語II B		〈Korean II〉	
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	2	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	II	通年
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	小鹿 照世		<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	
<b>Office Hours</b>				
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 朝鮮語 I での学習を本に話す、聞く、読むの四技能をさらに高めます。各課の類型を使って文を作る練習を重ねていき、朝鮮語 I 同様ペアワークやゲームなどを通して表現力アップを目指します。課ごとの目標会話を暗記しながら類型を定着させます。文法を学習しそれと並行した対話型の授業です。日本語と共通の漢字語の単語を覚えることで語彙を増やしていきます。		<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 出席率 (35~40%) 定期試験 (45~50%) 小テスト、その他 (授業参加姿勢、提出物等) のより総合的に判断します		
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 二つの事柄を並べて示す・逆説の表現— 韓国語は難しいですが面白いです。 二つ以上の動作の順序・尊敬の表現 (丁寧形、略体形の尊敬形、特別敬語) — 何をお探ですか 形容詞現在連体形、可、不可能形、仮定条件の表現— 明日の夕方に会えますか 経験・許可・禁止・意志の表現— ここで写真撮っても良いですか 勧誘・義務・確認の表現— 私達ご飯食べに行きましょう 動詞・存在詞の現在・過去・未来連体形— ちょっとお願いしたいことがあります		<b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 動詞、形容詞の変則活用などの作り方を理解し、使用することが出来る。 各接続語尾を適切に活用、使用することが出来る。 決まり文句を使って多様な表現が出来る。 秀：上記について秀でている 優：上記について優れている 良：上記について良好である 可：上記について適宜対応できる 不可：上記について対応できない		
<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 教科書：よくわかる韓国語 STEP 2 (入佐 信宏・金 炫辰 著) 白帝社		<b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 新出の単語については予め自宅学習して授業に臨んでください。		

科目名<Subject>	上級日本語 (火)(木)		<Advanced Japanese >	
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	I	前期
担当教員名<Name>	高野 寿子 <Hisako Takano>		研究室番号<Office>	434
Office Hours	TBA			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> このクラスは、学部一年に入学したばかりの留学生を対象とします。新しい学習環境で直面する様々な問題を解決し、自立した学習者として機能する為の日本語運用能力を身につけることが、このクラスの目的です。		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 出席と授業参加：15%、小テスト：40% 期末試験：25%、宿題、その他：20%		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 授業では、履修登録、オリエンテーション、奨学金の申請などに始まり、講義を聴く、ノートを取る、教科書や関連資料を読む、クラスで討論や口頭発表をする、レポートを書くなどに至るまで、毎日の留学生活で遭遇すると思われる多くの状況を疑似体験します。そうすることで、大学生として必要な日本語運用能力と語彙を養う努力をします。		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> これは、あくまで語学運用能力を訓練するクラスですから、授業に出席することが大前提です。		
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 「アカデミック・ジャパニーズ」、Japan Times				
<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 小テスト、定期試験、宿題、その他、どのくらい準備して毎回クラスに出席し、授業中与えられた課題に取り組んでいるかなどを、総合的に評価します。				

科目名<Subject>	上級日本語 (火)(木)		<Advanced Japanese >	
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	I	後期
担当教員名<Name>	高野 寿子		研究室番号<Office>	434
Office Hours	TBA			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> このクラスは、上級日本語Iを履修した、或いはそれと同等の語学力を持つ留学生を対象とします。読解から始め、理解したことを、分かりやすく論理立てて話したり、書いたりできる言語能力を目指します。初歩的なタームペーパーがかけられるようになることが目標です。		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 小テスト、30%、学期末プロジェクト、30%、宿題(作文)、25%、その他：15%		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 新聞、雑誌、一般新書などから、日本社会の現状を反映するような文章を読み、内容を理解し、問題点を討論し、討論の内容を纏めたり、自分の意見を書くことで、語彙の拡充と、文章力の向上をはかります。		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> これは、語学力の向上を目的にしたクラスですが、個人プロジェクトをベースに授業が進みますので、個人の計画性、実行力、積極性といった知的態度が前提とされます。		
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 「留学生のための時代を読み解く上級日本語」 スリーエーネットワーク				
<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 小テスト、学期末プロジェクト(ニュースレターの作成)、宿題、その他、どのくらい準備して毎回クラスに出席し、授業中与えられた課題に取り組んでいるかなどを、総合的に評価します。				

科目名<Subject>	上級日本語 (金) <Advanced Japanese >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	II 通年
担当教員名<Name>	高野 寿子 <Hisako Takano>	研究室番号<Office>	434
Office Hours	TBA		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> このクラスは、上級日本語 I/II を履修した、或いは、それと同等の語学力を持つ留学生を対象とします。新聞・雑誌の記事、新書などを多読する授業です。主な目的は、語彙を飛躍的に拡充することにあります。		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 語彙テストを40%、口頭発表を30%、定期試験を30%として計算します。	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 前期は、新聞や雑誌の記事を精読し、語彙を習得し、概要を書き、口頭で発表します。 後期は、個人個人でトピックを絞ってリサーチし、パワーポイントなどを使ってリサーチの結果を発表します。		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> これは、語学力の向上を目的にしたクラスですが、個人プロジェクトをベースに授業が進みますので、個人の計画性、実行力、積極性というような知的態度が前提とされます。	
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 新聞、雑誌、テレビのニュース番組、インターネットを使います。			
<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 語彙の小テスト、口頭発表、定期試験の結果を総合的に評価します。			

科目名<Subject>	日本事情 (火) <Japanese Affairs >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	I 後期
担当教員名<Name>	高野 寿子 <Hisako Takano>	研究室番号<Office>	434
Office Hours	TBA		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> このクラスは、短期留学プログラムの交換留学生と学部留学生が、学生生活の基盤となる地域社会について学ぶ授業です。特に日々の学生生活の場面で遭遇する「言葉と文化」について考えます。顔輝留学プログラムの新生入生には、これは日本での留学生生活を円滑にスタートさせるためのオリエンテーションともなりますし、学部留学生にとっては、様々な文化的背景を持つ留学生と交流し、異文化間コミュニケーションを実践するよい機会ともなります。 This course is designed for both the exchange students through YOUC program and the regular international students to learn about the local society that provides the basis of their student life. In particular, they do so in the aspects of "Language and Culture" which they are to encounter in every situation of their daily student life. This course will serve as an orientation for those new exchange students to make a smooth transition to life in a foreign social environment. For those regular international students, this course will provide an opportunity to share their knowledge and experience with students from diverse cultural backgrounds.		進めます。「生活の中の言葉」をテーマにグループで幾つかのプロジェクトを立案実行し、クラスでレポートするというのが主な内容です。 Since this course is to be taken by students with different language proficiency levels. The class will be conducted in both English and Japanese. Students will be engage in various group projects focusing on "Language and Culture". They are to plan and conduct a research project, and give an oral report in the class.	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> このクラスでは日本語能力レベルの異なる学生と一緒に学ぶこととなりますので、授業は、基本的に英語と日本語を併用し		<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> なし。None.	
		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 出席、小テスト、発表、学期末リサーチ Attendance, quizzes, presentations, semester research	
		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 出席40%、小テスト15%、発表20%、学期末リサーチ25% The course grade will be determined by attendance (40%), quizzes(15%), presentations(20%), and semester research project(25%).	



科目名<Subject>	日本事情 (木)	<Japanese Affairs >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>		前期
担当教員名<Name>	マーク・ジボー・高野寿子<Mark Gibeau/Hisako Takano>	研究室番号<Office>	高野434	
Office Hours				
<p><b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>  This discussion-centered class focuses on the various mechanisms of identity formation individual and national through an examination of theoretical essays, literary texts and films. Specifically, we will examine various assertions of or attempts to define Japanese identity by Japanese and non-Japanese writers. By the end of the course students should have an understanding of basic theories of identity formation and be able to employ these theories in the critical analysis of texts.</p> <p><b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b>  The class will consist of three parts. 1. Introduction to theories of identity (Orientalism, post-colonial theory, cultural studies); 2. Japan as "Samurai"; 3. Japan as "Geisha".</p> <p><b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>  Various critical essays; Yamamoto Tsunetomo, <i>Hagakure</i> (selections); Inazo Nitobe, <i>Bushido</i> (selections); Mishima Yukio, <i>My Hagakure</i> (selections), <i>Patriotism</i>; Jim Jarmusch, <i>Ghost Dog</i> (film); Kakuzo Okakura, <i>The Book of Tea</i>; Tanizaki Jun ichirō, <i>In Praise of Shadows</i> (selections); Kawabata Yasunari, <i>Snow Country</i>, "Japan, the Beautiful and Myself"; Ōe Kenzaburō, "Japan, the Ambiguous, and Myself"; Arthur Golden, <i>Memoirs of a Geisha</i> (film)</p> <p><b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>  Regular attendance, thoughtful preparation and active participation are essential for success in this class. This</p> <p>class will require substantial preparation time due to the high volume and high degree of complexity of readings. As the bulk of class time will be spent in group discussion, students who arrive to class without having completed the assigned readings will be asked to leave and will be marked as absent.</p> <p><b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>  Preparation: 40%; Participation: 30%; Final exam: 30%</p> <p><b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>  This class will be conducted entirely in English (though readings will be available in Japanese). Non-native speakers wishing to participate in this class should have a TOEFL score of 550 or greater or obtain the instructors approval *before* registering.</p> <p>Depending on scheduling, students may be required to either view films outside of class or to arrive early (during lunchtime) in order to view films in class.</p>				

經 濟 學 科 目  
學 科 科 目

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	マクロ経済学 <Macroeconomics>		
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	4	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	/ 後期
<b>担当教員名&lt;Instructor&gt;</b>	山本 賢司 <Kenji YAMAMOTO>	<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	4 2 4
<b>Office Hours</b>	開講時にお知らせ致します。		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objectives and methods&gt;</b>	<p>この科目では、経済理論のうちマクロ経済学と呼ばれる領域の概要を説明します。たとえば、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家計全体の貯蓄は経済の成長に影響をもたらすか。人口の高齢化が進む日本では、これは深刻な問題か。</li> <li>・デフレーション（物価水準の下落）のもたらす影響は何か。</li> <li>・不況期に中央銀行が貨幣供給量を増やす理由は何か。</li> </ul> <p>といった疑問に対する考え方を紹介します。主に用いる概念は、「家計部門」、「企業部門」、「政府部門」、「中央銀行」、「海外部門」という集計的な経済主体と「財市場」、「労働市場」、「貨幣・債券市場」という集計的な市場です。マクロ経済学はこれらによって経済活動の水準を説明しようとしています。</p> <p>方法：担当教員による講義（スライド投影を利用する。）</p>		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>	<p>第1週 経済力の指標 I 第2週 経済力の指標 II 第3週 消費と貯蓄の理論 I 第4週 消費と貯蓄の理論 II 第5週 投資の理論 第6週 金融と株価 I 第7週 金融と株価 II 第8週 貨幣の需要と供給 I 第9週 貨幣の需要と供給 II 第10週 常数理論と IS-LM 分析 第11週 マクロ経済政策はなぜ必要か 第12週 財政赤字と国債 第13週 インフレとデフレ 第14週 失業</p>		
	<p>第15週 経済成長</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 次の教科書を使います。 福田慎一・照山博司著『マクロ経済学・入門 第3版』（有斐閣：2005）</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading policy&gt;</b> 2回の試験（各40点）と5回のクイズ（各4点；計20点）の合計点（100点）で評価します。</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 成績は、上記4の方法に基づき、秀（90点～100点）、優（80点～89点）、良（70点～79点）、可（60点～69点）又は不可（60点未満）により評価し、可以上を合格とします。但し、平成17年3月31日以前に入学した履修者については、優の成績を（80点～100点）とします。</p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> (1)「経済学入門 I」及び「同 II」を履修済みであること。但し、平成16年3月31日以前に入学した履修者については、この限りではありません。 (2)「マクロ経済学」を併せて履修することが望ましい。 (3)履修者数の上限を凡そ教室の収容人数とします。これを上回る履修希望者が現れた場合には、履修制限を行うことがあります。履修制限は平成13年度以降入学者に限って適用され、この科目では経済学科所属学生を優先します。</p>		

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	ミクロ経済学 <Microeconomics>		
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	4	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	/ 前期
<b>担当教員名&lt;Instructor&gt;</b>	山本 賢司 <Kenji YAMAMOTO>	<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	4 2 4
<b>Office Hours</b>	開講時にお知らせ致します。		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objectives and methods&gt;</b>	<p>この科目では、市場機構による資源配分と所得配分に焦点を合わせてミクロ経済学の概要を説明します。</p> <p>どの社会においても経済的な資源は稀少です。その資源が、経済活動の中でいかに配分されるか。また、資源の受け取る対価（要素所得）はどのように配分されるか。ミクロ経済学は、これらの資源配分と所得配分の問題にたいする解答を、主に市場機構の働きによって与えます。この科目では、市場機構の働きを中心に、不完全競争など市場の機能を阻害する要因についても検討します。</p> <p>方法：担当教員による講義（スライド投影を利用する。）</p>		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>	<p>第1週 経済問題の事例 第2週 単純な部分均衡分析 第3週 消費者行動の理論 I 第4週 消費者行動の理論 II 第5週 企業行動の理論 I 第6週 企業行動の理論 II 第7週 生産物市場での価格の決定 I 第8週 生産物市場での価格の決定 II 第9週 生産要素市場での価格の決定 第10週 一般均衡分析 I 第11週 一般均衡分析 II 第12週 市場均衡と経済的厚生 第13週 市場の失敗</p>		
	<p>第14週 競争的均衡分析の限界 第15週 ゲーム理論入門</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 次の教科書と共に配布資料を使います。 西村和雄著『ミクロ経済学入門 第2版』（岩波書店：1995）</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading policy&gt;</b> 2回の試験（各40点）と5回のクイズ（各4点；計20点）の合計点（100点）で評価します。</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 成績は、上記4の方法に基づき、秀（90点～100点）、優（80点～89点）、良（70点～79点）、可（60点～69点）又は不可（60点未満）により評価し、可以上を合格とします。但し、平成17年3月31日以前に入学した履修者については、優の成績を（80点～100点）とします。</p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> (1)「経済学入門 I」、「同 II」及び「数学 I」を履修済みであること。但し、平成16年3月31日以前に入学した履修者については、この限りではありません。 (2)「マクロ経済学」を併せて履修することが望ましい。 (3)履修者数の上限を凡そ教室の収容人数とします。これを上回る履修希望者が現れた場合には、履修制限を行うことがあります。履修制限は平成13年度以降入学者に限って適用され、この科目では経済学科所属学生を優先します。</p>		

科目名<Subject>	統計学 <Statistics>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	/ 前期
担当教員名<Name>	寺坂 崇宏 <Takahiro Terasaka>	研究室番号<Office>	430
Office Hours	月曜日 16:15-16:45、他の時間についてはメールで予約をすること。		
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> この授業は、統計学の基本事項の解説と、統計学の方法が、実際にどのように使われているかを見ることを目的としています。授業は講義形式で行いますが、授業時間内に、その日の講義内容に関係する練習問題を解いてもらう時間を設けます。練習問題を解くことで、授業内容を確実に理解するようにしてください。授業の水準は、統計学関連の講義を初めて受ける、昼間コースの学生に合わせて。詳細は第1回の授業で説明します。		第10回 標本分布「チェビシェフの不等式と大数の法則、中心極限定理」 第11回 標本分布「標本分散の分布」 第12回 母数の推定「平均の推定」 第13回 母数の推定「分散の推定」 第14回 仮説検定の基礎「仮説検定の手順、平均値の検定」 第15回 仮説検定の基礎「母比率の検定」	
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 3で指定したテキストを用いて、次の内容を講義します。各回の内容は、それぞれ後の回の内容に関わりを持っていますので、毎回の復習が必要となります。 第1回 オリエンテーション 第2回 データの整理 第3回 確率「標本空間と確率、根元事象」 第4回 確率「独立な事象と条件付確率」 第5回 確率変数とその分布「離散確率分布と確率関数」 第6回 確率変数とその分布「連続確率分布と密度関数、分布の代表値」 第7回 確率変数とその分布「期待値、基本的な分布関数(2項分布)」 第8回 確率変数とその分布「基本的な分布関数(正規分布)」 第9回 標本分布「無作為抽出と無作為標本、標本平均の分布」		<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 森棟公夫『統計学入門(第2版)』新世社、2000年 を使用します。	
		<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 期末試験の点数で評価します。	
		<b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 評価基準についてはp.191を参照のこと。	
		<b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> ・テキストは入手して、授業時間時に持参してください。 ・授業では電卓、定規を使用することがあります。指示があった際には必ず用意して講義を受けてください。 ・授業ではプロジェクタを使用します。投影された資料は教官のホームページから入手できるようにします。	

科目名<Subject>	経済史 <Economic History>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	/ 前期
担当教員名<Name>	平井 進 <Susumu Hirai>	研究室番号<Office>	338
Office Hours	授業終了後の1時間		
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 西洋経済史の基本的な枠組みを取り上げます。社会科学を学ぶ大学生が常識として知っておくべき内容です。		<b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 経済学科共通基準による。	
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 1) 西欧封建社会：農村と都市 2) 近代世界システムの成立 3) プロト工業化：地域社会と重商主義 4) 本格的な工業化 5) 世界の一体化：自由貿易帝国主義 6) 社会国家の形成  授業内容の変更もあり得るので初回の授業日には必ず出席すること。		<b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 1) 高校の時に「世界史」を履修したことがこの授業の履修の前提条件となります。 2) 歴史学(西洋史)に興味がある他学科の学生の受講は歓迎しますが、他学科生の場合「履修申し込みレポート」を2回目の授業に必ず持参し、提出することが求められます：400字程度で、なぜこの授業をとるのかを自分の履修計画に沿って説明し、パソコンでA4用紙に印字。不提出なら試験を受けても採点しません。 3) 「実利」を学習目的とする人には向きません。各種試験に役立つ「実践的」な知識ではなく、社会科学を学ぶ上での常識的な知識を教授したいと思います。したがって、大学とは、資格試験や公務員試験のための予備校でなく、社会を認識する上で基本的なものの見方を学ぶ場であると思っている人に向いています。 4) 昨今、数学的論理も抽象的な概念も専門用語も出てこない、具体的で一話完結の「お話」が歓迎される傾向にあると聞きますが、そうした「お話」ではありません。したがって、単位取得のみを目的とした人にも向きません。	
<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 毎回資料プリントを配布します。 参考文献：遅塚忠躬『ヨーロッパの革命』(小学館)			
<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 学期末の試験(持ち込み不可・論述式・事前の問題発表なし)による。さらに書評論文を課すこともあり得ます。不合格者のための救済措置はありません。			

科目名<Subject>	現代経済理論 <Modern Economic Theory >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	・ 前期
担当教員名<Name>	加藤 睦洋 <KATO Mutsuhiro>	研究室番号<Office>	4 6 0
Office Hours	在室時は(原則として)随時可。		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> (目的)「マクロ経済学」の授業で、時間不足のため扱えなかった事項の補講。 (方法)通常の講義。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 試験得点による。	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 第6章「失業とインフレーション」の6.4、6.5。 第10章「内生的成長モデル」 第11章「マクロ・ダイナミクス」 第13章「マクロ経済政策と政策当局」の13.1。		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 学科統一基準参照。	
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 井堀利宏著『入門マクロ経済学』新世社(小生が担当した「マクロ経済学」の教科書と同じ本である。)		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 「ミクロ経済学」、「マクロ経済学」その他の経済学関連科目を、履修済みか、または履修中であれば学習上好都合であろう。(但しこれは履修条件ではない。)	

科目名<Subject>	経済分析論 <Economic Analysis>		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	後期
担当教員名<Name>	花田 功一 <Koichi Hanada>	研究室番号<Office>	4 2 6
Office Hours	火曜 13:30 ~ 14:30		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> マルクス経済学の立場から資本主義経済の基礎理論を展開し、それに基づいて戦後の日本経済を分析していきます。 第1部では、資本主義経済はどのような構造を持ち、そこにはどのような矛盾があるのかということ、及び、資本主義経済は結局どこに行き着くのかということを理論的に明らかにします。 第2部では、第1部での資本主義経済の基礎理論に基づいて戦後の日本経済を分析し、90年代に入って始まった日本経済の深刻な停滞の根本原因を明らかにします。		<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 私のノートにしたがって話を進めていきます。参考文献はその都度示します。	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 第1部 資本主義経済の理論 第1編 資本主義経済の基礎構造 第2編 資本主義経済の発展と停滞 第2部 戦後日本経済分析 第1編 高度成長の展開(1955~70年) 第2編 高度成長の終焉とスタグフレーションの発生(1971~74年) 第3編 エレクトロニクス革命による経済の拡大と拡大力の大幅な低下(1975~84年) 第4編 エレクトロニクス革命による経済の拡大の終焉とバブルの発生(1985~93年) 第5編 経済の拡大力の一層の低下と停滞の持続(1994~2000年)		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 中間、期末各1回の試験の結果によって評価します。	
		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 秀(100~90):講義内容について秀でた理解力を有し、経済理論を応用して、さまざまな経済問題について秀でた分析をすることができる。 優(89~80):講義内容について優れた理解力を有し、経済理論を応用して、さまざまな経済問題について優れた分析をすることができる。 良(79~70):講義内容について良い理解力を有し、経済理論を応用して、さまざまな経済問題について良い分析をすることができる。 可(69~60):講義内容について理解力を有し、経済理論を応用して、さまざまな経済分析について分析をすることができる。 不可(59~0):講義内容について十分な理解力を持たず、経済理論を応用して、さまざまな経済問題について分析をすることができない。	
		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>	

科目名<Subject>	計量経済学 <Econometrics>		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	後期
担当教員名<Name>	遠藤 薫 <Kaoru Endo>	研究室番号<Office>	4 2 5
Office Hours	火曜日 12時10分-13時00分		
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>          経済モデルについて観測データから推定と検定を行うときの統計的方法について基本を学び、計量経済学への入門とする。          情報処理センターで統計ソフトウェア SAS を用いての実習を数回行う。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>          1. エコノメトリックスとは何か。          2. 線形回帰モデルの推定          3. 推定結果の見方          4. 線形回帰モデルの拡張          5. 回帰診断と対応          6. 単位根と共和分          7. 選択行動モデル          8. パネルデータ分析          9. 同時方程式モデル          10. 期待形成と動学モデル</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>          伴金美他『エコノメトリックス(新版)』有斐閣, 2006.</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>          定期テストの結果による。</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>          経済学科の基準に準じる。</p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b></p>			

科目名<Subject>	経済データ解析論 <Economic Data Analysis>		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	後期
担当教員名<Name>	瀬戸 篤 <Atsushi SETO>	研究室番号<Office>	5 2 8
Office Hours	月曜日 1・2 講目		
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>          (目的)小樽商科大学卒業生として恥ずかしくない日本経済の説明力・分析力を半年間で身につける。          (方法)日本政府が公表する各種経済データを理解する。そして、これらのデータを活用するために最低限求められるマクロ経済の基本構造をテキストと日本経済新聞を用いて確認する。          さらに、東洋経済新報社刊『統計月報』の各種データを直接コンピュータの表計算ソフト(エクセル)に入力して、自らグラフやコメントを作成する力を身につける。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>          講義はすべてコンピュータ実習室において&lt;2 講連続&gt;で行う。前半は講義形式で、後半がPCの実習形式(エクセル使用)。</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>          (1) プリント(*教務課で貸し出すプリンター一式を各自がコピーすること)          (2) 東洋経済新報社編『統計月報』(講義開始時のものを各自書店で購入)          (3) 日本経済新聞記事(講義時に適時コピー配布)</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>          講義内で行う「コンピュータ実習試験」50点、及び「後期定期試験」50点の合計点で決定。</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>          合計点の60点以上を合格、59点以下を不合格とする。          なお、合格者の成績評価と水準は以下の通りである。          90点以上・・・秀(日本経済をほぼ完全に経済データを用いて表現でき、日本経済新聞のすべての内容を理解可能)          80 - 89点・・・優(日本経済を経済データで大体表現でき、経済教室をのぞく日本経済新聞を理解可能)          70 - 79点・・・良(日本経済新聞の一般記事を理解可能)          60 - 69点・・・可(日本経済新聞の一般記事を一応読める)</p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>          2 講連続出席、ならびにプリントを事前に必ず読み持参すること。また、コンピュータ実習が講義の50%をしめるため、1度でも欠席すると事実上講義がわからなくなる。</p>			

科目名<Subject>	経済学史	<History of Economics >		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	.	前期
担当教員名<Name>	江頭 進	<Susumu Egashira>	研究室番号<Office>	409
Office Hours	火・金 13:00~14:00			
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>          アダム・スミス依頼の経済学の歴史を振り返り、各経済学者の理論と思想の形成過程を通じて、市場社会の本質を理解する。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>          (1) 私的所有と市場-ロックとスミス-          (2) 資本主義社会の作法 - ヴェブレン -          (3) 市場と政府の関係の転換-ケインズ-          (4) 貨幣の経済学 フリードマン-          (5) 市場社会の未来-ハイエク-</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>          高哲男編『自由と秩序の経済思想』, 名古屋大学出版会。</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>          中間試験と期末試験の結果による。</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>          経済学科の統一基準による。191p参照のこと。</p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>          ミクロ経済学, マクロ経済学を履修していることが望ましい。</p>				

科目名<Subject>	日本経済史	<Japanese Economic History>		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>		前期
担当教員名<Name>	今西 一	<Hajime Imanishi>	研究室番号<Office>	533
Office Hours				
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>          日本の近代化が民衆の生活をどう変化させたか? 本年度は、女性の問題を中心に論じたい。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>          1 現代の課題          2 伝統社会の差別と女性          3 いくつかの差別          4 近代の諸問題</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>          今西 一『文明開化と差別』(吉川弘文館)</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>          授業の終了後、テストを行う。</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>          学科の基準を参照。</p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>          テキストを持参してください。</p>				

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	外国経済史	<Economic History of Foreign Countries >		
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	4	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	.	後期
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	松家 仁	<Jin Matsuka>	<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	4 3 2
<b>Office Hours</b>				
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>	<p>この授業は、戦間期を中心としたポーランド経済における国家介入主義（エタティズム）を、農産物・食料品など日用品の取引規制を主に通じて究明する。またそこで(1)経済統制と民族問題の関係、ならびに(2)その後のナチスのポーランド占領政策および社会主義ポーランドに対する影響も含めて検討したい。</p>			
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>	<p>1-2 導入 史料について（史料の種類・利用方法）史料評価について 3 前提としての第一次大戦前 第一次大戦前におけるドイツ・オーストリアなどにおける農産物・食料配給統制の試みとその限界 4-6 第一次大戦 第一次大戦期ポーランドにおける食糧管理政策における民族問題 - 統制経済全般の問題点 7-9 ソヴィエト・ポーランド戦争における食糧管理政策（第一次大戦期の延長として） 10-12 国家統制の緩和と消費者保護政策（暴利の防止・物価高騰の抑制） 13-16 戦間期1 - 食糧配給政策 (a) 穀物・パン (b) 食肉 (c) 牛乳・鶏卵など アンケート委員会・価格検査委員会 17-20 戦間期2 - 工業・手工業政策（商業会・手工業会など） 少数民族（ドイツ人・ユダヤ人・ウクライナ人）と経済</p>			
	<p>統制、組合問題との関係 21-23 第二次大戦における農業問題 ドイツの東方占領政策（農業問題の解決） 24-26 戦後社会主義体制への影響 ポーランド社会主義における戦間期の経験の影響 27-28 まとめ・予備日</p>			
	<p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> さしあたり参考書として、拙著『統制経済と食糧問題』（成文社2001年）</p>			
	<p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 履修状況全般をみて評価する。レポートを課すことも考えている。</p>			
	<p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> p.191を参照のこと。</p>			
	<p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 特になし。疑問がある者はメールで問い合わせること。</p>			

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	国際経済学	<International Economics>		
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	2	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>		前期
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	船津 秀樹	<Hideki Funatsu>	<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	3 3 3
<b>Office Hours</b>	月・火・木 12:00~12:50			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>	<p>この授業では、経済学の基本的な概念に基づいて、国際経済に関する理解を深めるとともに、経済理論を応用して、さまざまな国際経済問題を分析する能力を養うことを目的とします。授業は、講義形式で展開されますが、協力学習の形態をとる場合もあります。</p>			
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>	<p>(1) 国際経済学の方法 (2) 絶対優位と比較優位 (3) 国際貿易のリカード・モデル (4) 国際貿易のヘクシャー・オリーン・モデル (5) 国際貿易の不完全競争モデル (6) 保護貿易主義の部分均衡分析 (7) 不確実性下の国際貿易 (8) 生産要素の国際間移動 (9) 不完全雇用下の貿易と投資 (10) 国際収支と所得支出分析 (11) 為替リスクと最適な資産選択 (12) 人的資本と経済成長 (13) 国際教育と経済協力 (14) 経済発展と不平等 (15) 地域経済統合と世界貿易</p>			
	<p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 参考文献は、授業中に適宜紹介します。講義の要点および練習問題は、ホームページにて公開しています。</p>			
	<p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 授業中の小テスト(30%)および期末試験(70%)による総合評価</p>			
	<p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 経済学科の統一基準による。191p参照のこと。</p>			
	<p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> この授業をより良く学ぶためには、ミクロ経済学とマクロ経済学を並行して履修することが大切です。</p>			



科目名<Subject>	公共経済学	<Public Economics>		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	.	後期
担当教員名<Name>	佐野 博之	<Hiroyuki Sano>	研究室番号<Office>	436
Office Hours	授業中またはウェブサイトでお知らせします。			
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 本講義では、公共経済学のスタンダードな研究成果を中心に紹介し議論を展開したうえで、現実の経済に立ち戻って様々な問題を考察していく予定です。 これまでの研究成果に沿って、以下の3つの点を明らかにしていくことが目的です。第1に、市場の機能とその限界を知った上で、国や自治体による介入が必要な経済部門はどのようなものか。第2に、国や自治体が経済に介入するとき、どのような方策が採られるべきか。第3に、現実の政策はいかなるプロセスを経て決定され、その結果経済はどのような影響を受けるのか。現実の経済における諸問題に対し、経済学がどのような政策提言を行ってきたのかを学ぶことが最終目標です。 講義は主に、Power Point とプロジェクターを用いて進められます。ウェブサイト(5に記載)から、Power Pointのスライドに対応した授業用のノートがダウンロードできます。毎回1題程度の練習問題に取り組み、出来た人に解答してもらいます。		3.4. 公共財の公的供給 第4章 所得分配 4.1. 最適な所得分配 4.2. 所得再分配政策の諸問題 4.3. 私的財の公的供給		
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 序章 公共経済学は何を扱うのか 第1章 市場の機能と効率的資源配分 1.1. 純粋交換経済 1.2. 生産を伴う経済 1.3. 市場経済と所得格差 第2章 外部性と市場の失敗 2.1. 外部性と社会的費用 2.2. 環境問題と外部不経済 2.3. 外部性の内部化と環境政策 2.4. 地球温暖化防止と京都メカニズム 第3章 公共財と市場の失敗 3.1. 公共財とフリーライド問題 3.2. 公共財のパレート最適供給 3.3. 公共財の私的供給		<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> テキストは特に指定しません。授業中に参考文献を紹介し、授業用のノートは、ウェブサイト(5に記載)からダウンロードできます。		
		<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 基本的に、2回の定期試験(各100点満点)の平均点を評点とします。ただし、授業中の練習問題に解答したときは、1回につき2~4点を評点に加算します。加算する方法については、ウェブサイト(5に記載)で確認してください。レポートは課しません。		
		<b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> p.191 参照のこと。		
		<b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 履修に際しては、事前に下記のウェブサイトをチェックしておいてください。 <a href="http://www.otaru-uc.ac.jp/~sano/lecture/">http://www.otaru-uc.ac.jp/~sano/lecture/</a> 授業用ノート等のダウンロードもここからできます。問い合わせはsano@res.otaru-uc.ac.jpまで。		

科目名<Subject>	産業組織論	<Industrial Organization>		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	./	前期
担当教員名<Name>	鵜沢 秀	<Masaru Uzawa>	研究室番号<Office>	301
Office Hours	第1回オリエンテーションで指示する。			
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> タバコ、自動車、ピアノ、カラーテレビ、DVD、ウィスキー、ビール、板ガラス、カラーフィルムなど、日本の産業は、少数の企業で構成されている。他方、数多くの建設会社、レストラン、コンビニがある。石油元売り会社は少数でもガソリンスタンドの数は5万を越える。コカコーラとペプシは米国では、ほぼ同じマーケットシェアなのに、日本では大きく違っている。北海道電力を含め、国内10電力会社は実質的に地域独占を認められている。宝くじの販売は他の銀行も引き受け可能なのに、みずほ銀行が実質的に独占している。何故だろう。 このような産業組織の問題を応用ミクロ経済学を用いて分析する。現実の経済を分析する基礎的な考え方を学び、日本および世界の経済に十分な関心を寄せてもらいたい。 授業は、プロジェクター - を利用し、図解や数値例を多く用いる。		第9章 寡占企業の理論4 ベルトラン・モデル 第10章 寡占企業の理論5 エッジワース・モデル 第11章 製品差別化と競争 第12章 参入阻止価格理論について 第13章 戦略的企業行動と参入問題 第14章 規制とその意義 第15章 報酬率規制下の企業行動 第16章 プライス・キャップ規制の得失		
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 第0章 イントロダクション 第1章 市場構造 - 市場行動 - 市場成果パラダイム 第2章 市場集中度を測る 第3章 マーケット・シェアの例 第4章 独占企業の行動 第5章 厚生水準を測る 第6章 寡占企業の理論1 クールノー・モデル 第7章 寡占企業の理論2 シュタッケルベルク・モデル 第8章 寡占企業の理論3 ゲーム理論とフォーク定理		<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 拙著『産業組織論』(エコノミスト社、2000年) <a href="http://www.res.otaru-uc.ac.jp/~uzawa/welcome.html">http://www.res.otaru-uc.ac.jp/~uzawa/welcome.html</a> からたどって関連資料が得られるようにする。		
		<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 中間試験及び期末試験(各100点満点)の両方を受験した者で、合計120点以上の場合を合格とする。クラスルーム実験経済学を実施した場合は、その加算点を考慮する。		
		<b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 経済学科統一基準(このシラバスのp.191)を参照のこと。		
		<b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> ミクロ経済学の基礎的な知識を前提とする。ミクロ経済学、マクロ経済学、国際経済学、国際貿易理論、公共経済学、財政学、経済統計学などの科目を履修済みまたは同時履修が望ましい。		

科目名<Subject>	財政学 <Public Finance>		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	・ 前期
担当教員名<Name>	角野 浩 <Ko Sumino>	研究室番号<Office>	335
Office Hours	毎回の講義前後および質問はメールで予約を受け付け随時		
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 財政学は、政府の経済活動に関する分析を中心に、主に租税政策、公債発行、社会保障等々をテーマとする。本講義では、まずミクロの基礎理論について学習し、財政統計等の資料を通じて財政の仕組みや現状についての基礎知識を理解する。さらに基礎理論で養われた視点から、現在日本が行うべき政府の政策課題を見出してゆく。例えば、租税政策、国債管理政策、公共投資政策、社会保障政策等は早急に検討されるべき政策課題である。受講者は、講義を通して、各自の視点からどのような政策課題に焦点をあてて財政改革の方向性を検討すべきかを見極め、社会的厚生を高めるためにどのような財政的手段を採るべきかを考察してゆくことを目標とする。		第5章 外部性と環境政策 外部性と税制による環境政策について（市場の失敗、ビッグの租税・補助金政策等） 第6章 財政政策の諸政策 財政政策に関する租税政策、社会保障政策について（租税改革論、租税優遇措置、脱税の経済学および公的扶助の負の所得税等）	
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 本年度は以下の講義項目を予定している。 第1章 概論および経済数学 現在の日本の財政事情について（国債残高、公債依存度、社会保障、少子高齢化、財政の硬直化、租税の公平性、地方の三位一体改革等）経済数学の復習（関数・微分の考え方、最適性の必要条件） 第2章 租税の経済分析 租税の経済効果について（日本の租税原則、直接税と間接税、租税の転嫁と帰着、税の効率性と公平性のトレードオフ、所得税、法人税、消費税の各論、租税帰着分析、最適課税論等） 第3章 公債の経済分析 公債発行の経済効果について（クラウディング・アウトの問題、リカードの等価定理、パローの中立性命題、世代重複モデルによる将来世代の負担の公平性等） 第4章 社会保障の経済分析 社会保障の経済効果について（公的年金 v s 私的年金、積立方式 v s 賦課方式、年金制度改革、医療制度、逆選抜、モラル・ハザード等）		<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> テキスト ・角野浩『財政学』、同友館、2007年。 参考書 ・井堀利宏『財政学』第2版、現代経済学入門、岩波書店、2001年。 ・入谷純・岸本哲也編著『財政学』基本経済学シリーズ第6巻、八千代出版、1996年。 ・木下康司編『図説日本の財政』平成18年度版、東洋経済新報社、2006年	
		<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 中間試験（50点） 期末試験（50点）の総合評価にて成績を評価する。	
		<b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 成績評価の基準は、p.191を参照のこと。	
		<b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 「ミクロ経済学」の基礎知識を前提とした効用ミクロ経済学の講義である。ある程度の経済数学に慣れておく必要がある。 詳しい講義内容、講義資料および過去の試験問題等は以下のホームページを参照のこと。http://www.otaru-uc.ac.jp/~sumino/	

科目名<Subject>	金融論 <Money, Credit and Banking>		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	後期
担当教員名<Name>	若井 克俊 <Kathutoshi Wakai>	研究室番号<Office>	未定
Office Hours	未定		
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 金融機関および金融政策に関する入門コース。		<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 定期試験の成績による。	
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 1. 貨幣の定義 2. 銀行の機能 3. 中央銀行の役割 4. 金融政策 5. 国債管理 6. 外国為替		<b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 経済学科共通基準に基く	
<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> （予定）コアテキスト金融論、竹田陽介、新生社 金融論、堀内 昭義、東京大学出版会		<b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 最終的なシラバスを後期授業前に掲示する予定なので、それを必ず見て確認すること。 特に、使用教材は掲示内容を確認後に購入すること。	

科目名<Subject>	国際金融と世界経済 <International Finance and the World Economy>		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	・ 後期
担当教員名<Name>	渋谷 浩 <Hiroshi Shibuya>	研究室番号<Office>	5 3 9
Office Hours	授業中にお知らせします		
<b>11. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 本講義では国際金融市場が発展し自由な資本移動が可能な世界経済の下での新しい国際金融理論を学ぶ。同時に、世界経済と日本経済の動向を正しく認識した上で国際投資および経済政策について考察する。		<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 定期試験の成績に基いて決める。	
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 1. 国際金融と世界経済の動向、2. 開放経済と国際収支、3. 経常収支とマクロ経済変数、4. 経常収支不均衡と調整政策、5. 対外均衡と国内均衡の同時達成、6. 国際貿易と国際金融の異時点間モデル、7. 外国為替市場と金利平価、8. 金融デリバティブと国際資産ポートフォリオ、9. 為替レートの決定理論、10. 開放経済における金融政策と財政政策、11. 開放経済の相互依存と国際政策協調、12. 国際資本移動と経済発展		<b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 経済学科共通基準に基く。	
<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 講義ノートに基いて講義を行う。参考書についてはホームページおよび授業の始めに紹介する。		<b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 詳しいシラバスおよび授業に関する連絡事項を私のホームページ <a href="http://www.otaru-uc.ac.jp/~shibuya/">http://www.otaru-uc.ac.jp/~shibuya/</a> <a href="http://www11.plala.or.jp/shibuya123/">http://www11.plala.or.jp/shibuya123/</a> に掲載するので必ず確認してください。	

科目名<Subject>	国際貿易理論 <International Trade Theory>		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	後期
担当教員名<Name>	柴山 千里 <Chisato Shibayama>	研究室番号<Office>	4 3 7
Office Hours	オリエンテーションの時にお知らせします。また、ウェブサイトにも載せています。		
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 国際貿易および貿易政策の理論の学習を目的とします。どのような国が何を貿易するのか、貿易によって誰が利益を得て誰が損失を被るのか、さまざまな貿易政策はどのような効果をもたらすのかなどを理論的に検討することによって、今日の貿易をめぐるさまざまな問題や意見に対して経済理論からの見解を学びます。		11. 補助金 12. 地域経済統合 13. ダumpingとアンチ・ダumping 14. 貿易の政治経済分析	
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 1. 世界と日本の貿易 2. 比較優位と貿易利益 3. ヘクシャー＝オリーン・モデル 4. 国際貿易の最適性 5. 特殊要素モデル 6. 新しい貿易理論 7. 経済成長 8. 要素移動 9. 関税の効果 10. 数量制限		<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 教科書は使っていませんが、伊藤元重・大山道広『国際貿易』岩波書店を学習の参考にすると良いでしょう。	
		<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 中間・期末試験の成績。	
		<b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> p. 191を参照のこと。	
		<b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> ・ ミクロ経済学履修済みが望ましいです。 ・ 講義に用いるパワーポイントは学内サーバーを通じてウェブ上からダウンロードできます。URL は、 <a href="http://www.otaru-uc.ac.jp/~chisato/lecture2002.html">http://www.otaru-uc.ac.jp/~chisato/lecture2002.html</a> です。	

科目名<Subject>	経済数学 <Mathematics for Economics>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	/ 後期
担当教員名<Name>	兼岩 龍二 <Ryuji Kaneiwa>	研究室番号<Office>	4 5 9
Office Hours	在室中は特に都合が悪くない限り、いつでも可		
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 現代の経済学では、多くの部門で数学的表現をするようになってきている。具体的には、産業連関論、一般均衡論、経済成長論、消費者行動の理論、生産の理論、景気変動論、独占論、不完全競争の理論、等々で枚挙にいとまがない。そこでは、「経済学を学ぶならまず数学を学べ」という標語が通用するほどである。本講では経済学の多くの部門で使われる数学の基礎的な部分--微分積分学の概説と演習を行う。		<b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 秀(90~100)、優(80~89)、良(70~79)、可(60~69)とするが、問題の難易度、受験者の成績レベルによって、調整する。調整の方法は採点后に公表する。	
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 1. 種々の関数の導関数 2. 平均値の定理とテイラー展開 3. 多変数関数と偏微分 4. 多変数関数の極値 5. 制約条件付き極値問題 6. 経済学への応用		<b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 特になし。	
<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 石村直之・武隈慎一著：経済数学：新生社			
<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 定期試験(100点満点)による。			

科目名<Subject>	経済学と現代 <Current Economic Issues>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	前期
担当教員名<Name>	角野 浩外 <Ko Sumino and others>	研究室番号<Office>	3 3 5 外
Office Hours	第1回オリエンテーション時に指示。		
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 本授業は、経済学科に所属する教員が、現在行っている専門研究を平易に講義することによって、経済学の基本的な内容を理解してもらうことが目的です。また、毎回、講師が変わり、経済学科の各教員による講義形式を取ります。		2) 「出席票」は一回につき10点とします。授業回数により合計が100点を超えた場合は、満点が100点になるように得点調整を行って、評点とします。	
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 経済学科の教員は、理論経済学、計量経済学、経済史、学説史、経済政策、国際経済学及び金融・ファイナンスの分野で専門研究を行っています。経済学科の各教員が、各自の専門研究の概要を解説するとともに、担当科目の内容についても紹介します。また、経済学の初歩的な内容を解説することで、将来的に経済学科に所属する際の指針を示すようにします。		<b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 成績評価の基準は、p.191を参照のこと。	
<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 共通のテキストは使用しません。毎回、各教員が授業ごとに資料を配布したり、OHP、プロジェクターを使用して、授業内容の理解の補助を行い、経済学の初歩的な内容が平易に理解できるようにします。		<b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> この授業は、平成19年度以降入学生(2007番台)のみ履修を認め、平成18年度以前入学生(2006番台)の履修は認めません。但し、以下の1)~3)の基準を満たす学生は、例外措置として履修を認めます。 1) 2年次に経済学科所属となった学生で、1年次に「経済学と現代」を履修していない学生は履修を認めます。 2) 例外措置の適応は、経済学科所属の2006番台の「経済学と現代」の履修を希望する新規2年生としますが、未履修、再履修は問わず履修を認めます。 3) 平成18年度に休学し、今年度から復学した2006番台の実質的に今年度が1年次の学生は履修を認めます。 この授業は、以下の2クラスに分けて行います。 ・Aクラス(210教室): 経済学科の2年生および休学後復学の学生などの例外措置が認められた学生、および2007001から2007250までの学生。 ・Bクラス(160教室): 2007251から最後まで、とします。授業内容や講師はどちらのクラスも同じです。 オリエンテーションは210番教室で2回行い、160番教室では行いませんので注意して下さい。	
<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 1) 毎回出席をとります。所定の「出席票」を配り、授業時間内に、学生番号と氏名を書いてもらいます。毎回の授業時間内に回収します。出席票の配布および回収は、任意の授業時間内に行います。したがって、途中入室、途中退出により出席票の受け取りおよび提出が出来なかった場合は無効となりますから注意してください。			

科目名<Subject>	経済学入門	<Introduction to Economics >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	.	前期
担当教員名<Name>	柴山 千里	<Chisato Shibayama>	研究室番号<Office>	437
Office Hours	オリエンテーションの時にお知らせします。また、ウェブサイトにも載せています。			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 経済学を初めて学ぶ皆さんに、その内容を平易に紹介する講義です。経済学の基本的な考え方や分析手法を説明します。 経済学の基礎理論はミクロ経済学とマクロ経済学によって構成されています。経済学入門Ⅰではミクロ経済学の紹介を行い、経済学入門Ⅱではマクロ経済学の紹介を行います。経済学の全体像を理解するためには、経済学入門Ⅰと経済学入門Ⅱを併せて履修し、勉強してみてください。 ミクロ経済学は、経済を消費者、生産者といった経済主体によって構成されると考え、その経済主体の個々の経済行動の集積が社会全体の経済の動きを決定すると考えて分析を行います。ミクロ経済学の分析手法は多くの応用経済学やさまざまな他の学問分野でも用いられていますので、経済学の専門分野へ進むためには必須であるだけでなく、他の専門分野へ進む場合でも大切な教養になるでしょう。		<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> ジョセフ・E・スティグリッツ/カール・E・ウォルシュ著『スティグリッツ入門経済学 第3版』東洋経済新報社 <b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 期末試験の成績。 <b>5.成績評価の基準</b> p.191を参照のこと。 <b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> この授業は、平成19年度以降入学生(2007番台)のみ履修を認め、平成18年度以前入学生(2006番台)の履修は認めません。但し、以下の基準を満たす学生は、例外措置として履修を認めます。 1)2年次に経済学科所属となった学生で、1年次に「経済学入門Ⅰ」を履修していない学生は履修を認めません。 2)例外措置の適応は、経済学科所属の2006番台の「経済学入門Ⅰ」の履修を希望する新規2年生としますが、未履修、再履修は問わず履修を認めます。 3)平成18年度に休学し、今年度から復学した2006番台の実質的に今年度が1年次の学生は履修を認めます。		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 1.経済学とは何か 2.経済学的な考え方 3.取引と貿易 4.需要・供給と価格 5.需要・供給分析の応用 6.不完全市場部門				

科目名<Subject>	経済学入門	<Introduction to Economics >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	.	後期
担当教員名<Name>	廣瀬 健一	<Ken-ichi Hirose>	研究室番号<Office>	431
Office Hours	授業日の昼休みを予定			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 本科目『経済学入門』では、経済成長・失業・インフレーション等の問題のように、1国全体の経済活動に焦点を当てた「マクロ経済学」の入門的内容を講義します。「ミクロ経済学」の内容を取り扱う『経済学入門』と本科目を合わせて履修することにより、経済学の考え方を最も基礎的なレベルで一通り学習することを目的とします。 したがって、『経済学入門』で学習する内容は、2年次配当科目の『ミクロ経済学』・『マクロ経済学』をはじめ、多くの経済学科専門科目を履修する際の基礎知識となってきますので、『経済学入門』は1年次に履修しておくことが強く望まれます。		<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 教科書：「スティグリッツ 入門経済学 第3版」東洋経済新報社 <b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 期末試験(マークシート方式)によって評価します。 <b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 成績評価の基準は学科案内の学科統一基準を参照のこと。 <b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> この授業は、平成19年度以降入学生(2007番台)のみ履修を認め、平成18年度以前入学生(2006番台)の履修は認めません。但し、以下の基準を満たす学生は、例外措置として履修を認めます。 1)2年次に経済学科所属となった学生で、1年次に『経済学入門』を履修していない学生は履修を認めます。 2)例外措置の適応は、経済学科所属の2006番台の『経済学入門』の履修を希望する新規2年生としますが、未履修、再履修は問わず履修を認めます。 3)平成18年度に休学し、今年度から復学した2006番台の実質的に今年度が1年次の学生は履修を認めます。		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 教科書の第8章～第11章に沿って、以下の内容を講義します。 第8章 マクロ経済学と完全雇用 第9章 経済成長 第10章 失業とマクロ経済学 第11章 インフレーションとデフレーション また、第7章 公共部門 など他章の内容も、必要に応じて適時、取り扱います。				

科目名<Subject>	経済学特別講義 A	<Topics in Economics>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	.	前期
担当教員名<Name>	和田 良介	<Ryosuke Wada>	研究室番号<Office>	5 3 7
Office Hours	木 13:30- 14:20			
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> The objective is to understand basic concepts of financial economics; optimization over time, asset valuation and risk management. Lectures are given in English. Many homework exercises require use of computers; Excel and <i>Mathematica</i>. Use of software will be explained.</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> この授業は、短期留学プログラムで開講される Financial Economics と同じものです。学部生が履修する場合には科目名のみ変わります。</p> <p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. time value of money and discounted cash flow analysis</li> <li>2. valuation of bonds and stocks</li> <li>3. risk management</li> <li>4. prices of derivatives; futures, forward and options contracts</li> </ol> <p>The level of mathematical sophistication is elementary algebra, including sum of geometric sequences.</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> text book: Zvi Bodie and Robert Merton, Finance, Prentice Hall, 2000</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> Allocation of weights will be one exam (65 %), homeworks (25%), class participation (10%). Working together on homeworks is encouraged.</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 33% in the exam for passing.</p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b></p>				

科目名<Subject>	経済学特別講義 B	<Topics in Economics>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	.	後期
担当教員名<Name>	船津 秀樹	<Hideki Funatsu>	研究室番号<Office>	3 3 3
Office Hours	月・火・木 12:00 ~ 12:50			
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> The purpose of this course is to introduce students from different areas to various aspects of regional economies in Asia and Pacific. The course particularly emphasizes on the activities of Asia Pacific Economic Cooperation</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> (1) Introduction to Asia-Pacific Economic Cooperation (2) US-Japan Trade Relation (3) Free Trade and the World Economic Welfare (4) Regionalism and Global Economic Integration (5) Free Trade Area under WTO (6) Open Regionalism Concept of APEC (7) East Asia Free Trade Area (8) Country Risk and Export Credit Insurance (9) Free Trade Zone and Regional Economic Development (10) Concluding Remarks on the future of Asia and the Pacific</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> Web resources from APEC homepage M.Honma, A.Shimizu, and H. Funatsu ed. GATT AND TRADE LIBERALIZATION IN AGRICULTURE, Otaru University of Commerce, 1993.</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> Class participation (50%) and the result of final examination (50%)</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 経済学科の統一基準による。191p参照のこと。</p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> この授業は、短期留学プログラム協力科目として行われます。交換留学生と一緒に学びますので、英語コミュニケーション能力が必要です。</p>				

科目名<Subject>	インターンシップ <Internship>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	・ 通年
担当教員名<Name>	遠藤薫・大矢繁夫・多木誠一郎・木村泰知・花輪啓一・副島美由紀		研究室番号<Office>
Office Hours			
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>  企業、官公庁等での就業体験を通じて職業意識を養うとともに、実務に触れることにより学習意欲を向上させる。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>  企業、官公庁等での実習（5日から2週間程度）が中心。実習の前の、講義・講習、実習後のレポート提出が義務づけられる。詳細は、5月に公表される「平成18年度インターンシップ教育プログラム」で明らかにされるが、だいたい、以下のスケジュールで行われる。</p> <p>5月：オリエンテーション。「平成18年度 インターンシップ教育プログラム」の公表  6月：事前講義  7月：ビジネスマナー講習。  8～9月：企業等で実習（原則として夏休み 期間）  10月：成果レポート提出  12月：大学、学生、研修先による意見交換 会</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b></p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>  上記の教育プログラムへの参加、レポートの評価等を総合的に考慮する。</p> <p><b>5.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>  科目の性格上、研修先は、4月以降にならなければわからない。その数も限られているので希望者がすべて履修できるわけではない。また、研修先は、必ずしも希望どおりとはならない。募集は4月から5月にかけて行われるので、掲示に注意すること。通常の履修とは別の手続・方法で行われる。キャップ制の対象とはならない。実習は原則として夏休み期間に、講義・講習・レポート報告会等は通常の時間割とは別の日程や時間を使って行われるので、それに参加できることが条件である。「総合科目（IP-グリーン講座）」を履修していることが望ましい。</p>			

### 経済学科 成績評価の統一基準

**秀**（100～90）：講義内容について秀でた理解力を有し、経済理論を応用して、さまざまな経済問題について秀でた分析をすることができる。

**優**（89～80）：講義内容について優れた理解力を有し、経済理論を応用して、さまざまな経済問題について優れた分析をすることができる。

**良**（79～70）：講義内容について良い理解力を有し、経済理論を応用して、さまざまな経済問題について良い分析をすることができる。

**可**（69～60）：講義内容について理解力を有し、経済理論を応用して、さまざまな経済分析について分析をすることができる。

**不可**（59～0）：講義内容について十分な理解力を持たず、経済理論を応用して、さまざまな経済問題について分析をすることができない。

商 学 科  
学 科 科 目



科目名<Subject>	流通システム論 <Macro Marketing>		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	通年
担当教員名<Name>	伊藤 一・白 貞王 <Hajime Ito/Jungyim BAEK>	研究室番号<Office>	443/444
Office Hours	随時（事前にメールで連絡のこと）		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 流通システム論は、生産から消費にいたるまでの商品の流通構造を分析することを目的としている。流通系列化や返品制などの取引慣行に特徴付けられる日本的流通システムは、情報技術の進展と流通のグローバル化によって変革を迫られている。この授業では日本の流通システムの動態をテーマにし、過去の日本の流通の歴史を踏まえながら、日本の流通システムがどのように変化してきているかの問題を明らかにしたい。		<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 前半は『現代流通』 矢作敏行 有斐閣 後半は講義のはじめにプリント及び関連資料を配布する。参考文献として、加藤 司著『日本的流通システムの動態』（千倉書房）2006、の第一部を読んで、講義に出席することが望ましい。	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> マーケティングの視点 流通の基礎理論 商流について 情報流について 物流について 家電業界における系列化体制の形成と崩壊 卸売業界における物流の効率化 アパレル業界における「委託販売制度」とQR 大型小売企業の統合 地域商業の衰退とまちづくり 小売企業の海外進出 Eリテール		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 試験評価：中間および期末試験 出席・発言評価：ランダムに出席をとる。また授業中の発言も評価対象として加味する。	
		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 秀（100-90）：流通理論について秀でた理解力を有し、その理論を応用して様々な流通問題について秀でた分析をしている。 優（89-80）：授業内容をほぼ理解しており、最近の流通問題を理論的に説明できるような流通に関する基礎知識を有している。 良（79-70）：授業中に明示する重要なポイントを理解しており、流通の重要問題については、常識的な認識をしている。 可（69-60）：授業内容の大体の流れを掴んでおり、流通の重要問題について間違った理解をしていない。	
		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 特になし。	

科目名<Subject>	流通システム論 <Macro Marketing >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	前期
担当教員名<Name>	伊藤 一 <Hajime Ito>	研究室番号<Office>	4 4 3
Office Hours	随時（事前にメールで連絡のこと）		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 流通システム論は、生産から消費にいたるまでの商品の流通構造を分析することを目的としている。この授業では日本の流通システムの動態をテーマにし、過去の日本の流通の歴史を踏まえながら、日本の流通システムがどのように変化してきているかの問題を明らかにしたい。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 試験評価：期末試験 出席・発言評価：ランダムに出席をとる。また授業中の発言も評価対象として加味する。	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> マーケティングの視点 流通の基礎理論 商流について 情報流について 物流について		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> その理論を応用して様々な流通問題について秀でた分析をしている。 優（89-80）：授業内容をほぼ理解しており、最近の流通問題を理論的に説明できるような流通に関する基礎知識を有している。 良（79-70）：授業中に明示する重要なポイントを理解しており、流通の重要問題については、常識的な認識をしている。 可（69-60）：授業内容の大体の流れを掴んでおり、流通の重要問題について間違った理解をしていない。	
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 『現代流通』 矢作敏行 有斐閣		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>	

科目名<Subject>	流通システム論 <Macro Marketing >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	後期
担当教員名<Name>	白 貞壬 <Jungyim BAEK >	研究室番号<Office>	4 4 4
Office Hours	随時 (事前にメールで連絡のこと)		
<p><b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>  流通システム論は、生産から消費にいたるまでの商品の流通構造を分析することを目的としている。流通系列化や返品制などの取引慣行に特徴付けられる日本的流通システムは、情報技術の進展と流通のグローバル化によって変革を迫られている。この授業では日本の流通システムの動態をテーマにし、過去の日本の流通の歴史を踏まえながら、日本の流通システムがどのように変化してきているかの問題を明らかにしたい。</p> <p><b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b>  日本の流通システムを劇的に変容させた環境要因として情報技術の進展とグローバル化を取り上げ、産業の特質によって異なる取引慣行及び流通システムの構造分析を産業ベースで行うことにする。以下の小テーマ別に基礎理論を学び、その理解を前提として事例を取り上げ理論的に分析する。  家電業界における系列化体制の形成と崩壊  卸売業界における物流の効率化  アパレル業界における「委託販売制度」とQR  大型小売企業の統合  地域商業の衰退とまちづくり  小売企業の海外進出  E リテール</p> <p><b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>  講義のはじめにプリント及び関連資料を配布する。参考文献として、加藤 司著『日本の流通システムの動態』</p> <p>(千倉書房) 2006、の第一部を読んで、講義に出席することが望ましい。</p> <p><b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>  定期試験(80%)およびランダムにとった出席(20%)による総合評価</p> <p><b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>  秀(100-90): 流通理論について秀でた理解力を有し、その理論を応用して様々な流通問題について秀でた分析をしている。  優(89-80): 授業内容をほぼ理解しており、最近の流通問題を理論的に説明できるような流通に関する基礎知識を有している。  良(79-70): 授業中に明示する重要なポイントを理解しており、流通の重要問題については、常識的な認識をしている。  可(69-60): 授業内容の大体の流れを掴んでおり、流通の重要問題について間違った理解をしていない。</p> <p><b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>  特になし。</p>			

科目名<Subject>	社会と金融 <Society and Finance>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	後期
担当教員名<Name>	大矢 繁夫 <OHYA Shigeo >	研究室番号<Office>	3 2 0
Office Hours	随時可 (事前にメールで連絡すること)		
<p><b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>  近年、経済社会にとって、金融領域のもつ意義はますます大きくなっている。血液の流れに例えられる金融は、そのあり方如何が経済というボディを生かしも殺しもする。ひいては、社会や人間のあり方にも強い影響を及ぼす。最近のわが国における金融のあり様は、不安と停滞を脱したかに見えるが、どのような方向性を持つとしてしているのか。本講義は、現在の金融の現状を念頭に置きながら、社会にとって望ましい金融のあり方をも考えつつ、金融の働きや意義をわかりやすく解説することを目的とする。なお、授業では、情報機器・視聴覚機器を使用する。</p> <p><b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b>  1 「金融の世界」の概観  2 貨幣の発展と歴史  3 「信用」とは何か  4 いろいろな金融機関の働き  5 中央銀行(日銀)の役割  6 短期金融市場の仕組みと役割  7 株式市場の仕組みと役割  8 債券市場の仕組みと役割  9 金融新商品の世界  - 先物、オプション等 -  10 新しいマネーシステムをめぐって</p> <p><b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>  参考文献: 酒井良清・鹿野嘉昭『金融システム 第3版』(有斐閣)、鈴木芳徳『わかりやすい証券市場論入門』(白桃書房)  資料: 授業のときにプリントを随時配布</p> <p><b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>  定期試験の成績によって評価するが、授業中に適宜行う小テストも加味する。小テストの回数は5回以内であり、定期試験で合格ラインに達しない者に、出席点として加味する(最大5点まで)。</p> <p><b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>  以下の3項目 ~ について、90%以上の達成度が「秀」、80~89%の達成度が「優」、70~79%の達成度が「良」、60~69%の達成度が「可」、59%以下が「不可」という基準である。授業内容全般にわたる理解。授業内容に基づいて応用的な考察をすること。授業内容に関連する金融時事問題を理解すること。</p> <p><b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>  特になし。</p>			

科目名<Subject>	マーケティング <Marketing>		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	前期
担当教員名<Name>	高宮城朝則・近藤公彦<Tomonori Takamiyagi / Kimihiko Kodo>	研究室番号<Office>	413/328
Office Hours	事前に連絡をしてください。		
1. 授業の目的・方法<Course objective and method>	<p>《後半》 ケース分析セクション</p> <p>授業は次のテーマに沿ったケースを分析していきます。グループ単位でディスカッションを行い、いくつかのグループにプレゼンテーションを行っていただきます。また、グループディスカッションや全体ディスカッションを踏まえて、ケースレポートを提出していただきます。</p> <p>1. 製品開発 2. ヒット商品 3. ブランド戦略 4. 顧客志向 5. 価格戦略 6. 流通チャネル戦略</p>		
2. 授業内容<Course contents>	<p>《前半》 理論セクション</p> <p>授業は次の事項についてテキストにそって進めていきます。なお、テキストの第2・5・11章については授業の中で随時取り入れて説明していきます。</p> <p>1. マーケティングの意味・理念・基本的枠組 2. マーケティング計画と戦略 3. マーケティングの環境条件 4. 製品とブランド 5. 価格 6. プロモーション 7. マーケティング・チャネル</p>		
3. 使用教材<Teaching materials>	<p>テキスト：片桐誠士・高宮城朝則・東 徹 編、『現代マーケティングの構図』雄略野書 院、2000年。参考文献については授業中に紹介します。</p> <p>ケース：適宜、配布します。</p>		
4. 成績評価の方法<Grading>	<p>前半の成績（50%）および後半の成績（50%）の単純合計で成績評価を行います。</p> <p>・前半：中間試験の成績（80%）およびクイズ・小テストの評価（20%） ・後半：出席（20%）、ディスカッションへの参加度（30%）、ケースレポート（50%）</p>		
5. 成績評価の基準<Grading Criteria>	<p>第1回目の授業オリエンテーションにおいて詳細に説明します。</p>		
6. 履修上の注意事項<Remarks>	<p>第1回目のオリエンテーションで授業の進め方を詳しく説明しますので、履修希望者は必ず出席してください。</p>		

科目名<Subject>	チャネル・マネジメント <Channel Management>		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	通年
担当教員名<Name>	白貞壬・伊藤一（Jungyim BAEK・Hajime ITO）	研究室番号<Office>	444/443
Office Hours	随時（事前にメールで連絡のこと）		
1. 授業の目的・方法<Course objective and method>	<p>本講義では、流通チャネルのなかで互いに自立しながら相互依存しているチャネル構成メンバーの行動やそのメンバー間の関係を分析することを目的としている。前半は、チャネル認識をめぐる議論の系譜を跡付けながらチャネル論の基礎知識を学ぶ。チャネル論に関する理解を前提として流通チャネルの組織間関係の事例を取り上げながら理論的分析を行う。後半は</p>		
2. 授業内容<Course contents>	<p>「システム」としてのチャネル認識 パワー・コンフリクトパラダイム 日本におけるチャネル論の展開 取引費用パラダイム 市場取引・組織取引・垂直的統合 製販統合と流通再編</p>		
3. 使用教材<Teaching materials>	<p>講義のはじめにプリント及び関連資料を配布する。参考文献については、適宜、講義のなかで紹介する。</p>		
4. 成績評価の方法<Grading>	<p>試験評価：中間および期末試験 出席・発言評価：ランダムに出席をとる。また授業中の発言も評価対象として加味する。</p>		
5. 成績評価の基準<Grading Criteria>	<p>秀（100-90）：チャネル論について秀でた理解力を有し、その理論を応用して最近の動きについて秀でた分析をしている。</p> <p>優（89-80）：授業内容をほぼ理解しており、最近の流通チャネル問題を理論的に説明できるような流通に関する基礎理論を有している。</p> <p>良（79-70）：授業中に明示する重要なポイントを理解しており、流通チャネルの重要問題については、常識的な認識をしている。</p> <p>可（69-60）：授業内容の大体の流れを掴んでおり、流通チャネルの重要問題について間違った理解をしていない。</p>		
6. 履修上の注意事項<Remarks>	<p>履修希望者は流通システム論 ・ を履修していることを前提とする。</p>		

科目名<Subject>	国際マーケティング <International Marketing>		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	・ 後期
担当教員名<Name>	プラート・カロラス <Carolus Praet>	研究室番号<Office>	314
Office Hours	Appointments with the instructor should be made in advance by email.		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> The objective of the course is to familiarize students with the various marketing issues corporate marketers face in an increasingly globalizing economy and to provide students with the necessary theoretical and conceptual tools to solve these issues. The course aims to make students more culturally sensitive and aware of the differences in cultural values across nations. The course places special emphasis on the cross-cultural aspects of marketing, in particular cultural influences on consumer behavior. Classes will use the lecture format for discussing theoretical concepts, which will be illustrated through concrete examples and cases.		<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 1) The main textbook is <i>Global Marketing Management</i> by Masaaki Kotabe and Kristiaan Helsen (edition has yet to be decided upon, but the 3 <sup>rd</sup> edition is the most likely candidate for adoption: John Wiley and Sons (WIE); ISBN: 0471451878). 2) A Japanese translation of only part (7 out of 19 chapters) of the second edition of this textbook is also available: 「グローバル・ビジネス戦略」 小田部 正明 (著)、クリスチアン ヘルセン (著) ¥3,045、同文館出版、ISBN: 4495638114 3) An additional textbook recommended to those who lack confidence in their English reading skills is 「グローバル・マーケティング」第2版、諸上 茂登 (著)、藤沢 武史 (著)、¥2,940 中央国際マーケティング社、ISBN: 4502373907	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> After an initial sketch of globalization of markets and competition, the environment in which international or global marketers operate will be described. This will be followed by a treatment of various aspects of global marketing research, segmentation and positioning. Subsequently, global marketing strategies and market entry strategies available to global marketers will be explained. Attention will then shift to a detailed treatment of the elements of the global marketing mix (product, price, place, and promotion). Throughout the course, attention will be devoted to the quickly growing commercial use of the Internet (E-commerce) and its impact on global marketing.		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> The grading method is as follows: Midway exam 40% Final exam 50% Class attendance: 10%.	
<b>Tentative schedule:</b> 1-2 Globalization and the Evolution of Global Marketing 3-4 Global Economic Environment 5-6 Global Financial Environment 7-9 Global Cultural Environment and Buying Behavior 10-11 Political and Legal Environment 12-13 Global Marketing Research 14-15 Global Segmentation and Positioning 16-17 Global Marketing Strategies 18-19 Global Market Entry Strategies 20-21 Global Product Policy Decisions I: Developing New Products for Global Markets 22-23 Global Product Policy Decisions II: Marketing Products and Services 24-25 Global Pricing 26-27 Communicating with the World Customer 28 Global Distribution 29-30 Global Marketing and the Internet		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> <b>秀 Outstanding (100~90):</b> 国際マーケティングについて秀でた理解力を有し、国際マーケティング理論を応用して、さまざまな国際マーケティング問題について秀でた分析をすることができる。 <b>優 Excellent (89~80):</b> 国際マーケティングについて優れた理解力を有し、国際マーケティング理論を応用して、さまざまな国際マーケティング問題について優れた分析をすることができる。 <b>良 Good (79~70):</b> 国際マーケティングについて良い理解力を有し、国際マーケティング理論を応用して、さまざまな国際マーケティング問題について良い分析をすることができる。 <b>可 Passing grade (69~60):</b> 国際マーケティングについて理解力を有し、国際マーケティング理論を応用して、さまざまな国際マーケティング分析について分析をすることができる。 <b>不可 Failing grade (59~0):</b> 国際マーケティングについて十分な理解力を有せず、国際マーケティング理論を応用して、さまざまな国際マーケティング問題について分析をすることができない。	
		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> Classes will be taught in English. However, essay parts of exams may be answered in Japanese and written assignments may be submitted in Japanese. Please note that multiple choice questions in exams will be in English. Students will be expected to have a basic understanding of marketing and to have taken an introductory class in marketing at the undergraduate level.	

科目名<Subject>	保険論 <Insurance>		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	・ 後期
担当教員名<Name>	中浜 隆 <Takashi Nakahama>	研究室番号<Office>	544
Office Hours	随時(事前にメールで連絡してください)		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 授業の目的は、現代の保険制度と保険業の概要と特徴について学習し、理解することにあります。 方法は、口述と板書で行い(教科書は使用しません)必要に応じて授業中に資料を配布します。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 出席状況または小テスト 20 点、レポート 2 回(1 回 20 点) 40 点、定期試験 40 点の合計点で評価します。ただし、レポートは中間試験に替えて実施するので、レポートを 1 回でも提出しなかった場合には、合計点にかかわらず合格点を与えません。	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> (1) 保険一般 リスクとリスク処理手段、保険の仕組み、保険商品の特性、保険の分類、保険の機能などについて解説します。 (2) 損害保険 損害保険の要素、主要な保険種目、損害保険業について解説します。 (3) 生命保険 主要な保険種目や契約者配当などについて解説します。 (4) 保険経営 保険会社の業務・財務、会社形態、募集制度などについて解説します。 (5) 保険制度改革と保険業の動向 保険制度改革(規制緩和・自由化)と保険業の近年の動向について解説します。		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> <b>秀 (90 点以上):</b> 授業内容(現代の保険制度と保険業の概要と特徴)とレポート課題の理解がとくに優れている。 <b>優 (80 点~89 点):</b> 授業内容とレポート課題の理解が優れている。 <b>良 (70 点~79 点):</b> 授業内容とレポート課題の理解がよくできている。 <b>可 (60 点~69 点):</b> 授業内容とレポート課題の理解ができていない。 <b>不可 (59 点以下):</b> 授業内容とレポート課題の理解ができていない。	
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 教科書は使用しません。		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 履修希望者は必ずオリエンテーションに出席してください。上記の記載事項に変更などがある場合、オリエンテーションのときに伝えます。 教室の収容人数を上回る履修希望者がいる場合、履修制限を行います。履修制限を行う場合、商学科所属の学生を優先します。	

科目名<Subject>	金融市場論 <Financial Market>		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	・ 前期
担当教員名<Name>	齋藤 一郎 <Ichiro Saito>	研究室番号<Office>	340
Office Hours	前期：金曜日 16：10～17:40		
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>  高度に分権化された経済社会において、金融システムは経済活動に欠かすことのできないインフラストラクチャーのひとつであり、そのあり方は、私たちの生活や企業活動に著しい影響を及ぼします。本講義では、金融システムに関する基礎的な理論を習得するとともに、それを援用して、現代の金融を洞察する力を涵養することを目的とします。  授業は主として講義形式で行い、PowerPoint 等で作成した講義資料に基づいて進め、現代金融システムの基本的な構図を理解するために必要な分析フレームワークの解説に重点を置きます。また、講義の中では、適宜、今日的なトピックスを取り上げて、金融事象を理解するうえで、どのように分析フレームワークを適用すべきかについて講述します。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>  金融取引の意義と役割  貯蓄・投資と金融取引 ～異時点間の資金配分～  貯蓄・投資と金融取引 ～リスク・シェアリング～  金融取引における取引費用の存在  金融取引における情報の不完全性  金融取引の諸類型と情報生産  金融取引の諸類型とリスク負担  金融システムのアーキテクチャー  金融ビジネスモデルの構造変化  金融システムと実物経済</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>  テキストは指定しません。参考文献としては、さしあたり以下の文献を挙げておきます。それ以外に必要な文献、資料およびデータについては、適宜、講義の中で指示します。  酒井良清・前多康男『金融システムの経済学』東洋経済新報社、2004年  村瀬英彰『金融論』日本評論社、2006年</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>  期末定期試験のほか、講義の中で適宜課す演習問題によって評価します。評価項目のウエイトは、以下のとおりです。  期末定期試験 60%  演習問題 40%</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>  秀：金融システムに関する理解に秀で、さまざまな金融事象をロジカルに説明することができる。  優：金融システムに関する理解に優れ、さまざまな金融事象をロジカルに説明することができる。  良：金融システムに関する理解に優れ、さまざまな金融事象を概ねロジカルに説明することができる。  可：金融システムに関する理論を概ね理解し、さまざまな金融事象を常識的な範疇で説明することができる。</p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>  特にありません。</p>			

科目名<Subject>	商学特講 <Topics in Commerce>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	・ 前期
担当教員名<Name>	中浜 隆 <Takashi Nakahama>	研究室番号<Office>	544
Office Hours	随時（事前にメールで連絡してください）		
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>  保険におけるアベイラビリティ（availability）とアフォードビリティ（affordability）の問題を、アメリカの民間医療保険を題材にして考察します。  教科書を使用し、おもに口述と板書で行います。また適宜、パワーポイントも使用します。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>  （1）アメリカの医療保険制度  公的医療保険と民間医療保険の概要と特徴について解説します。  （2）1970年代～80年代の民間医療保険  医療費の増加、引受競争の激化、アンダーライティングの強化など、医療保険業と医療保険市場の状況について解説します。  （3）1990年代以降の医療保険改革  医療保険の1990年代に州政府が実施した医療保険改革の意義と内容について解説します。</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>  中浜 隆『アメリカの民間医療保険』日本経済評論社、2006年</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>  定期試験の得点で評価します（2単位なので中間試験は実施しません）</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>  秀（90点以上）：授業内容（アメリカの民間医療保険）の理解がとくに優れている。  優（80点～79点）：授業内容の理解が優れている。  良（70点～69点）：授業内容の理解がよくできている。  可（60点～59点）：授業内容の理解ができている。  不可（59点以下）：授業内容の理解ができていない。</p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>  履修希望者は必ずオリエンテーションに出席してください。上記の記載事項に変更などがある場合、オリエンテーションのときに伝えます。</p>			

科目名<Subject>	経営学原理 <Principles of Business Administration >		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	後期
担当教員名<Name>	松尾 睦 <Makoto Matsuo>	研究室番号<Office>	5 3 4
Office Hours	火曜日 12:10-12:40		
<p>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt; 経営学原理、経営学原理 に準じる。</p> <p>2. 授業内容&lt;Course contents&gt; 経営学原理、経営学原理 に準じる。</p> <p>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt; 経営学原理、経営学原理 に準じる。</p> <p>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt; 経営学原理、経営学原理 に準じる。</p> <p>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt; 経営学原理、経営学原理 に準じる。</p> <p>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt; 経営学原理、経営学原理 に準じる。</p>			

科目名<Subject>	経営学原理 <Principles of Business Administration >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	後期
担当教員名<Name>	松尾 睦 <Makoto Matsuo>	研究室番号<Office>	5 3 4
Office Hours	火曜日 12:10-12:40		
<p>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt; 本講義は、顧客志向の経営のあり方について理解することを目的としている。授業では、サービス企業に焦点を当て、講義と演習を組み合わせた形で行う。演習では、具体的な企業の事例を分析する「ケースメソッド」を用いグループ単位でのディスカッションも行う。講義では、情報機器（プロジェクター）を用い、双方向の授業を心がける。</p> <p>2. 授業内容&lt;Course contents&gt; 経営に関する基本的な理論  顧客志向の経営に関する理論 ・サービスマネジメント ・顧客志向の概念 ・戦略とリーダーシップ ・業務オペレーション ・人的資源管理 ・情報システム  各種事例の分析</p> <p>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt; 使用する教科書は、まだ出版されていないので、授業の始まる前に掲示によって知らせる（9月に出版予定）。</p> <p>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt; 授業中に毎回実施する演習レポート（70%）と、授業途中に1回実施する小テスト（30%）とによって成績を決定する。試験は実施しない。ただし、小テストで70点以上得点しないとレポート提出の資格がなくなるので注意すること。また、授業に4分の3以上出席しないと単位が認められないので注意すること。</p> <p>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt; 秀（100-90）：顧客志向経営について非常に優れた理解力を示し、非常に優れたケース分析能力を持つ。 優（89-80）：顧客志向経営について優れた理解力を示し、優れたケース分析能力を持つ。 良（79-70）：顧客志向経営について標準的な理解力を示し、標準的なケース分析能力を持つ。 可（69-60）：顧客志向経営について最低限の理解力を示し、最低限のケース分析能力を持つ。 不可（59-0）：顧客志向経営について理解力を示さず、ケース分析能力が不十分である。</p> <p>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt; 履修を希望する学生は「大学において何を学びたいか」に関する課題レポートを、A4用紙1枚（ワープロ書き、800-1000字程度）にまとめ、4月13日（金）12:00まで学務課レポートボックスに提出すること。履修者が多い場合には、このレポートの内容によって履修者を決定する（その場合、履修を許可する者の学生番号を4月17日（火）までに掲示する）。</p>			

科目名<Subject>	経営学原理 <Principles of Business Administration >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	後期
担当教員名<Name>	松尾 睦 <Makoto Matsuo>	研究室番号<Office>	5 3 4
Office Hours	火曜日 12:10-12:40		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 本講義は、顧客志向の経営のあり方について理解することを目的としている。授業では、サービス企業に焦点を当て、講義と演習を組み合わせた形で行う。演習では、具体的な企業の事例を分析する「ケースメソッド」を用いグループ単位でのディスカッションも行う。講義では、情報機器（プロジェクター）を用い、双方向の授業を心がける。経営学原理 は基本的な理論を扱うのに対し、経営学原理 では、応用的な理論について説明する。		注意すること。また、授業に4分の3以上出席しないと単位が認められないので注意すること。	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 顧客志向経営の実施に関する理論 <ul style="list-style-type: none"> <li>品質管理の進め方</li> <li>プロジェクトの進め方</li> <li>顧客志向への変革プロセス</li> </ul> 各種事例の分析		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 秀(100-90)：顧客志向経営について非常に優れた理解力を示し、非常に優れたケース分析能力を持つ。 優(89-80)：顧客志向経営について優れた理解力を示し、優れたケース分析能力を持つ。 良(79-70)：顧客志向経営について標準的な理解力を示し、標準的なケース分析能力を持つ。 可(69-60)：顧客志向経営について最低限の理解力を示し、最低限のケース分析能力を持つ。 不可(59-0)：顧客志向経営について理解力を示さず、ケース分析能力が不十分である。	
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 使用する教科書は、まだ出版されていないので、授業の始まる前に掲示によって知らせる(9月に出版予定)。		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 履修を希望する学生は「将来、どのような仕事につきたいか」に関する課題レポートを、A4用紙1枚(ワープロ書き、800-1000字程度)にまとめ、4月13日(金)12:00まで学務課レポートボックスに提出すること。履修者が多い場合には、このレポートの内容によって履修者を決定する(その場合、履修を許可する者の学生番号を4月17日(火)までに掲示する)。	
<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 授業中に毎回実施する演習レポート(70%)と、授業途中に1回実施する小テスト(30%)とによって成績を決定する。試験は実施しない。ただし、小テストで70点以上得点しないとレポート提出の資格がなくなるので			

科目名<Subject>	経営管理論 <Business Management>		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	前期
担当教員名<Name>	玉井 健一 <Ken-ichi Tamai>	研究室番号<Office>	4 1 6
Office Hours			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 経営管理論は、経営管理者(社長、事業部長、生産部長など)が組織を運営するために必要とされる技法を探究することを課題としている。したがって、管理の役割を演じる経営者および管理者の役割を分析することが重要になる。さらに、「管理する」という言葉は、管理される対象を志向するため、その対象としての経営組織をシステム的に理解していくことも必要になる。要するに、経営管理論は、管理活動と組織特性の相互の関係に注目しながら優れた管理のあり方を考えていくのである。授業では組織と管理の関係に基づき、1.経営組織と環境の関係に関わる経営戦略(企業戦略、事業戦略)、2.分業や調整の枠組みに関わる組織設計に関わる理論を学び、企業にとってどのような経営が必要かを議論していく。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 筆記試験-期末のみ(60点) 授業中の発言(20点) 小テスト(20点)	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 経営管理論の課題と方法 環境分析のツール 全社レベルの戦略 事業レベルの戦略 組織設計論		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 筆記試験、発言、小テストの合計が90点以上が「秀」、80-89点が「優」、70-79点が「良」、60-69点が「可」、59点以下が「不可」となる。目安は以下のとおり。 「秀」：経営管理に関する理論的理解と分析力・応用力が完全であること。 「優」：経営管理に関する理論的理解と分析力・応用力がほぼ完全であること。 「良」：経営管理に関する理論的理解と分析・応用力が普通以上であること。 「可」：経営管理に関する理論的理解は普通であるが、分析・応用力に劣るもの。	
		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> テキストは『やさしい経営学』(第3版)、金原達夫、文真堂を使いますので必ず持参すること。 講義には、経営の具体例に関わるビデオケースのディスカッションが含まれますので、積極的に発言すること。	

科目名<Subject>	経営史 <Business History>		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	通年
担当教員名<Name>	高田 聡 <Satoshi Takata>	研究室番号<Office>	535
Office Hours	おって掲示する。		
<p><b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>          企業活動の史的展開を対象とし、変化を促す企業内外における動因を探ることが最終的な目的である。考察の焦点を前世紀の企業活動で世界的な基準をひとつ強みに指し示したアメリカ合衆国地域におく。20世紀についての個別経営の事例検討ではGM社等を柱に自動車産業関連の地域経営史的考察を軸とする。経営の諸側面のなかでは企業者精神、労働倫理、経営労務関係等の人間的側面、とくに多文化社会に生きる市井の人々における同側面、に検討の重点をおく。講義は板書、副読本、配付資料(英文が大半)、映像資料(英語版も含む)等を併用する予定。</p> <p><b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b>          トピックは以下を予定。          序. 経営史講義の対象、課題、授業計画          . 19世紀以前の企業経営：欧米を中心に          1. 前工業化期の企業勃興          2. 経営・仕事観の変化          3. 産業革命と工業経営          4. 産業革命の諸帰結：英米の経営と社会          . アメリカ企業の台頭：20世紀前半期までの大企業化          1. 重工業化と企業経営          2. 社会的背景：フロンティア/多文化社会          3. 経営と規制(1)：革新主義期          4. 経営革新：フォードとGMでの事例          5. 経営と規制(2)：ニューディール期          6. 20世紀アメリカの経営社会：草の根からの構図</p> <p><b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>          左記の欄を参照。副読本等に関してはおって指示する。</p> <p><b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>          以下が原則。2度の定期試験(各50点満点)の合計点に、「経営史意見票」からの点(1回に1点程度)を加算する。意見票とは、講義に関する質問・意見等を募るもので、1ヶ月につき1回程配付の予定。なお、2度の定期試験をとともに欠かさず受験した受講生のみ、最終の(1点以上の)成績評価の対象となる。</p> <p><b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>          講義初頭に配付する講義運営の詳細、「2007年度経営史講義の運営要領」で指示する。</p> <p><b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>          (1) 上の諸項目には補足・変更がありうる。講義初頭に講義運営の詳細(「2007年度経営史講義の運営要領」)を配付し説明する。欠かさず出席されたい。          (2) 講義は、経営学に関する基本的な知識が修得されていることを前提に進められる。          (3) 英文資料の読解等でほぼ毎回かなりの分量の予習が不可欠となる。</p>			

科目名<Subject>	経営学説史 <History of Management Thoughts>		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	後期
担当教員名<Name>	前田 東岐 <Toki Maeda>	研究室番号<Office>	427
Office Hours	火曜日 13:00~14:20		
<p><b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>          目的：本講義では、経営学の展開を各学説が前提とする人間像(人間モデル)の変遷としてとらえる。          各学説成立の背景となった経済・社会・経営(企業)の様子、課題などについても視野を向けることによって、現在の経営学と企業経営の状況についても展望する。          更に、その学習のプロセスを通じて、現代の企業社会における問題を考察するための能力の確立を目指す。          方法：講義形式による。          Power Point を用いる。</p> <p><b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b>          1) 経営学の生成          2) 経営学への合理性の導入          3) 経営学への人間性の導入(1)          4) 経営学への人間性の導入(2)          5) 経営学への人間性の導入(3)          6) 経営学への戦略性の導入          7) 経営学への状況性の導入          8) 日本的経営の影響</p> <p><b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>          テキストは用いず、レジュメを用いて行なう。          必要な参考文献は、その都度提示する。</p> <p><b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>          定期試験とレポートの合計による。</p> <p><b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>          経営学説の内容および背景等に関して、適切な理解を持つこと、それらについて、論理的な説明が行なえること。更に、事象の分析にその学説を応用できること。          以上のような能力の修得を目指す。          「秀(90-100)」 上記能力を完全に有すること。          「優(80-90)」 上記能力をある程度有すること。          「良(70-80)」 ある程度理解・分析の能力を有すること。          「可(60-70)」 ある程度理解の能力を有すること。          「不可(0-59)」 知識が適切でなく、理解の能力が不十分であること。          試験とレポートの評価基準については、終了後の解説時にそれぞれ提示する。</p> <p><b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>          講義の詳細について説明を行なうので、履修希望者は講義初回の「ガイダンス」に必ず出席すること。</p>			



<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	労務管理論		<Human Resource Management>	
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	4	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	.	前期
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	明 泰淑	<Myung Tae Sook>	<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	
<b>Office Hours</b>				
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>		<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b>		
<p>本講義では、近代労務管理から現代労務管理への発展プロセスについて学ぶことにする。日本経済の成長とともに、企業における人事労務管理は、どのような形態で展開されてきたのか。諸外国からも注目されている日本型雇用慣行、日本型賃金制度、日本型労使関係などの特徴はいかなるものかを学ぶ。特に近年、女性のめざましい経済活動への参加について、それまで男性を中心とした企業の人事労務管理施策がどのように変化しているのか、近年ますます進む少子化現象は、近い将来、労働力の不足を示唆している。先進国の事例のように女性労働力が必要不可欠となることから、企業のコース別雇用管理の現状と課題について学ぶ。</p> <p>1990年代以降、経済のグローバル化に伴って、「大競争時代」を迎えている日本企業は、アメリカ・EU 諸国などの先進国と、中国やアセアン諸国などの発展途上国の間に挟まれ、はげしい国際競争を強いられている。対外的関係だけでなく、国内においても、産業構造の変化やME 技術革新・IT 化による職務の質的・量的変化、若年労働者の減少と高齢化社会の到来、女性の高学歴化と社会進出などといった様々な経営環境の変化が生じている。これらの変化の中で企業における人事労務管理も、これまでの集団主義的で画一的な労務管理方式から、能力主義を前面に打ち出して、個々人に対応した多様な人事労務管理へと転換してきている。</p> <p>また昨今、マスコミ等によってしばしば取り上げられる「合理化」・「成果主義」が、ますます激しくなっている。とくに1990年代後半以降の「新・日本的経営」論のもとで、現・日本経団連の主導によって「雇用の3 グループ化」が構想され、雇用の弾力化・流動化、正規雇用と非正規雇用への雇用の分断、アメリカ型のホワイトカラー・エグゼンプション制度の導入論議など、人事労務管理をめぐる最先端の議論にも触れていきたい。一般的に、人事労務管理という、難しいイメージがあるようであるが、本講義は、ほんの一握りの人を例外に、ほとんどの人々が一人の労働者として働かねばならない、という事実を前にして、個人がいかに企業と共存し、ともに成長していく必要があるかについて学ぶ科目である。つまり、学生諸君が社会に出て、一人の労働者として生きる上で知っておくべき、企業における人事労務管理の現状・実態と、その変化について説明する。さらに、諸外国との国際比較を通じて、日本の企業における人事労務管理の特徴と、グローバル化に対応した企業の合理化方針はどのようなものか、働く者はそれにどう対応していくべきかについて概説する。</p>		<p>・ 労務管理の発展プロセス</p> <p>1. 前近代労務管理の特徴 2. 近代的労務管理の特徴</p> <p>3. 現代的労務管理の特徴</p> <p>・ 日本型人事労務管理の基本構造</p> <p>4. 日本型人事労務管理1 (終身雇用慣行)</p> <p>5. 日本型人事労務管理1 (年功序列型人事労務)</p> <p>6. 日本型人事労務管理1 (企業内労使関係)</p> <p>・ 人事労務管理の発展形態</p> <p>7. 職級資格制度と職能資格制度 8. 複線型人事労務管理</p> <p>9. 『男女雇用機会均等法』と人事労務管理 (ビデオ)</p> <p>10. コース別雇用管理の現状 11. コース別雇用管理と女性労働</p> <p>12. 少子化と女性労働</p> <p>・ 雇用環境の変化と人事労務管理</p> <p>13. 大競争時代の雇用の国際移転 14. 雇用の流動化・弾力化 (1)</p> <p>15. 雇用の流動化・弾力化 (2) 16. 雇用の2 極化時代の到来</p> <p>17. 正規雇用と非正規雇用との関連 18. 非正規雇用の諸形態</p> <p>19. 正規雇用と非正規雇用の勤務の実相</p> <p>・ 人事労務管理問題の最先端</p> <p>20. ワークシェアリングの国際比較 21. 能力主義人事労務管理の展開</p> <p>22. 能力主義人事労務管理の展開 23. 日経連 (現・日本経団連) の雇用の3 グループ化</p> <p>24. ホワイトカラー・エグゼンプション</p> <p>25. 今日の人事労務管理の課題と展望</p>		
<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>		<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>		
<p>基本的に、授業の内容を分かりやすくするため、適宜、レジュメを配布する。テキストは、授業の進行状況によって授業時に指定する予定である。「参考文献」明 泰淑 著 『韓国の労務管理と女性労働』文眞堂、1999 年 夏目啓二・三島倫八 編著 『地球時代の経営戦略』ミネルヴァ書房、1997 年 筒井 清子 他 編著 『グローバル化と平等雇用』学文社 2003 年</p>		<p>毎回の出席点、適宜行なう小テスト、期末レポート提出、および定期試験の総合点で評価する。なお、適宜行なう小テストは、まじめな学生が、本試験が出来なかった場合、救済 (プラス点) に用いる。</p>		

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	国際経営論		<International Management>	
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	4	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	.	通年
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	李 濟民	<Jeimin Lee>	<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	5 0 7
<b>Office Hours</b>	火 12:00 ~ 14:00			
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>		<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>		
<p>グローバルに変化する経営環境に対応しながらオンライン・ナンバーワン企業を目指すためには、競合他社と比べて革新性や社会性と視点からユニークな経営戦略を樹立・実行していかなければならない。そこで、欧米日を代表する世界的な「勝ち組企業」が展開する革新的な経営戦略や組織構造の再編成、アライアンスやM &amp; A 等をできるだけ多くの実企業の事例を通して、体系的に学ぶことを本科目の目的とする。授業の進め方としては、できるだけ双方向の対話型を心がけ、説明においては、なるべくパワーポイントやビデオなどの視聴覚機器を使用する。</p>		<p>吉原秀樹 『国際経営論への招待』有斐閣ブックス、江夏健一・桑名義晴 『理論とケースで学ぶ国際ビジネス』をメインの教材とし、必要に応じて資料を配付する。</p>		
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b>		<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>		
<p>第一部 国際経営の基礎と理論</p> <p>(1) イントロダクション</p> <p>(2) 国際貿易と障壁</p> <p>(3) 多国籍企業理論</p> <p>(4) 輸出・海外直接投資・ライセンス</p> <p>(5) 国際化のプロセス</p> <p>(6) 異文化経営</p> <p>第二部 国際経営の実践と応用</p> <p>(1) 国際競争戦略</p> <p>(2) 国際マーケティング・マネジメント</p> <p>(3) 組織能力と戦略的提携</p> <p>(4) 日本の経営の課題と展望</p> <p>(5) 北海道産業・企業の国際化戦略</p> <p>(6) トランスナショナル・マネジメント</p>		<p>出席 (及びレポート) : 20%</p> <p>中間試験 : 30%</p> <p>期末試験 : 50%</p>		
		<b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>		
		<b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>		
		特になし		

科目名<Subject>	エコロジーと経営戦略 <Ecology and Strategic Management>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	・ 夏季集中
担当教員名<Name>	榊原 清則 <Kiyonori Sakakibara>	研究室番号<Office>	
Office Hours			
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> この授業では、現実には存在する企業を、環境変化に適応してダイナミックに変化する生態学的存在としてとらえて議論する。具体的には、企業の組織および戦略について、まず基本的な事柄をレクチャーし、議論する。次に、特定の経営課題、たとえば新しい技術の創生と製品化・事業化などに関連した戦略イシューをとりあげ、環境適応の観点から議論する。その過程で、狭義の「環境問題」にも言及する。また、企業の存続年数や寿命、企業再生に関連した議論もとりあげる。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>経営学の基礎的な構成要素 <ol style="list-style-type: none"> <li>ミクロ組織論</li> <li>マクロ組織論</li> <li>資源戦略論</li> <li>競争戦略論</li> </ol> </li> <li>生態学的存在としての企業とそのドメイン</li> <li>技術革新とイノベーション</li> <li>イノベーションの経営</li> <li>環境問題と企業経営</li> <li>寿命の問題</li> </ol> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 拙著『経営学入門(上)(下)』日経文庫</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 二つの方法で評価する。第1は、授業中の発言である。発言は毎回チェックし、記録にとり、集計する。第2は、授業中に何回か実施される簡単なテストの結果である。 最終試験は、おこなわない。レポート提出も、課さない。授業に出席し、発言及びテストに参加することが履修上の義務で、単位取得の必要条件である。</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 授業開始時に配布する授業計画書で詳細に指示する。</p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> まずは基本に立ち返った議論をしたいので、授業の冒頭部で基礎的・導入的な部分の議論に、できるだけ時間を割くつもりである。基礎的・導入的といっても、決して初歩的な内容ではない。また、この授業では学生とのインタラクションを重視するので、教室でのディスカッション・トピックを毎回用意し、学生の積極的な発言を促す予定である。</p>			

科目名<Subject>	簿記原理 A <Introductory Accounting I>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	前期
担当教員名<Name>	渡辺 和夫 <Kazuo Watanabe>	研究室番号<Office>	4 1 4
Office Hours	研究室前に掲示する。		
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> この科目では複式簿記の基本原則を学習する。複式簿記は体系的な記録方法であり、会計学の基礎となる技術である。この技術をマスターするためには順序立ててひとつずつ確実に理解することが大切である。授業ではできるだけ多くの練習問題を取り入れたいと考えている。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> テキストの第 部および第 部のうち、基本的な部分を取り上げる。 複式簿記の本質 貸借対照表と損益計算書 5大計算要素 取引と勘定計算 取引の分解パターン 勘定記入の法則 仕訳帳と元帳 試算表 決算 精算表 複式簿記一巡の手続 売上原価直接把握法と分記法 3分法 商品に関する補助簿</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> テキスト 久野光朗編著、『簿記論テキスト』、同文館。</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 最終試験 80% 練習問題 20%</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 秀：複式簿記の記帳方法と決算について、完全に理解している。 優：複式簿記の記帳方法と決算について、ほぼ全体像を理解している。 良：複式簿記の記帳方法と決算について、部分的に理解している。 可：複式簿記の記帳方法と決算について、断片的にしか理解していない。</p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 簿記原理 Aの履修可能者は、学生番号250番までの者とする。 なるべく計算用具を持参して下さい。</p>			

科目名<Subject>	簿記原理 B	<Introductory Accounting I>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>		前期
担当教員名<Name>	坂柳 明	<Akira Sakayanagi>	研究室番号<Office>	4 2 3
Office Hours	金曜 15 : 00 - 15 : 30			
1. 授業の目的・方法<Course objective and method>		4. 成績評価の方法<Grading>		
<p>営利活動を営む会社は、様々な事業活動を行って、利益獲得を目指しているが、そのような事業活動の結果を計数的に把握する手段としての簿記を学習する。簿記を学習する上では、既に与えられている会計基準を前提にした会計処理（仕訳処理）を、素早く正確にできるかどうかが問題になる。そこで授業では、練習問題を多く取り入れ、会計処理に慣れてもらいたい。</p>		<p>何回か課す提出課題（30～40点）及び定期試験（1回）（60～70点）の成績によって評価する。</p>		
2. 授業内容<Course contents>		5. 成績評価の基準<Grading Criteria>		
<p>扱うトピックとして、以下のものを考えている。どのトピックをどの程度掘り下げるかは、授業の進度による。なお、練習問題やそれに関連する議論、ある程度網羅的に盛り込まざるを得ないため、配布プリントが多くなる（1回あたり、A4で6～12枚）。</p> <p>：簿記の必要性について、：仕訳、勘定の説明、 ：個別論点（現金、当座預金、手形取引、掛取引、商品売買取引、帳簿の締切、経過勘定、引当金等）の解説、 ：様々な帳簿、試算表と精算表、貸借対照表と損益計算書の解説</p>		<p>4. に記載した、提出課題と定期試験の合計点が、90点以上を「秀」、80～89点を「優」、70～79点を「良」、60～69点を「可」、59点以下を「不可」とする。</p> <p>「秀」：授業内容をほぼ完璧に理解していること。 「優」：授業内容を十分に理解していること。 「良」：理解が不十分な点はあるが、簿記は修得したと認められること。 「可」：理解が不十分な点は目立つが、だいたいの簿記の理解はあること。</p>		
3. 使用教材<Teaching materials>		6. 履修上の注意事項<Remarks>		
<p>久野光朗編、『簿記論テキスト[改訂版]』、同文館、2006年。他の文献は、授業で適宜紹介する。</p>		<p>授業が難しい、あるいはやさしいと感じた人は、適宜市販の簿記の問題集、参考書で知識の補充、確認、先取り学習を行ってください。</p> <p>2. でも述べたように、授業中の配布プリントが多くなるのが予想されるため、プリントを読むのが面倒な人には、この授業は勧めません。なお、<u>簿記原理B</u>の履修可能者は、学生番号251番以降の人とします。</p>		

科目名<Subject>	応用簿記	<Introductory Accounting >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>		前期
担当教員名<Name>	今村 聡	<Satoshi Imamura>	研究室番号<Office>	
Office Hours				
1. 授業の目的・方法<Course objective and method>		このほかにも、最初の講義の際や、その後の講義の進行に応じて参考文献を紹介し、また講義中プリント等を配布する。		
<p>他の大学では通常「簿記原理」と呼ばれている、30回4単位の科目の後半部分を学習・理解する。担当者が一方的に話をする講義だけでなく、履修者自身が記帳・計算作業を行うことも重要となるが、仕訳や計算式を丸暗記するのではなく、その根底にある理論をまず理解しよう。</p>		4. 成績評価の方法<Grading>		
2. 授業内容<Course contents>		<p>定期試験において規定の点数を取れば、規定の評価が与えられるものとする。従って試験のみ受験して規定の点数さえ取れば（論理上は）単位の取得は可能。なお、気紛れに提出してもらった小テスト等の結果を定期試験の成績に加味することで、不利を被る履修者ははいないとする。</p>		
<p>第1回 開講にあたっての諸注意、簿記原理の復習テスト等</p> <p>第2～4回 商品売買取引（1）・・・分記法、売上原価対立法、三分法 商品売買取引（2）・・・仕入帳と売上帳、商品有高帳、棚卸減耗損と商品評価損</p> <p>第5回 現金・預金取引 第6回 受取手形と支払手形 第7回 売掛金と買掛金 第8回 有価証券、消耗品、その他の債権・債務 第9回 有形固定資産、減価償却 第10回 無形固定資産、投資その他の資産 第11回 負債 とくに負債性引当金 第12回 個人企業の資本 第13回 費用・収益の繰延・見越 第14回 決算予備手続 試算表と棚卸表 第15回 決算本手続 帳簿の締切と財務諸表の作成</p>		5. 成績評価の基準<Grading Criteria>		
3. 使用教材<Teaching materials>		<p>4. で述べたように、定期試験での点数に応じて5段階の評価が与えられる。しかし、例えば1個につき3点を与えるつもりで出題した穴埋め問題が、採点を進めるうちに2点になったり、3.5点になったりすることはあるので、定期試験での配点は採点終了後に公表する。</p> <p>また、講義の内容を本当に理解しているかが怪しい79点の答案には、無論「可」に減点することはなく「良」を与えるが、逆に、76点の答案を「優」と評価することはあり得る。</p>		
<p>テキスト：久野光朗編著『簿記論テキスト（改訂版）』、同文館 参考書：久野光朗編著『簿記論問題集（改訂版）』、同文館</p>		6. 履修上の注意事項<Remarks>		
		<p>「簿記原理」を履修しているものとして講義を行うので、この知識が不十分な履修者は、御自身で努力して早く追いついてもらいたい。</p> <p>定期試験では携帯電話に付属する電卓機能の使用は認められないので、普段の講義から市販の小型電卓に慣れておくことをお勧めする。</p>		

科目名<Subject>	経営と会計 <Elementary Management Accounting>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	/ 前期
担当教員名<Name>	乙政 佐吉 <Sakichi Otomasa>	研究室番号<Office>	4 2 2
Office Hours	在室中はいつでも可(できれば事前にメールで連絡して下さい)		
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>  企業の経営実態を知るための分析方法(財務諸表分析)を習得することが目的となる。財務諸表分析は、複式簿記・原価計算とともに、会計学を学習しようとする際の出発点である。講義では、有価証券報告書を利用し、具体的な計算例や事例を提示しながら、随時演習を行う。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>  1. 財務諸表分析の基本  2. 貸借対照表と損益計算書の分析  3. 収益性分析  4. 損益分岐点分析  5. 安全性分析  6. 成長性分析  7. 付加価値分析  8. キャッシュ・フロー分析</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>  テキストは使用せず、必要に応じて資料を配付する。  なお、予習及び復習用の参考教材として以下の書籍をあげておく。  桜井久勝著 『財務諸表分析【第2版】』 中央経済社。</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>  期末試験の結果に基づいて成績評価を行う。</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>  「秀(100~90)」: 財務諸表分析に関する基礎的理解がほぼ完全である、授業中に明示する重要なポイント、演習問題をほぼ完全に理解している、財務諸表分析を活用して、さまざまな企業の経営実態について秀でた分析ができる。  「優(89~80)」: 上に同じ、授業中に明示する重要なポイント、演習問題をほぼ理解していること。財務諸表分析を活用して、さまざまな企業の経営実態について優れた分析ができる。  「良(79~70)」: 上に同じ、授業中に明示する重要なポイント、演習問題を過半は理解している、財務諸表分析を活用して、さまざまな企業の経営実態について分析ができる。  「可(69~60)」: 財務諸表分析に関する基礎的理解が過半はある、授業中に明示する重要なポイント、演習問題を過半は理解している、財務諸表分析を活用することができる。</p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>  講義に出席するには電卓を携帯すること。また、授業で使用する有価証券報告書は各自で準備することとする(有価証券報告書の入手方法、および、対象企業については講義中に説明する)。</p>			

科目名<Subject>	財務会計論 <Financial Accounting>		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	後期
担当教員名<Name>	渡辺 和夫 <Kazuo Watanabe>	研究室番号<Office>	4 1 4
Office Hours	研究室前に掲示する。		
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>  目的:財務諸表に関する測定と伝達の理論について講義する。  内容:財務諸表は企業の外部の利害関係者に会計情報を伝達する手段であり、貸借対照表と損益計算書が中心的な役割を果たしている。簿記論ではそれらの作成手続きを学んだのに対し、この科目ではそれらの理論を学習する。したがって、資産・負債・資本・収益・費用をめぐる会計問題が主に取り上げられる。  方法:テキストにそくして講義を行う。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>  ① 総論  ② 資産会計  ③ 負債会計  ④ 資本会計  ⑤ 損益会計  ⑥ 財務諸表</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>  テキスト 渡辺和夫著、『財務諸表論の基礎・六訂版』、税務経理協会。</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>  中間試験 45% 最終試験 45%  練習問題 10%  ただし、三分の二以上出席していない場合には、成績評価の対象になりません。</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>  秀:財務会計の理論と実際について、完全に理解している。  優:財務会計の理論と実際について、ほぼ全体像を理解している。  良:財務会計の理論と実際について、部分的に理解している。  可:財務会計の理論と実際について、断片的にしか理解していない。</p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>  なるべく計算用具を持参してください。</p>			

科目名<Subject>	原価計算論 <Cost Accounting>		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	後期
担当教員名<Name>	前田 陽 <Akira Maeda>	研究室番号<Office>	
Office Hours	最初の講義時に提示する		
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 原価計算は財務諸表の作成ばかりか、利益・原価管理や意思決定にも必要なものである。本講義は、こうした諸目的に供せられる原価計算の基礎的な知識を習得することを目的とする。		<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 期末試験および講義への参加の程度により評価を決定する。	
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 原価計算の基礎的な概念および技術を講義する。本講義ではおおそ次の内容を取り上げる。なお、具体的な講義日程については最初の講義時に示す。 (1) 原価計算とは (2) 原価計算制度の構造 (3) 実際原価計算 (4) 標準原価計算 (5) 直接原価計算		<b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 秀：講義された範囲のうち 90%以上を十分に理解していれば秀とする。 優：講義された範囲のうち 80～89%を十分に理解していれば優とする。 良：講義された範囲のうち 70～79%を十分に理解していれば良とする。 可：講義された範囲のうち 60～69%を十分に理解していれば可とする。 各評価とも、理解度については 100%が要求されることに注意されたい。	
<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 特定のテキストは使用しない。 参考書は次の通りである。 ・ 廣本敏郎 『原価計算論』 中央経済社 1997 年。		<b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 原価計算の学習は、自ら実際に問題を多く解くことが重要である。本講義でもその点を十分に考慮するつもりであるが、時間的な制約もあり、各自の復習に期待するところが大きい。この理をわきまえて受講することを希望する。	

科目名<Subject>	管理会計論 <Management Accounting>		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	/ 前期
担当教員名<Name>	籾本 智之 <Satoshi Hatamoto>	研究室番号<Office>	4 5 7
Office Hours	木曜日 13:30-14:20		
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 企業における管理会計の目的を正しく理解し、手続きや方法について、具体的なケースで学ぶ。レクチャーとケース・ディスカッションの組み合わせで授業を行う。ケースは事前に解答を作ることが課題となる。レクチャーでは情報機器を使用します。ケース・ディスカッションでは、教員がディスカッション・リーダーとなって、履修者の発言から答を作っていくという対話型の授業となります。		<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 授業中の発言、課題、中間試験、期末試験のそれぞれをポイント化し、累積ポイントで成績評価する。具体的なポイント体系は、授業の第 1 回(ガイダンス)の時に、詳細な授業計画書を配付します。	
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 1. 企業経営と会計 2. 財務諸表分析 3. 原価計算の基礎 4. 経営戦略と計画 5. 短期利益計画と CVP 分析 6. 予算管理 7. 差額原価・収益分析 8. 設備投資の意思決定 9. 原価管理 10. ABC と ABM 11. 戦略的コストマネジメント 12. 分権制組織の業績評価		<b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 秀(100～90): 管理会計について秀でた理解力を有し、理論を応用して、さまざまな経営管理問題について秀でた分析をすることができる。 優(89～80): 管理会計について優れた理解力を有し、理論を応用して、さまざまな経営管理問題について優れた分析をすることができる。 良(79～70): 管理会計について良い理解力を有し、理論を応用して、さまざまな経営管理問題について良い分析をすることができる。 可(69～60): 管理会計について理解力を有し、理論を応用して、さまざまな経営管理問題について分析をすることができる。 不可(59～0): 管理会計について十分な理解力を持たず、理論を応用して、さまざまな経営管理問題について分析をすることができない。	
<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 教科書: 上 楚 進、杉山善浩、島 吉伸、窪田祐一、吉田栄介 『管理会計の基礎: 理論と実践』 税務経理協会、2005。 ケース: その都度、配付する。		<b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> ・ 課題の提出が求められます。 ・ 課題の締切期限を過ぎての提出は認めません。 ・ 簿記原理、応用簿記、経営と会計、財務会計論、原価計算論のうち 3 科目以上を履修している学生が対象です。	

科目名<Subject>	国際会計論 <International Accounting>		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	・ 後期
担当教員名<Name>	松本 康一郎 <Koichiro Matsumoto>	研究室番号<Office>	
Office Hours	松本のサイト上にて質問を受付		
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> いまや企業会計の世界では、「国際財務報告基準（国際会計基準）」がグローバルスタンダードとしての地位を確立しつつある。各国ないし各地域の会計基準は、このグローバルスタンダードに向けての収斂が進行している。日本においても、2000年前後より今日もなお、会計制度・会計基準の整備が図られている。本科目では、そうした「国際財務報告基準」の概要を明らかにする。さらに、日本の会計基準が、「国際財務報告基準」の影響の下で、どのように策定されているのかを概観するとともに、日本企業の経営に与える影響を明らかにする。		<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 杉本徳栄『国際会計』同文館出版	
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 1) 国際会計の領域（グローバル・スタンダードの必要性） 2) グローバル・スタンダードを策定する2つの推進力 3) 国際財務報告基準における展開（2001年までの展開とその後の新展開） 4) 国際財務報告基準の設定プロセス 5) 国際財務報告基準（国際会計基準）の会計構造（伝統的会計構造との比較） 6) 国際財務報告基準の構成する財務諸表の体系 7) 国際財務報告基準への収斂に向けての各国・各地域の展開 8) 日本の企業会計制度の特徴と問題点 9) 「国際財務報告基準への収斂」下における、日本の会計基準の策定 10) 日本の主要会計基準の概観 連結財務諸表原則、 キャッシュ・フロー計算書 金融商品会計、 退職給付会計 減損会計、 企業結合会計		<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 授業中に実施する「クイズ」（ほぼ10回程度を予定）と、「中間試験」および「後期試験」の成績にもとづいて、最終成績を決定する。  <b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 最終成績 = {クイズ(5点 × 10回) + 中間試験(100点) + 後期試験(100点)} ÷ 2.5  「秀」90点以上：左記授業内容について秀でた理解を示している。 「優」80～89点：左記授業内容について優れた理解を示している。 「良」70～79点：左記授業内容について、ほぼ理解している。 「可」60～69点：左記授業内容について、必要最低限理解している。	
		<b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 1) 2講目以降における講義ノート・講義資料については、松本が設けたネット・サイトより、受講生各自がダウンロードして授業に臨むこと。当該サイトへのアクセス方法については、1講目に解説するので、必ず出席すること。 2) 授業中は私語厳禁です。このことを守れない受講生には、教室からの退出を求めることがある。	

科目名<Subject>	税務会計論 <Tax Accounting>		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	・ 前期
担当教員名<Name>	大岩 利依子 <Rieko Oiwa>	研究室番号<Office>	
Office Hours			
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 税務会計とは、法人税法の規定に則って課税所得計算をすることである。税法は難解な法律分野といわれるが、会計学からアプローチしていくのは有効な方法である。最初に法人税の計算構造を会計学及び租税法の基礎理論から体系的に理解し、その上で益金及び損金という法人税法独特の概念の理解に入り、個々の項目について検討し、最終的には簡単な法人税申告書の作成まで学習していく。トピックスとして、新会社法制定に関連する税務上の取扱いを挙げる。個別項目の取扱いからは、仕訳と計算が中心となるので、事前に簿記の知識がある方がよい。確認テストを行って理解度のチェックを行ない、講義内容に反映させていく予定である。		<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 税制改正が頻繁なので、特にテキストは使用しない。最新の情報で講義を進めるが、その都度資料を配付する。参考文献として、以下の三冊を挙げておく。 武田隆二著『平成17年版 法人税法精説』森山書店、2005年。同編著『新会社法と中小会社会計』中央経済社、2006年。中田信正著『税務会計要論(14訂版)』同文館、2006年。	
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 1. 法人税の概要と特色 2. 税務会計の基礎的構造 3. 申告納付の手續きと青色申告制度 4. 税務会計独特の概念と原則 5. 決算申告事務の流れ 6. 決算調整と申告調整 7. 益金・損金の個別項目の取扱い - 売上、売上原価、給与、寄付金、交際費、……、圧縮記帳、受取配当等 8. 申告調整 - 申告書別表四と五の記載 9. 特別な課税と税率 - 留保金課税・使途秘匿金課税 10. 新会社法と税務会計		<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 定期試験[50-60%]、宿題(レポート等)[20%]、授業出席率等[20-30%]を勘案して、まじめに努力した人が報われるような形で評価したい。出席をとる代わりに、確認テストとして、基本問題を解答し、提出してもらう。	
		<b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 4. の合計点から、以下のように判定する。 「秀」(100-90) 講義内容についての理解が特に秀でており、理論・実務の知識と思考を完璧に習得している。 「優」(80-89) 講義内容についての理解が優れており、理論・実務の知識と思考を全般的に習得している。 「良」(70-79) 講義内容についてほぼ理解しており、理論・実務の知識と思考を大体習得している。 「可」(60-69) 講義内容について最低限理解している。	
		<b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 指示するが、必要に応じて計算用具を持参されたい。	

科目名<Subject>	会計学特講 <Topics in Accounting >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	・ 前期
担当教員名<Name>	坂柳 明 <Akira Sakayanagi>	研究室番号<Office>	4 2 3
Office Hours	金曜 15:00 ~ 15:30		
1. 授業の目的・方法<Course objective and method>		4. 成績評価の方法<Grading>	
<p>この授業では、社会的に注目を浴びてはいるが、体系的に勉強する機会があまりない、いくつかの応用的な会計上のトピックについて解説する。講義では、日本の会計基準の解説及びその検討を主に行うが、米国の会計基準や国際財務報告基準の規定の紹介・検討も、可能な限り取り入れる。</p>		<p>(出席点を含む) 提出課題 (30~50点) 及び定期試験 (1回) (50~70点) の成績によって評価する。</p>	
2. 授業内容<Course contents>		5. 成績評価の基準<Grading Criteria>	
<p>扱うトピックとしては、例えば、以下のものを考えている。授業回数が限られているため、全部のトピックを詳細に触れることは困難なことが予想される。授業では、基準の解説、練習問題、議論をある程度網羅的に盛り込まざるを得ないため、1回に配布するプリントの枚数が多くなる (1回あたり、1回あたり、A4で6~12枚)。</p> <p>(1): 連結会計を含む企業結合会計、(2): 税効果会計、(3): 研究開発費の会計、(4): 減損会計、(5): 金融商品の会計、(6): 退職給付の会計</p>		<p>4.に記載した、提出課題と定期試験の合計点が、90点以上を「秀」、80~89点を「優」、70~79点を「良」、60~69点を「可」、59点以下を「不可」とする。</p> <p>「秀」: 授業内容をほぼ完璧に理解していること。  「優」: 授業内容を十分に理解していること。  「良」: 理解が不十分な点はあるが、財務会計上の応用的なトピックは、修得したと認められること。  「可」: 理解が不十分な点は目立つが、基本的な理解はあること。</p>	
3. 使用教材<Teaching materials>		6. 履修上の注意事項<Remarks>	
<p>連結会計の分野については、広瀬義州編、『連結会計入門[第3版]』, 中央経済社, 2004年. を挙げておく。各トピックごとに、必要な資料は紹介する。</p>		<p>2.でも述べたように、授業中に配布するプリントの枚数が多くなりますので、プリントを読むのが面倒な方、及び復習するの面倒な方には、この授業は勧めません。また、簿記関係の科目の単位は既に修得済みであること、財務会計論も既に履修済み、あるいは履修中であることが非常に望ましいです。また、これらの科目の成績もよい方が、望ましいです。</p>	

科目名<Subject>	英語コミュニケーション <Communication in English >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	後期
担当教員名<Name>	マーク・ホルスト <Mark Holst>	研究室番号<Office>	3 5 9
Office Hours	月 13:30~17:30; 水 13:00~14:00; 木 10:30~12:00		
1. 授業の目的・方法<Course objective and method>		3. 使用教材<Teaching materials>	
<p>This course aims to improve your English communication skills through:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- examining English language advertisements;</li> <li>- learning about and practicing presentation skills in class</li> <li>- writing summaries of TV commercials</li> <li>- Making &amp; recording a 1 minute TV commercial to be shown at the end of the course.</li> </ul> <p>Outside class you have both homework assignments (reading and writing). At the end of the course you will have a written test and a class presentation in groups.</p>		<p>Weekly Handouts, based on Advertising for Dummies (Recommended to buy)  Examples of English language advertisements (DVD, VHS &amp; Internet based sources).</p>	
2. 授業内容<Course contents>		4. 成績評価の方法<Grading>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Introduction to Advertising</li> <li>2 Defining and positioning your message</li> <li>3 Designing your Advertising Campaign</li> <li>4 Print Advertising</li> <li>5 Collateral advertising</li> <li>6 Radio Advertisements</li> <li>7 TV Advertisements</li> <li>8 Persuasive writing</li> <li>9 Saying No</li> <li>10 Ethical dilemmas</li> <li>11 Age and Responsibility</li> <li>12 Creationism (Presentation Skills)</li> <li>13 Presentations 1</li> <li>14 Presentations 2</li> <li>15 Writing Test Advertising Jargon Project</li> </ol> <p>Choose a product, then make a TV and radio advert for the product to be shown in class. Also, you need to make a poster/pamphlet for the product. You will present the advert, the poster/pamphlet and explain the product in class in January (20 minutes each group).</p>		<p>Six written assignments: 50%  End of course presentations: 35%  Presentation Report: 15%</p>	
		5. 成績評価の基準<Grading Criteria>	
		<p>「秀」: Able to communicate about general and academic matters with a very high degree of fluency. Able to write very accurately, fluently and in detail in English on the weekly homework topics. Extremely confident and able when giving presentations in English.  「優」: Able to communicate in English about general matters fluently and with good accuracy. Able to write fluently about the weekly homework topics, with few accuracy problems. Good presentation ability in English  「良」: Reasonably confident and accurate when speaking or writing in English on general topics, but shows vocabulary or grammatical problems when faced with more challenging topics. Able to give reasonably clear presentations in English, but may suffer from fluency problems, showing a limited range of vocabulary  「可」: Displays sufficient speaking and writing skills in English to be able to communicate general ideas with reasonable level of accuracy and fluency, but sometimes struggling to attain the standard required in written or spoken tests. Able to give short presentations in English, but with slow, hesitant speech, and a tendency to use short, memorized utterances.</p>	
		6. 履修上の注意事項<Remarks>	
		<p>You are expected to attend class, participate fully and use only English. This class requires preparation time outside class every week to do written homework and project work.</p>	

科目名<Subject>	比較文化	<Comparative Studies of Cultures >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>		前期
担当教員名<Name>	マーク・ホルスト	<Mark Holst>	研究室番号<Office>	359
Office Hours	月 13:30~17:30; 水 13:00~14:00; 木 10:30~12:00			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> This course aims to look at different aspects of different cultures around the world and consider how they compare with Japan. In class the focus will be on speaking and listening skills, doing communicative activities on the weekly topics. Outside class you have both homework assignments (reading and writing). At the end of the course you will have a major written report and a class presentation in groups.		Software of the Mind. New York: McGraw-Hill. ・ Porter, Richard E. & Larry A. Samovar (2004) Communication Between Cultures. Belmont California: Thompson Wadsworth. ・ Lewis, Richard D. (1999) When Cultures Collide. London: Nicholas Brearley Publishing. ・ Woodward, Kath (2000) Questioning Identity: Gender, class, Nation. Bath: Open University Press.		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 1 Course Introduction - What is culture? 2 Individual Identity 3 Social Identity 4 National Identity 5 Cultural differences 6 Language & Culture 7 Nation & National Groups 8 Political Systems 9 Education 10 Work & Leisure Patterns 11 Religion 12 Family structure 13 Food & Attitudes to Eating 14 Music & visual culture 15 Culture clash		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> Presentations: 25% Written Homework: 50% Project reports: 25%		
In groups, choose one cultural aspect of a country you are interested in and do some research on it. Each group will give a class presentation on its research and the members will write an individual report on their project.		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 「秀」: Able to communicate about general and academic matters with a very high degree of fluency. Able to write very accurately, fluently and in detail in English on the weekly homework topics. Extremely confident and able when giving presentations in English. 「優」: Able to communicate in English about general matters fluently and with good accuracy. Able to write fluently about the weekly homework topics, with few accuracy problems. Good presentation ability in English. 「良」: Reasonably confident and accurate when speaking or writing in English on general topics, but shows vocabulary or grammatical problems when faced with more challenging topics. Able to give reasonably clear presentations in English, but may suffer from fluency problems, showing a limited range of vocabulary. 「可」: Displays sufficient speaking and writing skills in English to be able to communicate general ideas with reasonable level of accuracy and fluency, but sometimes struggling to attain the standard required in written or spoken tests. Able to give short presentations in English, but with slow, hesitant speech, and a tendency to use short, memorized utterances.		
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> There is no set text for this course, but I will be using materials from a variety of books and other sources that you need to read for homework, and that I will summarise in class. In particular I will use the following books: ・ Hofstede, Geert (1997) Cultures and Organizations:		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> You are expected to attend class, participate fully and use only English.. This class requires preparation time outside class every week.		

科目名<Subject>	インターンシップ	<Internship>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	.	通年
担当教員名<Name>	遠藤薫・大矢繁夫・多木誠一郎・木村泰知・花輪啓一・副島美由紀	研究室番号<Office>		
Office Hours				
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 企業、官公庁等での就業体験を通じて職業意識を養うとともに、実務に触れることにより学習意欲を向上させる。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 上記の教育プログラムへの参加、レポートの評価等を総合的に考慮する。		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 企業、官公庁等での実習(5日から2週間程度)が中心。実習の前の、講義・講習、実習後のレポート提出が義務づけられる。詳細は、5月に公表される「平成18年度インターンシップ教育プログラム」で明らかにされるが、だいたい、以下のスケジュールで行われる。  5月:オリエンテーション。「平成18年度 インターンシップ教育プログラム」の公表 6月:事前講義 7月:ビジネスマナー講習。 8~9月:企業等で実習(原則として夏休み 期間) 10月:成果レポート提出 12月:大学、学生、研修先による意見交換 会		<b>5.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 科目の性格上、研修先は、4月以降にならなければわからない。その数も限られているので希望者がすべて履修できるわけではない。また、研修先は、必ずしも希望どおりとはならない。募集は4月から5月にかけて行われるので、掲示に注意すること。通常の履修とは別の手続・方法で行われる。キャップ制の対象とはならない。実習は原則として夏休み期間に、講義・講習・レポート報告会等は通常の間割とは別の日程や時間を使って行われるので、それに参加できることが条件である。「総合科目 (E) -グリーン講座」を履修していることが望ましい。		
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>				



企 業 法 学 科  
学 科 目

科目名<Subject>	憲法・基礎（日本国憲法）<Constitutional Law Introduction（Japanese Constituion）>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	・ 後期
担当教員名<Name>	結城 洋一郎 <YUKI Yoichiro>	研究室番号<Office>	4 5 3
Office Hours	下記6参照		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 「憲法」という法形式が存在することの法的・歴史的意義を学ぶとともに、我が国の憲法の全体構造を概観し、併せて、憲法原論上の争点と主要な具体的判例を検討することによって、憲法学の基礎的素養を獲得することを目指す。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 定期試験の成績による。	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 総論 (1)「憲法」の概念 (2)国民主権の原理 (3)憲法の制定と変動 日本国憲法の構造 (1)国民主権と象徴天皇制 (2)平和主義 (3)人権の保障 (4)権力分立の思想 (5)立法権と国会 (6)行政権と議院内閣制 (7)司法権と違憲法令審査権 (8)地方自治		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 試験の点数により5段階評価（秀・優・良・可・不可）を行う。	
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 特に指定しないが、以下の書籍を推奨する。 高橋・中村・野中・高見著『憲法』第4版（有斐閣）		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 講義の中で随時述べる。 質問などがある者には、講義の際又は研究室で対応する。 来訪を希望する者は、電話（27-5358）又は電子メール（yuki@res.otaru-uc.ac.jp）で来訪を予約されたい。  ・夜間主コース学生で夜間主コースの「憲法」履修者は、本講義を履修することができない。	

科目名<Subject>	憲法・基礎（人権）<Constitutional Law Introduction（Human Rights）>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	/ 前期
担当教員名<Name>	結城 洋一郎 <YUKI Yoichiro>	研究室番号<Office>	4 5 3
Office Hours	下記6参照		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 「憲法・基礎」の履修を前提として、我が国の憲法上、人権は如何に保障されているのかを具体的判例を素材として検討し、この作業を通じ、究極的には、あるべき権利保障の形態についての理論的基盤を獲得することを目指す。		<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 特に指定しないが、以下の書籍を推奨する。 高橋・中村・野中・高見著『憲法』第4版（有斐閣）	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 人権総論 (1)人権の概念 (2)日本国憲法における人権の主体と限界 人権保障の具体的内容 (1)幸福追求権とプライバシーの権利 (2)平等 (3)思想・良心の自由 (4)信教の自由と政教分離原則 (5)違憲審査をめぐる理論 (6)表現の自由 (7)経済的自由 (8)社会権 (9)刑事手続と人権		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 定期試験の成績による。	
		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 試験の点数により5段階評価（秀・優・良・可・不可）を行う。	
		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 講義の中で随時述べる。 質問などがある者には、講義の際又は研究室で対応する。 来訪を希望する者は、電話（27-5358）又は電子メール（yuki@res.otaru-uc.ac.jp）で来訪を予約されたい。	

科目名<Subject>	行政法 <Administrative Law >		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	・ 前期
担当教員名<Name>	石黒 匡人 <Masato Ishiguro>	研究室番号<Office>	531
Office Hours	随時。(事前にメールで連絡すること)		
1.授業の目的・方法<Course objective and method>	<p>行政法学の基礎と重要問題の理解を目的として、具体的な事例をできるだけとりあげながら、講義する。</p> <p>ほぼ前半で、基礎的な事項を全体的にひととおり講義し、その後それを前提にやや発展的内容を展開していく。</p>		
2.授業内容<Course contents>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 序論</li> <li>2 公法の基本原則</li> <li>3 行政の作用</li> <li>4 行政手続</li> <li>5 国家補償</li> </ol>		
3.使用教材<Teaching materials>	<p>櫻井敬子・橋本博之著『現代行政法(第2版)』(有斐閣)</p> <p>いずれかの六法。</p> <p>なお、参考書は講義の際に紹介する。</p>		
4.成績評価の方法<Grading>	<p>定期試験の結果による。</p>		
5.成績評価の基準<Grading Criteria>	<p>秀(100~90): 講義範囲の行政法学について、秀でた理解力を有している場合。</p> <p>優(89~80): 講義範囲の行政法学の基本的な内容も発展的な内容も、ともによく理解している場合。</p> <p>良(79~70): 講義範囲の行政法学の基本的な内容をよく理解していて、さらに発展的な内容も十分理解している場合。</p> <p>可(69~60): 講義範囲の行政法学の基本的な内容を十分に理解している場合。</p> <p>不可(59~0): 講義範囲の行政法学の基本的な内容を十分には理解していない場合。</p>		
6.履修上の注意事項<Remarks>	<p>講義時間と同じ時間の予習と復習が前提になっていますので、予習をせずに受講しても理解できないことが多いことを覚悟のうえ、履修すること。(『学園生活の手びき』中の「単位の計算方法」参照)</p> <p>1・2年次開講の憲法、民法、商法、刑法の各科目を履修済であることと、3年次開講の民法、商法の各科目を履修中であることを前提にして、講義を進めていく。</p> <p>必ず六法と教科書を持参のうえで講義に望むこと。</p> <p>定期試験の解答については、鉛筆・シャープペンシルによることは認めない。</p> <p>第1回目の講義の際に行うガイダンスを必ず聞いたうえで履修を決定すること。</p>		

科目名<Subject>	民法・基礎 <Civil Law Introduction I >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	・ 後期
担当教員名<Name>	遠山 純弘 <Junkou Tooyama >	研究室番号<Office>	516
Office Hours	第1回のガイダンスにおいて説明する。		
1.授業の目的・方法<Course objective and method>	<p>本講義は、まず民法全般に通ずる基本理念および基本構造を取り扱う。その後、民法第1編総則中、権利の主体、客体および法律行為に関する法制度を取り扱う。これらの制度について概説をするとともに、それと関連する判例を取り上げる。それによって単なる制度の理解だけでなく、法的思考力を涵養することを目的とする。</p>		
2.授業内容<Course contents>	<ol style="list-style-type: none"> <li>第1回 ガイダンス</li> <li>第2回 民法の基本構造、要件・効果論</li> <li>第3回 民法の基本理念</li> <li>第4回 権利能力、意思能力、行為能力</li> <li>第5回 権利能力、意思能力、行為能力(承前)</li> <li>第6回 法人</li> <li>第7回 法人(承前)、権利能力なき社団</li> <li>第8回 物、法律行為総論</li> <li>第9回 法律行為総論(承前)</li> <li>第10回 心裡留保、虚偽表示</li> <li>第11回 虚偽表示(承前)、錯誤</li> <li>第12回 錯誤(承前)、詐欺、強迫</li> <li>第13回 条件、期限、期間</li> <li>第14回 監督者責任、使用者責任</li> <li>第15回 使用者責任(承前)、共同不法行為</li> </ol>		
3.使用教材<Teaching materials>	<p>教科書: 山田卓生ほか著『民法 - 総則(第3版)』(有斐閣)</p> <p>参考文献: 『別冊ジュリスト民法判例百選 総則・物権[第五版 新法対応補正版]』(有斐閣)</p>		
4.成績評価の方法<Grading>	<p>定期試験による。</p>		
5.成績評価の基準	<p>評価の目安は以下のとおりである。</p> <p>秀: 問題となっている紛争の論点を的確に理解している。その論点に関する判例、学説(通説、少数説、有力説など)を理解している。それらの判例・学説の問題点を理解している。</p> <p>優: 問題となっている紛争の論点を的確に理解している。その論点に関する判例、学説(通説、少数説、有力説など)を理解している。</p> <p>良: 問題となっている紛争の論点を的確に理解している。その論点に関する判例、学説(通説)を理解している。</p> <p>可: 問題となっている紛争の論点を的確に理解している。その論点に関する判例を理解している。</p>		
6.履修上の注意事項<Remarks>	<p>・詳細については、初回のガイダンスにおいて述べるので、受講者を希望する者は「必ず」初回のガイダンスに出席すること(再履修者についても同様)。なお、やむをえない事情によりガイダンスに出席できない者は、「第2回の授業開始前」までに連絡すること。</p> <p>・法学を履修していることが望ましい。また、民法総則は、今後民法 およびその他の法律科目を履修していくうえで前提となるものであり、今後民法(およびその他の法律科目)の履修を予定する者は、全員履修することが望ましい。</p> <p>・教科書および参考文献は、いずれも使用するので、購入すること。</p> <p>・夜間主コースの学生で民法 履修者は、本講義を履修することができない。</p>		

科目名<Subject>	民法・基礎	<Civil Law Introduction >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	/	前期
担当教員名<Name>	遠山 純弘 <Junkou Tooyama >	研究室番号<Office>	516	
Office Hours	第1回のガイダンスにおいて説明する。			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 本講義は、大別すると二つの問題を扱う。まず民法総則中、民法・基礎において触れられなかった残りの部分、つまり、代理および時効の問題を取り扱う。次に、不法行為の問題を取り扱う。これらの制度に関して概説をするともに、それと関連する判例を取り上げる。それによって単なる制度の理解だけでなく、法的思考力を涵養することを目的とする。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 定期試験による。		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 第1回 ガイダンス 第2回 請求権構成、要件効果論、代理の意義および要件 第3回 表見代理 第4回 無権代理 第5回 時効の意義、時効の援用 第6回 時効の中断、停止 第7回 取得時効 第8回 消滅時効 第9回 不法行為総論 故意・過失 第10回 故意・過失(承前) 権利・法益侵害 第11回 損害論、因果関係論 第12回 因果関係論(承前) 損害賠償の方法 第13回 賠償範囲、賠償額の算定 第14回 監督者責任、使用者責任 第15回 使用者責任(承前) 共同不法行為		<b>5.成績評価の基準</b> 評価の目安は以下のとおりである。 秀：問題となっている紛争の論点を的確に理解している。その論点に関する判例、学説(通説、少数説、有力説など)を理解している。それらの判例・学説の問題点を理解している。 優：問題となっている紛争の論点を的確に理解している。その論点に関する判例、学説(通説、少数説、有力説など)を理解している。 良：問題となっている紛争の論点を的確に理解している。その論点に関する判例、学説(通説)を理解している。 可：問題となっている紛争の論点を的確に理解している。その論点に関する判例を理解している。		
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 教科書：山田卓生ほか著『民法 - 総則(第3版)』(有斐閣)および 藤岡康宏ほか著『民法 - 債権各論(第3版)』(有斐閣) 参考文献：『別冊ジュリスト民法判例百選 総則・物権[第五版 新法対応補正版]』(有斐閣)および『別冊ジュリスト民法判例百選 債権[第五版 新法対応補正版]』(有斐閣)		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> ・詳細については、初回のガイダンスにおいて述べるので、受講者を希望する者は「必ず」初回のガイダンスに出席すること(再履修者についても同様)なお、やむをえない事情によりガイダンスに出席できない者は、「第2回の授業開始前」までに連絡すること。 ・民法・基礎を履修していることが望ましい。また、民法総則は、今後民法 およびその他の法律科目を履修していくうえで前提となるものであり、今後民法(およびその他の法律科目)の履修を予定する者は、全員履修することが望ましい。 ・教科書および参考文献は、掲載した文献(各2冊)をいずれも使用するので、購入すること(昨年度民法・基礎において購入した教科書および参考文献については、改めて購入する必要はない)。 ・夜間主コースの学生で民法履修者は、本講義を履修することができない。		

科目名<Subject>	刑法	<Criminal Law>		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>		後期
担当教員名<Name>	一原 亜貴子 <Akiko Ichihara >	研究室番号<Office>	508	
Office Hours	随時(但し、メール等にて事前に連絡すること)			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 刑法総論、特に刑法の基本原則および犯罪論について講義する。内容は抽象的な理論が中心となるが、できるだけ具体的な事例を挙げ、時には受講生に質問をしながら、正確な知識と考える力を身につけてもらえるよう進めていく。PowerPointを使用することがある。		・山口厚『刑法総論〔補訂版〕』(有斐閣) 参考書 ・芝原邦爾ほか編『刑法判例百選 総論[第5版]』(別冊ジュリスト 166)(有斐閣) (これ以外の参考書については、オリエンテーションにて指示する。)		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 1 序論 ・刑法の意義と機能 ・刑法理論の基礎 ・罪刑法定主義 ・刑法の適用範囲 2 犯罪論 ・犯罪論の体系 ・行為論 ・構成要件論 ・違法論 ・責任論 ・未遂犯論 ・共犯論 ・罪数論		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 中間試験及び定期試験による。		
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 教科書(いずれかを用意すること) ・中山研一『〔新版〕口述刑法総論〔補訂版〕』(成文堂)		<b>5.成績評価の基準</b> 中間試験及び定期試験の成績の平均点を評点とするが、要求される水準の目安は以下のとおり。 秀(100~90):授業内容を十分に理解して具体的事例に適切に応用することができ、且つ論点につき自説から説得的に論証できる。 優(89~80):授業内容を十分に理解して具体的事例に適切に応用することができ、且つ論点につき自説から論証できる。 良(79~70):授業内容を十分に理解し、これを具体的事例に適切に応用することができる。 可(69~60):授業内容を概ね理解し、これを具体的事例に応用することができる。		
		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> ・本講義は受講生の予習を前提として進める。 ・六法を必ず持参すること。		

科目名<Subject>	法学 <Introduction to Law>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	前期
担当教員名<Name>	才原 慶道 <Yoshimichi Saihara>	研究室番号<Office>	
Office Hours	研究室在室中であれば、特に差し支えがない限り、随時。		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 法とは何か、身近な事例を通じて、現実の社会において法がどのように機能しているのかを理解することが、この授業の目的です。授業は講義形式によります。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 期末試験の成績によります。	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> (1) 法の目的 (2) 法の解釈・適用 (3) 判例の役割 (4) 法学の役割 (5) 司法制度 (6) 身近な出来事と法		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 法は何のためにあるのか、その実現のためにどのような仕組みが作られているのかを理解し、それを適切に表現できることを合格ラインとします。具体的な「秀・優・良・可」の基準は、評価確定後、文書で通達します。	
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 最新の六法（どのような六法が必要かについては、オリエンテーションで説明します。）		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>	

科目名<Subject>	行政法 <Administrative Law >		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	後期
担当教員名<Name>	今本 啓介 <Keisuke IMAMOTO>	研究室番号<Office>	5 1 2
Office Hours	水曜 18:00 ~ 19:00		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 本授業では、行政法のうち、行政訴訟法（行政不服審査法・行政事件訴訟法）と行政組織法（国家行政組織法・地方自治法・公務員法等）を扱います。本授業は、元々「行政法各論」の位置づけの授業ですから、時間が許せば、警察法や都市法等、他の授業では扱われない行政法各論の分野にも触れられればと思います。		<ul style="list-style-type: none"> <li>塩野宏『行政法（第3版）』（有斐閣、2005年）</li> <li>『別冊ジュリスト 地方自治判例百選（第3版）』</li> </ul>	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 行政訴訟法 1 行政不服審査法 2 行政事件訴訟法 行政組織法 1 国家行政組織法 2 地方自治法 3 公務員法 4 公物法		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 試験（中間試験と期末試験の2回実施）と平常点（出席、出席カードへの質問・感想の記入等）によります。なお、平常点はあくまでも成績評価の際の補助的な手段にすぎないことに留意してください。	
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 詳しくは授業で指示します。 行政訴訟法 <ul style="list-style-type: none"> <li>大浜啓吉『行政裁判法』（岩波書店、近刊）</li> <li>『別冊ジュリスト 行政判例百選（第5版）』</li> </ul> 行政組織法 <ul style="list-style-type: none"> <li>大浜啓吉『行政法総論（新版）』（岩波書店、2006年）</li> </ul>		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 試験と平常点の合計が80点以上の場合に「優」、70~79点の場合に「良」、60から69点の場合に「可」、59点以下の場合に「不可」をつけます。試験を受験していても、試験が0点の場合は「不可（0点）」をつけるので、注意してください。	
		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>行政法 を履修していることが望ましいが、本授業を履修する条件ではない。</li> <li>授業の際には小六法を持参すること。</li> </ul>	

科目名<Subject>	租税法 <Tax Law>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	・ 後期
担当教員名<Name>	石黒 匡人 <Masato Ishiguro>	研究室番号<Office>	5 3 1
Office Hours	随時。(事前にメールで連絡すること)		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 租税法上の基本的な問題の理解を目的として、重要判例をできるだけとりあげながら、講義する。		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 秀(100~90):租税法について、秀でた理解力を有している場合。 優(89~80):租税法の基本的な内容も発展的な内容も、ともによく理解している場合。 良(79~70):租税法の基本的な内容をよく理解していて、さらに発展的な内容も十分理解している場合。 可(69~60):租税法の基本的な内容を十分に理解している場合。 不可(59~0):租税法の基本的な内容を十分には理解していない場合。	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 1 序論 2 租税法の基本原則 租税法主義 租税公平主義 3 地方公共団体の自主課税権 4 税法の解釈と適用 実質主義・借用概念と固有概念・租税回避行為とその否認 5 租税の賦課と徴収 6 租税訴訟		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 講義時間と同じ時間の予習と復習が前提になっていますので、予習をせずに受講しても理解できないことが多いことを覚悟のうえ、履修すること。(『学園生活の手びき』中の「単位の計算方法」参照) 1・2年次および3年次前期開講の憲法、民法、商法、刑法の各科目と行政法を履修済であることと、行政法を履修中であることを前提にして、講義を進めていく。 必ず六法と教科書を持参のうえで講義に望むこと。 定期試験の解答については、鉛筆・シャープペンシルによることは認めない。 第1回目の講義の際に行うガイダンスを必ず聞いたうえで履修を決定すること。	
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 金子宏ほか著『税法入門(第6版)』(有斐閣新書)。 なお、参考書は講義の際に紹介する。			
<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 定期試験の結果による。 履修者数が少ないなどで可能な場合は、小テストをしてその結果を加味したり、出席を考慮したりしたいと考えているが、過去の状況からすると、難しいと思われる。			

科目名<Subject>	民法 <Civil Law >		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	後期
担当教員名<Name>	齋藤 由起 <Yuki Saito>	研究室番号<Office>	5 1 0
Office Hours	随時		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 債権法(債権総論・契約法・契約各論)は、売買や賃貸借などに関する規定を含み、私たちの生活にとって最も身近な法律である。本講義の目的は、実際の生活・取引社会において直ちにぶつかる法律問題を理解・解決できる基礎的な知識・考え方を身につけてもらうことである。 そのために、本講義では、単に抽象的な概念を説明するのではなく、当該制度において実際に問題となり得る具体的な事例を念頭においた説明を心がける。講義はテキスト及びレジュメを中心に、判例集を適宜参照しながら進める予定である。		家法、敷金・権利金に関する問題；12.委任、請負、寄託等；13.債権譲渡；14.多数当事者の債権債務関係；15.不当利得、事務管理；	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 講義内容・順序は、以下のように考えているが、進行具合等により、変更の可能性がある。 1.ガイダンス、民法における債権法の位置づけ、契約の機能、基本原理；2.売買 売買契約の意義・機能、契約の分類、売買契約の成立、売買契約の客体；3.売買 弁済、弁済の提供、受領遅滞；4.売買 債務不履行、履行の強制、損害賠償、解除、手附の効力；5.売買 双務契約の効力(同時履行の抗弁権、危険負担)、売主の義務(担保責任)、買主の義務、債権における信義則6.債権の消滅 代物弁済、供託、相殺、準占有者への弁済等；7.責任財産の保全 債権者代位権、詐害行為取消権；8.贈与；9.使用貸借、消費貸借；10.賃貸借 賃貸借契約の意義、賃貸借の効力、賃貸借の終了事由、賃借権の物権化；11.賃貸借 不動産賃貸借と借地借		<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 教科書：野村豊弘ほか『民法(Sシリーズ)(第2版補訂2版)』(有斐閣)、藤岡康宏ほか『民法(Sシリーズ)(第2版補訂)』(有斐閣)を用いる。本講義の範囲は、不法行為を除く債権法全体(債権総論・各論)を含むので、教科書は、『民法』と『民法』の2冊とも使用する。いずれか一方を持っていればよいのではない。 参考書：『民法判例百選 債権(第5版)』(有斐閣)を用いる。その他については、講義において適宜指示する。	
		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 定期試験の成績により評価する。	
		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 初回のガイダンスの時に説明する。	
		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 講義を受ける際、六法・教科書は必ず持ってくること。 民法基礎、を履修していることが望ましい。	

科目名<Subject>	民法 <Civil Law >		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	・ 前期
担当教員名<Name>	林 誠司 <Seiji Hayashi>	研究室番号<Office>	509
Office Hours	随時（但し、事前に連絡を要す）		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 本講義は、民法第2編物権に関する法制度、各種の法的概念の概説を行い、これらについての知識及び、法的思考力を涵養することを目的とする。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 定期試験による。	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> ・物権法総説 ・所有権 ・占有（権） ・物権変動 ・用益物権 ・担保物権総説 ・抵当権 ・質権 ・法定担保物権 ・非典型担保		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 初回の講義において提示する。	
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 教科書：淡路剛久他著『民法 - 物権』（有斐閣Sシリーズ・第3版）  参考文献：『別冊ジュリスト No.175 民法判例百選 総則・物権 [第5版 新法対応補正版]』（有斐閣）		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> ・教科書・六法は各自必ず購入し、毎回（但し、初回はこの限りではない）持参すること。 ・民法・基礎及び民法を履修していることが望ましい。 ・本講義は学生各自の予習を前提とする。	

科目名<Subject>	民法 <Civil Law >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	・ 後期
担当教員名<Name>	遠山 純弘 <Junkou Tooyama>	研究室番号<Office>	516
Office Hours	第1回のガイダンスにおいて説明する。		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 本講義は、大別すると二つの問題を扱う。まず親族法であり、夫婦関係、親子関係に関する問題を取り扱う。次に、相続法の問題を取り扱う。相続に関して生ずるさまざまな問題、そもそも相続財産とは何か、あるいは相続財産の清算の問題などを取り扱う。これらの制度に関して概説をするとともに、それと関連する判例を取り上げる。それによって単なる制度の理解だけでなく、法的思考力を涵養することを目的とする。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 定期試験による。ただし、出席人数（履修人数ではない）によっては、レポートなどを評価対象にする場合もある（その場合には、出席を条件とする）。詳細は、ガイダンスにおいて述べる。	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 第1回 ガイダンス 第2回 家族法総論、婚姻 第3回 婚姻（承前）、夫婦の効果 第4回 夫婦の効果（承前）、離婚 第5回 離婚 第6回 親子関係の成立 第7回 親子関係の成立（承前） 親子の効果 第8回 親子の効果 第9回 相続法総論 第10回 相続の承認・放棄 第11回 相続財産 第12回 遺産分割協議 第13回 相続回復請求権 第14回 遺言の解釈 第15回 遺留分減殺請求権		<b>5.成績評価の基準</b> 評価の目安は以下のとおりである。 秀： 問題となっている紛争の論点を的確に理解している。その論点に関する判例、学説（通説、少数説、有力説など）を理解している。それらの判例・学説の問題点を理解している。 優： 問題となっている紛争の論点を的確に理解している。その論点に関する判例、学説（通説、少数説、有力説など）を理解している。 良： 問題となっている紛争の論点を的確に理解している。その論点に関する判例、学説（通説）を理解している。 可： 問題となっている紛争の論点を的確に理解している。その論点に関する判例を理解している。	
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 教科書：高橋朋子＝床谷文雄＝榎村政行『民法7 親族・相続』（有斐閣） 参考文献：『別冊ジュリスト 家族法判例百選[第六版]』（有斐閣）		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> ・詳細については、初回のガイダンスにおいて述べるので、受講者を希望する者は「必ず」初回のガイダンスに出席すること（再履修者についても同様）なお、やむをえない事情によりガイダンスに出席できない者は、「第2回の授業開始前」までに連絡すること（原則、直接連絡とし、やむをえない事情により期日までに直接連絡がとれない場合には、メールでの連絡を認める。ただし、後者の場合には、直接連絡を妨げていた障害がやんだ後すみやかに直接連絡すること） ・家族法は、民法の知識を前提とする問題が多いので、履修者は、必ず民法を復習しておくこと。	

科目名<Subject>	国際法 <International Law>		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	前期
担当教員名<Name>	佐古田 彰 <Akira Sakota>	研究室番号<Office>	357
Office Hours	随時（事前に電子メールで連絡すること）		
<p><b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>  国際法は、主権国家が並存する国際社会に妥当する法である。つまり、国際法は、それぞれの国家が自国の国益をぎりぎりまで追求し自国の持つあらゆる力をぶつけ合った結果として国家が納得づくの上で作りに上げた法であって、決して空理空論でもなく、また必ずしも人類の理想を示しているわけでもなく、まさに国際社会の現実を反映した法である。  本講では、そのような国際法の特徴や考え方について、判例や具体的な事例を取り上げながら、海洋法、国際経済法、国際刑事法、国際人権法、宇宙法といった国際法の各論を素材にして、説明する。受講者は、現実の国際社会における国際法の機能・有用性とその限界を理解してもらいたい。</p> <p><b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b>  [1] 総論  一 国際法と国際社会  二 国際法の法源  三 国際法の主体  四 国際法と国内法  [2] 国際法秩序の維持と確保  一 国際責任  二 国際紛争の平和的解決  三 国際の平和と安全の維持  [3] 領域・空間の区分による国家管轄権の法構造  一 国家管轄権の意義  二 国家領域  三 海洋の区分  四 国際河川・国際運河・南極  五 空域・宇宙空間</p>			
<p><b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>  条約集：広部和也＝杉原高嶺編『解説条約集』三省堂  教科書：杉原高嶺ほか『現代国際法講義』有斐閣  判例集：山本草二ほか編『国際法判例百選』有斐閣</p> <p><b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>  出席点、試験及び宿題・レポートの総合評価による。</p> <p><b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>  出席点、試験及び宿題・レポートのそれぞれについて点数を付け、その合計点により成績をつける。一応の目安は以下である。  秀：国際法学に関して極めて優れた理解力と知識を有する。  優：国際法学に関して優れた理解力と知識を有する。  良：国際法学に関してある程度の理解力と知識を有する。  可：国際法学に関して一応の理解力と知識を有する。</p> <p><b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>  （１）昨年度までの授業方針を変更し、今年度は真摯に勉強をしたいという学生に最大の満足を得てもらうことを目標に授業を行う。単位取得だけを目的とする学生は、勉強意欲のある学生の勉学の邪魔であり、この授業を受講しないでもらいたい。受講しても、その唯一の目的を達成することはない。  （２）最初の時間（オリエンテーション）で授業を行うので、条約集と指定教科書を持っていくこと。また教科書の第1章1を事前に学習しておくこと。  （３）毎週宿題を出す。より密度の濃い質の高い授業を行うためには、受講する側の予習・復習が不可欠である。</p>			

科目名<Subject>	商法 <Commercial Law >		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	後期
担当教員名<Name>	道野 真弘 <Masahiro MICHINO>	研究室番号<Office>	522
Office Hours	原則として在室中随時（ただし事前連絡が望ましい）		
<p><b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>  会社法は、共同企業の典型的形態である会社組織の成立、運営、消滅をめぐる利害関係者（会社・出資者・経営者・債権者等）の利益調整を行う、企業活動に関する重要な法律である。本講では、このような会社法の知識を身につけ、会社法が実際の企業活動においてどのように機能しているかを知ってもらうことを目的として、学問上「会社法」と総称される部分の中でも特に重要な株式会社法の株式および機関を中心に説明する。  講義はテキスト、レジュメを中心に、参考書等を参照しながら全体を概観できるよう体系的に進める予定である。</p> <p><b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b>  おおよそ以下のとおりを考えている（進行状況によっては変更の可能性あり）  序章：商法入門、会社法入門  第1章：会社総論  第2章：株式会社  1．総論  2．株式  3．機関  4．その他</p> <p><b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>  講義ではパワーポイントファイル（HPにて一部公開中。改訂の可能性あり）に沿って進める。基本参考書として弥永真生『リーガルマインド会社法』（有斐閣、第10版）</p>			
<p>を推奨する。また、『会社法判例百選』（有斐閣）は必携。</p> <p><b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>  定期試験による（中間・期末各100点計200点満点）この点数によって（秀・）優・良・可を決するのが原則であるが、不定期で行う講義中の小テストなどを加味することがある。</p> <p><b>5. 成績評価の基準</b>  前項の得点によって決するが、それでもなお合格率（定期試験の得点に小テストの点数を加味した得点が6割以上）に達する者が少数の場合は、定期試験受験者（中間・期末とも受験した者）のうち上位6～7割程度を合格とする。受験者の成績レベルによって多少の変動はある。  なお、定期試験の解説・講評は、採点后しかるべき時期に公表する。</p> <p><b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>  会社法は技術的な法律であり、独学では困難な面も多いので、極力講義に出席することを勧める。なお、会社法の制定および会社法施行規則等の頻繁な改正により、六法は平成19年版以降のものが望ましい。  内容の流動性が高いため、シラバスに変更を生じる可能性があるが、その場合は後期開講時のオリエンテーションで修正版を配布する。</p>			



科目名<Subject>	商法 <Commercial Law >		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	・ 前期
担当教員名<Name>	玉井 利幸 <Toshiyuki Tamai>	研究室番号<Office>	530
Office Hours	随時。ただし、事前にメールで連絡すること。		
1.授業の目的・方法<Course objective and method>	商法総則・商行為法に関する基本的な法的知識の習得。 4.成績評価の方法<Grading> 定期試験による。授業中に小テストを行った場合は、その結果も加味する。その他の要素は考慮しない。		
2.授業内容<Course contents>	一．商法総則 1. 商法の意義 2. 商行為と商人 3. 商業登記 4. 商号 5. 商業使用人 6. 代理商 7. 営業 二．商行為法 1. 商行為法総則 2. 商事売買 3. 仲立営業・問屋営業 4. 運送営業 5. 倉庫営業 6. 匿名組合 5.成績評価の基準<Grading Criteria> 秀(100~90): 商法総則・商行為法についての理解が秀でており、商法総則・商行為法上の法的問題を解決する能力が秀でている。 優(89~80): 商法総則・商行為法についての理解が優れており、商法総則・商行為法上の法的問題を解決する能力が優れている。 良(79~70): 商法総則・商行為法についての理解が良好で、商法総則・商行為法上の法的問題を解決する能力が良好である。 可(69~60): 商法総則・商行為法についての理解があり、商法総則・商行為法上の法的問題を解決する能力がある。 不可(59~0): 商法総則・商行為法についての理解が十分でなく、商法総則・商行為法上の法的問題を解決する能力が十分でない。		
3.使用教材<Teaching materials>	未定。 6.履修上の注意事項<Remarks> レポート等の救済措置は一切行わないので注意すること。 受講を希望する者は必ずガイダンスに出席すること。ガイダンスに出席しなかったことから生じるあらゆる不利益は受講者が引受けること。		

科目名<Subject>	商法 <Commercial Law >		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	・ 前期
担当教員名<Name>	道野 真弘 <Masahiro MICHINO> (道野)原則として在室中随時(ただし事前連絡が望ましい) (多木)木曜日10時半~12時(その他在室中は、原則としていつでも可)	多木 誠一郎 <Seiichiro Taki>	研究室番号<Office> 522/435
Office Hours			
1.授業の目的・方法<Course objective and method>	当授業は、前半は商法 に引き続き会社法を、後半は手形法を内容とする。 (前半)商法 で講義しきれなかった会社法の分野について解説する(商法のシラバスおよび下記2参照)。 (後半)手形法に関する基礎を身につけることを目的として、実際に問題になった事例を参照しながら解説する。 落合誠一=神田秀樹編『手形小切手判例百選』(有斐閣、第6版、平成16年)		
2.授業内容<Course contents>	(前半)株式会社を中心として、おおよそ以下の内容を考えている。 ・資金調達 ・企業再編 ・計算 ・その他 (後半) ・総論 ・約束手形の振出 ・約束手形の裏書 ・約束手形の支払 ・約束手形の遡求 ・約束手形の保証 4.成績評価の方法<Grading> 満点を100点とする。担当教員2人がそれぞれ50点ずつを所持として採点し、双方の点数を合計する。 (前半)50点分 中間試験による。不定期で行う講義中の小テストなどを加味することがある。 (後半)50点分 定期試験による。なお 授業中に課題を課した場合にはその評価、受講生が少数のため出席をとる場合にはその評価、以上2点を定期試験の評価に対する加点要素にする(定期試験の評価を受講生にとって不利益的に変更することはしない。すなわち加点はするが減点はしない)		
3.使用教材<Teaching materials>	(前半) 講義ではパワーポイントファイル(HPにて一部公開中。改訂の可能性あり)に沿って進める。基本参考書として弥永真生『リーガルマインド会社法』(有斐閣、第10版)を推奨する。また、『会社法判例百選』(有斐閣)は必携。 (後半) (1)教科書 今井宏監修、新海兵衛編集『現代企業法講座5 手形・小切手法』(中央経済社、平成12年) (2)判例集 5.成績評価の基準 (前半)50点分 上記4による得点を成績順に並べ、成績が6割(50点満点の30点)を超える者が多数にのぼる場合はそのまま採用するが、中間試験受験者のうち上位6~7割程度を合格とするように点数補正する。受験者の成績レベルによって多少の変動はある。 なお、試験の講評については、採点后しばらくの時期に公表する。 (後半)50点分 上記「前半の基準」に同じ。		
6.履修上の注意事項<Remarks>	商法は技術的な法律であり、独学では困難な面も多いので、極力講義に出席することを勧める。なお、会社法の制定および会社法施行規則等の頻繁な改正により、六法は平成19年版以降のものが望ましい。		

科目名<Subject>	民事手続法	Civil Procedure		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>		後期
担当教員名<Name>	河野憲一郎	Kenichiro KAWANO	研究室番号<Office>	515
Office Hours	随時(但し、メールにて事前に連絡すること)			
<p><b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>  民法についての十分な理解があることを前提に、裁判所が、実体法上の権利・義務関係の存在の確定を通じて私人間の法的紛争の決着を図る手続である(狭義の)民事訴訟手続ないし判決手続について講義します。  (1) 本講義の最終目的は、いわゆる民事訴訟法の理論体系をマスターし、定評のある体系書を、時に批判的に、読みこなせるレベルに到達することです。講義では、現行の制度の概説にとどまらず、制度史・学説史的な説明にも重点を置くことにより、手続の基本的な構造とこれを規律する価値原理についての理解と関心を促すよう努めたいと思います。また、講義担当者は、平成18年10月より本年9月までの間、ボン大学(ドイツ連邦共和国)での在外研究の機会に恵まれました(なお、平成18年10月5日から本年3月25日までの期間、文科省「平成18年度大学教育の国際化推進プログラム」のご支援を受けました)。その成果を随時織り込むことにより、国際的な視野からの問題意識をも涵養できればと思います。  (2) 授業方法は、伝統的なやり方、ex cathedra”です。夏休み中に、例えば、山本和彦「よくわかる民事裁判」(有斐閣、第2版、2005年)のような入門書に目を通じて手続の大きな流れについてイメージを得ておく。その上で、学期開始後は、教科書・条文・判例集を用いて十分な予習を行なった上で、毎回の講義に臨み、講義内容をさらにノートを書いて適宜これを整理しておくこと(できれば、受講ノートを録音の意味とその具体的なノウハウについては、有斐閣「民事訴訟法」(倉田書林、1983年)参照)。これらの作業によって、民事訴訟法の理論体系は自ずとマスターできるはずですが。</p> <p><b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b>  第1章 導入(民事訴訟制度の目的、手続の基本的な流れ)  第2章 訴訟の主体(裁判所、当事者・訴訟上の代理人)  第3章 訴訟手続の開始(訴えの提起、訴訟物、訴訟の開始の効果)  第4章 訴訟手続の進行(訴訟要件、裁判所・当事者の役割分担、訴えに対する被告の対応、概観/否認/裁判上の自白/弁済、争点整理と口頭弁論、証拠調べ)  第5章 訴訟手続の終了(訴えの取下げ、請求の放棄・認諾、訴訟上の和解、終局判決)  第6章 複雑訴訟(訴えの客観的複数、主観的複数：共同訴訟/参加/当事者の交代)  第7章 上訴・再審(上訴総論、控訴、上告、抗告、再審)  第8章 略式訴訟(簡易裁判所の手続、手形訴訟・小切手訴訟、少額訴訟、督促手続)</p>				
<p><b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>  (i) 最新版の六法及び(ii)教科書：中野卓一郎=松浦馨=鈴木正裕『新民事訴訟法講義』(有斐閣)及び伊藤眞=高橋宏志=高田裕成『民事訴訟法判例百選』(有斐閣)(いずれも最新版、全員必携)。また、予習・復習の便宜のために(iii)講義資料を用意いたします(必要な人のみ配布)。</p> <p><b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>  期末試験(筆記)の結果のみによります(出席は、一切考慮しない)。判例・書き込みのない六法のみ持ち込み可、解答に際しては必ずペン書きによること(鉛筆・シャープペンシル不可)といたします。</p> <p><b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>  (1) 試験問題の配点のとおりです。なお、例年、以下のように点数が分布するよう配慮して、問題の作成と配点を行なっております：  秀(100~90)：(S1)基本的な制度・概念についての正確な理解とそれら相互の関係の十分な理解がなされていること、(E1)答案が明晰な日本語で書かれ、かつ、(E2)きちんとした答案構成が行われていること。  優(89~80)：(S1)基本的な制度・概念についての正確な理解とそれら相互の関係の十分な理解がなされていること、(E1)明晰な日本語で答案が書かれていること。  良(79~70)：(S1)基本的な制度・概念についての正確な理解とそれら相互の関係のほとんどの理解がなされていること、(E1)読んでみて一応は理解できる日本語で答案が書かれていること。  可(69~60)：(S1)基本的な制度ないし概念については、一応、正確な理解ができていて、(E1)読んでみて一応は理解できる日本語で答案が書かれていること。  不可(59~50)：基本的な制度・概念についての理解ができていない、書かれている内容が、本人以外には(あるいは、本人にも?)理解不能であること(箇条書き式のレジюмеのような答案を含む。これは答案ではなく下書きである)。  (2) 私語、講義中の入室など他人の迷惑になる行為を行なった者に対しては即座に退室を命じます。また、講義中の指示に従わない者に対しては、期末試験の受験を認めない等の処分を行なうので注意してください。</p> <p><b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>  (1) 民法・基礎( )及び民法を履修済み(ないし履修中)であること(民法上の諸制度の意義・要件・効果が十分に理解できていないと講義内容に全くついていけないので注意!)。  (2) 受講を予定している者は、必ず第1回目のガイダンスに出席すること。</p>				

科目名<Subject>	経済法	<Antitrust Law>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	.	前期
担当教員名<Name>	岡本 直貴	<Naoki Okamoto>	研究室番号<Office>	
Office Hours				
<p><b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>  この講義では、経済活動を規律する法(経済法)領域の中心とされる「独占禁止法」を取り上げる。独占禁止法の全体像を把握し、基本的な知識を習得することが、目標となる。  近年、市場における「競争」の重要性が強く意識され、カルテル・入札談合など企業が競争を阻害する事件が、社会的耳目を集めている。さらに独占禁止法改正(2006年1月施行)により執行体制が強化され、その内容及び運用に対する関心も高まりつつある。そこでこの講義では、まず独占禁止法の目的及び基本概念を解説し、次いで規制類型ごとに具体的な法運用を検討する。関連する法規(下請法、景品表示法、官製談合防止法など)も必要に応じて取り上げる。判・審決例のみならず最新の動向にも触れながら、アクティブな講義を展開していきたい。</p> <p><b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b>  講義内容は、概ね以下のとおりである。講義初日に、より詳細な講義計画を配布する。  (1) 独占禁止法の基本概念  (2) 不当な取引制限  (3) 私的独占  (4) 企業結合  (5) 不公正な取引方法  (6) 独占禁止法の執行・実現</p> <p><b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>  岸井ほか『経済法 - 独占禁止法と競争政策(第5版)』(有斐閣、2006年)  厚谷襄児=相賀俊文編『独禁法審決・判例百選〔第6版〕』(有斐閣、2002年)  その他の参考書・教材は、講義において適宜紹介する。</p> <p><b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>  定期試験の成績による。</p> <p><b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>  講義初日に配布する講義計画において明記する。</p> <p><b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>  最新の六法を用意すること。</p>				

科目名<Subject>	知的財産権法 <Intellectual Property Law>		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	・ 後期
担当教員名<Name>	才原 慶道 <Yoshimichi Saihara>	研究室番号<Office>	
Office Hours	研究室在室中であれば、特に差し支えがない限り、随時。		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> この授業では、いわゆる知的財産法のうち、主に著作権法と特許法を取り上げます（余裕があれば、商標法や不正競争防止法についても、要点を説明します。）。これらの法律の概要を知ることによって、知的財産がどのように保護されているのかを理解することが、この授業の目的です。授業は講義形式によります。		<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 田村善之「知的財産法」（第4版、2006年、有斐閣）	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> (1) 知的財産権とは (2) 著作権法 ア．著作物性                   イ．著作者 ウ．著作権の内容               エ．著作権の制限規定 オ．著作者人格権 (3) 特許法 ア．特許付与の手續       イ．特許要件 ウ．職務発明               エ．特許発明の技術的範囲 オ．均等論                   カ．間接侵害 キ．包袋禁反言           ク．無効の抗弁 ケ．消尽                   コ．先使用権 サ．並行輸入 （以下は、余裕があれば） (4) 商標法 (5) 不正競争防止法		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 定期試験の成績によります。	
		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 試験問題中の論点を的確に指摘した上で、結論を論理的に導くことができることを合格ラインとします。具体的な「秀・優・良・可」の基準は、評価確定後、文書で通達します。	
		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 授業には、著作権法や特許法が記載されている最新の六法（判例付きのものは、試験では持ち込むことができませんので、注意してください。）を持参してください。また、毎回出席するよう心掛けてください。	

科目名<Subject>	労働法 <Labor Law>		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	・ 前期
担当教員名<Name>	本久 洋一 <Yoichi Motohisa>	研究室番号<Office>	5 1 8
Office Hours			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 労働法の体系的理解を本講義の目的とする。授業は、一般的な講義形式による。講義では、現在の社会問題（賃下げ、解雇等）のいわゆるリストラ、過労自殺、セクハラ、男女差別不当労働行為派遣等の不安定雇用等）を取り上げて、立法および裁判例において、どのような解決がはかられているかを説明し、検討する。なお、新立法、新判例には、講義中に積極的に対応する。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 定期試験の成績による。	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 一 労働法とはなにか 二 労働契約の成立・展開・終了 三 雇用における差別禁止・人格権保護 四 賃金と労働時間 五 労働組合および組合活動の保護 六 団体交渉とストライキ		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> ・基本的な法制度について、その要件効果を理解しているか ・要件に関し、判例によって形成された判断基準を理解しているか ・設例に関して、適切な法制度を選択し、法的三段論法にしたがって、結論を適切に導き出すことができるか	
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 角田邦重・毛塚勝利・脇田滋編『新現代労働 法入門〔第3〕』（2006年、法律文化社）を用いる。講義場で使用するもので、必ず持ってくる。その他、判例については、プリントを配布する。		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 六法（『小六法』などの中型のもの）を必ず持ってくる。	

科目名<Subject>	社会保障法 <Social Security Law>		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	・ 後期
担当教員名<Name>	片桐 由喜 <Yuki Katagiri>	研究室番号<Office>	407
Office Hours	在室中は随時。ただしメール、電話等による事前連絡があるとより確実。		
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 本講義は、第一に社会保障制度について基本的な事柄を正確に理解することを目的とする。そのうえで、昨今いわれる少子高齢社会が、制度にどのような影響を及ぼしているか、また社会保障制度に内在する法的問題は何かを検討していく。		<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 試験による。ただし授業中に不定期に実施する実地テストやレポートなどは積極的に評価することがある。	
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 1 社会保障総論 2 社会保険 (1) 医療保険 (2) 年金保険 3 公的扶助 4 社会福祉 (1) 社会福祉総論 (2) 老人福祉 (3) 障害者福祉 (4) 児童福祉		<b>5. 成績評価の基準</b> 秀(100~90) 社会保障法制について正確に理解し、制度に内在する法的問題を抽出し、その背景を分析できる。 優(89~80) 社会保障制度の基本的枠組みを理解し、現状との齟齬を認識し、指摘できる。 良(79~70) 社会保障制度の概要を理解し、現実に問題があることを認識し、ある程度、説明できる。 可(69~60) 社会保障制度を一定程度を理解し、それを表現できる。	
<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 岩村正彦・菊池馨美『目で見える社会保障法 第三版』(有斐閣、2004年)		<b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 受講に際し、小六法クラスの六法は必携。	

科目名<Subject>	環境法 <Environmental Law>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	夏季集中
担当教員名<Name>	一之瀬 高博 Takahiro Ichinose	研究室番号<Office>	
Office Hours			
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 公害・環境問題の性質・歴史およびそれに対する環境法の発展を概観し、環境法の救済法としての側面を検討するとともに、個別の環境保全法制度を分析する。この講義では、立法、裁判例、政策を素材に、環境法の現段階を明らかにしてゆくとともに、法律学が環境保全にどのような機能を果たしつつあるかを考えてゆきたい。		<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 講義の最後の時間に試験を実施する。	
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 1) 公害・環境法制度の発展過程 2) 公害民事賠償の理論と裁判例 3) 環境問題と国家賠償 4) 民事差止めの理論と裁判例 5) 環境行政訴訟をめぐる諸問題 6) 被害者救済および紛争処理制度 7) 環境権・自然の権利 8) 環境保全の手法 9) 環境基本法・環境基本計画 10) 環境影響評価 11) 公害・環境規制法 12) 廃棄物・リサイクル法制 13) 自然環境保全 14) 地球環境保全		<b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 試験の成績を重視し、講義の履修状況も加味しつつ、成績を評価する。	
<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> テキストは、とくに指定しない。		<b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> この授業は集中講義形式で開講される。	

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	国際取引法 <International Business Law>		
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	4	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	・ 前期
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	中村 秀雄 <NAKAMURA, Hideo>	<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	4 4 2
<b>Office Hours</b>	未定		
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>		国際契約の成立、履行、終了について一応理解している。国際取引の特徴、ツールなどについて十分な知識を有している。	
国際取引契約の理論を学ぶと共に、どのような形で実際に国際取引が行われるのかを、資料を使いながら勉強する。		良 (79~70):	
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b>		国際契約と国内契約には違いがあることを、主要な点については理解している。国際取引の特徴、ツールなどについて一応の知識を有している。	
国際取引で重要な役割を果たす英国法にもとづいて、国際取引契約法の基礎を学ぶ。		可 (69~60):	
「小樽商会在 London Millennium Company に機械を売却する」という取引モデルに従って、国際取引はどのように行われるか、契約書がどのように作られていくのかを学ぶ、オリエンテーション時に授業計画を配付する。		契約について、概略を理解している。国際取引の特徴、ツールなどについて不完全ながら、概略を把握している。	
<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>		不可 (59~0) :	
中村秀雄 『国際取引法講義』 第2版		契約法の原則が十分に理解できていない。国際取引の特徴が十分に把握できておらず、ツールの理解も不足している。	
<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>		<b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>	
定期試験の成績に、出席、授業中の発表態度、時々提出してもらったレポートの成績を加味して評価する。		国際取引に関心を持って、「自分が商人ならどう行動するか」を常に考えて授業にのぞんでほしい。「正しい答」より、「自分で考えた答」をもつことを期待する。履修名簿に従って指名して意見を述べてもらうので、出席することが重要である。	
<b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>			
秀 (100~90):			
国際契約の成立、履行、終了について、民法の原則と対比しつつ十分に理解している。			
国際取引の特徴、ツールなどについて十分な知識を有し、活用することが出来る。			
優 (89~80):			

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	インターンシップ <Internship>		
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	2	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	・ 通年
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	遠藤薫・大矢繁夫・多木誠一郎・木村泰知・花輪啓一・副島美由紀	<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	
<b>Office Hours</b>			
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>		<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>	
企業、官公庁等での就業体験を通じて職業意識を養うとともに、実務に触れることにより学習意欲を向上させる。		上記の教育プログラムへの参加、レポートの評価等を総合的に考慮する。	
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b>		<b>5. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>	
企業、官公庁等での実習(5日から2週間程度)が中心。実習の前の、講義・講習、実習後のレポート提出が義務づけられる。詳細は、5月に公表される「平成18年度インターンシップ教育プログラム」で明らかにされるが、だいたい、以下のスケジュールで行われる。		科目の性格上、研修先は、4月以降にならなければわからない。その数も限られているので希望者がすべて履修できるわけではない。また、研修先は、必ずしも希望どおりとはならない。募集は4月から5月にかけて行われるので、掲示に注意すること。通常の履修とは別の手続・方法で行われる。キャップ制の対象とはならない。実習は原則として夏休み期間に、講義・講習・レポート報告会等は通常の時間割とは別の日程や時間を使って行われるので、それに参加できることが条件である。「総合科目 (IP-グリーン講座)」を履修していることが望ましい。	
5月:オリエンテーション。「平成18年度 インターンシップ教育プログラム」の公表			
6月:事前講義			
7月:ビジネスマナー講習。			
8~9月:企業等で実習(原則として夏休み 期間)			
10月:成果レポート提出			
12月:大学、学生、研修先による意見交換 会			
<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>			

社 会 情 報 学 科  
学 科 科 目

科目名<Subject>	オペレーションズ・リサーチ <Operations Research>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	後期
担当教員名<Name>	奥田 和重 <Kazusige Okuda>	研究室番号<Office>	326
Office Hours	在室中であればいつでも可(事前にe-メールで連絡すること)		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 目的：企業における意思決定とその意思決定を支援する問題の分析を行い、得られた結果を運用するための方法論を計量的アプローチを中心に講義する。具体的には、オペレーションズ・リサーチの各種手法を意思決定問題のモデル化、モデルの分析とその解析、得られた結果の解釈と運用について講義する。本講義では、線形計画法とプロジェクト・スケジューリング、およびシミュレーションを取り上げる。 方法：1回の講義は予習+授業+復習で構成する。 予習=事前に教科書を読み、例題を解いて疑問点を整理しておくこと。 授業=講義形式とする。毎回授業終了時に演習を15分程度実施する。質問は随時受け付けるが授業終了時に配布するコメントシートに記入してもよい。 復習=毎回宿題を課すので、問題を解きレポートにまとめて次の授業時に提出すること。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 次の割合で成績の評価を行う。 出席 : 10% 宿題 : 10% 小テスト : 20% (2回実施, 1回10%) 定期試験 : 60%	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 1 線形計画法 2 プロジェクト・スケジューリング 3 シミュレーション		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 上記の成績評価の方法に基づいて計算した成績によって次のように評価する。 秀：成績が100点~90点 優：成績が89点~80点 良：成績が79点~70点 可：成績が69点~60点 不可：成績が59点以下	
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 教科書：適宜プリントを配布する。		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> ・成績評価の条件は、全授業回数の2/3以上出席していることである。2/3以上出席していなければ成績評価の対象としない。 ・出席は、毎回授業終了時に配布するコメントシートの提出で確認する。 ・第1回目の授業でオリエンテーションを行うので、履修希望者は必ず出席すること。オリエンテーション時に詳細なシラバスを配布し説明する。	

科目名<Subject>	統計科学 <Statistical Science>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	前期
担当教員名<Name>	小笠原 春彦 <Haruhiko Ogasawara>	研究室番号<Office>	503
Office Hours	随時		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> トピックスは統計学を中心とする統計的推定・検定である。統計的推定とは限られた情報(標本)から真の値(母集団)を確率の指標とともに求める方法であり、検定とはデータから得られる結論の正しさを確率により判断する方法である。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 主に試験の結果による。	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> (1) 授業のねらい、計量的方法の意義と導入 (2) 仮説検定の考え方、帰無仮説と対立仮説、 $p$ 値と危険率、両側検定と片側検定、2種の誤り (3) 平均の検定(分散既知)と正規分布 (4) スチューデント化統計量と $t$ 分布 (5) 分散の検定とカイ自乗分布、等分散の検定と $F$ 分布 (6) ノンパラメトリック検定、順位和とその分布 (7) 分散分析一元配置モデル・分散分析表、平方和の期待値 (8) 自由度と検定統計量 (9) 分散分析二元配置モデル・分散分析表 (10) 要因の交互作用 (11) アンバランス型データの処理		<b>5.成績評価の基準</b> 社会情報学科標準成績評価基準による。	
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> スライドを使用する。		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>	

科目名<Subject>	計画数学 <Programming Mathematics >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	前期
担当教員名<Name>	大津 晶 <Shou Ohtsu>	研究室番号<Office>	4 2 8
Office Hours	在室時は随時．事前にメール等で確認することを勧める．		
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 複雑な社会現象を抽象化し合理的な意思決定を行うには、問題に対する客観的かつ定量的なアプローチが不可欠である．本講義は、そのための数学的基礎となる線形代数学について、その基本的概念を理解することと、演習を通じて数理工学的思考方法を身につけることを目的とする．講義は直感的（幾何学的）理解を重視した解説を加えながら進める．基本的に毎回演習を行う予定．		<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 講義時間に行う演習、中間・期末試験を総合的に評価する．演習（出席）と試験の評定の合計に関して複数の方法を提供する．詳細は初回の講義で説明する．	
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> ・ベクトルと行列 ・行列式 ・逆行列 ・連立方程式 ・固有値と固有ベクトル		<b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 社会情報学科標準成績評価基準に従う．	
<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 基本的には以下の教科書に沿って講義を進めるが、線形代数に関する書籍は数多く出版されているので、必要に応じて各自に合ったものを利用してよい． 「線形代数学」、川久保勝夫、日本評論社、1999年		<b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 教科書の購入は履修の要件ではない．ただし、これは教科書を購入するか否かによって講義内容の理解に差が出ないことを保証するものではない．	

科目名<Subject>	計画数学 <Programming Mathematics >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	後期
担当教員名<Name>	奥田 和重 <Kazusige Okuda>	研究室番号<Office>	3 2 6
Office Hours	在室中であればいつでも可（事前にe - メールで連絡すること）		
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 目的：社会現象を理解し、また数理的に取り扱うときに必要となる「微分・積分」の講義を行う．授業の目的は、導関数・微分・偏微分・積分・重積分・微分方程式の概念を理解し、基本的な計算ができることである． 方法：1回の講義は予習+授業+復習で構成する． 予習＝事前に教科書を読み、例題を解いて疑問点を整理しておくこと． 授業＝講義形式とする．毎回授業終了時に演習を15分程度実施する．質問は随時受け付けるが授業終了時に配布するコメントシートに記入してもよい． 復習＝毎回宿題を課すので、問題を解きレポートにまとめて次の授業時に提出すること．		<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 次の割合で成績の評価を行う。 出席 : 10% 宿題 : 10% 小テスト : 20% (2回実施, 1回10%) 定期試験 : 60%	
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 1. 1変数関数と多変数関数の導関数 2. 1変数関数と多変数関数の微分 3. 定積分と不定積分 4. 重積分 5. 微分方程式		<b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 上記の成績評価の方法に基づいて計算した成績によって次のように評価する。 秀：成績が100点～90点 優：成績が89点～80点 良：成績が79点～70点 可：成績が69点～60点 不可：成績が59点以下	
<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 教科書：適宜プリントを配布する。		<b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> ・成績評価の条件は、全授業回数の2/3以上出席していることである。2/3以上出席していなければ成績評価の対象としない。 ・出席は、毎回授業終了時に配布するコメントシートの提出で確認する。 ・第1回目の授業でオリエンテーションを行うので、履修希望者は必ず出席すること。オリエンテーション時に詳細なシラバスを配布し説明する。	



科目名<Subject>	応用統計 <Applied Statistics>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	・ 後期
担当教員名<Name>	小笠原 春彦 <Haruhiko Ogasawara>	研究室番号<Office>	5 0 3
Office Hours	随時		
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>  多変量解析の手法である回帰分析法・主成分（因子）分析法を主に扱う。当授業は既に統計の入門コースを修了した者を対象とする。多変量解析とは多数の変量からなるデータから有用な情報を効率よく計量的に得る統計的手法のことである。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>  (1) 授業のねらい、行列計算の基礎  (2) 回帰分析の各手法（単回帰分析・重回帰分析・多変量単（重）回帰分析）  (3) 回帰分析モデルにおける仮定、パラメータとパラメータの推定  (4) 回帰係数の推定量の分布、回帰における推定誤差、重相関係数と自由度  (5) 数量化理論Ⅰ類、偏相関係数とパス解析  (6) 主成分分析と対称行列の固有値・固有ベクトル・スペクトル分解、データ行列の特異値分解  (7) 成分の分散の最大化、成分の分散の規準化、成分を求めるウェイト  (8) 成分負荷の推定、パワー法による固有値・固有ベクトルの解  (9) 残差行列と対応する成分  (10) 因子分析モデル、共通因子・独自因子・特殊因子・測定誤差</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>  スライドを使用する。</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>  主に試験の結果による。</p> <p><b>5.成績評価の基準</b>  社会情報学科標準成績評価基準による。</p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>  参考図書：永田靖・棟近雅彦「多変量解析法入門」サイエンス社</p>			

科目名<Subject>	社会計画 <Social Planning>		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	・ 前期
担当教員名<Name>	山本 充 <Mitsuru Yamamoto>	研究室番号<Office>	4 1 1
Office Hours	在室時、ただし事前にアポイントメントを取ること。		
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>  自然生態系は依然として危機に瀕している。公共セクターが策定する地域計画のみならず、企業が作成する事業計画においても、持続可能な経済社会を構築するため生態系を劣化させない計画策定が重視されている。本講義では、種々の計画に環境配慮を組み込むために必要となる環境問題・資源問題に関する考え方や分析手法の習得を目的としている。授業では、各回の講義テーマに対応した環境問題・資源問題を題材にディスカッションを行う予定である。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>  ・環境・資源と経済  ・環境政策の目標・手段・主体  ・インセンティブと経済的手段  ・再生可能資源の経済学  ・環境価値と環境評価  ・環境問題と産業連関表  ・酸性雨と越境汚染  ・地域開発と環境保全  ・環境問題と市場の失敗  ・枯渇性資源の経済学  ・環境会計と環境勘定  ・経済発展、貿易と環境  ・廃棄物、水資源の管理</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>  時政、藪田、今泉、有吉編『環境と資源の経済学』  勁草書房（2007年3月出版予定）</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>  各回の授業における演習問題の解答により評価する。</p> <p><b>5.成績評価の基準</b>  ・2/3以上の出席が単位取得の条件（病気や事故などやむを得ない事情による欠席は、必ず届け出をすること。この場合、課題を与える場合がある。）  ・各回の演習問題の点数を合計し100満点換算する。なお、各演習問題の評価基準については、HPにて開示する。  秀（100～90点）  優（80～89点）  良（70～79点）  可（60～69点）  不可（60点未満）</p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>  テキストは、必ず事前に目を通しておくこと。  講義に関する情報は、下記 URL にて適宜提供するの  で、随時参照すること。  <a href="http://www.otaru-uc.ac.jp/~mitasu/index3.htm">http://www.otaru-uc.ac.jp/~mitasu/index3.htm</a></p>			

科目名<Subject>	計画科学 <Management Science>		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	・ 後期
担当教員名<Name>	石井 利昌 <Toshimasa Ishii>	研究室番号<Office>	360
Office Hours	事前にメールで連絡をして下さい。		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 本科目では、オペレーションズ・リサーチの一分野である組合せ最適化問題からいくつかのテーマを取り上げ、問題の特徴やその解法（アルゴリズム）について講義を行う。 組合せ最適化問題とは、与えられた条件を満たす組合せの中から最良の組合せを求める問題であり、スケジューリング、配送計画、ネットワーク設計、経路探索、生産計画などその応用範囲は広い。 授業方法は、基本的には講義形式で、授業内容の提示に情報機器（プロジェクタ）を主に利用する。 また、各テーマ毎に演習課題を課す予定である。		<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> <テキスト>なし <参考資料> 「組合せ最適化[短編集]」久保幹雄，松井知己 著，朝倉書店 「組合せ最適化とアルゴリズム」久保幹雄 著，共立出版 「情報学のための離散数学」茨木俊秀 著，昭晃堂	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 組合せ最適化問題とアルゴリズム（イントロ） 線形計画問題 グラフ・ネットワーク問題 -- 最小木問題 -- ネットワークフロー問題 -- 最短路問題 割当問題 ナップサック問題 など		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 定期試験，各テーマ毎の演習課題に基づき評価する。	
		<b>5.成績評価の基準</b> 社会情報学科標準成績評価基準に従う	
		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>	

科目名<Subject>	意思決定論 <Decision Theory>		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	・ 通年
担当教員名<Name>	行方 常幸 <Tsuneyuki Namekata>	研究室番号<Office>	524
Office Hours	随時（ただし、メールで事前に連絡のこと； namekata@res.otaru-uc.ac.jp）		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 社会生活において私たちは自分の利益と他人の利益が複雑に入り組んだ状況で日々の意思決定を行っている。このような状況を単純化し数理的に扱う試みであるゲーム理論を参考に、物事を公平に扱うにはどうすべきか？自分の利益をなるべく多くしたい人が集まった場合、結果としてどのような状況になるのだろうか？等を数値例を通じて学習する。授業内容の提示に情報機器（プロジェクタ）を主に利用する。手計算で解けない問題を情報処理センターのパソコンを利用して解く演習を数回行う予定である。		<b>5.成績評価の基準</b> 社会情報学科標準成績評価基準による。	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 公平性の様々な表現 足りない物を参加者に分けるには？ 部分提携が意味を持つ場合に全体の利益をいかに分けるか？ 投票による意見の集約、等 非協力ゲームとナッシュ均衡 社会的ジレンマと様々な解消法		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 情報処理センターの利用申請をしておくこと。	
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 授業の開始（オリエンテーション）時に連絡する。			
<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 定期試験の成績と演習時に課すレポートによる。			

科目名<Subject>	経営システム基礎		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	後期
担当教員名<Name>	平沢 尚毅	研究室番号<Office>	385
Office Hours	在室中であればいつでも可		
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>  本講義では、企業の仕組み全般を、それぞれの仕組みの位置付けや相互関係などについて理解し、記憶にとどめていただくことを目的としている。その理由は、今後の(2年次あるいは3年、4年次における)企業経営・運営にかかわる専門科目の内容を個別独立したものとして覚えるのではなく、それぞれが有機的に連繫しているものとして、理解するための基礎・基盤知識を形成するためである。  前半の講義の内容は、企業における業務の仕組みや組織の仕組み、組織運営(経営)の仕組み、業績評価の仕組み等であり、今後の企業に期待される方向性などについても言及する。これらを踏まえて、後半では、経営システムのモデル化に関する演習を行う。モデルの記述には、UMLを応用する。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>  第1回：ガイダンス  第2回：会社の設立と機関の仕組み  第3回：業務(仕事)および組織の仕組み  第4回：経営(組織運営)の仕組み  第5回：経営体質と会社変革要因  第6回：経営を支える情報システム  (第6回の講義の後、中間試験を実施する)  第7~14回：経営システムモデルの演習</p>			
<p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>  必要資料を適宜配布</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>  中間試験、出席およびレポート</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>  社会情報学科の基準により評価する</p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>  中間試験にパスした者が後半の演習を受けることができるので、中間試験の日程を注意すること</p>			

科目名<Subject>	情報システム管理論	<Information System Management>	
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	後期
担当教員名<Name>	持田 泰昭	<Yasuaki Mochida>	研究室番号<Office> 408
Office Hours	随時、特に本講義前後の各1時間		
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>  本授業の前半では、情報システムとその構成に関する基本を学ぶ。後半では、情報システムのライフサイクルプロセス(構築プロセス)とともに、企画・開発・運用・保守・活用のために必要となる基礎知識を習得することを目的とする。特に、ソフトウェア開発に焦点をおく。授業方法は資料、プリント等を教材とした講義方式とするが、演習問題も課す。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>  第1回目：オリエンテーション  前半)  (1) 情報システムとは：1回  ・ インターネットなどの今日の特徴  ・ システム形態の変遷と進化  (2) コンピュータハードウェア：2回  ・ コンピュータの構造  ・ CPU、記憶装置の仕組み  ・ 2進数による内部表現  (3) ソフトウェア：3回  ・ ソフトウェアの機能階層  ・ オペレーティングシステム(OS)  ・ OSにおけるハードウェア資源管理(CPU、メモリの仮想化)  後半)  (4) 情報システム開発モデル：3回  ・ ウォータフォールモデル</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プロトタイプング</li> <li>・ スパイラルモデル</li> <li>(5) 情報システム構築の基礎：5回</li> <li>・ 企画プロセス</li> <li>・ 伝統的な開発プロセス <ul style="list-style-type: none"> <li>要件分析</li> <li>システム設計、プログラム設計</li> <li>プログラミング</li> <li>単体テスト、結合テスト</li> </ul> </li> <li>・ 運用/保守プロセス</li> <li>最終回：試験</li> </ul> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>  資料やプリント等をほぼ毎回配付する。</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>  試験の成績を重視するが、出席状況、学習姿勢等を総合的に評価する。</p> <p><b>5.成績評価の基準</b>  社会情報学科標準成績評価基準に従う。</p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>  資料やプリントの配付は原則として講義時間帯のみとする。</p>			

科目名<Subject>	プロジェクト実践論 <Practice of Project>																		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	前期																
担当教員名<Name>	酒井弘一・平沢尚毅 <Koichi Sakai/Naotake HIRASAWA>		研究室番号<Office> 337/358																
Office Hours	在室中であればいつでも可																		
<p><b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>          現実社会は、人々が「何かことを成す」ことによって動いています。人を動かし、目的を達成するための知識は、本を読んだり授業を聞くだけでは身につかず、自分で積極的に活動し、プロジェクトに参加しなければ、得ることができません。本授業では、参加者のグループワーク（擬似プロジェクトへの参加）が必須となります。したがって授業時間以外（土日等の休日も含む）の活動が必要となります。受講生同士の授業時間以外のスケジュール調整やリーダーシップの発揮に「真剣に」取り組みことが求められます。この授業では、そうした実践を通じた知識の体得を目標に置いています。大学の授業形態の仕組みを自ら変えていくくらいの気持ちで参加して下さい。</p> <p><b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b>          受講者は数人程度のグループに分かれ、指定されたテーマに関する調査の企画、実施、まとめ、発表などの各段階でグループでの議論と作業を行い、その経過を授業時間で報告してもらいます。また、各グループの発表や報告を通じて「プロジェクト管理」について考察し、個人レポートを提出することも義務づけられます。</p> <p>（授業の進め方）          [前週の宿題] [グループワーク] [教室での授業：グループプレゼンテーション、テーマに関する討議] [次週の宿題]</p> <table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>ガイダンス</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>グループ分け</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>プロジェクト管理の基礎技能に関する説明</td> </tr> <tr> <td>第4・5回</td> <td>プロジェクト実施計画作成に関する説明</td> </tr> </table>				第1回	ガイダンス	第2回	グループ分け	第3回	プロジェクト管理の基礎技能に関する説明	第4・5回	プロジェクト実施計画作成に関する説明								
第1回	ガイダンス																		
第2回	グループ分け																		
第3回	プロジェクト管理の基礎技能に関する説明																		
第4・5回	プロジェクト実施計画作成に関する説明																		
<table border="1"> <tr> <td>第6回</td> <td>実施計画に関するプレゼンテーション</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>プロジェクト進行のための基礎技能に関する説明</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>プロジェクト進行のための基礎技能に関する説明</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>中間報告プレゼンテーション</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>プロジェクト進行のための基礎技能に関する説明</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>最終プレゼンテーション</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>個人レポートの提出 プロジェクト管理に関する総括</td> </tr> </table> <p>上記授業計画の内容などは、授業の進捗（進み具合）などによって変更される可能性もあります。</p> <p><b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>          必要に応じ、資料、シートを配布。参加者が準備しなければならないものもあるが、その都度指示します。</p> <p><b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>          擬似プロジェクトの成果と個人レポートが中心となります。</p> <p><b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>          ・過去の受講生の熱意、行動力と比較の上、社会情報学科の基準により評価する</p> <p><b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>          ・指示を出すので、受講希望者は、掲示板に注意すること。          ・他の参加者の迷惑になるので、安易な気持ちで履修届けを出さないこと</p>				第6回	実施計画に関するプレゼンテーション	第7回	プロジェクト進行のための基礎技能に関する説明	第8回	プロジェクト進行のための基礎技能に関する説明	第9回	中間報告プレゼンテーション	第10回	プロジェクト進行のための基礎技能に関する説明	第11回		第12回	最終プレゼンテーション	第13回	個人レポートの提出 プロジェクト管理に関する総括
第6回	実施計画に関するプレゼンテーション																		
第7回	プロジェクト進行のための基礎技能に関する説明																		
第8回	プロジェクト進行のための基礎技能に関する説明																		
第9回	中間報告プレゼンテーション																		
第10回	プロジェクト進行のための基礎技能に関する説明																		
第11回																			
第12回	最終プレゼンテーション																		
第13回	個人レポートの提出 プロジェクト管理に関する総括																		

科目名<Subject>	組織コミュニケーション論 <Communication Theory in Organizations>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	前期
担当教員名<Name>	阿部 孝太郎 <Kotaro Abe>		研究室番号<Office> 514
Office Hours			
<p><b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>          学生が、作文やプレゼンテーションなどに積極的に参加することによって、実践的な知識・技術を学んでいくようにする。</p> <p><b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b>          世界標準の内容に従いつつ、日本固有の状況を考慮して話を進める。ただし、社会情報学科の講義ということも考慮して、パワー・ポイントの利用、電子会議、Computer Mediated Communication などのトピックにできるだけ触れるようにする。          レベルは、入門・初級・中級程度を想定しているの、前知識はあまり必要ない。          具体的なテーマとしては、以下のものを予定。</p> <p>第一回目～三回目 説得をはじめとするビジネス・コミュニケーション          第四回目 ビジネス・ライティング          第五回目 ライティングの添削          第六回目～八回目位 スピーキング・プレゼンテーション          第八回目以降（電子）会議、異文化コミュニケーション等について</p>			
<p><b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>          阿部孝太郎『ビジネス・コミュニケーション入門』</p> <p><b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>          作文、プレゼンテーション、小テスト(授業時間内に二、三回程度)等による。</p> <p><b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>          組織コミュニケーション論、組織情報論共に授業をよく理解していること、自分なりによく考えていること、論理的に正しく表現していること、十分な努力していること</p> <p><b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>          全員がパソコンに触れる環境が望ましいが、受講人数が多い場合、パソコンを使う機会が減ることが予想される。</p>			

科目名<Subject>	デジタルデザイン論 <Theory of Utilizing Digital Media for Business >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	後期
担当教員名<Name>	平沢 尚毅 <Naotake HIRASAWA>	研究室番号<Office>	385
Office Hours			
<p><b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>          情報通信技術の発展は、種々の情報のデジタル化を促進し、情報伝達の可能性が広がっている。その特徴は、マルチメディア性とインタラクティブ性にある。この講義では、企業や行政などの組織体が Web サイトを通じて、意図した情報を発信することを前提とした擬似的なプロジェクトを通じて情報デザインの基本を学習してゆく。授業の形式は、『プロジェクト実践論』に準拠した形で行うので、講義時間以外のグループワークが主体になる。基本的な流れは、次のようになる。          数名のグループに分かれ、指定されたテーマについて企画案を作成し、調査を実施し、その結果に基づいて、プロトタイプを作成する。さらに、これを評価する計画を作成し、評価を実施し、最終報告としてまとめる。対象とする Web は、企業、個人経営、行政など、対象を限定しないが、実際にあるものを対象とする。</p> <p><b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b>          第1回 ガイダンスおよびグループ分け          第2回 Web システムとデジタルコンテンツに関する解説          第3回 Web システム企画プロジェクト概要の作成          第4回 企画報告会          第5～6回 システムの要求分析          第7回 中間報告会          第8～10回 概要設計          第10～12回 詳細設計          第13回 最終報告会</p> <p><b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>          必要に応じて、資料などを配付。</p> <p><b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>          プロジェクトの成果と個人レポートによる。</p> <p><b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>          社会情報学科の基準により評価する</p> <p><b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>          情報処理センターを利用する場合があるので、必ず、利用申請を完了しておくこと。コンピュータを利用するので、最低限のリテラシーを習得していることを前提としている</p>			

科目名<Subject>	ビジネスデザイン論 <Theory of Business System Design>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	後期
担当教員名<Name>	酒井 弘一 <Koichi Sakai>	研究室番号<Office>	337
Office Hours	随時、ただし要予約		
<p><b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>          注意：本科目の履修者は前期の応用プロジェクト方法論も同時に履修すること。この授業だけの履修は、評価されないので、気をつけること。          この授業では、地域企業の経営モードを革新するための、ビジネスデザイン構築プロジェクトを行う。          プロジェクトの実施には学生同士のグループワークが必須になる。授業時間以外（土日、冬休みも含めて）の活動もかなり必要である。          毎週宿題が出る。やってこない、その週の議論に参加することが困難になり、成績評価に影響する。</p> <p><b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b>          毎週、ビジネスデザイン立案に関する宿題が出され、その内容のディスカッションを行う。          先輩の感想・大学で学ぶこと考え方が変わった          ・結果だけではなく、授業に参加したプロセスが学生の財産になる          ・真剣に取り組めば、5倍の知識が得られる          ・自分の暮らしを変えたい人に勧める</p> <p><b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>          毎週課題を配布</p> <p><b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>          グループプレゼンテーション並びに授業参加者の相互評価。企業戦略のプロジェクト実施には4ヶ月以上の準備を要求される。</p> <p><b>5. 成績評価の基準</b>          過去の受講者の実績、熱意とも比較の上、社会情報学科の基準により判定</p> <p><b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>          夏休みから実質開始になるので、注意すること。地元企業の迷惑にもなるので、やり抜く覚悟のないものは履修届を出さないこと。グループワークでは本音の議論も避けられなくなるので、気持ちの覚悟もして参加すること。昨年度の受講生から感想を聞いておくことが望ましい。</p>			

科目名<Subject>	組織情報論 <Information Theory for Organizational>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	・ 後期
担当教員名<Name>	阿部 孝太郎 <Kotaro Abe>	研究室番号<Office>	5 1 4
Office Hours			
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>  企業情報化において、エンジニアではなく、マネジャー・サイドから何をすべきかといったテーマについて、実践的知識・理論を学ぶ。できるだけ、グループ・ディスカッション及びそれを元にしたプレゼンテーションと、小テスト(実施、添削・解説)を行う。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>  世界標準の内容に従いつつ、日本固有の状況を考慮して、具体的な事例(できるだけ日本の)を紹介しながら話を進める。レベルは、専門課程の初級・中級程度(一部・上級)を想定している。具体的なテーマとしては、以下のものを予定。</p> <p>第一回目～二回目 情報システムと経営戦略  第三回目 IT(Information Technology)の組織に対するインパクト  第四回目 ITと労働のデザイン  第五回目 ITとビジネスプロセスの変化  第六回目 インターネット上のビジネス  第七回目 ナレッジ・マネジメント  第八回目 プロジェクト・マネジメント  第九回目 ITと会計  第十回目 情報と倫理</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>  ・メインのテキスト 授業開始時に配付するオリジナルのプリント  ・参考文献 ポイエット&amp;ポイエット『経営革命大全』日経ビジネス人文庫</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>  グループ・ディスカッションの発言(プレゼン)、小テストによる。</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b></p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>  経営学の初歩的な知識を有し、なおかつ、すでに「組織コミュニケーション論」の単位を履修していることが望ましい。前知識なしに受けると、「やや難しい」と感じるようだ(前年度アンケートより)。</p>			

科目名<Subject>	社会情報論 <Introduction to Social System in the Information Age>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	・ 後期
担当教員名<Name>	出川 淳 <Atsushi Degawa>	研究室番号<Office>	5 3 8
Office Hours	金曜日 14:40~15:20		
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>  本講義では、社会や地域、コミュニティなどで流通している情報(社会情報)について理解を深め、それらを有効活用するためのスキルや改めるべき態度について学ぶことを目的としています。言い換えると、情報が氾濫している現代において上手に情報を入手し活用する技能の獲得です。  具体的には時事問題、政治・行政関連情報、経済関連情報などの社会的・国際的な情報、自治体(都道府県、市町村)関連の情報、および生活者・住民にとって最も身近なコミュニティの情報などを主たる対象とします。なおこれらの理解やスキルの獲得、社会人として必要な態度・考え方への自己変革等については、レクチャーもさることながら、主として受講者皆さんの自発的な“活動”“態度”“考察”に拠ります。そのため、宿題やレポートが多く出されます。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>  1回: ガイダンス  2~3回: 社会情報(主に時事問題)全般の紹介と基礎知識や周辺情報について(内容及び調べ方)  4~5回: 情報の収集とまとめ方について  6~7回: テーマの絞込みについて  8~9回: 論理的な考察の仕方  10~13回: 課題  14回: 社会人・プロフェッショナルとしての情報活用能力と態度について</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>  ・資料を適宜配布  ・ニュース番組などのビデオ</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>  出席、授業におけるワーク、各授業の事後課題(レポート)</p> <p><b>5.成績評価の基準</b>  授業におけるワークや各授業の事後課題は、内容の妥当性や論理的な展開の適切さが重視される。そのほか、記述様式なども評価対象となる。  なお、最終成績評価における配分は概ね以下の通りとする。  出席: 10%  授業におけるワーク: 30%  事後課題: 60%</p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>  特になし</p>			

科目名<Subject>	情報システム構築論 <Information Systems Constructing>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	・ 前期
担当教員名<Name>	持田 泰昭 <Yasuaki Mochida>	研究室番号<Office>	408
Office Hours	随時、特に本講義前後の各1時間		
<p><b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>  情報システム構築のための代表的な方法論や技法を習得することを目的とする。具体的には、情報システム管理論（2年次科目）で学んだ伝統的な構築プロセスや技法について、その問題点を再整理するとともに、より実践的で今日的な構築方法について学ぶ。ここでは、特にソフトウェア開発プロセスに着目する。また、伝統的な構造化技法とオブジェクト指向技法によるシステム設計の比較評価をケーススタディにより行う。授業方法は講義方式とするが、演習も含む。</p> <p><b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b>  第1回目：オリエンテーション</p> <p>(1) ソフトウェア開発プロセスとは  ・ ソフトウェアエンジニアリング  ・ プロセスフレームワーク</p> <p>(2) プロセスモデルの進化と変遷  ・ ウォータフォールモデル  ・ インクリメンタルモデル  ・ 進化型モデル  ・ 統一プロセス  ・ 規範的プロセスからアジャイルへ</p> <p>(3) 統一プロセスの特徴  ・ ソフトウェア開発の実践原則  ・ プロセスの表現（ワークフロー）  ・ 反復型開発（フェーズ）  ・ ユースケース主導開発</p> <p>(4) 伝統的システム設計方法</p> <p>・ トップダウン的アプローチ  ・ 構造化技法による簡単な演習  ・ 問題点  (5) オブジェクト指向開発の基本  ・ 伝統的方法からオブジェクト指向へ  ・ オブジェクト、クラス  ・ オブジェクトやクラス間の関係  ・ メソッド  ・ 属性 など  (6) オブジェクト指向モデリング  ・ システム構造設計の簡単な演習  オブジェクト抽出、クラス化、  クラス間関係の定義  ・ 従来方法との比較  ・ オブジェクト指向の効果</p> <p>最終回：試験</p> <p><b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>  資料やプリント等をほぼ毎回配付する。</p> <p><b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>  試験の成績を重視するが、出席状況、学習姿勢等を総合的に評価する。</p> <p><b>5. 成績評価の基準</b>  社会情報学科標準成績評価基準に従う。</p> <p><b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>  資料やプリントの配付は原則として講義時間帯のみとする。</p>			

科目名<Subject>	応用プロジェクト方法論 <Advanced Methodology of Utilizing Project for Corporate Innovation>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	・ 前期
担当教員名<Name>	酒井 弘一 <Koichi Sakai>	研究室番号<Office>	337
Office Hours	随時、ただし要予約		
<p><b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>  注意：本科目の履修者は後期のビジネスデザイン論も同時に履修すること。この授業だけの履修は、評価されない。この授業では、実際に身近な組織の戦略を策定し、提言するプロジェクトを実施する。具体的な企業経営事例の議論を中心に、応用プロジェクトの前提となる経営戦略の基本的理解を深める。毎週宿題があり、発表、報告が課せられる。やってこないと、その週の議論に参加することが困難になり、成績評価やプロジェクトの結果に影響する。参加者のグループワークが必須になる。はじめの数回の授業を欠席し、グループに所属できなかったものは評価対象外となるので気をつけること。連休明けに出ても遅い。後期のビジネスデザインプロジェクトの準備もあり、授業時間以外（土日、夏休みも含めて）の活動も相当必要なので、覚悟して履修すること。</p> <p><b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b>  先輩の感想  ・ 戦略を実際に組むことで今までと違った考え方が身についた  ・ 後期に他の大学生のリーダーとなるので、その準備になる  ・ 宿題やグループワークは大変だが、就職活動やその準備にも役立つ  ・ 3年生で履修しておけば、学生生活が少しは変わったと思う</p> <p><b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>  毎週事例を配布</p> <p><b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>  グループプレゼンテーション並びに授業参加者の相互評価</p> <p><b>5. 成績評価の基準</b>  過去の受講者の実績、熱意とも比較の上、社会情報学科の基準により判定</p> <p><b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>  他の参加者の迷惑になるので、他のことで忙しいものは履修を考えない方がよい。オリエンテーションの日程に関わらず実質的に授業に入るので情報を集め気持ちを固めておくこと。昨年度の受講生から感想を聞いておくことが望ましい。</p>			

科目名<Subject>	ビジネスシステム論 <Information Principles of Business Systems>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	・ 前期
担当教員名<Name>	出川 淳 <Atsushi Degawa>	研究室番号<Office>	5 3 8
Office Hours	月 10 : 30 ~ 12 : 00		
<p><b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>          企業における業務活動の様態は様々であるが、どの企業にも共通する基本的な仕組みが幾つかある。具体的には会計システムであり、営業・販売システムであり、商品・サービスの製造・生産システムなどである。それぞれのシステムについてはそれぞれ単独の講義として教授されることも多いが、本講義では個々の共通システムが実際にどのように連携して、ビジネスシステムの全体を構成しているかを、理解してもらうことを目的としている。          そのため、個々のシステムに関する基本的事柄については、配布する資料などに基づいて各自が自発的に勉強することを前提とする。          また、個別システムの連携等については、具体的な事例に基づく説明のうち、受講生諸君自身による考察を通じて理解を深めてもらう。</p> <p><b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b>          第1回：オリエンテーション          第2回：個別システムの概要の説明（会計システム）          第3回：個別システムの概要の説明（営業・販売システム）          第4回：個別システムの概要の説明（製造・生産システム）          第5回：その他の個別システムの説明（総務、企画、法務、研究開発、情報システム等）          第6回：個別システムの概要の説明（補足・予備）</p> <p>第7回：営業と生産の連携          第8回：営業と会計の連携          第9回：生産と会計の連携          第10回：営業、会計、生産と情報システムの連携          第11回：総務、法務と他の業務との連携          第12回：企画と研究開発の連携、関係          第13回：企業改革の流れ          第14回：個別システムの連携・関係の説明（補足・予備）</p> <p><b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>          適宜、授業において資料を配布するか、ホームページにて資料を提供する。（ホームページの場合は各自が印刷）</p> <p><b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>          出席、授業等における小テスト、定期試験</p> <p><b>5. 成績評価の基準</b>          出席：10%、小テスト：40%、定期試験：50%</p> <p><b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>          特になし</p>			

科目名<Subject>	知識科学基礎 <Introduction to Knowledge Science>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	後期
担当教員名<Name>	木村 泰知 <Yasutomo Kimura>	研究室番号<Office>	5 0 6
Office Hours	在室中であればいつでも可		
<p><b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>          人間と同等の処理能力を有するコンピュータを実現させるために、数多くの研究が行われてきた。例えば、英語から日本語へ翻訳する機械翻訳、音声からテキストへ変換する音声認識、他にも自然言語理解などがあげられる。これらの実装には、コンピュータ内部における知識の表現方法を考える必要がある。講義の目的は、知識表現及び、その応用方法を理解することである。</p> <p><b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人工知能の歴史</li> <li>・コンピュータにおける知識表現</li> <li>・意味解析</li> <li>・音声認識</li> <li>・翻訳処理</li> <li>・対話処理</li> <li>・情報検索</li> <li>・エキスパートシステムの基礎</li> <li>・ニューラルネットの基礎</li> <li>・遺伝的アルゴリズムの基礎</li> </ul> <p><b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>          プリント教材を配布する。</p> <p><b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>          レポート、定期試験により評価</p> <p><b>5. 成績評価の基準</b>          社会情報学科標準成績評価基準に従う</p> <p><b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b></p>			



科目名<Subject>	情報処理	<Information Processing>		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>		前期
担当教員名<Name>	中村 隆志	<Takashi Nakamura>	研究室番号<Office>	316
Office Hours	在室中ならいつでも可			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> パソコンの普及と優れたアプリケーション・ソフトウェアの出現により、プログラミングは不要の時代になったと言われる。しかし、これはあくまでエンドユーザの話であって、ソフトウェア開発においては、当然ながらプログラミングは必要不可欠である。計画科学の分野でも、最適化問題解法アルゴリズムの開発等にはプログラミングに関する考え方が必要となる。したがって、社会情報学科所属者にとってプログラミングは避けて通れないものである。 この授業では、プログラムの基本的な作成方法をマスターすることを目的として、講義・実習を行う。使用するプログラミング言語はCで、Borland社のC++ Builderを利用する。変数、配列やポインタの概念、プログラムの制御構造、関数などのプログラミングの基礎を学習する。また、オブジェクト指向とC++の初歩についても学び、C++ Builder 本来のWindowsアプリケーション作成法にもふれる。		8) 構造体 9) オブジェクト指向とC++ 10) C++BuilderによるWindowsアプリケーション作成		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 1) プログラミング言語と処理系 2) 入出力と演算 3) 分岐 4) 繰り返し 5) 配列と文字列 6) ポインタ 7) 関数		<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> [教科書]大石弥幸:「例題で学ぶC言語の基礎 第2版」ムイスリ出版 [参考書]柴田望洋:「定本 明解C言語 入門編」ソフトバンクパブリッシング		
		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 試験、ならびに実習への出席、実習課題の提出状況により、総合的に評価する。		
		<b>5.成績評価の基準</b> 社会情報学科標準成績評価基準に従う。		
		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> ・授業は週2講であるが、1講は教室で講義を、もう1講は情報処理センター実習室で実習主体に行う。 ・実習室に入れる人数には限りがあるため、履修者が130人以上の場合は学科の発展科目となっている社会情報学科所属者を優先し、その他の履修希望者は抽選により履修を決定する。 ・毎週、課題が出題される。 ・第1回目の授業(オリエンテーション)でこの授業専用の履修申込書を配布するので、必ず出席すること。これを提出しないと、履修は認めないので注意すること。		

科目名<Subject>	情報数理	<Mathematics of Information>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>		前期
担当教員名<Name>	沼澤 政信	<NUMAZAWA Masanobu>	研究室番号<Office>	451
Office Hours	訪問希望者はその旨(日時,用件)をメールにて連絡ください.numazawa@res.otaru-uc.jp			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 本科目は、様々な研究分野の境界領域である情報科学およびコンピュータ科学の基礎理論の理解に必要とされる数理の基本的知識の習得を目的とします。主として、情報系において広く有用な離散数理について解説、演習を行い、情報科学、コンピュータ科学のどの分野に対してどのように応用されているかを示します。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 総合点は出席および試験(中間試験,定期試験)で評価します。		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 集合: 集合, 離散集合, 部分集合, ベキ集合, 集合演算 論理と集合: 述語, 論理演算, 論理式, 論理演算の性質 対応と集合: 対応, 集合の直積 写像: 部分写像と写像, 写像の性質, 逆写像 関係: 二項関係, 関係行列と関係グラフ, 関係の合成 グラフと隣接行列: 離散グラフ, 隣接行列 木: 無向木, 全域木, 有向木, 順序木 など		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 社会情報学科標準成績評価基準に従う。		
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 教科書(市販テキスト)は特に用いません。 講義資料としてプリントを作成します。これをWeb上に公開します(アクセスは学内限定)ので、各人講義前に印刷の上持参してもらいます。 各週の講義資料はWeb上に一定期間に限り公開します(アクセスは学内限定)。		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 授業はプロジェクトを使用して行います。 授業では、説明の他に、プリントにて講義内容に関する問題を解かせます。 評価方法の詳細などは、第一回講義のガイダンスにてお知らせします。		

科目名<Subject>	認知科学 <Cognitive Science>		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	・ 後期
担当教員名<Name>	佐山 公一 <Koichi Sayama>	研究室番号<Office>	3 5 2
Office Hours	随時 (電子メールで事前に連絡すること)		
<p><b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>          認知科学は、人間がどのような知識を有し、どういった知的処理を行っているかを解明しようとする学問である。本講義では、この認知科学の重要な基礎理論の一つである人間の“言語の理解”をテーマとする。人間の言語理解の特徴を認知心理学的側面、人工知能的側面、認知言語学的側面、神経科学的側面から詳しく解説する。人間の言語理解の“過程(プロセス)”をコンピュータ上にモデル化するにはどうしたらよいかを述べる。授業はすべてパワーポイントを使って行う。</p> <p><b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b>          前半：人間の言語理解の概要          1. 人間の情報処理の基本的な説明概念          2. 記憶と注意          3. 言語の神経科学          4. 話し言葉の知覚          5. 単語認知と心内辞書          6. 単語認知についての経験的事実          7. 単語認知過程のモデルと心内辞書のモデル          8. カテゴリーの認知          9. 統語解析過程と統語知識          10. 統語解析に関する経験的事実と過程モデル          11. 文章の理解過程</p> <p>後半：人間の効率的な情報伝達の仕組み          1. メンタルスペースの理論          2. 情報のなわばり          3. 指示表現の理解          4. 視点          5. 修辭的な発話の種類と会話の公準</p>			
<p>6. 隠喩文理解過程の段階モデル：隠喩文理解過程の仮説的枠組み          7. 段階モデルにおける段階性の実験的な検証          8. “顕著性の不均衡”の仮説          9. アドホックなカテゴリー化          10. 属性のマッチングとカテゴリー化          11. 概念的比喩          12. 間接的発話行為として機能する文の理解過程の段階モデル          13. アイロニーの理解過程</p> <p><b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>          プリントを配付する。</p> <p><b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>          主に、中間試験と期末試験の得点にもとづいて評価する。講義の内容に関連した実験に参加していただく予定である。実験への参加と講義の出席も評価に加える。</p> <p><b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>          社会情報学科標準成績評価基準に従う。</p> <p><b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>          毎回出席して、講義そのものに積極的に関わることが必要である。</p>			

科目名<Subject>	ソフトウェア科学 <Software Science>		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	・ 前期
担当教員名<Name>	加地 太一 <Taichi Kaji>	研究室番号<Office>	3 1 5
Office Hours	随時		
<p><b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>          ソフトウェア科学の基本概念の一つとしてアルゴリズムの問題がある。アルゴリズムとは問題を解決するための手順の記述であり、その方法論である。ソフトウェア科学はこの基本概念のまわりに展開する。本講義では優れたアルゴリズムの考え方とそのプログラミング技法を事例によってわかりやすく説明し、同時にソフトウェア科学におけるいくつかの問題点について理解を深める。また、アルゴリズムを理解することによりコンピュータの本質について知ることを期待する。主に以下のアルゴリズムとデータ構造における問題を通して講義、演習を進める。</p> <p><b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b>          本講義では発展型プログラム技術の習得とコンピュータ上においてどのように効率的に問題を解いていくのかということが焦点となる。以下の問題について理論的な講義を行い、さらに、その問題について演習課題を行うことにより理解を深める。          1. アルゴリズムについて          2. ソフトウェア設計の方法論          3. アルゴリズムの効率と計算量          4. 情報の概念とデータ構造          5. ファイルの概念と情報の転送          6. ポインタによる動的変数の実現          7. 基本的な抽象データ型 (リスト)          8. 特殊なリストの構成 (スタック、キュー)          9. 探索とアルゴリズム          10. 効率的な探索アルゴリズムの実現方法          11. 効率的なデータの処理とソーティング技法          12. 問題解決とアルゴリズム          ただし、本講義では事務処理あるいはネットワークなどのコンピュータの使用法、およびウィンドウズプログラミングについては行わない。むしろ、コンピュータの問題解決の流れを論理的に考察する数学的な分野であると考えていただきたい。</p>			
<p><b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>          テキスト：なし          参考図書：          茨木：「Cによるアルゴリズムとデータ構造」、昭晃堂          平田：「Cによるアルゴリズムとデータ構造」、科学技術出版社          杉山：「Cで学ぶデータ構造とアルゴリズム」、東京電機大学出版局          アンク：「アルゴリズムの絵本」、翔泳社          石畑：「アルゴリズムとデータ構造」、岩波書店          エイホ他：「データ構造とアルゴリズム」、培風館</p> <p><b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>          課題の提出とペーパー試験により総合的に判定する。(課題が未提出の場合、減点の対象となる。)</p> <p><b>5. 成績評価の基準</b>          社会情報学科標準成績評価基準に従います。</p> <p><b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>          本講義は科目「情報処理」で学んだプログラム言語Cの知識を要する。したがって、「情報処理」の講義を履修していないものは本講義の履修が困難である。また、計算機センターでの計算機演習を伴うため、人数を制約せざるを得ない。そこで、履修希望者が80人を超えた場合、情報処理(C言語)に関する簡単な試験により履修の選抜を行う。許可されていない学生が学務課で履修登録を行っても成績評価の対象とはならない。<u>履修選抜に関しては4月上旬に掲示にて詳しい選抜方法を説明するので注意すること。</u></p>			

科目名<Subject>	コンピュータネットワーク論 <Computer Networks and Internets>		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	・ 通年
担当教員名<Name>	三谷 和史 <Kazufumi Mitani>	研究室番号<Office>	4 5 5
Office Hours	mit@mit-s.otaru-uc.ac.jp まで連絡のこと。		
<p><b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>  目的：インターネットで一躍有名となったコンピュータネットワークを、その基礎の部分から応用まで、なぜそうなっているのかという視点から考えながら理解することを目的とする。</p> <p>内容：前期は通信の基礎からイーサネットに代表されるLAN,そしてIP,TCPといったネットワークプロトコル、経路制御やDNS等の基本的アプリケーション、WWW等の応用アプリケーション、セキュリティ等について解説を行なう。後期は実際にネットワーク上で通信を行なうプログラムの作成を通じてネットワークを使うために必要なこと学ばせらる。</p> <p>方法：前期は講義、夏季集中は計算機実習によって行なう。</p> <p><b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b>  講義の進み具合により多少の増減があるが、</p> <p>前期  イントロダクション。  デジタルとアナログ。  通信の基礎。  イーサネットとCSMA/DA。  TCP/IPの仕組み。  経路制御とDNS。  応用アプリケーション。  ネットワークセキュリティ。</p> <p>夏季集中  C言語によるネットワークプログラミング。  サーバとクライアントの構造。  ジャンケンサーバとクライアントの作成。  クライアントでの手の考え方。  勝ち抜き戦でのクライアントの評価。</p> <p><b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>  教科書は特に定めませんが、参考書を適宜示す。  後期については、実習書を配布する。他にunixとC言語の適当な参考書があればよい。講義にはPPTを使用する。</p> <p><b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>  前期は出席回数と前期の試験の結果で夏季集中講義の受講の可否を決める。夏季集中講義は出席と課題提出状況及びレポートにより評価を行ない、前期の成績と併せて総合的に評価を行なう。</p> <p><b>5. 成績評価の基準</b>  評価基準は社会情報学科標準成績評価基準に従う。</p> <p><b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>  後期分は夏季集中で行なう予定である。情報処理センターの利用、特にunix環境の利用方法を自習しておくこと。</p>			

科目名<Subject>	情報と職業 <Information and Profession>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	・ 前期
担当教員名<Name>	小山 正芳 <Masayoshi Koyama>	研究室番号<Office>	
Office Hours			
<p><b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>  この科目は、基本は教職科目である。高等学校情報科担当教員として、「職業指導」より幅広く、情報に関する職業人としてのあり方や勤労観、職業観、倫理観等を理解し、高校生にいかにかに教えるかを学ぶことを目的とする。</p> <p><b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報社会の進展と職業</li> <li>2. 情報化と雇用の変化</li> <li>3. 情報化とオフィス環境の変化</li> <li>4. 高等学校教科「情報」の基本</li> <li>5. 情報処理産業と情報処理技術者</li> <li>6. 情報処理とシステム開発</li> <li>7. 情報社会における勤労観・職業観</li> <li>8. 情報社会の進展と倫理観</li> <li>9. 情報社会における勤務形態の変化</li> <li>10. 情報社会における「光と影」</li> <li>11. ニート、フリーターをどう捉えるか</li> </ol> <p><b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>  プリントを用意する。参考文献はその都度紹介する。</p> <p><b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>  定期試験、レポート、出席で評価。</p> <p><b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>  授業開始時に配布する授業計画書で明示する。</p> <p><b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>  教職科目なので出席を重視。</p>			

科目名<Subject>	社会情報入門 <Introduction to Information and Management Science >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	前期
担当教員名<Name>	中村隆志・佐山公一 <Takashi Nakamura / Kohichi Sayama>	研究室番号<Office>	316 / 352
Office Hours	随時（事前にE-mailで連絡のこと）		
1. 授業の目的・方法<Course objective and method>		[後半]	
<p>この授業は社会情報学科の専門領域への導入科目である。本学科の情報関連分野に関する基礎的な事項やトピックを解説することにより、2年次以降で学ぶことの足がかりとしてもらうことを目的とする。前半は中村、後半は佐山が担当する。</p> <p>前半は、コンピュータはどのようにして誕生し、発展していったか、コンピュータやインターネットと社会生活との係わり、今後の展望等について、講義する。</p> <p>後半は、人間の情報処理のしくみを、コンピュータの情報処理と比較しながら講義する。予習の必要はないが、馴染みのない考え方に慣れる必要がある。</p>		<p>1) 人間の情報処理とコンピュータの情報処理</p> <p>2) 視覚の情報処理：錯視</p> <p>3) 顔の情報処理：顔から感情、年齢、魅力、個性を読む</p> <p>4) 潜在記憶：プライミング効果、記憶の誤帰属</p> <p>5) カテゴリーの情報処理</p> <p>6) 言語の情報処理：新・旧情報、メンタルスペースの理論、視点、情報のなわばり、隠喩の理解、間接的発話行為の理解、など。</p>	
2. 授業内容<Course contents>		3. 使用教材<Teaching materials>	
<p>[前半]</p> <p>1) 誰がコンピュータを作ったのか？</p> <p>2) 日本語とコンピュータ</p> <p>3) インターネットの光と影</p> <p>4) IT革命とは何だったのか？</p> <p>5) IP電話とは何か？</p> <p>6) ユビキタス・コンピューティング（=どこでもコンピュータ）</p> <p>（上記授業内容については若干の変更もあり得る。）</p>		<p>[前半] プリントを配布する。</p> <p>[後半] 資料は配布しない。パワーポイントを使う。</p>	
		4. 成績評価の方法<Grading>	
		<p>前半と後半の成績の総合評価による。前半は試験により評価する。後半も主に試験により評価する。</p>	
		5. 成績評価の基準	
		<p>社会情報学科標準成績評価基準に従う。</p>	
		6. 履修上の注意事項<Remarks>	
		<p>この科目は、1年生全員、及び、社会情報学科所属の2、3、4年生のみが履修できる。したがって、社会情報学科以外の2、3、4年生は履修できない（履修登録を行っても成績評価は行わない）。</p>	

科目名<Subject>	計画科学基礎 <Introduction to Management Science>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	後期
担当教員名<Name>	加地太一・大津晶<Taichi Kajji, Shou Ohtsu>	研究室番号<Office>	315(加地)/428(大津)
Office Hours	随時		
1. 授業の目的・方法<Course objective and method>		3. 使用教材<Teaching materials>	
<p>皆さんが生活していく上で、そして、これから仕事をしていく上で、最善の策を練るといふことが必要となってくる場面は多々あります。公共政策、会社の経営はもちろんのこと、どううまく家計を切り盛りし家族がハッピーになれるかなどあらゆる場面で、我々はこの最善の策を練ることが必要になってきます。この最善の策を練るといふテーマが社会情報学科のメインテーマでもあります。通常、我々は経験と勘でこれをこなしていますが、科学的手法を積極的に取り入れ、コンピュータを活用することで、よりベストな目標へと到達できるものと考えます。本講義ではこのような研究をトピック的に紹介していきます。この概要をつかんでいただくことを目標とします。</p>		なし	
2. 授業内容<Course contents>		. 成績評価の方法<Grading>	
<p>前半(加地)： 科学的思考法とは</p> <p>(1) 計画科学と情報</p> <p>(2) 正しい情報をつかむには</p> <p>(3) 情報を分析する</p> <p>(4) 最適化という考え方</p> <p>(5) 科学的な意思決定と評価の方法</p> <p>(6) 情報システムを作り上げる基礎</p> <p>後半(大津)： 科学的思考法の活用</p> <p>(7) 直感の大切さと危うさ</p> <p>(8) 社会データの読み方</p> <p>(9) 個人の選択と公共の選択</p> <p>(10) 都市を経営する</p> <p>(11) 不確実な未来</p>		<p>レポート等により総合的に判定した前半、後半の各評点に対する平均点を成績評価点とします。</p>	
		5. 成績評価の基準	
		<p>社会情報学科標準成績評価基準に従います。</p>	
		6. 履修上の注意事項<Remarks>	
		<p>本科目は、全1年生、および、社会情報学科所属の2～4年生のみ履修可とします。よって、社会情報学科以外の2～4年生は履修できません（社会情報学科以外の2～4年生が履修登録を行っても成績評価は行いません）。また、授業内容については構成上の変更があり得ます。</p>	

科目名<Subject>	情報処理基礎 <Introduction to Information Processing>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	・ 後期
担当教員名<Name>	沼澤 政信 <NUMAZAWA Masanobu>	研究室番号<Office>	4 5 1
Office Hours	訪問希望者はその旨(日時,用件)をメールにて連絡ください.numazawa@res.otaru-uc.ac.jp		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 本科目では、コンピュータシステムおよびコンピュータ・ネットワークシステムについての基礎知識を学びます。		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 授業はプロジェクタを使用して行います。 授業では、説明の他に、プリントにて講義内容に関する問題を解かせます。 評価方法の詳細などは、第一回講義のガイダンスにてお知らせします。	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> <b>【講義】</b> 情報理論 オペレーティングシステム(OS) プログラミング言語 インターネット ネットワークセキュリティ などについて、使用教材に沿って学びます。			
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 坂村健 『痛快!コンピュータ学』(集英社) 各週の講義資料は Web 上に一定期間に限り提示するようにします(アクセスは学内限定)。			
<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 総合点は出席および試験で評価します。			
<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 社会情報学科標準成績評価基準に従う。			

科目名<Subject>	社会情報特講 <Topics of Information and Management science >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	・ 夏季集中
担当教員名<Name>	平山 正治 <Masaharu Hirayama>	研究室番号<Office>	
Office Hours			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> コンピュータは人間のあらゆる知的活動を支援するもので、技術者ばかりでなく多くの現代人にとって必要不可欠のツールである。本科目ではコンピュータの動作原理やアーキテクチャ(構成・方式)について学び、コンピュータの内部で如何にして計算・処理が行われているかを理解するのが目的である。		<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 講義はプロジェクタを用いて行う。講義用資料は随時配布する。	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> ・コンピュータの歴史と基本原理 ・データ表現と符号化 ・論理演算と論理回路 ・演算装置(プロセッサ)の構成と動作 ・記憶装置(メモリ)の構成と動作 ・入出力装置の構成と動作		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 講義時間中に行う小テストとレポートによって評価する。	
		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 社会情報学科標準成績評価基準に従う。	
		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>	

科目名<Subject>	インターンシップ <Internship>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	・ 通年
担当教員名<Name>	遠藤薫・大矢繁夫・多木誠一郎・木村泰知・花輪啓一・副島美由紀	研究室番号<Office>	
Office Hours			
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 企業、官公庁等での就業体験を通じて職業意識を養うとともに、実務に触れることにより学習意欲を向上させる。		<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 上記の教育プログラムへの参加、レポートの評価等を総合的に考慮する。	
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 企業、官公庁等での実習（5日から2週間程度）が中心。実習の前の、講義・講習、実習後のレポート提出が義務づけられる。詳細は、5月に公表される「平成18年度インターンシップ教育プログラム」で明らかにされるが、だいたい、以下のスケジュールで行われる。  5月：オリエンテーション。「平成18年度 インターンシップ教育プログラム」の公表 6月：事前講義 7月：ビジネスマナー講習。 8～9月：企業等で実習（原則として夏休み 期間） 10月：成果レポート提出 12月：大学、学生、研修先による意見交換 会		<b>5. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 科目の性格上、研修先は、4月以降にならなければわからない。その数も限られているので希望者がすべて履修できるわけではない。また、研修先は、必ずしも希望どおりとはならない。募集は4月から5月にかけて行われるので、掲示に注意すること。通常の履修とは別の手続・方法で行われる。キャップ制の対象とはならない。実習は原則として夏休み期間に、講義・講習・レポート報告会等は通常の時間割とは別の日程や時間を使って行われるので、それに参加できることが条件である。「総合科目（IT・グリーン講座）」を履修していることが望ましい。	
<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>			

## 社会情報学科 標準成績評価基準

秀（100～90）：当該科目について秀でた理解力、及び応用力を有している。

優（89～80）：当該科目について優れた理解力、及び応用力を有している。

良（79～70）：当該科目について良い理解力、及び応用力を有している。

可（69～60）：当該科目について理解力、及び応用力を有している。

不可（59～0）：当該科目について十分な理解力、又は応用力を有していない。

# 專門共通科目

科目名<Subject>	現代心理学 <Contemporary Psychology>		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	通年
担当教員名<Name>	杉山 成 <Shigeru Sugiyama>	研究室番号<Office>	心理学実験室
Office Hours	火 16:00～17:30		
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> この専門共通科目では、社会心理学・産業組織心理学の観点から、現代社会における人間関係の構造と機能、および人間関係にまつわる社会問題について解説します。基本的に講義形式で進めますが、必要に応じて、集団討論やディベート等も行います。 授業目標は次の2点です。1. 社会と個人との関わりについての理解を深める。2. 社会問題についての認識を深め、心理学的観点からの解決策を考える。		<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> テキストは使用せず、適宜参考文献を紹介します。また、資料プリントを配布します。 参考書：対人行動学研究会編「対人行動の心理学」（誠信書房）	
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 1. オリエンテーション 2. 社会心理学の研究法 : 社会心理学の歴史・対象と方法 3. 社会的環境の認知 : 社会的認知・対人認知 4. 社会的態度 : 態度形成と態度変容 5. コミュニケーション : VCとNVC・社会的スキル 6. 空間的行動 : リトリアリティ・パーソナルスペース 7. 対人行動 : 社会的促進と社会的抑制・社会的勢力 8. 小集団行動 : 集団の形成と圧力・リーダーシップ 9. 攻撃行動 : 攻撃行動のモデル・攻撃の抑制 10. 援助行動 : 援助への動機づけ 11. 集合行動 : 流行現象、マスメディアと世論 12. 文化心理学 : 文化と社会化過程・日本人論		<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 学期末に行う筆記試験と平常点（レポートの内容）を総合し、授業目標の到達度を評価します。	
		<b>5. 成績評価の基準</b> 授業目標に対する60%の到達度が合格ラインです。さらに詳細な「秀・優・良・可」の評価基準については、オリエンテーションの際に配布する授業計画書によって通達します。	
		<b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 基本的な受講マナー（私語をしない、教室内を歩き回らない、携帯電話を使用しないなど）を守れない学生の受講は禁じます。 また、履修希望者が教室の収容人数を超過する場合には、教室の収容人数にもとづいて抽選による履修制限を行いますので、第1回目の授業（オリエンテーション）には必ず出席してください。	

科目名<Subject>	政治心理学 <Political Psychology>		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	前期
担当教員名<Name>	相内 俊一 <Toshikazu Aiuchi>	研究室番号<Office>	5 4 3
Office Hours	特に設けない。電子メールで予約してください。		
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> このコースは、政治心理学におけるさまざまな研究領域を概観することを目的としている。政治心理学の各分野における最新の研究成果（その多くは欧米における研究）を参照しつつ、主要な研究テーマがどのような内容と研究方法をもつものであるかを理解していく。 また、このコースは、卒業研究課題の発見や、大学院進学後の研究方向の模索といった、長期的な勉強プログラムの入り口として位置付けられているから、講義中にならりの数の参考文献が提示され、そのいくつかについて短いレポートが課されることになる。 この講義は、将来、政治過程研究や世論分析、政治的社会化研究、投票行動分析、マスメディア効果分析などに取り組もうと考えている学生や、政治学を研究領域として大学院へ進学しようと考えている学生、ジャーナリストや公務員を志望している学生にとって、有益かつ興味深い講義となることをめざしている。		第10週・ " " (2) 第11週・ 政治的社会化の理論と研究 第12週・ ナショナリズムの形成と維持・強化のメカニズム 第13週・ 日本の政治文化 「文化ナショナリズム」 第14週・ 「欲望」と「満足」 / 「需要」と「供給」の心理・ブランド文化	
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 第0週 オリエンテーション 第1週 大衆の特性・権威主義的パーソナリティ・アイデンティティとアノミー（テキスト 1-3章） 第2週 文化のエートス・プロパガンダとオーガズム・テレビによる擬似環境（テキスト 4-6章） 第3週 メディアと世論・政治的正統性の形成・利益付与の政治（テキスト 7-9章） 第4週 階級イデオロギー・官僚制と管理社会 ・エスニシティとナショナリズム ・異文化間関係（テキスト 10-13章） 第5週 投票行動と政治的態度 アメリカにおける研究の蓄積（1） 第6週 " " (2) 第7週 現代日本の政治的争点と政治心理 (1)* 第8週 " " (2) 第9週 投票行動と政治的態度 日本における研究		<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 必読テキスト 若田恭二 大衆と政治の心理学 勁草書房 1995年 鈴木貞美 日本の文化ナショナリズム 平凡社新書 2005年 参考文献 *メディアと政治に関して、香山リカ「テレビの罠」、制度の生成と維持のプロセスに関して、河野勝 『制度』（東大出版2002年）、外交政策におけるシンボル操作に関して、田中明彦『ワード・ポリティクス』が役立つであろう。講義中に適宜紹介し、課題に組み入れる。	
		<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 期末試験（60%）、講義中に行う小テストや宿題とされる小レポートで評価する。（前後期各2回、40%）、中間試験、再試験は行わない。	
		<b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>	
		<b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 講義の際、テキストの他に英和辞典などの英語を読むための辞書を用意していただくこと。講義の時間にDVDやビデオの教材をみるためにマルチメディアホールなどに移動することがある。	



科目名<Subject>	環境の分析化学 <Environmental Analytical Chemistry>		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	通年
担当教員名<Name>	片岡 正光 <Masamitsu Kataoka>	研究室番号<Office>	化学研究室
Office Hours	月～金曜日 10時頃～19時頃まで(但し火曜日は12時頃から)		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> <b>目的</b> 本学は文科系の大学であるが、化学工業、製鉄、医薬品、食品加工などの化学に関連の深い企業に就職する学生も多い。本講義は商学部にも所属し、商学、経済学、企業法学や社会情報学等を学習し、しかも化学の専門知識をも有するという学生(日本では希少)を育てることを目的として開講する。 <b>方法</b> 本講義では、広範な化学の分野のうち、化学理解の基礎となる分析化学の初歩を多くの問題を解きながら解説する。また機器を使った分析法についてはビデオ学習する。		<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> クリスマン分析化学 基礎編(丸善)	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 化学の基礎となる学問分野である分析化学は、化学反応を駆使するなどして、大気、淡水、海水および工場排水、土壌中等に存在する微量の無機物質、有機物質を分離・濃縮し、それらの濃度を正確かつ高い精度で測定(定量と呼ぶ)するための手法を開発する学問領域である。 化学製品、食品、環境試料中の目的物質を分離し、その濃度を測定するに至るまでの前処理と、定量に必要な化学反応・化学操作を教科書に沿って講義する。教科書には多くの計算問題の解答例が掲載されており、これらを詳細に解説する。 講義項目：基礎的な器具と操作法、化学平衡の概念、酸塩基平衡、重量分析、容量分析の原理、酸塩基滴定、沈殿滴定と錯滴定、酸化還元滴定、溶媒抽出、イオン交換分離、機器分析法(ビデオ学習)。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 受講態度、出席状況、および提出されたレポート(年3回)によって評価する。	
		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 秀：分析化学の基礎についての広い領域を完全に理解し化学計算に完璧に応用できる。 優：分析化学の基礎について十分に理解し化学計算に応用できる。 良：分析化学の基礎について相当程度に理解し化学計算に応用できる。 可：分析化学の基礎について過半は理解し化学計算になんとか応用できる。 不可：分析化学の基礎について十分な理解力を持たず計算問題を解くことができない。	
		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 本講義は一般化学の基礎的な知識(高校化学 Bおよび化学程度)を持っている学生でないといけない。本学の共通科目である化学 および化学を受講していることが望ましい。化学ゼミを希望する者は必ずこの講義を受講すること。	

科目名<Subject>	現代の数学 <Nowadays Mathematics >		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	通年
担当教員名<Name>	兼岩 龍二 < Ryuji Kaneiwa >	研究室番号<Office>	459
Office Hours	在室中は特に都合が悪くない限り、いつでも可		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 複素関数の概説と組み合わせ論への応用を講義する。		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 特になし。	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 正則関数、コーシーの積分公式、母関数、組み合わせ論への応用等。			
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 必要な教材は適宜配布する。			
<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 定期試験(100点満点)による。			
<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 秀(90~100)、優(80~89)、良(70~79)、可(60~69)とするが、問題の難易度、受験者の成績レベルによって、調整する。調整の方法は採点后に公表する。			

科目名<Subject>	国際コミュニケーション a <International Communication>		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	通年
担当教員名<Name>	鈴木 将史 (前期) 大塚 譲 (後期)	研究室番号<Office>	456(鈴木) 439(大塚)
Office Hours	在室時 (鈴木) 木曜3 講目 (大塚)		
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> ドイツ語 を履修している / 修得した人を対象とします。前期は、主に文献を読みながらドイツの時事問題・生活問題について考えます。後期は実際にドイツ語圏の人とドイツ語を使ってコミュニケーションすることを通して、生活習慣の違いに触れ、物の考え方・感じ方の相違を身を以って知ることになるでしょう。このような実際の作業を通して「読み聞き書き話す」というドイツ語の基礎的総合力の習得を目指します。		な状況設定に従ってペアで協力しあって問題を解決する。	
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> (前期) ドイツの最新事情を取り上げたテキストを読み、更に応用作文練習も行います。 ドイツ事情理解に大きな力点を置き、学生によるプレゼンテーションも予定しています。 (後期) 二つのプロジェクトを行います。 1. インタビュープロジェクト 準備: グループ毎にテーマ・質問内容・進め方を考える。 実施: アポを取り出合い実施しビデオ等に収録する。 報告書作成: インタビューを再現する報告書を作成する。 2. 4技能総合プロジェクト ドイツ語の学習意欲を高める優れた検定試験「オーストリアドイツ語検定」の準備教材を使って既習事項を整理し4技能の総合化を図ります。トレーニングの内容は、【読む】=新聞やコマースシャルを読み解く。【聞く】=ラジオや電話を聞き取る。【書く】=様々な状況設定に従って友人に手紙を書く。【話す】様々		<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> (前期) 「時事ドイツ語」(アンドレア・ラブ他著、朝日出版社、1900円) 他にもテキストを指定します。 (後期) 適宜プリントを用意します。	
<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> (前期) 定期的な試験に平常点を加味して評価。 (後期) プロジェクトやトレーニングへの参加状況に基づく。前期と後期の成績を総合して最終評価を行う。		<b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> ○簡単な挨拶ができる ○簡単な自己紹介ができる ○簡単な買い物ができる ○簡単なハガキや手紙が書ける ○簡単な新聞・雑誌・広告の大意が読み取れる ○簡単なニュースのおおよその内容が聞き取れる ○意欲的なプレゼンテーションを行った。	
<b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> (前期) 予習・復習は、必ず行ってください。 (後期) 共同作業が多いので欠席は厳禁とします。休まず出席し積極的に作業に取り組んでください。			

科目名<Subject>	国際コミュニケーション b <International Communication>		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	通年
担当教員名<Name>	高橋 純 <Atsushi Takahashi>	研究室番号<Office>	5 2 5
Office Hours	火曜日・木曜日 12:00~14:30		
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 1. [目的・方法] この授業は、フランス語Ⅱを履修した/して、さらにみずからこの言語を用いて積極的に情報発信してみたいという意欲ある者を対象としている。そのような情報発信を実際に行うための道具としてできるだけ多くのフランス語の表現を覚えなければならない。現地録画・録音による映像を主体とした教材を繰り返し見て聞くことによって、言葉をそれが発せられた状況と一体のものとしてとらえる訓練をしながら、フランス語を手段としての自己表現のレベルを高めてゆくことを目指す。		いてはフランス語Ⅰで済んでいるものとする。また、練習問題は反復・応用練習の一環として各自の自習課題とする。	
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> Leçon 1. L'arrivée Leçon 2. Au café Leçon 3. Au marché (Chanson: Le temps des cerises) Leçon 4. Chez Sophie Leçon 5. En bateau-mouche Leçon 6. A Notre-Dame Leçon 7. Voyage à Tours Leçon 8. Châteaux de la Loire (Les contes d'Hoffmann «Barcarolle») Leçon 9. Au jardin du Luxembourg Leçon 10. Au musée du Louvre Leçon 11. Le concert Leçon 12. Au revoir テキストには文法説明も練習問題もあるが、文法説明につ		<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 中山/杉山著『ミニ・ボンジュール・パリ(改訂版)』白水社、¥1995	
<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 授業への積極的参加、課題及び期末試験。平常点の比重は3割。平常点の割合、配分等具体的な評価方法については最初の授業時に説明する。		<b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> ○簡単な挨拶ができる ○簡単な自己紹介ができる ○簡単な買い物ができる ○簡単なハガキや手紙が書ける ○簡単な新聞・雑誌・広告の大意が読み取れる ○簡単なニュースのおおよその内容が聞き取れる ○意欲的なプレゼンテーションを行った。	
<b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 授業への前向きな姿勢を評価する。外国語は間違えながら(つまり不完全でも自分で使いながら)身につけるものであることを肝に銘じておくこと。			

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	上級外国語 a(英語)	<Advanced course in Foreign Languages >		
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	4	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	.	通年
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	ダニエラ・カルヤヌ	<Daniela Caluianu>	<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	5 3 6
<b>Office Hours</b>	Tue 12:00-14:00			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> The aim of this course is to improve English fluency and cultural awareness through drama. We will use improvisation techniques to acquire naturalness of enunciation and movement. Classes will consist of drama activities and discussions on the activities. Students will be required to keep a journal of their progress. We aim to put up two performances.		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> Semester 1:creating and developing characters. Self-introduction, choosing a part, understanding the character: background, motivation, expression; developing the character, creating related characters, creating a role-playing collage: rehearsal, performance, evaluation. Semster 2:developing a plot Select a theme, explore the theme, focus and title, initial development of context, character development, develop the structure, performance elements, rehearsals, performance, evaluation		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 60% class activity; 20% assignments; 20% performance		
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> Will be provided by teacher for each lesson		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> Grading will reflect the degree of achievement of goals a-d as follows: 100-90 creative, original performance 89-80: strong performance 79-70 meets expectations 69-60 meets expectations with support 59-0 below expectations, show lack of interest Goals: (a) understanding of the logical and emotional implications of words (b) understanding of the emotional and cultural significance of facial expression and gesture (c) can apply (a), (b) to assess self and other's activity (d) show willingness to share ideas		

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	上級外国語 b (ドイツ語)	<Advanced course in Foreign Languages >		
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	4	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	.	通年
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	ゲーザ・オルデハーフェル	<Gesa Oldehaver>	<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	
<b>Office Hours</b>				
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> ドイツ語を実際に使いながらドイツ語圏の国々の文化や習慣を様々な視点から考えます。ドイツ語を理解する能力と自己を表現する能力を高めながら、同時にドイツやヨーロッパについて考え学ぶことを目指しています。		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> ドイツで作られたビデオ教材を使用し、「食文化」「環境と自然」「都市の生活」「宣伝とコマーシャル」などのテーマを取り上げます。まず、ビデオの場面とそこで使われるドイツ語を理解することから始めます。さらに対話やロールプレイなど様々な練習によって、新しい語彙を学びながら、それぞれのテーマについて考え、自分の意見をドイツ語で表現することを楽しく学んでいきます。		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 出席と積極的な参加を心がけてください。		
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> ドイツ生まれのビデオ教材「Einblicke」を中心とした学習。適宜プリントも配付する。				
<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 積極的な参加と試験を総合して評価。				

科目名<Subject>	上級外国語 c (フランス語) <Advanced course in Foreign Languages >		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	・ 通年
担当教員名<Name>	江口 修 <Osamu Eguchi>	研究室番号<Office>	5 2 3
Office Hours	江口 火・木 14:30~16:00 (メールでの事前連絡が望ましい)		
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 「読み抜く力」の鍛錬を目指す。量をこなせば、ある日質(レベル)が一段と上がるという経験をフランス語でも味わって欲しい。		<b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>	
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> モンテスキューの『ペルシャ人の手紙』を読み進める。授業の進め方は次の3本柱からなる。1) テキストの予習 2) 授業での発音およびアーティキュレーションのチェックと読解 3) 内容についての議論		<b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 教科書の購入は履修者数が決まってからとなるので、最初は江口が配布する資料で予備知識の獲得とフランス語運用能力の再確認をおこなう。	
<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> /Lettres persannes de Montesquieu < <a href="http://www.amazon.fr/Lettres-persannes-Montesquieu-Annie-Becq/dp/2070402134/sr=1-1/qid=1169449026/ref=sr_1_1/171-1666616-7307442?ie=UTF8&amp;s=books/">http://www.amazon.fr/Lettres-persannes-Montesquieu-Annie-Becq/dp/2070402134/sr=1-1/qid=1169449026/ref=sr_1_1/171-1666616-7307442?ie=UTF8&amp;s=books/</a> > par Annie Becq (Poche), Gallimard  * ISBN-13: * 978-2070402137			
<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 試験は行わない。平常点で判定。			

科目名<Subject>	上級外国語 d (中国語) <Advanced course in Foreign Languages >		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	・ 通年
担当教員名<Name>	楊 志剛 <Yang Zhigang>	研究室番号<Office>	
Office Hours			
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 1・2年に学習した内容を復習しつつ、さらに文法知識を身につけ、そして作文と会話中心にして中国語の表現力を高めることをめざし、中国語文学作品の精読やビデオ内容の検討による中国人のものの考え方及び表現方法をさらに理解し、一つ的话题をめぐって有る程度自由に話すことができることを目標とする。		<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 『中国語中級 作文』程 美珍 高橋 海生 著 白帝社	
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 前期 後期 (1) ガイダンス (1) 予習復習 (2) 他送我一束花。 (2) 我去问问。 (3) 参观菊花展的人真多。 (3) 他们请我欣赏古典音乐。 (4) 你们打扫的真干净。 (4) 牌子上写着“禁止吸烟”。 (5) 太阳晒的我直出汗。 (5) ユニット復習とテスト (6) ユニット復習とテスト (6) 哥哥把那辆自行车卖了。 (7) 姐姐打完电话了。 (7) 你把感想写在留言簿上吧。 (8) 汽车开进去了。 (8) 今天得报纸送来了。 (9) 我猜出这个谜语来了。 (9) 观众被精彩的表演吸引住了。 (10) ユニット復習とテスト (10) 我是同意你的看法的。 (11) 他修理得好这台计算机。 (11) ユニット復習と試験 (12) 我拿得了这个皮箱。 (12) 猪肉比牛肉便宜。 (13) 母亲去旅游了一个星期。 (13) 今年的雨水没有去年那么多。 (14) 这篇文章难了一点儿。 (14) 这种产品的质量跟那种一样好。 (15) 復習と試験 (15) 復習と試験		<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 出席度を重視し、ユニットテストと定期試験の点数を合わせて総合評価する。	
<b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 秀 (100~90) 中国語をよく聞き取れ、一つ話題をめぐって、自分意思をほとんど支障がなく自由に交流できる。 優 (89~80) 中国語を何とか聞き取り、一つ的话题をめぐって、自分の意思を有る程度表すことができる。 良 (79~70) 中国語の文章をよく理解し、予習した上で、自分の意思を疎通することができる。 可 (69~60) 基本的な文章を理解し、作文に間違いがあまり見られない。 不可 (59~0) 「可」の基準に達していない者。			
<b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 中国語辞典は必須。			

科目名<Subject>	上級外国語 e (スペイン語) <Advanced course in Foreign Languages >		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	・ 通年
担当教員名<Name>	山田 眞史 <Mafumi Ymada>	研究室番号<Office>	5 1 3
Office Hours	Mediante cita concertada previamente		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> スペイン・ロマン派の詩人ベッケルの物語を読みます。スペイン語の散文を味わってください。セルバンテスに次いで最も広く読まれている文学者です。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> ・ 授業での訳 ・ テストなど、によります。	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 正確に訳すことを目的とします。難解なところは細かく注釈します。ただ文法論などをするつもりはありません。		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>	
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> Los ojos verdes		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 毎回出席すること。	

科目名<Subject>	上級外国語 f (ロシア語) <Advanced course in Foreign Languages >		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	・ 通年
担当教員名<Name>	スベヴァコフスキー・山田久就 <Spevakovski/Hisanari Yamada>	研究室番号<Office>	5 4 2
Office Hours	在室時いつでも可		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> ロシア語の実用的で自立的な能力を身につけるための練習を行います。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 定期試験(75%)および出席回数、遅刻回数、授業への参加態度、授業での応答(全体で25%)で評価します。	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> スベヴァコフスキー担当の前期の授業は、実用的な会話練習を中心に、作文、読解の練習などを行い、またビデオ・スライドなどをお見せしたりもします。山田担当の後期の授業では、反復練習を通して、初歩的な会話に必要な表現を身につけます。また、コンピュータ、特に、インターネットでロシア語を扱う練習も行います。朗読や音楽などの音声資料(CD)や映像資料(DVD)も使用します。ただし、授業への参加者の希望によってテーマは柔軟に変更することがあります。また、ロシアの文化などに関する話題についても提供します。		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 定期試験の基準の目安は、100点満点として、次のようになる。 90-100点：授業で説明したロシア語に関する理解と知識が完全にある。 80-89点：授業で説明したロシア語の基礎に関する理解と知識がかなりある。 70-79点：授業で説明したロシア語の基礎に関する理解と知識が十分にある。 60-69点：授業で説明したロシア語の基礎に関する理解と知識が最低限にある。 0-59点：授業で説明したロシア語の基礎に関する理解と知識が不足している。	
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 必要に応じてプリント等を配布します。		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> なし	

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	上級外国語 g (朝鮮語) <Advanced course in Foreign Languages >		
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	4	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	・ 通年
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	宣 憲洋 <Hun-Yang Sun>	<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	
<b>Office Hours</b>			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 1. 論文・論説等が読みこなせるようにする。 2. 韓国の文化を概観する。 上記2点を目標とします。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 出席50%、試験の成績50%	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 韓国の地理 - 1. 位置と領域 - 2. 地形 - 3. 気候 - 4. 地方の特色 -中部地方 - 5. 南部地方 - 6. 北部地方 . 韓国文化 -1. 「ハングル」 -2. 「プルコギ (焼肉)」 -3. 「キムチ」 . 短編小説「ソナギ (夕立)」		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>  <b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 積極的に、楽しく勉強しましょう。予習は必要不可欠。	
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> プリント教材を配布する。			

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	ビジネス英語 <Business English>		
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	4	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	・ 通年
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	シヨーン・クランキー <Shawn Clankie>	<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	4 1 9
<b>Office Hours</b>	Thursday by appointment		
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> This will be a course of business English, and will cover not only the standard skills of speaking, listening, reading, and writing, but also important skills such as public speaking, business letter writing, negotiation skills, comparative business communication practices, and culture considerations. Goals include: a. Build self-confidence in their speaking, listening, reading, and writing abilities as applicable to a variety of business settings. b. Recognize weaknesses in their abilities, and try to overcome these weaknesses. c. Express themselves at a professional level in English. d. Build a stronger knowledge of the cultures that use English as a business language.		<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> Kobayashi/Clankie The English of Life (tentative title)Tokyo: Goken (Required)	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> This will be a lecture and practice course. That means the time will be split between introductions of the topic by the instructor and practice/discussion amongst the students. Group discussions of business-related topics will occur weekly. There may also be one individual presentation in English and one group presentation.		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> <b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> Homework and quizzes, participation, and attendance. Participation is 50% of your grade. The remaining 50% will include assignments and other work.	
<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>			

科目名<Subject>	英語学特講	<Special Lecture on English Linguistics>		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>		通年
担当教員名<Name>	ダニエラ・カルヤヌ	<Daniela Caluianu>	研究室番号<Office>	5 3 6
Office Hours	Tue 12:00-14:00			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> The aim of this course is to better understand the relation between meaning and form in English. The course will study the way in which the meaning of English verbs and adjectives and determines the type of sentence patterns in which they occur. Classes will consist of lectures by teacher, data collection by students using computers, and discussions. We will adopt a bottom up approach, in which students will be required to make generalizations starting from real linguistic data.		<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> Handouts and PowerPoint presentations by teacher; Internet resources to be introduced in the 1st class. Reference: Dixon, R.M.W. (1991) A New Approach to English Grammar on Semantic Principles, Clarendon Press		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 1. Orientation: how to use computers, how to save data, useful sites; 2. Thematic relations; 3. Grammatical relations; 4. Obligatory and optional arguments; transformations, alternations; 5. Extracting basic constructions from raw data. 'eat' vs. 'drink'; 6. Motion and rest 7. affect and competition; 8. giving, social contract; 9. weather; 10. Compare and discuss; 11. attention; 12. thinking; 13. deciding vs. social contract; 14. speaking; 15. acting vs affect; 16. happening; 17. annoying, liking; 18. comparing and relating; 19. Discussion; 20. modals and semi-modals; 21. begin, try, dare; 22. wanting, postponing; 23. make, help; 24. seem, matter; 25. Discussion; 26. qualification adjectives vs modals; 27. human propensity adjectives vs emotion verbs; 28. Discussion; 29-30. Project Presentations		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> class assignment 50%; participation in discussions 20%; project 30%		
		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> Grading will reflect the degree of achievement of goals a-d as follows 100-90 original scientific interpretation of data 89-80: strong performance 70-70: meets expectations 69-60- meets expectations with support 59-0 below expectations Goals (a) master the required English vocabulary (b) understand the basic linguistic concepts discussed (c) capable to extract relevant linguistic information from data (d) can make generalizations based on linguistic information		
		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>		

# 教職共通科目



<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	教育基礎論 I <Principles of Education I>			
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	4	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	II	通年
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	上野耕三郎外 <Kozaburo Ueno and others>		<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	341
<b>Office Hours</b>	メールで事前に連絡をしてください。			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>				
前期は「教育制度」、後期は「教職論」に準じる。				
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>				
前期は「教育制度」、後期は「教職論」に準じる。				
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>				
必要な資料はその都度配布する。				
<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>				
テストによる。				
<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>				
オリエンテーション時に配付する資料に記載する。				
<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>				

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	教職論 <Introduction to Professional Teaching>			
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	2	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	II	後期
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	上野耕三郎外 <Kozaburo Ueno and others>		<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	341
<b>Office Hours</b>	メールで事前に連絡をしてください。			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>				
<p>「いじめ」「不登校」「校内暴力」などというような問題をすこしでも考えてみれば、いままで自明視されてきた倫理がその基盤から揺らいでいることに誰もが気づくであろう。「熱血教師」が求められているのだろうか。それは現実への単純なリアクションでしかないのではなかろうか。</p> <p>この授業では現職の先生方にお話をうかがうことを予定している。</p> <p>その内容については現在のところ未定であるが、できれば次のようなことをうかがうことができれば、と考えている。</p> <p>①現場での日々の教師の営為がどのようなものであるか。 どのような問題に直面しているのか。</p> <p>②教師あるいは学校はそれに対してどのような対応をしているのか。 そしてそれにはどのような問題点があるのか。</p> <p>教育という世界はしばしば古典的ともいえるもの言いに呪縛されている。授業を通して、古典的なもの言いから抜け出し、すこしでも現実からものを考える契機を提供できれば、そしてそれが教職の途への一歩ともなれば、この授業の目的は果たされるであろう。</p>				
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>				
上野が数回分講義する。他の講師の方は現在折衝中である。したがって、話される内容の詳細については未定である。				
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>				
必要な資料はその都度配布する。				
<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>				
テストによる。				
<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>				
オリエンテーション時に配付する資料に記載する。				
<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>				

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	教育制度 <Educational System>			
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	2	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	II	前期
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	上野 耕三郎 <Kozaburo Ueno >	<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	341	
<b>Office Hours</b>	メールで事前に連絡をしてください。			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> この授業では日本の学校、とくに高等学校の問題を中心に考えることにします。 かつて「15の春を泣かすな」というスローガンのもとで、高校全入運動が進められましたが、その目的を果たしたいま、高校はかつては考えもしなかった問題を抱え込んでしまっています。一例を挙げれば、現在高校中退者は毎年10万人前後を数えています。1クラス40人として毎年2,500クラスが消滅している計算になります。もちろん、この授業を履修している皆さんが卒業した高校では、まったく「中退」というようなことは身の廻りに生じなかったかもしれません。というの「輪切り」された高校では問題となる現象は一樣ではないからです。高校の問題といっても進学校での問題と、いわゆる教育困難校での問題とはまったく質を異にしていることもあるのです。大学受験に邁進することが暫定的課題である高校もあるし、一年の終わりには一クラスの生徒数が半分にもなった高校もある、という具合に。しかし、「中退」は高校生の先鋭的な意識を映しているように思えます。この授業では、このような現象の基層にあるものをさぐり、その打開策として制度改革を検討してみます。		4 戦後高校の変容 5 平等主義と高校教育。教育における「平等」とは何であろうか？ 6 根本の問題はどこにあるのか 7 ヨーロッパ先進諸国の後期中等教育との比較 8 高校教育の問題が教育困難校に先鋭的にあらわれている。 9 高校進学率90%以上の日本独特の教育現象 10 「多様化」「自由化」路線の高校改革をどう考えたらよいのだろうか？		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 1 はじめに 2 現在の高校教育の問題点の洗い出し。何が問題となっているのだろうか？ 3 いまのわれわれが立っている地点はどのようなものか？		<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 必要な資料はその都度配布する。		
		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> テストによる。		
		<b>5.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> オリエンテーション時に配付する資料に記載する。		
		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>		

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	教育基礎論IIA <Principles of Education IIA>			
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	2	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	II	後期
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	渡辺 誠 <Makoto Watanabe>	<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>		
<b>Office Hours</b>				
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 教育心理学の基本的な知識と考え方を学び、その教育実践への応用を考えることを目的とする。講義形式を中心として授業を行う。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 総授業回数の三分の二以上出席した履修者を評価の対象とする(なお、遅刻は三回で欠席一回として取り扱う)。評価は定期試験の成績を基本とし(80%)、それに出席状況を加味(20%)して行う。		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 初回オリエンテーション(1回)		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 秀(90～100)：教育心理学に関する正確な知識を持ち、教育心理学的なものの見方を身につけ、様々な現実的問題を分析できる。 優(80～89)：教育心理学に関する正確な知識を持ち、教育心理学的なものの見方が出来る。 良(70～79)：教育心理学に関するある程度の知識を持ち、教育心理学的なものの見方をよく理解している。 可(60～69)：教育心理学に関する必要最小限の知識を持ち、教育心理学的なものの見方を理解することが出来る。 不可(0～59)：教育心理学に関する必要最小限の知識を持たず、教育心理学的なものの見方が理解できない。		
I. 発達 1. 遺伝と環境 2. 発達の方向性 3. 年齢による発達の様相(計7回) II. 学習 1. 学習の基本的パターン 2. 学習に関連する幾つかの現象(計4回) III. 知能(計3回)				
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 特定のテキストは使用せず、必要な資料をプリントにして配布する。		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 単なる知識の伝授ではなく、文献を読むだけでは伝わりにくいであろう実践に使える知識、技能を、直接話をする事で伝えようとするという面が、この授業にはあります。可能な限り休まずに出席してください。		

科目名<Subject>	教育心理 <Educational Psychology>			
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	Ⅱ	後期
担当教員名<Name>	渡辺 誠 <Makoto Watanabe>	研究室番号<Office>		
Office Hours				
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 教育心理学の基本的な知識と考え方を学び、その教育実践への応用を考えることを目的とする。講義形式を中心として授業を行う。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 総授業回数の三分の二以上出席した履修者を評価の対象とする(なお、遅刻は三回で欠席一回として取り扱う)。評価は定期試験の成績を基本とし(80%)、それに出席状況を加味(20%)して行う。		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 初回オリエンテーション(1回)		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 秀(90～100)：教育心理学に関する正確な知識を持ち、教育心理学的なものの見方を身につけ、様々な現実的問題を分析できる。 優(80～89)：教育心理学に関する正確な知識を持ち、教育心理学的なものが見方が出来る。 良(70～79)：教育心理学に関するある程度の知識を持ち、教育心理学的なものを見方をよく理解している。 可(60～69)：教育心理学に関する必要最小限の知識を持ち、教育心理学的なものを見方を理解することが出来る。 不可(0～59)：教育心理学に関する必要最小限の知識を持たず、教育心理学的なものを見方が理解できない。		
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 特定のテキストは使用せず、必要な資料をプリントにして配布する。		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 単なる知識の伝授ではなく、文献を読むだけでは伝わりにくいであろう実践に使える知識、技能を、直接話をする事で伝えようとするという面が、この授業にはあります。可能な限り休まずに出席してください。		
I. 発達 1. 遺伝と環境 2. 発達の方向性 3. 年齢による発達の様相(計7回)				
II. 学習 1. 学習の基本的パターン 2. 学習に関連する幾つかの現象(計4回)				
III. 知能(計3回)				

科目名<Subject>	教育基礎論ⅡB <Principles of Education ⅡB>			
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	Ⅲ	前期
担当教員名<Name>	上野 耕三郎 <Kozaburo Ueno>	研究室番号<Office>	341	
Office Hours	メールで事前に連絡をしてください。			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 「教育の歴史」に準じる。				
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 「教育の歴史」に準じる。				
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 必要な資料はその都度配布する。				
<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> テストによる。				
<b>5.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> オリエンテーション時に配付する資料に記載する。				
<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>				

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	教育の歴史 <History of Education>			
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	2	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	Ⅲ	前期
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	上野 耕三郎 <Kozaburo Ueno>		<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	341
<b>Office Hours</b>	メールで事前に連絡をしてください。			
<p><b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>  この講義では、日本の明治以降の教育をまずはざっと見ることから始め、その起源となる西洋の近代教育の考え方、とくに思想に焦点を当て、その検討をすることをめざす。  日本の学校の歴史をきわめておおざっぱに区切るとすると、3つに区切ることも可能であろう。私たちはその第3期にいる。そのことを理解すると、現在の学校問題も自ずと理解できよう。このことを理解することが、授業のひとつの柱である。  日本の教育の場合は（ヨーロッパでも多かれ少なかれそうですが）上からの国家による教育が近代化の推進力となった。絶対主義的国家体制下での教育に対する、抵抗原理として「子ども中心」の教育が謳われることがある。私たちが自明視している「子ども」という考え方を検討する。これが第2の柱である。</p> <p><b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b>  1. はじめに  2. 日本の近代公教育の歴史—どうして日本はこんなに教育熱心だったのか  学制序文「被仰出書」  3. 戦後の教育—『山びこ学校』と無着成恭  4. 1970年代中葉以降の学校問題—校内暴力、いじめ、不登校  5. 日本の学校130年の歴史をどう見るか  6. 絶対主義国家と教育—「教育勅語」「御真影」  7. 戦争と国民学校  8. 大正新教育—池袋児童の村</p> <p>9. ルソー—子どもの発見と消極教育  10. ペスタロッチ—貧民教育の実践者  11. フレーベル—幼稚園の創始者  12. デューイ—アメリカ進歩主義教育  13. 子ども中心主義とは何か  14. 子どもの発見と現代の教育問題  15. まとめ</p> <p><b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>  必要な資料はその都度配布する。</p> <p><b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>  テストによる。</p> <p><b>5. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>  オリエンテーション時に配付する資料に記載する。</p> <p><b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b></p>				

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	教育方法学 <Educational Methods>			
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	2	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	Ⅲ	前期
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	岡部 善平 <Yoshihei Okabe>		<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	454
<b>Office Hours</b>	メール等で事前に連絡してください			
<p><b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>  この講義では、教育方法についての基礎的な知識を習得することを目的とする。そのために、学習指導および授業に関する原理的、実際的な諸問題を中心に講義する。  学校教育における授業は、知識伝達の場合であると同時に、教師—生徒間の主要なコミュニケーションの場でもある。本講義では、学習者の知識習得の過程とその過程における人間関係の視点から、これまで展開されてきた教育方法に関する諸理論を解説し、今日の授業実践において学ぶべきことを明らかにする。また、いくつかの授業実践やわれわれ自身の授業経験を取り上げ、様々な授業形態および授業の構造について検討する。その上で、学習指導案の書き方を学びながら、実際に指導案を作成し、教材研究および授業設計の方法について考えていくつもりである。</p> <p><b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b>  1. 教育経験からみた教育方法  2. 学び方と教育方法  3. 教室におけるコミュニケーション  4. 教育課程と教育方法  5. 教育評価の目的と方法  6. 授業の構造  7. 学習指導案の作成</p> <p><b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>  必要な資料をコピーして配布する予定。参考書はその都度指定する。</p> <p><b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>  学習指導案の提出とその内容（40%）、指定されたテーマによる期末レポートの提出とその内容（40%）、および授業中の小レポートの提出（20%）によって行う。</p> <p><b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b></p> <p><b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b></p>				

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	教育方法 <Educational Methods>			
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	2	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	Ⅲ	前期
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	岡部 善平 <Yoshihei Okabe>	<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	454	
<b>Office Hours</b>	メール等で事前に連絡してください			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> この講義では、教育方法についての基礎的な知識を習得することを目的とする。そのために、学習指導および授業に関する原理的、実証的な諸問題を中心に講義する。 学校教育における授業は、知識伝達の場合であると同時に、教師-生徒間の主要なコミュニケーションの場合でもある。本講義では、学習者の知識習得の過程とその過程における人間関係の視点から、これまで展開されてきた教育方法に関する諸理論を解説し、今日の授業実践において学ぶべきことを明らかにする。また、いくつかの授業実践やわれわれ自身の授業経験を取り上げ、様々な授業形態および授業の構造について検討する。その上で、学習指導案の書き方を学びながら、実際に指導案を作成し、教材研究および授業設計の方法について考えていくつもりである。		<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 必要な資料をコピーして配布する予定。参考書はその都度指定する。		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育経験からみた教育方法</li> <li>2. 学び方と教育方法</li> <li>3. 教室におけるコミュニケーション</li> <li>4. 教育課程と教育方法</li> <li>5. 教育評価の目的と方法</li> <li>6. 授業の構造</li> <li>7. 学習指導案の作成</li> </ol>		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 学習指導案の提出とその内容（40%）、指定されたテーマによる期末レポートの提出とその内容（40%）、および授業中の小レポートの提出（20%）によって行う。		
		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>		
		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>		

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	商業科教育法 <Methodology of Teaching Commerce >			
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	2	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	Ⅲ	前期
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	小山 正芳 <Masayoshi Koyama>	<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>		
<b>Office Hours</b>				
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 高等学校の商業科担当教員として、教科指導上の基礎的知識及び科目の内容について、理解・修得することを目的とする。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 定期試験、レポート、出席で評価。		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校教育改革の動きと方向</li> <li>2. 戦後の高等学校商業教育の移り変わり</li> <li>3. 現行学習指導要領による商業教育</li> <li>4. 教科「商業」の各科目について</li> <li>5. 商業科目の学習指導法と資格取得</li> <li>6. 高等学校教育の現状と課題</li> <li>7. 特色ある学校教育と商業教育</li> <li>8. 「キャリア教育」と勤労観・職業観</li> <li>9. 学校教育における教師の役割りと研修</li> <li>10. 最近の学校教育及び教員採用（商業）の動き他</li> </ol>		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 授業開始時に配布する授業計画書で明示する。		
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> プリントを用意する。参考文献・図書はその都度紹介する。		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 教職科目なので出席を重視。		

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	商業科教育法Ⅰ		〈Methodology of Teaching Commerce I〉	
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	2	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	Ⅲ	前期
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	小山 正芳	〈Masayoshi Koyama〉	<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	
<b>Office Hours</b>				
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 高等学校の商業科担当教員として、教科指導上の基礎的知識及び科目の内容について、理解・修得することを目的とする。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 定期試験、レポート、出席で評価。		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 1. 学校教育改革の動きと方向 2. 戦後の高等学校商業教育の移り変わり 3. 現行学習指導要領による商業教育 4. 教科「商業」の各科目について 5. 商業科目の学習指導法と資格取得 6. 高等学校教育の現状と課題 7. 特色ある学校教育と商業教育 8. 「キャリア教育」と勤労観・職業観 9. 学校教育における教師の役割りと研修 10. 最近の学校教育及び教員採用（商業）の動き他		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 授業開始時に配布する授業計画書で明示する。		
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> プリントを用意する。参考文献・図書はその都度紹介する。		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 教職科目なので出席を重視。		

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	商業科教育法Ⅱ		〈Methodology of Teaching Commerce II〉	
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	2	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	Ⅲ	後期
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	越前元博・田中修一〈Motohiro Echizen/Shuichi Tanaka〉		<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	
<b>Office Hours</b>				
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> この授業は「商業科教育法Ⅰ」を受け、実際の教育現場を想定しながら、年間指導計画、単元別指導計画及び学習指導案（1時間分）を各自が立案し、それに基づいて実際に模擬授業を行うことを目的とする。 具体的には簿記会計や情報処理（プログラミング）に関する教材研究、指導計画や学習指導案の作成から始まり、実際の模擬授業を通して、授業の導入、展開、工夫した教材の利用など効果的な学習指導方法を考察する。また、相互評価により、学習目標を達成するための意見交換を行い、商業教育における教科指導技術の向上を図る。		よい。 ・高等学校教科書を購入してもらう。使用教科書は最初の講義で指示する。 ・参考文献：「高等学校学習指導要領 解説・商業編」平成12年3月文部省		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 半期のうち、前半を「簿記会計」、後半を「情報処理（プログラミング）」にあてる。履修者は年間指導計画、単元別指導計画及び学習指導案に基づいて授業構成を考え、実際に模擬授業を行う。《対話型・双方向の授業》 第1回（第8回） オリエンテーション、簿記会計・情報処理（プログラミング）の学習目標と指導法、商業科の教育課程 第2回（第9回） 年間指導計画、単元別指導計画、学習指導案、指導ノートの作成及び評価 第3回（第10回） 模擬授業～学習指導案の作成と実践① 第4回（第11回） 模擬授業～学習指導案の作成と実践② 第5回（第12回） 模擬授業～学習指導案の作成と実践③ 第6回（第13回） 模擬授業～学習指導案の作成と実践④ 第7回（第14回） 模擬授業～学習指導案の作成と実践⑤		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 平常点（模擬授業、学習指導案）、出席状況、提出物等により総合的に評価する。 <b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> ・秀（100～90）：模擬授業に向けた教材準備が十分にされており、指導技術や指導方法を柔軟かつ的確に実践することができる。 ・優（89～80）：模擬授業に向けた教材準備が十分にされており、指導技術や指導方法を的確に実践することができる。 ・良（79～70）：模擬授業に向けた教材準備がされており、指導技術や指導方法を的確に実践することができる。 ・可（69～60）：模擬授業に向けた教材準備がされており、指導技術や指導方法を実践することができる。 ・不可（59～0）：模擬授業に向けた教材準備がされていない。		
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> ・事前にインターネットで学習指導案の事例を検索し、研究しておくこと		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> ・実践的な授業内容であるため、出席を重視する。 ・「商業科教育法Ⅰ」を履修済み、または履修中であること。 ・「簿記論」を履修済み、または履修中であることが望ましい。 ・Excel、Word、Powerpoint などパソコンの操作に慣れていることが望ましい。《情報機器の使用》 ・模擬授業の際は、毎時の学習指導案を人数分作成し、教材準備を十分に行った上で授業に臨むこと。		

科目名<Subject>	英語科教育法 <Methodology of Teaching English>		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	III 通年
担当教員名<Name>	高井 収 <Osamu Takai>	研究室番号<Office>	501
Office Hours	金 14 : 30~15 : 30		
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 英語科教育の全般について、理論と具体的な指導方法を修得する事を目標とします。授業は与えられたトピックについて皆さんが作成したパワーポイントでの発表を中心に討論するという学習者主導型の授業形態をとり、皆さんの体験を通して英語教育方法論を修得してもらいます。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 前期は理論的な面に焦点を当て、前半、英語教育学を概観し、国際英語としての日本における英語教育の現状を考えてゆきます。現在注目されている早期教育にも触れ、後半では、英語教授法、第二言語習得理論を考察します。進み具合により、4技能の指導方法にも触れることも出来ます。 後期では英語の具体的な指導方法および授業運営の方法などを概観し、学習指導案に基づき模擬授業をしてもらいます。情報機器・視聴覚機器の教室内利用方法も指導します。</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 望月昭彦編著、久保田章・磐崎弘定・卯城祐司著 (2005) 『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』大修館書店</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 授業実施総回数の2/3以上の出席者を「成績評価対象者」とし、出席、定期試験、その他、授業への参加態度などを総合して評価します。</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 授業実施総回数の2/3以上の出席者を「成績評価対象者」とし、出席、定期試験、その他、授業への参加態度などを総合して評価します。 秀 (100~90) : 総合評価 100~90%、 優 (89~80) : 総合評価 89~80% 良 (79~70) : 総合評価 79~70% 可 (69~60) : 総合評価 69~60% 不可 (59~0) : 授業実施総回数の2/3以上出席していないか、または、総合評価 59%以下</p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> フロッピーディスクまたはメモリーディスクを用意してください。 英語の教師を目指す学生を対象としていますので、しっかりした目標意識を持って受講して下さい。</p>			

科目名<Subject>	英語科教育法 I <Methodology of Teaching English I>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	III 前期
担当教員名<Name>	高井 収 <Osamu Takai>	研究室番号<Office>	501
Office Hours	金 14 : 30~15 : 30		
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 英語科教育の全般について、理論と具体的な指導方法を修得する事を目標とします。授業は与えられたトピックについて皆さんが作成したパワーポイントでの発表を中心に討論するという学習者主導型の授業形態をとり、皆さんの体験を通して英語教育方法論を修得してもらいます。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 前期は理論的な面に焦点を当て、前半、英語教育学を概観し、国際英語としての日本における英語教育の現状を考えてゆきます。現在注目されている早期教育にも触れ、後半では、英語教授法、第二言語習得理論を考察します。進み具合により、4技能の指導方法にも触れることも出来ます。</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 望月昭彦編著、久保田章・磐崎弘定・卯城祐司著 (2005) 『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』大修館書店</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 授業実施総回数の2/3以上の出席者を「成績評価対象者」とし、出席、定期試験、その他、授業への参加態度などを総合して評価します。</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 授業実施総回数の2/3以上の出席者を「成績評価対象者」とし、出席、定期試験、その他、授業への参加態度などを総合して評価します。 秀 (100~90) : 総合評価 100~90%、 優 (89~80) : 総合評価 89~80% 良 (79~70) : 総合評価 79~70% 可 (69~60) : 総合評価 69~60% 不可 (59~0) : 授業実施総回数の2/3以上出席していないか、または、総合評価 59%以下</p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> フロッピーディスクまたはメモリーディスクを用意してください。 英語の教師を目指す学生を対象としていますので、しっかりした目標意識を持って受講して下さい。</p>			

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	英語科教育法Ⅱ	〈Methodology of Teaching English Ⅱ〉		
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	2	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	Ⅲ	後期
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	高井 収	〈Osamu Takai〉	<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	501
<b>Office Hours</b>	金 14 : 30~15 : 30			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>	英語科教育の全般について、理論と具体的な指導方法を修得する事を目標とします。授業は後期の実践編においては模擬授業などを入れ、学習者主導型の授業形態となります。皆さんの体験を通して英語教育方法論を修得してもらいます。			
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>	この後期では英語の具体的な指導方法および授業運営の方法などを概観し、学習者指導案に基づき模擬授業をしてもらいます。情報機器・視聴覚機器の教室内利用方法も指導します。			
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>	望月昭彦編著、久保田章・磐崎弘定・卯城祐司著 (2005) 『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』大修館書店			
<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>	授業実施総回数の2/3以上の出席者を「成績評価対象者」とし、出席、定期試験、その他、授業への参加態度などを総合して評価します。			
<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>	授業実施総回数の2/3以上の出席者を「成績評価対象者」とし、出席、定期試験、模擬授業、その他、授業への参加態度などを総合して評価します。 秀 (100~90) : 総合評価 100~90%、 優 (89~80) : 総合評価 89~80% 良 (79~70) : 総合評価 79~70% 可 (69~60) : 総合評価 69~60% 不可 (59~0) : 授業実施総回数の2/3以上出席していないか、または、総合評価 59%以下			
<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>	前期の英語科教育法Ⅰが基礎となります。フロッピーディスクまたはメモリーディスクを用意してください。英語の教師を目指す学生を対象としていますので、しっかりした目標意識を持って受講して下さい。			

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	英語科教育法Ⅲ	〈Methodology of Teaching English Ⅲ〉		
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	2	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	Ⅲ	前期
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	小林 敏彦	〈Toshihiko Kobayashi〉	<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	319
<b>Office Hours</b>	水曜日 12 : 15~12 : 45 / 金曜日 12 : 15~12 : 45			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>	CAL 教室におけるパソコンと大型スクリーンを活用し、オンライン・インターネットアクション (ブログ、ウェブサイト、掲示板、チャット、メール) を併用した、わかりやすく、楽しく、ためになる教材開発論 (material development) の授業を行う。授業は日本語で行う。将来中学、高校の英語授業で活用できるコミュニケーションを中心としたリスニングとスピーキング活動を体験しながら、実際にオーセンティックなデータを自ら収集し加工し作成し配布するための技法を学ぶ。			
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>	1 : 教材作成法 2 : ピア・エバリュエーション 3 : 優秀者プレゼンテーションの流れで行い、以下の分野での教材作成を予定している。毎回授業の冒頭に、前回の授業の内容に関する試験を行う。 第1回 洋楽を活用したリスニング : 教材作成法 第2回 洋楽を活用したリスニング : ピア・エバリュエーション 第3回 洋楽を活用したリスニング : 優秀者プレゼンテーション 第4回 生データを活用したリスニング (アナウンス) : 教材作成法 第5回 生データを活用したリスニング (アナウンス) : ピア・エバリュエーション 第6回 生データを活用したリスニング (アナウンス) : 優秀者プレゼンテーション 第7回 生データを活用したリスニング (インタビュー) : 教材作成法 第8回 生データを活用したリスニング (インタビュー) : ピア・エバリュエーション 第9回 生データを活用したリスニング (インタビュー) : 優秀者プレゼンテーション 第10回 情報ギャップを利用したスピーキング : 教材作成法 第11回 情報ギャップを利用したスピーキング : ピア・エバリュエーション 第12回 情報ギャップを利用したスピーキング : 優秀者プレゼンテーション 第13回 洋画を活用した4技能統合活動 : 教材作成法 第14回 洋画を活用した4技能統合活動 : ピア・エバリュエーション 第15回 洋画を活用した4技能統合活動 : 優秀者プレゼンテーション			
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>	配布資料のみ			
<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>	「優」は授業態度が優秀で、半期で無遅刻無欠席、課題をすべて提出し、かつ小テスト及び定期試験の平均点が80点を越えた者に与えられる。「良」は授業態度が優秀で通年で欠席および遅刻が1回、課題をすべて提出し、かつ小テスト及び定期試験が70~79点の者に与えられる。「可」は授業態度が優秀で、半期で遅刻および欠席が2回、かつ課題をすべて提出し、小テスト及び定期試験が60~69点の者に与えられる。「不可」は通年で遅刻および欠席が3回に達した者、課題を一度でも提出しなかった者、または小テスト及び定期試験が60点に達しなかった者に与えられる。体育会系部活動の大会遠征 (合宿は認めない) については英文での報告を翌週間の出席日深夜までに行うことで1回までのみ認め、欠席にカウントしない。ただし、この権利を有するのは大会出場選手及び補欠選手に限定される。その他、事情を考慮しケースバイケースで対応する。また、授業準備不足や成績 (授業態度) 不良の受講生には特別課題と補講が課される。また、2週連続休むと自動的に不可になる。			
<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>	「優」は授業態度が優秀で、半期で無遅刻無欠席、課題をすべて提出し、かつ小テスト及び定期試験の平均点が80点を越えた者に与えられる。「良」は授業態度が優秀で通年で欠席および遅刻が1回、課題をすべて提出し、かつ小テスト及び定期試験が70~79点の者に与えられる。「可」は授業態度が優秀で、半期で遅刻および欠席が2回、かつ課題をすべて提出し、小テスト及び定期試験が60~69点の者に与えられる。「不可」は通年で遅刻および欠席が3回に達した者、課題を一度でも提出しなかった者、または小テスト及び定期試験が60点に達しなかった者に与えられる。体育会系部活動の大会遠征 (合宿は認めない) については英文での報告を翌週間の出席日深夜までに行うことで1回までのみ認め、欠席にカウントしない。ただし、この権利を有するのは大会出場選手及び補欠選手に限定される。その他、事情を考慮しケースバイケースで対応する。また、授業準備不足や成績 (授業態度) 不良の受講生には特別課題と補講が課される。また、2週連続休むと自動的に不可になる。			
<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>				



科目名<Subject>	情報科教育法Ⅰ	<Methodology of Teaching Information System Ⅰ >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	Ⅲ・Ⅳ	前期
担当教員名<Name>	古谷 次郎	<Jiro Furuya>	研究室番号<Office>	
Office Hours				
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 本授業は、情報教育の特質と高等学校における情報教育の内容を学習、理解することにより、情報科教員に必要な資質と能力の習得を目的とする。 本授業は、主に普通教科「情報」と専門教科「情報」の目標、科目編成、内容について、情報機器を用いながら講義・実習形式で解説、展開する。		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 秀(100-90) 普通教科「情報」と専門教科「情報」の目標と内容等について秀でた理解力を有している。 優(89-90) 普通教科「情報」と専門教科「情報」の目標と内容等について優れた理解力を有している。 良(79-70) 普通教科「情報」と専門教科「情報」の目標と内容等について良く理解している。 可(69-60) 普通教科「情報」と専門教科「情報」の目標と内容等について理解している。 不可(59-0) 普通教科「情報」と専門教科「情報」の目標と内容等について理解していない。		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 第1回 普通教科「情報」の目標と科目編成 第2～3回 「情報A」の内容と授業展開 第4～5回 「情報B」の内容と授業展開 第6～7回 「情報C」の内容と授業展開 第8回 専門教科「情報」の目標と科目編成 第9～14回 専門教科「情報」の各科目の内容と授業展開		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 出席も重視します。		
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 高等学校学習指導要領解説 情報編 開隆堂出版 ¥90+税				
<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 出席回数と提出課題及び定期試験によって評価する。				

科目名<Subject>	情報科教育法Ⅱ	<Methodology of Teaching Information System Ⅱ >		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	Ⅲ・Ⅳ	夏季集中
担当教員名<Name>	鰐淵 泰彰	<Yasuaki Wanibuchi>	研究室番号<Office>	
Office Hours				
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 本授業は、情報教育の特質と高等学校における情報教育の内容を学習理解することにより 情報科教員に必要な資質と能力を習得することを目的とする。 本授業は、主に普通教科「情報」と専門教科「情報」の年間指導計画、単元別指導計画及び学習指導案の作成とそれに基づく模擬授業を演習形式で解説、展開する。		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 秀 (100-90) 普通教科「情報」と専門教科「情報」の目標と内容等について秀でた理解力を有している。 優 (89-90) 普通教科「情報」と専門教科「情報」の目標と内容等について優れた理解力を有している。 良 (79-70) 普通教科「情報」と専門教科「情報」の目標と内容等について良く理解している。 可 (69-60) 普通教科「情報」と専門教科「情報」の目標と内容等について理解している。 不可(59-0) 普通教科「情報」と専門教科「情報」の目標と内容等について理解していない。		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> ・情報モラル ・年間指導計画、単元別指導計画、学習指導案の作成 ・普通教科「情報」の模擬授業 ・専門教科「情報」の模擬授業（基本的なアルゴリズムを理解しておくこと）		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 「情報科教育法Ⅰ」を履修済みであること。 出席も重視する。		
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 高等学校学習指導要領解説情報編 開隆堂出版				
<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 出席回数と提出課題及び演習（模擬授業）の成果によって評価する。				

科目名<Subject>	道徳教育の研究 <Moral Education>			
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	Ⅲ	後期
担当教員名<Name>	上野 耕三郎 <Kozaburo Ueno>	研究室番号<Office>	341	
Office Hours	メールで事前に連絡をしてください。			
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>				
「道徳教育」に準じる。				
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b>				
「道徳教育」に準じる。				
<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>				
必要な資料はその都度配布する。				
<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>				
テストによる。				
<b>5. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>				
オリエンテーション時に配付する資料に記載する。				
<b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>				

科目名<Subject>	道徳教育 <Moral Education>			
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	Ⅲ	後期
担当教員名<Name>	上野 耕三郎 <Kozaburo Ueno>	研究室番号<Office>	341	
Office Hours	メールで事前に連絡をしてください。			
<b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>				
<p>学校問題現象といわれるものをすこしでも考えてみれば、今まで自明視されてきた倫理がその基盤から揺らいでいることに誰も気づくであろう。新たな時代には新たな倫理が求められているのかもしれない。だが、教育という世界はしばしば古典的（「学校的」といってもよいかもしれない）ともいえるもの言いに呪縛されている。それも事実である。とすると、揺るぎなき倫理を前提として「道徳」教育を考えても、その有効性は限定されたものとなる。</p> <p>「じゃあ具体的にどうしたらよいか」と訊ねる声が聞こえそうだが、正直言うかつらいものがある。中学教師も必ずしも確固たる「道徳」教育の手だてをもっているわけではない。というも、</p> <p>①「道徳教育」は特設「道徳」のなかでのみおこなえるものではない。</p> <p>②子どもと学校は高度な資本主義のなかで翻弄されている。だから、「教師」や「生徒」を責めてもほとんど意味がない。</p> <p>③学校教育問題以前に、家庭そして社会が地殻変動を起こしている。学校は高度資本主義社会に取り残された古典的的制度であるがゆえに、「建前」を繰り返す主張する。</p> <p>だから、特設「道徳」では、教師の意図することを適当に理解したポーズをとっておけばよいことになる。</p> <p>④中学生は思春期の段階にある。</p> <p>②③については、これまでの授業で少しは理解してもらえたのではないかと考えている。しかし、④については深く触</p>				
<p>れてこなかった。この授業ではできるかぎり②③と関連させて、④に焦点を合わせて、10代の心のありようを考えてみたい。もう少し言うと、「一人前」あるいは大人になることの難しさを現代の10代は抱えている。</p> <p>このテーマを中心に授業を展開する予定である。</p>				
<b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b>				
思春期の問題行動とみなされることながらをとりあげながら、中学生や高校生の心的ありようを探ってみる。				
<b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>				
必要な資料はその都度配布する。				
<b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>				
テストによる。				
<b>5. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>				
オリエンテーション時に配付する資料に記載する。				
<b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>				

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	教育実践論 I <Practical Pedagogy I>			
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	2	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	II	後期
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	岡部 善平 <Yoshihei Okabe>	<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	4 5 4	
<b>Office Hours</b>	メール等で事前に連絡してください			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> この授業は、学校教育において学習指導とともに重要な役割を果たす生徒指導について、その基礎的な知識を習得することを目的としている。 生徒指導は、これまで問題行動を起こした生徒への対応や服装検査などの生活指導に限定されて行われる傾向にあった。もちろんこれらも生徒指導における活動内容の一部ではあるが、近年生徒指導は、進路および学習ガイダンス機能の充実など、学習指導では十分に対応できない人間形成に関わる重要な役割を担うことが期待されている。そこで本講義では、現代の中学生、高校生、および学校が置かれた社会環境をふまえながら、生徒指導の目的や意義、役割について考える。また、いくつかの事例を取り上げ、生徒指導の方法や教職についての理解を深めていく。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 指定されたテーマによる期末レポートの提出とその内容（70%）、授業中の発表や報告（30%）によって行う。		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生徒指導の基本理解</li> <li>2. 現代の学校教育における諸問題</li> <li>3. 学校における組織的な生徒指導</li> <li>4. 生徒指導の方法</li> <li>5. 生徒指導の展開例</li> </ol>		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>		
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 必要な資料をコピーして配布する予定。参考書はその都度指定する。		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>		

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	生徒指導 <Guidance and Counseling>			
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	2	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	II	後期
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	岡部 善平 <Yoshihei Okabe>	<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	4 5 4	
<b>Office Hours</b>	メール等で事前に連絡してください			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> この授業は、学校教育において学習指導とともに重要な役割を果たす生徒指導について、その基礎的な知識を習得することを目的としている。 生徒指導は、これまで問題行動を起こした生徒への対応や服装検査などの生活指導に限定されて行われる傾向にあった。もちろんこれらも生徒指導における活動内容の一部ではあるが、近年生徒指導は、進路および学習ガイダンス機能の充実など、学習指導では十分に対応できない人間形成に関わる重要な役割を担うことが期待されている。そこで本講義では、現代の中学生、高校生、および学校の置かれた社会環境をふまえながら、生徒指導の目的や意義、役割について考える。また、いくつかの事例を取り上げ、生徒指導の方法や教職についての理解を深めていく。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 指定されたテーマによる期末レポートの提出とその内容（70%）、授業中の発表や報告（30%）によって行う。		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生徒指導の基本理解</li> <li>2. 現代の学校教育における諸問題</li> <li>3. 学校における組織的な生徒指導</li> <li>4. 生徒指導の方法</li> <li>5. 生徒指導の展開例</li> </ol>		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>		
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 必要な資料をコピーして配布する予定。参考書はその都度指定する。		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>		

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	教育相談	〈Educational Counseling〉		
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	2	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	Ⅲ	前期
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	渡辺 誠	〈Makoto Watanabe〉	<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	
<b>Office Hours</b>				
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 単に生徒から相談を受けた場合の接し方だけではなく、いわゆるむずかしい生徒や家族との関わりといったことまでを含め、実際例を取り上げながら幅広く考えてゆく。また、具体的なテーマとして、非行、不登校、いじめ等の問題を扱う。授業の進め方は講義形式のみではなく、質疑応答、文献を読んだレポートに基づくディスカッションなどの方法も取り入れる予定である。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 総授業回数の三分の二以上出席した履修者を評価の対象とする(なお、遅刻は三回で欠席一回として取り扱う)。評価は出席を含む授業への参加状況(50%)と期末のレポート(50%)により行う。		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 初回オリエンテーション(1回) <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育相談の基本的な考え方と態度(9回)</li> <li>2. 不登校(2回)</li> <li>3. 非行(2回)</li> <li>4. いじめ(1回)</li> </ol>		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 秀(90～100)：教育相談に関する正確な知識を持ち、教育相談的なものの見方を身につけ、様々な現実的問題を分析できる。 優(80～89)：教育相談に関する正確な知識を持ち、教育相談的なものの見方が出来る。 良(70～79)：教育相談に関するある程度の知識を持ち、教育相談的なものの見方をよく理解している。 可(60～69)：教育相談に関する必要最小限の知識を持ち、教育相談的なものの見方を理解することが出来る。 不可(0～59)：教育相談に関する必要最小限の知識を持たず、教育相談的なものの見方が理解できない。		
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 特定のテキストは使用せず、必要な資料をプリントにして配布する。		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 文献を読むだけでは伝わりにくいであろう実践的知識、技能を、直接話をするこゝで伝えようとするという面が、この授業にはあります。可能な限り休まずに出席し、授業に参加してください。		

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	教育実践論Ⅱ	〈Practical Pedagogy Ⅱ〉		
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	2	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	Ⅱ	前期
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	岡部 善平	〈Yoshihei Okabe〉	<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	454
<b>Office Hours</b>	メール等で事前に連絡してください			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> この講義では、学校教育の不可欠な枠組みをなす教育課程について、その編成・実施・評価の諸原理および諸課題を、とくに中等教育に焦点を当てて解説する。それによって、学校での教育課程編成に関する基本的な視点の習得をめざす。 生徒にいつ、何を学ばせるかという議論は、これまで様々な観点から展開されてきた。とくに近年、各学校が自主的に教育課程を編成し、教育の多様化・個性化が進行する傾向にあつて、教育課程は、それを実際に学ぶ生徒の実態にまで踏み込んで検討される必要に迫られている。そこで本講義では、学習指導要領の変遷および教育課程に関する諸理論を、われわれ自身の教育経験を捉え直しながら検討し、今日の教育課程をめぐる状況と問題点について考えていく。また、ユニークな教育課程をもつ事例校の教育実践を取り上げながら、学校における教育課程編成の方法と課題について考える。		<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 必要な資料をコピーして配布する予定。参考書はその都度指定する。		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育課程とカリキュラムの概念</li> <li>2. 学習指導要領の変遷</li> <li>3. 中等教育における教育課程の特質と問題点</li> <li>4. 教育課程の理論的背景</li> <li>5. 教育意図と学習経験のズレ</li> <li>6. 教育課程の評価と経営</li> <li>7. 学校における教育課程編成の実際</li> </ol>		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 指定されたテーマによる期末レポートの提出とその内容(70%)、授業中の発表や報告(30%)によって行う。		
		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>		
		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>		

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	教育課程論 <Curriculum Development>			
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	2	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	II	前期
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	岡部 善平 <Yoshihei Okabe>	<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	4 5 4	
<b>Office Hours</b>	メール等で事前に連絡してください			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> この講義では、学校教育の不可欠な枠組みをなす教育課程について、その編成・実施・評価の諸原理および諸課題を、とくに中等教育に焦点を当てて解説する。それによって、学校での教育課程編成に関する基本的な視点の習得をめざす。 生徒にいつ、何を学ばせるかという議論は、これまで様々な観点から展開されてきた。とくに近年、各学校が自主的に教育課程を編成し、教育の多様化・個性化が進行する傾向にあつて、教育課程は、それを実際に学ぶ生徒の実態にまで踏み込んで検討される必要に迫られている。そこで本講義では、学習指導要領の変遷および教育課程に関する諸理論を、われわれ自身の教育経験を捉え直しながら検討し、今日の教育課程をめぐる状況と問題点について考えていく。また、ユニークな教育課程をもつ事例校の教育実践を取り上げながら、学校における教育課程編成の方法と課題について考える。		<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 必要な資料をコピーして配布する予定。参考書はその都度指定する。		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育課程とカリキュラムの概念</li> <li>2. 学習指導要領の変遷</li> <li>3. 中等教育における教育課程の特質と問題点</li> <li>4. 教育課程の理論的背景</li> <li>5. 教育意図と学習経験のズレ</li> <li>6. 教育課程の評価と経営</li> <li>7. 学校における教育課程編成の実際</li> </ol>		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 指定されたテーマによる期末レポートの提出とその内容（70%）、授業中の発表や報告（30%）によって行う。		
		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>		
		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>		

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	総合演習 <Seminar on Integrated Education>			
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	2	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	III	後期
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	岡部 善平 <Yoshihei Okabe>	<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	4 5 4	
<b>Office Hours</b>	メール等で事前に連絡してください			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> この授業が対象とする「総合的な学習の時間」は、従来の教科・科目の枠にとらわれず、環境、異文化理解、情報、福祉などのテーマを各学校や教師が独自に設定し、授業を進めていく教育実践である。本授業では、中学校および高校の「総合的な学習の時間」の目的、課題と展望、実際の授業の進め方について、授業事例の収集および検討や模擬授業の実施を通して理解することを目的とする。 本授業では、受講者がそれぞれ自主的にテーマを設定し、指導案を作り、実際に模擬授業を行っていく予定である。したがって、本授業の受講者には、積極的にこの実技演習に参加することが求められる。		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 模擬授業の実施とその内容（60%）、授業への参加状況（40%）によって行う。		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 総合的な学習の目的と意義</li> <li>2. 総合的な学習と教科学習との関係</li> <li>3. 総合的な学習の事例紹介</li> <li>4. 模擬授業のテーマ設定</li> <li>5. テーマに関わる情報および事例収集 指導案の作成および教材研究</li> <li>6. 模擬授業</li> </ol>		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>		
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 必要な資料をコピーして配布する予定。参考書はその都度指定する。		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 履修条件ではないが、「教育方法」を履修済みであることが望ましい。		

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	職業指導 <Vocational Guidance>		
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	4	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	III 通年
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	松田光一・上野耕三郎 <Koichi Matsuda/Kozaburo Ueno>	<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	上野 341
<b>Office Hours</b>			
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>  教育職員免許法では、職業科目の免許状を取得するためには職業指導2単位を履修しなければならないが、中学校や高校では職業指導という名称は使わず進路指導とっている。進路指導は単に生徒の当面の進学指導や就職指導だけを意味するものではなく、広く将来の生き方に関わる部分も含めた教師による指導・援助の過程である。人間の生き方は職業と結びつけて考えられる部分が多いので、職業をめぐる諸問題を多面的に学習し、進路指導に活かされることを目標に授業を進める予定である。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 職業とは何か</li> <li>(2) 職業観・職業意識の変化</li> <li>(3) 産業社会の変動と職業</li> <li>(4) 職業指導の歴史</li> <li>(5) 日本の職業教育</li> <li>(6) 企業内教育訓練の系譜・職業資格制度と教育</li> <li>(7) 内部労働市場とキャリア発達</li> <li>(8) 進路選択の諸理論</li> <li>(9) 学校における進路指導の実際</li> <li>(10) キャリア開発と生涯学習</li> <li>(11) 日本版デュアルシステムの展開</li> <li>(12) フリーター・ニートをとりまく言説</li> <li>(13) 情報社会における職業指導</li> <li>(14) 職業指導の課題</li> </ol> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>  教科書は使用しない。授業にあわせてプリントを配付する。参考文献、参考資料については授業中に指示する。</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>  出席、授業態度、レポート提出状況及び定期試験で総合的に判断する。</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>  次の点を合格ラインの基準とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 授業中に明示する重要なポイントを概ね理解していること。</li> <li>2) 学校における職業指導の実態とその課題を理解していること。</li> <li>3) 教員としてどのような指導ができるのか現実の問題としてとらえていること。</li> </ol> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>  出席を重視する。</p>			

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	職業指導 <Vocational Guidance>		
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	2	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	III 前期
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	松田 光一 <Koichi Matsuda>	<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	
<b>Office Hours</b>			
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>  教育職員免許法では、職業科目の免許状を取得するためには職業指導2単位を履修しなければならないが、中学校や高校では職業指導という名称は使わず進路指導とっている。進路指導は単に生徒の当面の進学指導や就職指導だけを意味するものではなく、広く将来の生き方に関わる部分も含めた教師による指導・援助の過程である。人間の生き方は職業と結びつけて考えられる部分が多いので、職業をめぐる諸問題を多面的に学習し、進路指導に活かされることを目標に授業を進める予定である。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 職業とは何か</li> <li>(2) 職業観・職業意識の変化</li> <li>(3) 産業社会の変動と職業</li> <li>(4) 職業指導の歴史</li> <li>(5) 日本の職業教育</li> <li>(6) 企業内教育訓練の系譜・職業資格制度と教育</li> <li>(7) 内部労働市場とキャリア発達</li> <li>(8) 進路選択の諸理論</li> <li>(9) 学校における進路指導の実際</li> <li>(10) キャリア開発と生涯学習</li> <li>(11) 日本版デュアルシステムの展開</li> <li>(12) フリーター・ニートをとりまく言説</li> <li>(13) 情報社会における職業指導</li> <li>(14) 職業指導の課題</li> </ol> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>  教科書は使用しない。授業にあわせてプリントを配付する。参考文献、参考資料については授業中に指示する。</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>  出席、授業態度、レポート提出状況及び定期試験で総合的に判断する。</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>  次の点を合格ラインの基準とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 授業中に明示する重要なポイントを概ね理解していること。</li> <li>2) 学校における職業指導の実態とその課題を理解していること。</li> <li>3) 教員としてどのような指導ができるのか現実の問題としてとらえていること。</li> </ol> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>  出席を重視する。</p>			

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	言語学概論 <Introduction to General Linguistics>		
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	4	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	I 通年
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	大島 稔 <Minoru OSHIMA>	<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	353
<b>Office Hours</b>	月 10:30~14:20		
<p><b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>  この授業は、英語教員免許取得のための基礎的な科目です。この授業を通して、2年次以降の教職関係科目である「英語学概論」などの英語学・英語教授法に関する一連の教職科目の基礎となる知識を得ます。「言語学概論」は、「英語学概論」という科目の名前は、二つを比べてみると、「言語学」、「英語学」、「概論」の3つに分解できます。「概論」とは、「概説」、「総論」などと同様に学問の全体像を理解するための科目です。言語といても、人間は生活のあらゆる局面で言語を使いますし、「言語中枢」と呼ばれる脳細胞の中のできごとですから、解明するのが厄介な現象です。結論を先取りしますと、「人間が意志の伝達に用いる記号の体系である」と言えます。この短い結論を理解するために長い研究史があります。この授業では、「単語」とは何だろうかという質問から始め、言語のさまざまな仕組みと働きについての基本を学びます。分析の対象とする言語は、英語が中心ですが、必要がある場合には、日本語はもちろん、他の言語も参照します。LLで授業を行います。教材は、各自のPCに配布し、Power Pointを用いながら、双方向型の授業を行います。</p> <p><b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b>  第1週 オリエンテーション  第2週 言語学の諸分野  第3~4週 語の仕組み(形態論)  第5~6週 語類と転換(統語論)  第7~8週 語の意味(語の意味論)  第9~10週 意味と転用(語の意味論)  第11~12週 文法範疇(統語論)  第13~14週 日英語の語順(統語論)  第15~16週 句の構造と比例の原則(統語論)  第17~18週 移動：前置と後置(統語論)  第19~20週 複合語の統語構造(形態論)</p> <p>第21~22週 文の意味(文の意味論)  第23~24週 前提と推理(語用論)  第25~26週 談話の構造(語用論)  第27~28週 音韻の体系と構造(音声学・音韻論)  第29~30週 英語のリズムと意味の塊(音韻論)</p> <p><b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>  教科書は使用せず、毎回プリントを配ります。辞典・参考書については最初の授業でリストを配布します。</p> <p><b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>  前期・後期の筆記試験 60%  夏休みの課題レポート 20%  出席点 20%</p> <p><b>5. 成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>  秀(100~90) 言語学の諸分野について秀でた理解力を示し、言語の諸問題について秀でた分析をすることができる  優(89~80) 言語学の諸分野について優れた理解力を示し、言語の諸問題について優れた分析をすることができる  良(79~70) 言語学の諸分野について十分な理解力を示し、言語の諸問題について十分な分析をすることができる  可(69~60) 言語学の諸分野について最低限の理解力を示し、言語の諸問題について最低限の分析をすることができる  不可(59点以下)</p> <p><b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>  あらかじめ配布された資料を十分に予習しておくこと。また、学習した事項をかならず復習しておくように。PCで配布された資料を記憶する媒体(FD, MD, メモリースティック)を用意すること。</p>			

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	英語学概論 <Introduction to English Linguistics>		
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	4	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	II~IV 通年
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	山本久雄・大島稔 <Hisao Yamamoto/Minoru OSHIMA>	<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	526
<b>Office Hours</b>	金曜 14:00~15:30		
<p>前期：山本教員分</p> <p><b>1. 授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>  目的：英語学に関する基礎知識の習得  方法：英文テキストの精読</p> <p><b>2. 授業内容&lt;Course contents&gt;</b>  第1週 オリエンテーション  第2~15週 言語習得</p> <p><b>3. 使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>  <b>テキスト</b>：Contemporary Linguistic Analysis 1 :  An Introduction  William O'grady and Michael Dobrovolsky 著  松柏社</p> <p><b>4. 成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>  前期の定期試験・出席・授業内での発表による総合評価</p> <p><b>5. 成績評価の基準</b>  秀(100~90)：英語学について秀でた理解力を有す。  優(89~80)：英語学について優れた理解力を有す。  良(79~70)：英語学について良い理解力を有す。  可(69~60)：英語学について理解力を有す。  不可(59~0)：英語学について十分な理解力を有しない。</p> <p><b>6. 履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>  全授業数の1/3以上の欠席は受験不可</p>			

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	英語学概論 <Introduction to English Linguistics>			
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	4	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	Ⅱ～Ⅳ	通年
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	山本久雄・大島稔 <Hisao Yamamoto/Minoru OSHIMA>		<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	353
<b>Office Hours</b>	月 10:30～14:20			
<p>後期：大島教員分</p> <p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> 英語学概論の後期の授業は、英語の言語学的研究である英語学の諸分野について、研究史とともに概説します。教科書に補足が必要な場合は、英語の分析資料を用いて分析します。 授業はLLで行います。補足資料を、各自のPCに配布し、Power Pointを用いながら、双方向型の授業を行います。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 第16週 規範から科学へ 第17週 歴史主義から構造主義へ 第18週 言語能力の解明としての言語学 第19-20週 認知と言語 第20-21週 文を超えた文法 第22週 コーパス言語学 第23週 日本における英語研究の伝統 第24週 文と文を構成する諸要素 第25週 品詞とその機能 第26-27週 現代英語の音声と音韻 第28週 語彙・イディオム・成句表現と辞書 第29-30週 語彙論的情報の諸相</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> 教科書 八木克正編 (2007), A New Invitation to English Linguistics, 英宝社</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 1) 英語学の分析概念・用語に関する筆記試験 60% 2) 冬休み中の課題レポート 20% 3) 出席点 20%</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 秀(100-90) 英語学の諸分野について秀でた理解力を示し、英語の言語学的諸問題について秀でた分析をすることができる 優(89-80) 英語学の諸分野について優れた理解力を示し、英語の言語学的諸問題について優れた分析をすることができる 良(79-70) 英語学の諸分野について十分な理解力を示し、英語の言語学的諸問題について十分な分析をすることができる 可(69-60) 英語学の諸分野について最低限の理解力を示し、英語の言語学的諸問題について最低限の分析をすることができる 不可(59点以下)</p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> 教科書と配布資料を十分に予習して授業に臨むこと。また、学習した事項をかならず復習しておくように。自分のPCに配布された資料を記憶する媒体(FD, MD, メモリースティック)を用意すること。</p>				

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	英語学 I <English Linguistics I>			
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	4	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	Ⅱ～Ⅳ	通年
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	ダニエラ・カルヤヌ <Daniela Caluianu>		<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	536
<b>Office Hours</b>				
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> Semester 1 will have same content and objectives as Engl Ling 1a. The second semester will develop skills for collecting linguistic data and making generalizations on the basis of such data. We will explore different methods of obtaining linguistic data; analyse the data, make generalizations and discuss them.</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> For sem 1 see Engl Ling 1a. Semester 2 (1) Introduction: Internet language resources and how to use them (2) Linguistic data: texts and questionnaires (3-15) Data collection and analysis: Prepositions; Verbs; Nominalizations; Adjectives; Special sentence patterns</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> See Engl Ling 1a</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> See Engl Ling 1a</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> Grading will reflect the degree of achievement of goals a-d as follows: 100-90: exceptional contribution to the class 89-80: strong performance 79-70: meets expectations 69-60: meets expectations with support 59-0: performs below expectations Goals: (a) has mastered the appropriate linguistic terminology (b) shows understanding of linguistic concepts and methods (c) is capable to apply the concepts and methods to new data (d) is capable to collect and analyze data</p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b></p>				



科目名<Subject>	英語学 I a	<English Linguistics I>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	II	前期
担当教員名<Name>	ダニエラ・カルヤヌ	<Daniela Caluianu>	研究室番号<Office>	536
Office Hours	Tue 12:00-14:00			
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>  The aim of this course is (a) to familiarize students with the basic terminology of English grammar and its meaning (b) to help students understand some of the basic distinctions on which grammatical thinking is based and (c) to develop some of the basic skills required for practicing grammar. The course will consist of: preparatory activities for developing the required skills; short lectures; self-study using the software; critical discussions.</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>  (1)Classifying 1: features, double articulation, categories, category types; (2)Classifying 2: prototypes, fuzzy categories; (3)Word classes; (4)Verb types (lexical, modal, auxiliary); (5)Verbs: finite, non-finite; (6)Sentence types: simple, complex, compound; (7)Sentence functions (declarative, interrogative, etc); (8)Scripts and verbs; (9)Argument roles and grammatical functions; (10)Sub-types of lexical verbs (intransitive, transitive,); (11)Phrasal verbs; (12)Form and function; (13)Phrases; (14)Analysing sentences; (15)Project presentations</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>  Handouts and PowerPoint presentations by teacher, based largely on reference below. The accompanying software will</p> <p>be used for self-study.  Reference  Verspoor, M and Kim Sauter (2000) English Sentence Analysis, John Benjamins</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>  class activity 50%; assignments 20%; project 30%</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>  Grading will reflect the degree of achievement of goals a-c as follows:  100-90: exceptional contribution to the class  89-80: strong performance  79-70: meets expectations  69-60: meets expectations with support  59-0: performs below expectations  Goals:  (a) has mastered the appropriate linguistic terminology  (b) shows understanding of linguistic concepts and methods  (c) is capable to apply the concepts and methods to new data</p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b></p>				

科目名<Subject>	英文学概論	<Introduction to English Literature>		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	II~IV	通年
担当教員名<Name>	羽村 貴史	<HAMURA Takashi>	研究室番号<Office>	532
Office Hours	月曜日 15:00-18:00 (言語センター)			
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>  文学作品を解釈するための基礎的な方法を学ぶ。</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>  英語圏文学の技法等に関する講義および解釈の実践。</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>  プリントを配布する。</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>  発表、予習状況、定期試験、レポート数回、出席率。</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>  総合評価。</p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>  予習の際は、物語の内容がわかるだけでなく、テキストの構造が見えるようになるまで、繰り返し読むよう心がけること。前期試験不合格者は、その段階で不可。また、理由にならない理由で年間5回以上の欠席がある場合は不可。</p>				

科目名<Subject>	英文学 I	<English Literature I>		
単位数<Credits>	4	配当年次<Years>	Ⅱ～Ⅳ	通年
担当教員名<Name>	君羅 久則	<Hisanori Kimira>	研究室番号<Office>	3 2 2
Office Hours	月曜 16:00～17:45			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> シェークスピアの四大悲劇の1つ『マクベス』は、人間の心の奥底に潜む悪の可能性を3人の魔女に仮託し精緻な言葉の表現として展開して見せた芸術です。その神髄を完全に見極めることは難しいが、言葉とその表現を手がかりとしてそこに近づくことは可能です。そのためには劇構成ばかりでなく、修辞法、韻律、イメージなどの詩の表現方法を理解することが肝要になります。 『マクベス』を理解するためには、『マクベス』だけを見るのではなく、作者のシェークスピア、さらにルネサンスという時代についても考えなければなりません。作品、作家、時代についてのビデオ等の映像・画像利用しながら理解を深める予定です。		<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> テキスト：William Shakespeare, <i>Macbeth</i> . 研究社小英文学叢書 参考書：斉藤勇 「シェークスピア研究」 研究社 志子田光雄「英詩理解の基礎知識」 金星堂 C. T. Onions, rev. Robert D. Eagleton, <i>A Shakespeare Glossary</i> . Oxford, 1986.		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 『マクベス』を下記の順序で取り上げながら、劇の構成、修辞法、韻律、イメージ、音の効果的な使い方などを中心にシェークスピアの言葉の芸術について考えていくことにします。最初の1回は英詩法、修辞法、時代背景、作者について概説します。これを聞き逃すと以降の理解が困難になります。 第1回 オリエンテーション 第2回 Introduction 第16～20回 第4幕 第3～6回 第1幕 第21～25回 第5幕 第7～9回 第2幕 第26～30回 まとめ 第10～15回 第3幕		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 前期・後期の期末試験、課題達成度、授業での発表、参加度を加味して総合的に判定する。授業実施時数の2/3以上出席しなければ評価の対象外（単位の認定はしない）とします。		
		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 秀 (100-90)：授業内容の90パーセント以上理解できている場合。 優 (89-80)：授業内容の80パーセント以上は理解できている場合。 良 (79-70)：授業内容の70パーセント以上は理解できている場合。 可 (69-60)：授業内容の60パーセント以上は理解できている場合。 不可 (59以下)：授業内容の60パーセント未満しか理解できていない場合。		
		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> Macbeth の録音テープがあるので、各自で用意してください。		

科目名<Subject>	英文学 I a	<English Literature I>		
単位数<Credits>	2	配当年次<Years>	Ⅱ	前期
担当教員名<Name>	君羅 久則	<Hisanori Kimira>	研究室番号<Office>	3 2 2
Office Hours	月曜 16:00～17:45			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> シェークスピアの四大悲劇の1つ『マクベス』は、人間の心の奥底に潜む悪の可能性を3人の魔女に仮託し精緻な言葉の表現として展開して見せた芸術です。その神髄を完全に見極めることは難しいが、言葉とその表現を手がかりとしてそこに近づくことは可能です。そのためには劇構成ばかりでなく、修辞法、韻律、イメージなどの詩の表現方法を理解することが肝要になります。 『マクベス』を理解するためには、『マクベス』だけを見るのではなく、作者のシェークスピア、さらにルネサンスという時代についても考えなければなりません。作品、作家、時代についてのビデオ等の映像・画像利用しながら理解を深める予定です。		<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> テキスト：William Shakespeare, <i>Macbeth</i> . 研究社小英文学叢書 参考書：斉藤勇 「シェークスピア研究」 研究社 志子田光雄「英詩理解の基礎知識」 金星堂 C. T. Onions, rev. Robert D. Eagleton, <i>A Shakespeare Glossary</i> . Oxford, 1986.		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> 『マクベス』を下記の順序で取り上げながら、劇の構成、修辞法、韻律、イメージ、音の効果的な使い方などを中心にシェークスピアの言葉の芸術について考えていくことにします。最初の1回は英詩法、修辞法、時代背景、作者について概説します。これを聞き逃すと以降の理解が困難になります。 第1回 オリエンテーション 第2回 Introduction 第3～6回 第1幕 第7～9回 第2幕 第10～15回 第3幕		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> 期末試験、課題達成度、授業での発表、参加度を加味して総合的に判定する。授業実施時数の2/3以上出席しなければ評価の対象外（単位の認定はしない）とします。		
		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b> 秀 (100-90)：授業内容の90パーセント以上理解できている場合。 優 (89-80)：授業内容の80パーセント以上は理解できている場合。 良 (79-70)：授業内容の70パーセント以上は理解できている場合。 可 (69-60)：授業内容の60パーセント以上は理解できている場合。 不可 (59以下)：授業内容の60パーセント未満しか理解できていない場合。		
		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> Macbeth の録音テープがあるので、各自で用意してください。		

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	英会話・英作文	〈English Conversation and Composition〉		
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	4	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	Ⅱ～Ⅳ	通年
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	ショーン・クランキー	〈Shawn Clankie〉	<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	419
<b>Office Hours</b>	Thursday by appointment			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>		<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>		
<p>1. Course objective and method This is a whole language course yet one that will place greater emphasis on Speaking and Writing. In this course students will learn to:</p> <p>a. Build self-confidence in their speaking, listening, reading, and writing abilities. b. Recognize weaknesses in their abilities, and try to overcome these weaknesses. c. Express themselves at more than a survival level in English. d. Build a stronger knowledge of the cultures that use English. e. Gain a broader appreciation for how language works.</p>		<p>Grammar for Speaking: Questions and Answers Tokyo: Goken (Required) An additional writing text is required for this course. Details will be given on how to get the book during the first or second class.</p>		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>		
<p>This will be a learner-centered course. That means most of the work you do in this class will be small group work where each person must participate in the given task. Group discussions of music and problem solving activities will occur weekly, along with reading, and a limited amount of written work.</p>		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>		
		<p>Homework and quizzes, participation, and attendance. Participation is 50% of your grade. The remaining 50% will include assignments and other work.</p>		
		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>		

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	英語コミュニケーションⅢ	〈Communication in English III〉		
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	2	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	Ⅱ～Ⅳ	前期
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	小林 敏彦	〈Toshihiko Kobayashi〉	<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	319
<b>Office Hours</b>	水曜日 12:15～12:45 / 金曜日 12:15～12:45			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>		<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>		
<p>CAL 教室におけるパソコンと大型スクリーンを活用し、オンライン・インターネットアクション（ブログ、ウェブサイト、掲示板、チャット、メール）を併用した、わかりやすく、楽しく、ためになる授業を目指す。言語に関する英文エッセイを読み、そこから英語によるコミュニケーション上の諸相を考察し、英語教育との関連付けを行う。授業はすべて英語で行うが、授業終了5分前に日本語で要点の整理と質疑応答を行う。 授業の流れ 1) ポップス歌詞聞き取りと合唱、2) 本文の朗読を聞きながらのリーディング、3) 本文の内容に関する質疑、4) 本文の内容に関するディスカッション、5) BBS とチャットを活用したタスク</p>		<p>「Language and Our World (言語と私たちの世界)」 三修社</p>		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>		
<p>洋楽 1: Honesty 2: Chiquitita 3: Dancing Queen 4: Yesterday Once More 5: Believe 6: Bridge Over Troubled Water 7: My Heart Will Go On 8: Crazy For You 9: Go West 10: New York City Boy 11: Y.M.C.A. 12: In The Navy 13: Sukiyaki 14: Stand By Me 15: Yesterday 以下の内容を扱う（テキストの目次から）： 1. Do Animals Have Language? 2. Chomsky and Universal Grammar 3. Younger Is Better 4. Misunderstandings about Bilingualism 5. Are Men and Women's Speech really Different? 6. Politeness 7. PC (Politically-Correct) Speech 8. What Makes a Good Language Learner? 9. Individual and Societal Multilingualism 10. The role of Teaching Methods in Language Learning 11. What's the Difference between a Language and a Dialect? 12. Official Languages: harmful or Beneficial? 13. The English-Only Movement in the U.S. 14. Loanwords 15. Why Do Language Disappear?</p>		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>		
		<p>「優」は授業態度が優秀で、半期で無遅刻無欠席、課題をすべて提出し、かつ小テスト及び定期試験の平均点が80点を越えた者に与えられる。「良」は授業態度が優秀で通年で欠席および遅刻が1回、課題をすべて提出し、かつ小テスト及び定期試験が70～79点の者に与えられる。「可」は授業態度が優秀で、半期で遅刻および欠席が2回、かつ課題をすべて提出し、小テスト及び定期試験が60～69点の者に与えられる。「不可」は通年で遅刻および欠席が3回に達した者、課題を一度でも提出しなかった者、または小テスト及び定期試験が60点に達しなかった者に与えられる。体育会系部活動の大会遠征（合宿は認めない）については英文での報告を翌週間の出席日深夜までに行うことで1回までのみ認め、欠席にカウントしない。ただし、この権利を有するのは大会出場選手及び補欠選手に限定される。その他、事情を考慮しケースバイケースで対応する。また、授業準備不足や成績（授業態度）不良の受講生には特別課題と補講が課される。また、2週連続休むと自動的に不可になる。</p>		
		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>		
		<p>授業には積極的に参加し、配布物は必ずバインダーに保存し、毎回持参すること。私語は絶対慎むこと。遅刻は欠席扱いとする。座席は出席順で指定される。飲食物の持ち込みや帽子、兜、ヘルメット、その他の冠りものは医療上または宗教上の理由に因るもの以外は認めない。また、事後学習として指定ブログ上の学習講座を毎日10～15分することが義務付けられる。教育実習で休む受講生には、実習の様子を英文レポートで報告してもらおう。</p>		

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	比較文化Ⅲ			〈Comparative Studies of Cultures Ⅲ〉	
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	2	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	Ⅱ～Ⅳ	後期	
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	高井 収	〈Osamu Takai〉	<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	501	
<b>Office Hours</b>	金 14:30～15:30				
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>	<p>Based on the basic ideas of intercultural communication, Japanese patterns of communication are examined through reading the related topics, interviewing people, and observation in the Japanese society.</p> <p>The main objectives include developing skills for observing and interpreting Japanese culture, and becoming more effective in intercultural communication.</p> <p>The course is built on three parts.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Methods of cross-cultural comparison</li> <li>2. Cultural observation and interpretation</li> <li>3. Intercultural communication skills</li> </ol>				
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction on intercultural communication</li> <li>2. Observation</li> <li>3. Simulation and discussion</li> <li>4. Group work</li> </ol>				
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>	<p>Textbook: Strotti, Craig. (1999) Figuring Foreigners Out - A Practical Guide. Intercultural Press.</p> <p>Recommended readings: Samovar, Larry A., and Richard E. Porter (2004) Communication Between Cultures. Wadsworth Publishing Company.</p>				
<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>	<p>The additional references will be announced in the beginning of the course.</p>				
<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>	<p>Weight equally distributed between attendance, participation; assignments, and exams.</p> <p>秀 (100～90) : 総合評価 100～90%、  優 (89～80) : 総合評価 89～80%  良 (79～70) : 総合評価 79～70%  可 (69～60) : 総合評価 69～60%  不可 (59～0) : 授業実施総回数数の 2/3 以上出席していないか、または、総合評価 59%以下</p>				
<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>	<p>Attendance becomes very significant since this course is offered only in a half year.</p> <p>We will start the discussion from Chapter 1 through Chapter 2 (pp. 1 through 85) of the textbook in this class, since we are planning to study from Chapter 3 though Chapter 5 (pp. 87 through 160) in the class of Comparative Culture VI in 2008.</p> <p>Class homepage address:  <a href="http://www.quia.com/pages/interculture3.html">http://www.quia.com/pages/interculture3.html</a></p>				

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	情報機器概論			〈An Introduction to Information Tools 〉	
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	2	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	Ⅱ	夏季集中	
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	藤島 成行	〈Noriyuki Fujishima〉	<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>		
<b>Office Hours</b>					
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>	<p>習科目であるため評価は実習での提出物、授業態度（遅刻や忘れ物も含む）、レポート等の提出とし、全てを総合的に考慮し点数化する。</p>				
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>	<p>本科目の目的は、現代に広く普及し、多くの場面で利用されている情報機器、特にパソコンに関する知識獲得と基本的な操作方法、学校現場に必要な基本的知識の習得である。コンピュータの構成や仕組み、ネットワーク構成に関する知識、ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト等のアプリケーションについて扱う。入門に位置づけられている授業であるが中級レベルを目標とする。また、それ以上の知識・技能を持つ学生については個別に課題を設定する。</p> <p>授業は基本的に実習の形式をとるが机上の理論についても取り扱う。</p>				
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>	<p>プリントを用意する。参考図書・文献についてはその都度紹介する。</p>				
<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>	<p>夏季の集中授業であるため基本的に全出席を必須とする。実</p>				
<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>	<p>秀 (100～90) 情報処理機器利用について秀でた理解力を有し、授業中に重要なポイント、その都度実施するレポート等でほぼ完全に理解している。また、最近の教育事情と情報処理機器の活用について関心を強く持っていること。</p> <p>優 (89～80) 情報処理機器利用について優れた理解力を有し、授業中に重要なポイント、その都度実施するレポート等で優れた理解力がある。また、最近の教育事情と情報処理機器の活用について関心を持っていること。</p> <p>良 (79～70) 情報処理機器利用について良い理解力を有し、授業中に重要なポイント、その都度実施するレポート等で良く理解している。また、最近の教育事情と情報処理機器の活用について関心がある。</p> <p>可 (69～60) 情報処理機器利用について理解力を有し、授業中に重要なポイント、その都度実施するレポート等で理解しているようすが見られる。また、最近の教育事情と情報処理機器の活用について少しは関心を持っていること。</p> <p>不可 (59～0) 情報処理機器利用について十分な理解力がなく、授業中に重要なポイント、その都度実施するレポート等で理解することが出来ない。また、最近の教育事情と情報処理機器の活用について関心が無い。</p>				
<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>	<p>・集中講義なので出席、授業態度を重視する。  ・筆記用具は必ず持参すること。</p>				

# 國際交流科目

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	中級ミクロ経済学	<Intermediate Microeconomics>		
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	4	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>		前期
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	藤生 源子	<Minako Fujio>	<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	410
<b>Office Hours</b>				
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> This course is an introduction to the basic tools of Microeconomic theory. The primary objective of this course is to develop and understand these tools and learn how to apply them to real world problems. A wide variety of applications of the theory will be presented throughout the course. By the end of the course you will have a deeper understanding of how economists analyze problems as well as skills to apply on your own.		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> The course grade will be based upon class participation, quizzes, a mid-term exam and a final exam.		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> The topics covered in this course include: consumer theory, producer theory, competitive markets, market structure, general equilibrium, asymmetric information, market failure and the role of government.		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>		
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> Robert S. Pindyck and Daniel L. Rubinfeld, "Microeconomics" 6th edition.		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> The details and changes will be announced at the beginning of the semester by the instructor.		

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	中級ミクロ経済学	<Intermediate Microeconomics>		
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	4	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>		後期
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	藤生 源子	<Minako Fujio>	<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	410
<b>Office Hours</b>				
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> This course is an introduction to the basic tools of Microeconomic theory. The primary objective of this course is to develop and understand these tools and learn how to apply them to real world problems. A wide variety of applications of the theory will be presented throughout the course. By the end of the course you will have a deeper understanding of how economists analyze problems as well as skills to apply on your own.		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> The course grade will be based upon class participation, quizzes, a mid-term exam and a final exam.		
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> The topics covered in this course include: consumer theory, producer theory, competitive markets, market structure, competitive strategy, information, market failure and the role of government.		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>		
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> Robert S. Pindyck and Daniel L. Rubinfeld, Microeconomics		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> The details and changes will be announced at the beginning of the semester by the instructor.		

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	日本経済 <Japanese Economy>		
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	2	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	前期
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	横田 宏治 <Koji Yokota>	<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	5 2 0
<b>Office Hours</b>			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> This is an application course of economics which analyzes Japanese economy using theoretical tools. It mixes lectures and presentation and discussion sessions by students. The topics are chosen from the current status and modern economic history of Japan.		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> Grading is based on attendance, quality of presentation and an examination.	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> "Rapid growth" in 1950-70's, bubble economy, depression and credits, scope of firms, international trade and other topics.		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>	
<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> Bibliography will be provided in the class. References Flath, The Japanese Economy, Oxford University Press, 2000. Ito, The Japanese Economy, MIT Press, 1992. Nakamura, The Postwar Japanese Economy, 2nd ed., University of Tokyo Press, 1995.		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> Prerequisites: Intermediate Macroeconomics or equivalent.	

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	アジア太平洋におけるマーケティング戦略<Marketing Strategy in Asia and Pacific>		
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	2	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>	前期
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	ニール・クライマー <Neil Clymer>	<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	4 4 0
<b>Office Hours</b>			
<b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b> The primary objective of this course is to introduce students to both strategic management and marketing related issues that face Asian companies. The classes will be conducted the same way as many MBA courses, lectures followed by case studies that serve to reinforce the lecture material. The instructor will present the lectures and will act as facilitator for student driven case study discussions. This course will challenge students to apply their knowledge and critical thinking skills in the context of real-life business dilemmas.		12. Market infrastructure / Case 8: Broadband in Korea 13. Marketing strategy / Case 9: NTT DoCoMo i-mode 14. Impact of social issues / Case 10: The GM Dilemma 15. Final exam	
<b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b> A tentative outline of the lectures is as follows: 1. Outline for the course 2. National markets in Asia-Pacific 3. Strategic planning / Case 1: INSEAD Asia 4. Brand management / Case 2: Acer & BenQ 5. Pricing / Case 3: Shanghai Underwater World 6. Promotion / Cases 4: French wine in Asia 7. Distribution / Case 5: Super Premium Cold Chain 8. New market entry / Case 6: QB House 9. Internet marketing in Asia / Case 7: Alibaba.com 10. Group presentations 11. Group presentations		<b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b> Each student who participates in this course is required to purchase the casebook listed below: Schutte, Hellmut, Ang, Swee Hoon, Leong, Siew Meng, & Tan, Chin Tiong, Marketing Management An Asian Casebook, Singapore, Pearson. (ISBN: 981-244-561-7).	
		<b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b> Grading will be based on class participation, homework, a group presentation, and a final exam. Further details will be provided at the beginning of the course.	
		<b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b>	
		<b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b> All lectures will be conducted in English. Students attending this class must have a working knowledge of computers and will have to use the Internet in their studies. The instructor will post class assignments.	

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	世界の中の日本企業	<Japanese Companies in Global Business>		
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	2	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>		前期
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	ニール・クライマー	<Neil Clymer>	<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	4 4 0
<b>Office Hours</b>				
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>  Institutional factors implicit in cross-border transactions, differences in national economies, and a panorama of cultural propensities distinguish competition in the global marketplace. Students will learn how firms confront these issues. We will place special emphasis on how Japanese firms (and to a lesser degree, how foreign firms in Japan) address the challenges of global business. Class material will be primarily based on the textbook. Class time will consist of instructor presentation and student discussion of the reading material.</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>  An outline of course is as follows:  1.Outline for the course  2.International legal, technical, and political forces  3.International trade theories  4.National and international trade policies  5.International monetary system and financial markets  6.International strategic management  7.Strategies for analyzing and entering foreign markets  8.International strategic alliances  9.International organizational design and control  10.International operations management  11.International financial management  12.Cultural factors that differentiate national markets</p> <p>13.International human resource management  14.Ethics and social responsibility in international business  15.Final exam</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>  Each student who participates in this course is required to purchase the textbook listed below:  Griffin, Ricky W., &amp; Pustay, Michael W. (2005). International Business: A Managerial Perspective, 4/e (International Edition). Upper Saddle River, New Jersey: Prentice Hall. (ISBN: 0-13-123017-4)</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>  Grading will be based on class participation, homework assignments, a two person partnership class report, and a final exam. Further details regarding the grading will be provided at the beginning of the course.</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b></p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>  All lectures will be conducted in English. Students attending this class must have a working knowledge of computers and will have to use the Internet in their studies. The instructor will post class assignments.</p>				

<b>科目名&lt;Subject&gt;</b>	日本的経営入門	<Introduction to Japanese Management>		
<b>単位数&lt;Credits&gt;</b>	2	<b>配当年次&lt;Years&gt;</b>		後期
<b>担当教員名&lt;Name&gt;</b>	ニール・クライマー	<Neil Clymer>	<b>研究室番号&lt;Office&gt;</b>	4 4 0
<b>Office Hours</b>				
<p><b>1.授業の目的・方法&lt;Course objective and method&gt;</b>  The aim of this course is to introduce students to Japanese management. This class will familiarize students with management related topics such as the working environment, as well as institutional factors and principles of management that prevail in Japanese companies. Special emphasis will be placed on management in Japanese manufacturing companies and historical and institutional factors that shape Japanese management. Class time will consist of instructor presentation and student discussion of the reading material.</p> <p><b>2.授業内容&lt;Course contents&gt;</b>  1.Outline, basic facts, early commercial history  2.Japan's post Meiji Restoration industrial history  3.The Japanese Multinational Corporation &amp; Important Japanese industries  4.Important Japanese industries - 2  5.Corporate structures &amp; HRM theory  6.Corporate governance &amp; HRM policy  7.U.S. versus Japanese company comparisons  8.Mid-semester review  9.Manufacturing at Toshiba One Works &amp; Toyota  10.Toyota Manufacturing System - 1  11.Toyota Manufacturing System - 2</p> <p>12.Technology &amp; intellectual property management  13.Foreign operations &amp; social responsibility  14.Review  15.Final exam</p> <p><b>3.使用教材&lt;Teaching materials&gt;</b>  Each student who participates in this course is required to purchase the books listed below:  Jacoby, Sanford M. (2005), The Embedded Corporation, Princeton University Press (ISBN: 0-691-11999-6) and  Liker, Jeffrey. (2004) The Toyota Way. McGraw-Hill (ISBN: 0-07-139231-9).</p> <p><b>4.成績評価の方法&lt;Grading&gt;</b>  Grading will be based on class participation, an individual report concerning a topic related to Japanese management, and a final exam. Further details regarding the grading will be provided at the beginning of the course.</p> <p><b>5.成績評価の基準&lt;Grading Criteria&gt;</b></p> <p><b>6.履修上の注意事項&lt;Remarks&gt;</b>  All lectures will be conducted in English. Students attending this class must have a working knowledge of computers and will have to use the Internet in their studies.</p>				



# 研究指導

## 経済学科

研究指導は2年連続で12単位

担当教員名 Seminar Name	テ　　マ	概　　要
今　西　一 Hajime Imanishi	日本とアジアの近代化	テキストを報告してもらい、その内容について討論する。
鵜　沢　秀 Masaru Uzawa	産業組織論に関する事、産業政策に関する事、ゲーム理論の応用による寡占理論、実験経済学に関する事、パソコン利用による経済学学習方法について、および応用ミクロ経済学に関する事などについて	<p>3年次には、テキストの輪読を中心にして、基礎学力をつけてもらいます。また、個別テーマを決めるための準備期間にします。毎月1回、コンピュータ室において Excel, PowerPoint, HTML, MATHEMATICA などについて基本的な勉強をします。そこでは、簡単なプレゼンテーションに慣れてもらいます。また、ゼミでは報告された内容について、各自が意見を述べあい、議論を高めて行きます。</p> <p>4年次には、プレゼンテーションを含む個別研究発表とディスカッションを通じて卒業論文の作成をめざします。毎月1回、コンピュータ室において主にPowerPointを使った卒業論（骨組みから完成へ）のプレゼンテーションを行います。</p> <p>3年次および4年次にかかわらず、学生懸賞論文に応募するのを推奨します。</p> <p>お互いに協力しあって、各自の能力をより高めることを目標にゼミの運営をしたいと思っています。「協力の利益」を体験しましょう。専門知識を習得し、応用できる能力を身につけてもらうのはもちろん、自分の意見や考えを適切に相手に伝える能力（技術）を磨きあげてもらいたいと考えています。</p>

担当教員名 Seminar Name	テ ー マ	概 要
<p>江 頭 進 Susumu Egashira</p>	<p>(1)本年度は、複数の経済学者の論文を読むことによって、各経済学者の理論や思想の違いを対照する。特に、現代市場社会に対する彼らの見解と展望に焦点を当てる予定である。</p> <p>(2)大学生として必要なコミュニケーション能力を高めるため、ディベート、プレゼンテーションの訓練を行う。</p>	<p>(1)本年度は、経済学者(ハイエク、ヒックス、ケインズ、シュンペーター等)の比較的短い文章を10~15本程度読む予定である。各ゼミ生はそれぞれの担当論文を順番に報告してもらう。</p> <p>(2)学内外の他ゼミと合同でディベートや研究のプレゼンテーションを開催する。</p> <p>(3)春、夏等に課題図書を読んでもらい、比較的短いレポートを提出してもらう。</p>
<p>佐 野 博 之 Hiroyuki Sano</p>	<p>公共経済学。経済政策全般。</p> <p>当ゼミでは、公共部門の経済活動に関する問題をミクロ経済学の組み合わせの中で考え、分析していくことを、最終目標とします。規制緩和、公営企業の民営化、地方分権といった「構造改革」に関連するテーマはもちろんのこと、年金・医療問題、環境問題といった21世紀の日本や世界が抱える問題も公共経済学の研究対象です。</p>	<p>初年度の前半は、公共経済学の文献を輪読します。その後は、いくつか関心のあるテーマを見つけ、それらに関してグループごとに研究します。さらに、それらのテーマに関して討論会を行います。こうして、各自が関心を持ったテーマを深く掘り下げて研究し、4年次での卒業論文につなげていく予定です。公共経済学に対する理解を深めることはもちろんのこと、説得力のあるプレゼンテーションと積極的なディスカッションの能力を身につけることも目標の一つです。ちなみに、過去に提出された卒論のテーマは、環境問題や教育問題から年金・医療問題、さらにはスポーツへの公的な関わりに至るまで様々です。</p>

担当教員名 Seminar Name	テ ー マ	概 要
<p>柴 山 千 里 Chisato Shibayama</p>	<p>今日、世界はグローバル化のなかでますます国境を越えた取引が盛んになっています。そのような中で私たちのくらしや世界との結びつきはどのようになっているのでしょうか？ グローバル化の中の日本の姿はどのようなもので、どこへ向かって行くのでしょうか？</p> <p>このような疑問に対し、国際貿易の理論を勉強し、通商白書などを使って現状を検討することで、ゼミ生みんなで、また卒論を通じて自分なりの答えを見つけ出してゆきましょう。</p>	<p>3年次のゼミでは、前期に国際経済学の教科書をレポーター方式で発表し、国際貿易の理論を勉強します。後期には、通商白書を読み、ゼミ論を作成し、インナーゼミナル大会で発表します。4年次のゼミは、卒論指導を行います。</p>
<p>渋 谷 浩 Hiroshi Shibuya</p>	<p>国際金融およびファイナンス理論の学習を目標とする。毎日、新聞や TV ニュースで報道されている株価、為替レート、金利の変動は国民経済、企業経営、家計経済に大きな影響を及ぼす。したがって、これら重要な経済変数に関する理論を正しく理解することは、世界経済の中で政府、企業、個人が正しく判断し行動するために必要不可欠な条件である。渋谷ゼミでは、今日の世界および日本で起こっている政治・経済・社会の出来事について自由に議論しながら自分で考える力を養い、世界経済と日本経済の将来および進むべき方向について考察する。ゼミ生達による株式投資の模擬コンテストなどを通じて実践的に金融市場の仕組と機能および資産運用（証券投資）に関する基礎知識を習得する。また、人間の思考・推論・行動に関する最近の研究を通じて、不確実性の下での合理的行動、自由と創造性に表れる人間の本质、人生の目的と手段について考える。</p>	<p>3年次には、指定する文献を読んで各自発表し、世界経済および日本経済の出来事について自由に議論を交わしながら、それらを理解するのに必要な経済知識を学ぶ。ゼミ生は、自主的・能動的に学習することが期待されている。</p> <p>4年次には、3年次に学習した経済知識および研究方法に基づいて卒論を作成する。</p>

担当教員名 Seminar Name	テ ー マ	概 要
角 野 浩 Ko Sumino	財政学および公共経済学全般に関する知識の習得を目的とします。また、ミクロ経済学の復習から基礎理論を固めます。そして、現実の経済状況を理論的な視点から眺める事が出来る事を目指します。	3年次は、財政学に関する洋書の輪読を行ない、毎回報告者によりレポートをして頂きます。また、ミクロ経済学のテキストを併用し、実際に問題を解きながら、基礎理論を復習します。 4年次は、各自で財政学および公共経済学を中心に興味のあるテーマを選び、レポートを重ねた上で、卒業論文を作成します。
寺 坂 崇 宏 Takahiro Terasaka	日本経済の直面している問題(例えば、所得格差の問題)について、データを使って分析します。	<b>3年ゼミ</b> 報道番組や新聞などでも話題になる、日本経済のさまざまな問題について、公表されているデータをもとにして分析して行きたいと思えます。これまでのゼミでは、例えば「日本の所得格差は本当に拡大しているか？」や「今後働く人が減ったとき、日本経済はどうなってしまふのか？」などをみなさんと考えてきました。また、分析を適切に進めるために、データから正しく情報を取り出す方法について、基本的なことから学びなおします。さまざまな日本経済の問題を、データを上手に使って分析できるよう、配慮したいと思います。 <b>4年ゼミ</b> これまでの勉強で修得してきたことをできるだけ生かして、卒業論文を執筆していきます。みなさんの関心のある日本経済の問題を、卒業論文のテーマとします。大学を卒業した後も、このゼミで学んだ内容を生かしていけるようにしたいと考えています。 *ゼミナール活動を通じて、経済問題に限らずいろいろな社会問題について、自分なりの視点や予想を設定し、それを検証できるようになることを、みなさんの目標とします。

担当教員名 Seminar Name	テ ー マ	概 要
<p>中 村 健 一 Ken-ichi Nakamura</p>	<p>私たちの行動（働くことや学ぶことなど）は、期せずして私たちが相互に関わりあい、社会的関係を形成するという役割を担っています。そしてこのような社会的関係の多くは経済的な側面を持っており、その分析には経済学が有用です。</p> <p>経済学によって我々の形成する社会について学び、同時に、ふだん語られない経済学の背景となる知識についても注目しながら、様々なことについて考えてみましょう。</p>	<p>基礎的な経済学の能力を養った後に、その応用となるような主題を選んで卒論の作成に取り組んでもらう予定です。参加者の関心に応じて、テキストややり方が変わっていくのが当ゼミの特徴です。</p>
<p>花 田 功 一 Koichi Hanada</p>	<p>景気循環の理論と実証 景気循環の基礎理論を勉強し、それにもとづいて戦後日本の景気循環について研究していきます。</p>	<p>下のような文献を輪読する形式で進めていきたいと思ひます(具体的には後で相談の上決めたいと思ひます)。</p> <p>指導テキスト及び参考書</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・井村喜代子『恐慌・産業循環の理論』有斐閣，1973年</li> <li>・林 直道『恐慌の基礎理論』大月書店，1976年</li> <li>・岩下 有司『景気循環の経済学』勁草書房，1994年</li> <li>・北村 洋基『岐路に立つ日本経済』大月書店，2006年</li> <li>・古川 正紀『管理資本主義と平成不況』ミネルヴァ書房，1999年</li> </ul>

担当教員名 Seminar Name	テ ー マ	概 要
<p>平 井 進 Susumu Hirai</p>	<p><b>西欧の歴史・文化---ヨーロッパの日常生活史</b>            日常的な文化・生活のあり方を歴史社会的に眺めて、個人を取り巻く社会秩序の枠組みと変化を考えます。例えば家族史です。それが扱う家族と結婚、ジェンダーとセクシュアリティは、私的な世界の問題にみえますが、文化や道德、人口や社会福祉に関わるため、現在の少子化問題の対策議論のように、古くから社会的な規制や国家の政策の対象となり、意外にもその時々隠れた政治的関係や経済事情が読み取れます。こうした勉強を通じて、既存の道德や公定の見解、常識的な価値観を相対化し、自律した個人として公正かつ社会的に判断することができる批判的な知性を養いましょう。</p>	<p>関連する基本書を輪読します(3-4週に1回程度レジメ当番が回ります)。また、時々ドイツ映画・フランス映画を中心に戦争の記憶や社会問題を扱うヨーロッパ映画を観て歴史・文化・政治の相互関係も考えたいと思います。卒論は西洋史に関するテーマを選んで、調査してまとめます。</p>
<p>廣 瀬 健 一 Ken-ichi Hirose</p>	<p>マクロ経済学、金融ファイナンス論、国際マクロ経済学・国際金融論            特に、経済学的な意思決定における「時間」というファクターに焦点を当てた分析            (詳細は本ゼミのホームページの担当教員紹介を参照)を積極的に取り入れて学習します。</p>	<p>3年次:テキストの輪読などを通じて、本ゼミの研究主題に関する基礎的な知識を身につけます。            4年次:卒業論文の作成に向けて、各自の個人研究の発表を行います。            (卒業論文では本ゼミの研究主題と無関係なテーマを選択していただいても結構です)</p>

担当教員名 Seminar Name	テ ー マ	概 要
藤 生 源 子 Minako Fujio	このゼミの目的は、経済学の理論を用いて今日の社会で起こっている様々な経済問題を自分で分析し議論できる力を養うことです。卒業論文の研究テーマは各自の興味にまかせるが、ミクロ経済学全般及び経済成長・経済発展に関するものが望ましい。	3年次では、ミクロ経済学のテキストの輪読を通して経済学の基礎を固めつつ、新聞や雑誌(Financial Times, The Wall Street Journal, Economist 等)の記事について経済学的視点から議論を交わし応用力を高めます。様々な問題を論じる中で卒業論文のテーマを見つけることを最終的な目標とする。 4年次では卒業論文の指導を中心に行う。途中経過等の発表を通して論文を完成させる。
船 津 秀 樹 Hideki Funatsu	国際経済学の理論的および実証的な研究	3年次においては、国際経済学の英文テキストを輪読するとともに、研究論文の書き方について指導する。 4年次においては、各自の設定したテーマに基づいて、卒業論文を執筆する。執筆の過程では、途中経過を報告し、ゼミ生相互で論評しながら、完成させる。



担当教員名 Seminar Name	テ ー マ	概 要
<p>松 家 仁 Jin Matsuka</p>	<p>「自ら目標を設定し、課題を見つけ、資料を集め、研究する」 これができるようになることに主眼を置き、そのための手段として歴史に関するテーマ、ヨーロッパに関するテーマで学生が卒業論文を書けるようになることを目標としている。しかし、卒業論文の題材については、学生の希望を優先してきており、これまでの卒業論文の課題としては、経済学科にある歴史ゼミとして、「ペレストロイカ」「日露戦争」などといったロシア・東欧関係の論題のみならず、「アジア諸国の経済」、「北海道の歴史」、「道州制」など自由度の高いテーマも認められてきている。</p>	<p>テーマを設定し、プレゼンテーションを行う。その中で単に知識の獲得のみならず、また情報を発信する手段、方法、能力などを身につけることも期待している。 現在までのところ、前半は読書会、後半は発表・報告を中心にゼミナールは運営されてきているが、この点についても学生の希望を優先する予定である。</p>
<p>山 本 賢 司 Kenji Yamamoto</p>	<p>ミクロ経済学</p>	<p>3年次：ミクロ経済理論の習熟を目的に、下記の図書を輪読する。なお、同書は、市場経済を巡る豊富な事例を述べており、理論そのものを解説してはいない。読み進みながら、教員が適宜関連する理論を補足する。 指導テキスト及び参考書 John McMillan; <i>Reinventing the Bazaar: a Natural History of Markets.</i> (NY: W. W. Norton, 2002).  4年次：卒業論文の指導。</p>
<p>横 田 宏 治 Koji Yokota</p>	<p>マクロ経済学を中心とする経済理論の研究</p>	<p>本学の短期留学プログラムに在学中の留学生との合同ゼミです。 このため、ゼミ内の公用語は英語です。英語で論理的な文章を読むだけでなく、うまくなくとも英語で議論ができることが要求されます。今年度は、秋から既にゼミがスタートしているため、春から加わる学生は中途から参加する形になりますが、ゼミは春から参加しても問題ないようにしてあります。</p>

担当教員名 Seminar Name	テ ー マ	概 要
<p>和田 良 介 Ryosuke Wada</p>	<p>金融資産価格の理論的、実証的研究。このために以下のことを行います。特に先物、オプションなどの金融派生商品の取引方法や価格理論を主に学びます。公式の計算やシミュレーションに必要なコンピューター操作の練習も行います。</p>	<p><b>a. 3年次:</b> 金融理論の学習。英語の教科書を採用した場合には問題演習を中心に行います。プログラミング言語やコンピューター・ソフトの練習。Excel、<i>Mathematica</i> (数学ソフト)、<i>Latex</i> (数式もきれいに書ける組版ソフト) を使います。Excel の操作を自動的に行うために、<i>Visual Basic</i> (プログラミング言語) を用います。数学や数学的なモデルは、コンピューターを使って「試しに計算してみる」、「グラフを描いてみる」、「シミュレーションをやってみる」ことを通じて理解していきます。</p> <p><b>b. 4年次:</b> 前期は 5 月中旬から教科書の演習問題を解いて行きます。夏休みから卒論を開始します。例年、12 月中旬には卒論が終わります。</p> <p><b>c. 卒論:</b> 共同で卒論を作成しています。また卒論短縮版を用いて、「懸賞論文」と呼ばれていたビジネス創造センターが募集する論文コンテストに応募してきました。11 月末～12 月上旬が締め切りでした。</p> <p><b>H 18 年度:</b> 「国債ポートフォリオのリスク管理」。信用金庫の国債ポートフォリオを想定し金利リスクの対応方法を検討しました。学生論文賞入賞。<b>H 17 年度:</b> 「Value at Risk」。ポートフォリオのリスクの測定と管理方法を検討しました。<b>H 16 年度:</b> 「デリバティブの失敗」。大きな損失の事例を取り上げ原因を分析しました。「懸賞論文」佳作。<b>H 15 年度:</b> 「変動利付国債の価格評価」。コンピューター・シミュレーションを行い理論価格を求めました。「懸賞論文」佳作。</p> <p><b>d. 成績評価:</b> 夏休みか冬休み後に進捗を確認するためテストを行います。エクセルシートの中で駒を進める <i>Visual Basic</i> による「すごろく」のプログラム作成でした。宿題に取組んできた人はこの程度は作れます。</p>

## 商学科

研究指導は2年連続で12単位

担当教員名 Seminar Name	テ　　マ	概　　要
穴　　沢　　眞 Makoto Anazawa	日本とアジアの経済的つながりを日本企業の海外進出を中心に考察します。主に製造業を取り上げ、貿易、直接投資、現地経営など様々な角度から分析を試みます。	テキストの輪読を中心に進めますが、レジメの作成や報告を行ってもらい、これをもとに議論します。3年の後期には具体的な企業の事例研究を行います。
伊　　藤　　一 Hajime Ito	現代企業マーケティング活動を理論的に分析する。今年度は調査対象分野の例としては、医療機関のマーケティング戦略とCS経営を中心に研究する。具体的には医療機関の協力を得て、院内のCS活動や事業展開に関する研究をおこなう。医療スタッフや病院経営者（院長・理事長・事務長）とのヒアリング調査の実施やアンケート調査の実施により設定した課題を解決していく。協力医療施設は札幌市、小樽市、東京都にある各医療施設。	3年次はテキストを中心に理論的研究と実践的スキルの習得。 内容： アンケート法（調査設計、調査票の作成、統計分析、コンセプトの作り方）インタビュー調査法（具体的テーマに則して実践） 4年次：具体的テーマにそくして調査結果の分析。卒業論文用の研究。
大　　矢　　繁　　夫 OHYA Shigeo	銀行、マネーシステム、金融システム（株式市場を含む）に関する基礎的研究及び最近の諸問題（金融システムの変貌、新しい金融とリスク管理、地域金融のあり方、株式市場をめぐる諸問題）の解明。	3年次：左記テーマに関するテキストの輪読と討論（発表者はレジメ作成）及び新聞・雑誌の記事・論文の紹介と討論を行います。またインターゼミに向けた論文の作成も行います。 4年次：前半は、各人の卒論研究に関わるテキストの紹介と検討を行い、後半は卒論作成に向けた具体的な指導を行います。

担当教員名 Seminar Name	テ ー マ	概 要
小 田 福 男 Fukuo Oda	<p>日本企業の競争力 生産現場の視点から</p> <p>近年、自動車を中心とした製造業の一部の分野で日本企業が好業績をあげています。このような分野での日本企業の国際的な競争力が再度見直されてきています。そして、その強い競争力の秘密を生産現場、ものづくりの現場に求める調査研究が進行しています。今年度は、ものづくりの現場から見た日本企業のすぐれた特質を明らかにしようとしている研究動向を取り上げます。</p>	<p>下記の指導テキストを輪読し、討論します。討論には積極的に参加することが求められます。研究主題に関心があり、一定の準備作業（予習）をして出席すれば、それはだれでもできることです。</p> <p>指導テキスト及び参考書  藤本隆宏著『日本のもの造り哲学』（日本経済新聞社、2004年）  藤本隆宏著『能力構築競争』（中央公論新社、2003年）  藤本隆宏著『生産システムの進化論』（有斐閣、1997年）  『ものづくり白書(2005年版)』（ぎょうせい、2005年）</p>
乙 政 佐 吉 Sakichi Otomasa	<p>管理会計（原価計算およびコストマネジメントを含む）が研究の対象となります。ケース、雑誌・新聞記事、インターネットのようになささまざまな媒体から獲得できる資料も使用しながら、企業経営において管理会計がどのような働きをしているのかについて学びます。なお、研究対象は企業組織が基本となりますが、役所や病院のような非営利組織、アルバイト先の職場、クラブ・ゼミ、家族なども「組織」の1つです。本ゼミでは、企業組織だけでなく自らの身近な組織についても、管理会計の視点から考えていくことを主題としています。</p>	<p>初年度においては、管理会計に関する基本知識を身につけるため、テキストを輪読します。輪読の際には、事前に報告者を決めて発表してもらいます。発表を通じて、プレゼンテーションの方法やレポートの書き方、あるいは、議論の仕方などを学びます。第2年度からは、各自の研究テーマについて報告してもらいます。研究報告・討論を順次積み重ね、コミュニケーション能力および問題発見・問題解決能力を高めながら、卒業論文を作成していきます。</p>

担当教員名 Seminar Name	テーマ	概要
坂柳明 Akira Sakayanagi	<p>監査論及び財務会計論。会計・監査の研究を行う上で、制度を理解することは重要だが、制度を条件とした思考の呪縛を受けるのは、何か新しいものを生み出す上では障害になる。特定の状況に直面した監査人の対応や、特定の場面での会計処理が論理的にどうなるのかを、制度とは別に自分の頭でよく考え、制度との距離を把握することが、研究の第一歩である。この研究指導では、こうした頭の訓練を重視したい。</p>	<p>(1)：財務会計あるいは監査論のテキストを参加者が担当する。(2)：担当者は事前に(目安は1週間前)参加者に対して、自分がわからないところ、自分はどのように考えるといった「問題提起」をいくつか提出する。(3)：当日は、発表者と参加者がその「問題提起」をもとに討論する。その際、「問題提起」に対する回答を回答者(全員にするかどうかは未定)に用意してきてもらう。</p> <p>なお、文献だけでは議論の素材が出てこない可能性があるため、関心のある参加者には、日本やアメリカの財務諸表や監査報告書を集めてきてもらうことを考えている。例えば、[1]：オリックス株式会社2003年連結財務諸表「連結財務諸表注記 29 金融商品の見積公正価値」や、[2]：株式会社アドバンテスト2003年連結財務諸表「連結財務諸表注記 注9 金融商品の公正価値」には、それぞれ次のように記されている。</p> <p>[1]  <u>公正価値の見積もりは、入手可能な市場情報、当社や子会社が新規契約を行う際の適用利率に基づく割引現在価値、その他の評価方法によって決定されております。市場価格を容易に入手できない場合は、経営者が公正価値を見積もっております。そのためその見積もりは、当該金融商品が現在または将来の市場において取引されるべき金額とは異なる場合があります。金融商品から生ずるキャッシュ・フローを確実に予想することができないため、異なる前提条件や評価方法を使用した場合には、算出される公正価値の見積りに重要な影響を与える可能性があります。</u>(傍線筆者)</p> <p>[2]            次の表は、平成15年3月31日現在のアドバンテストの金融商品の帳簿価値と見積り公正価値を示しております。公正価値の見積りは当該金融商品に関連した市場価格情報及びその契約内容を基礎として期末の一時点で算定されたものであります。これらの見積りは<u>実質的に当社が行っており、不確実性及び見積りに重要な影響を及ぼす当社の判断を含んでおり、精緻に計算することはできません。このため、想定している前提条件の変更により当該見積りは重要な影響を受ける可能性があります。</u>(傍線筆者)</p> <p>[1]、[2]からわかるのは、金融商品の評価において公正価値の見積もりが必要になる場合に、前提条件が複数考えられ、その前提条件によっては、公正価値の見積もりが影響を受けると考えられている点である。経営者自身は1つの公正価値を決定し、財務諸表上認識するのだが、問題は、その見積もりが合理的かどうかを監査する際、本来複数の前提条件のもとに算定される複数の公正価値について、監査実施上の制約がない状況においてもどの公正価値が合理的なのかが監査人に判断できない場合があり得る、ということである。「経営者が見積もり数値を決定した場合には、監査人はその合理性の有無を必ず判断できるはずだし、判断すべきである。」との主張は自明だろうか？このように、新たな論点を見つける際に、事例の発掘が必要になることがある。</p>

担当教員名 Seminar Name	テ ー マ	概 要
高 田 聡 Satoshi Takata	経営史、なかでも、企業とヒトの関わりを中心とする研究。具体的には、経営と労働の相互関係、仕事倫理のあり方、などに関する歴史的、国際的な分析。	3年次：テキストの輪読・討論（活発な討議のなかで問題関心と分析力を養いたい）。 4年次：輪読・討論および卒業論文の作成（ゼミナリスト間の切磋琢磨を通じて論文作成を図りたい）。
高宮城 朝則 Tomonori Takamiyagi	流通システムとマーケティングの動態に関する理論的・実証的研究に取り組みます。商品の社会的流通の仕組み、企業の対応策、地域振興やまちづくりへの取り組みなど、様々な流通・マーケティング現象について理論と実証の立場から検討を加えていくゼミです。	当ゼミではマーケティングや流通現象を素材として、物事を的確に把握するためのスキルを学ぶことを主眼とします。このスキルには本（文献）を読むスキル、アイデアを考えまとめるスキル、それを表現するスキル、自分で調べるスキルなどを含みます。つまり、マーケティングを学ぶのではなく、マーケティングを通じてこれらのスキルを修得することを目指しています。 3年次：基礎文献輪読をつうじて流通システム・マーケティングにかかわる理論と研究方法を習得します。前期後半からグループによる実証研究を行います。 4年次：応用文献の輪読とともに、卒業論文の指導を行います。 通常のゼミに加えて、他大学との合同ゼミナール（研究発表会）も実施する予定です。

担当教員名 Seminar Name	テーマ	概要
田中幹大 Mikihiro Tanaka	<p>             テーマ：「地域中小企業の存立基盤と発展展望に関する研究」              現在さまざまに注目を浴びている中小企業を、とりわけ中小製造業の取り組みに着目し、日本経済、地域経済との関係から、「中小企業とは何か」という問題を考えていく。そこから翻って日本経済・地域中小企業の発展展望を検討する。そのために、中小企業の経済活動の現状と歴史的变化を、具体的な調査事例から、「下請関係」「サプライヤー」「二重構造」「産業集積」「クラスター」などをキーワードに、下請関係の変化、中小企業像の変化、産業集積の地域内分業関係・地域外との関係、技術集積との関係、地域経済政策との関係などから歴史的・多面的に考察していく。           </p>	<p>             地域経済を担っている中小企業（場合によっては大企業）の工場現場へのFW（フィールドワーク）・調査を主に行っていく。まずは、中小企業の工場へのFW・調査を実施し、製造現場を知ってもらう。次に、事務連絡や仮説の設定、質問事項作成などのFW・調査の仕方を学んでもらう。そして、学生自身の手によって興味・関心ある産業・企業へのFW・調査を計画・実行してもらい、その内容をレポート化して報告してもらう。続いて、日本経済の現状と歴史的变化、地域経済と中小企業とのつながり、産業集積の理論を文献学習し、地域中小企業の理解を深めてもらった上で、今後の日本経済、中小企業を展望するための論点を出し合っただisksカッションしていく。出し合った論点をもとに、文献学習とFW・調査の双方から学習・研究をしていき、その内容についてのレポート、論文を作成してもらう。中小企業という素材から学生たちには、日本の経済全体、地域経済の課題を考えてもらい、同時に問題発見能力、仮説設定能力や事務能力などを身につけていってもらふこととなる。           </p>
プラト・加ヲ Carolus Praet	<p>             このゼミでは、多国籍企業とその環境が互いにどのように影響を与えるのかをマーケティングの立場から議論していきます。例えば以下のようなテーマを扱います。日米欧多国籍企業はグローバル市場でどのようなマーケティング戦略を使い、また、どのようなマーケティングプログラムで競争優位を築こうとするのか？国内市場でのマーケティング戦略とマーケティング・ミックスはそのまま外国市場で使えるのか？様々な多国籍企業は実際にどのような行動をしているのか？文化と消費者行動はどのように関連しているのか？多国籍企業はそれにどのように対応しているのか？というようなテーマを議論します。グループ研究によって学生の情報検索能力、問題意識の育成、論文の書き方に関する知識等の促進を図っていきます。           </p>	<p>             3年次：国際マーケティングに関するテキスト、記事及びケースの輪読と討論。グループ研究。              4年次：卒業論文の制作に関する指導。           </p>

担当教員名 Seminar Name	テ ー マ	概 要
白 貞壬 Jungyim BAEK	<p>小売業における国際化という現象が具体的にどのような動きとして現実に現れているかを主な研究主題とします。日本市場に参入している外国の小売企業と国内の小売企業との競争関係だけでなく、外国市場に進出している日本の小売企業と外国企業、そして現地企業との競争関係を理論的に分析していきます。最終的には、小売業の国際化現象がどのような特徴をもち、流通全体に対していかなる影響を与えるかを明らかにします。</p>	<p>3年次においては、前期は、テキストの章立てに合わせて、報告担当者の報告をもとにディスカッションを行います。後期は、ケースを用いて理論的に分析し、設定したグループごとにその分析結果から導出された課題を選び解決してもらいます。4年次においては、前期は本の輪読、後期は卒業論文の指導を行います。</p>
前 田 東 岐 Toki Maeda	<p>現代社会のあらゆるところに存在している組織と、そこに参加する個人のありようについて、研究を行ないます。</p> <p>具体的には、組織における個人のモチベーションとリーダーシップ、さらにそれらの相関について研究する予定です。</p>	<p>3年次には、組織論に関する基礎的な知識の習得と、論理的に思考する力の向上を目指します。前期は、基礎的な文献の講読とグループでの討論を通じて、知識の習得に努めます。後期には、インナーゼミナール大会への参加を通じて、グループ研究を行ない、習得した知識の応用と実践を目指します。</p> <p>4年次には、組織論に関する知識を深め、個人の関心を深化させることを目指します。前期には、発展的な文献を講読し、より専門的な知識の習得を行ないます。後期は、個人での専門的な学習と、グループ討論を通じて、研究の成果を卒論に結実させていきます。</p>
前 田 陽 Akira Maeda	<p>原価計算・管理会計および企業経営に関わる諸問題。</p> <p>企業会計の本質とは、当該企業に關係する取引データを収集、処理し、それらを情報として企業内外の情報利用者に伝達することです。ここでは、そうした会計情報が企業経営にどのような影響を与えるのか、また企業経営にとってどのような会計情報が必要とされるのかを議論していきたいと思えます。</p>	<p>前期：原価計算・管理会計や企業経営に関する文献を輪読し、その基本的な知識を身につけます。</p> <p>後期：全体的なテーマの下、グループごとに研究テーマを決定し、テーマに沿って報告を行なっていきます。報告者以外は報告に対して、意見や質問をするという形をとります。</p>



担当教員名 Seminar Name	テ ー マ	概 要
渡 辺 和 夫 Kazuo Watanabe	<p>財務会計の理論と制度に関する研究</p> <p>会社法の制定により財務会計制度は著しく変化しました。それに対応して、財務会計理論の内容も大きく変わろうとしています。そうした財務会計の制度と理論について検討したいと考えています。</p>	<p>基本的にはゼミ生による報告発表および討論によって行われます。したがって、受身の姿勢ではなく、積極的に参加することが求められます。</p>
旗 本 智 之 Satoshi Hatamoto  玉 井 健 一 Ken-ichi Tamai  松 尾 睦 Makoto Matsuo	<p>企業の実例（ケース）を会計・市場・組織の観点から分析して、問題点を抽出し、解決策を立てるというスタイルに沿って、企業の経営について研究します。</p>	<p>第1期（3年次の1年間） 4週間を1単位とし、第1週目では主に会計分析、第2週では主に市場分析、第3週では、主に組織分析を行います。そして最終週である第4週は、解決策についてディスカッションを行います。こうした4週間を1単位とするケース分析を年間で7回程度繰り返します。</p> <p>第2期（4年次の前期） 特定の企業ないし組織を選択した上で、各自が分析を進めた上で前期終了までにケースレポートを作成します。</p> <p>第3期（4年次の後期） 卒業論文としてケースとケースレポートを作成します。</p>

## 企業法学科

研究指導は2年連続で12単位

担当教員名 Seminar Name	テ ー マ	概 要
石 黒 匡 人 Masato Ishiguro	行政法学上の重要問題の研究。	<p>第一に、行政法学上の重要問題に関する判例および学説の研究を中心にすすめることにより、行政法学の基礎を修得する。</p> <p>第二に、そこでえられた成果を基に、各自選択したテーマについて研究して論文を書くことにより、行政法学をより深く理解し、同時に法的思考力を身につけるようにする。</p> <p>ほぼ毎回全員に簡単な課題が与えられる。</p> <p>また、論文については、中間報告と最終報告が義務づけられる。</p> <p>3年次は第一段階の研究が、4年次は論文指導が、それぞれ中心となるが、3年次でも、卒業論文作成の訓練も兼ねて、3年次ゼミレポートを作成し提出してもらおう。</p> <p>(もちろん卒論までの内容は要求されないが、それに準じるもので、4年次履修登録のための条件である。3年次のゼミ開始時までにレポートを提出してもらい、それを発展させて、4年次ゼミ開始までに提出してもらおう。)</p> <p>単なる出席ではなく、議論への参加を伴う実質的な出席が、当然の義務である。</p>
一 原 亜 貴 子 Akiko Ichihara	刑法における解釈論上の基本的諸問題。	<p>3年次では、刑法上の重要問題について報告・討論を行う。前期は「未遂犯論」「共犯論」を中心に、総論における諸問題をテーマとしながら、刑法の体系的思考を学ぶ。後期は各論を扱う。4年次においては、各自の問題関心に基づき選択した卒業論文のテーマについて報告してもらおう。本ゼミを通じて、刑法総論・各論の基礎知識を習得すると共に、問題発見能力及び問題解決能力を身につけ、最終的には、得られた解決を説得的に表現する能力を養うことを目的とする。</p>

担当教員名 Seminar Name	テ ー マ	概 要
<p data-bbox="248 846 453 931">今 本 啓 介 Keisuke Imamoto</p>	<p data-bbox="480 358 903 1081">「政策研究～行政法の視点から～」 「政策研究」というと、ちょっと難しく聞こえるらしく、例年学生から質問を受けますが、簡単にいうと、よく新聞やテレビで出てくる国や地方公共団体の政策（ないし方針）を、行政法の視点を交えて（あるいは法的に）研究していくということです。もう少しいうと、小泉政権下で行われてきたこと、例えば郵政民営化、一連の規制緩和、イラク派兵、地方分権改革、税制改革、社会保障制度改革、教育改革等はすべて本研究指導での対象となるといってよいでしょう。その意味で、本研究指導は本学の研究指導の中でもかなり守備範囲の広い研究指導の一つであるといえるように思います。</p> <p data-bbox="480 1086 903 1771">政策研究を行う際には、経済学・政治学・行政学等様々なアプローチがあります。むしろ、従来政策研究が法学からアプローチされることはあまりありませんでした。企業法学科を選んだ学生の中には、こうした政策研究を端から法学の範囲外と考えている者も多いかもしれません。しかし、企業法学科の少なからざる学生が目指す公務員は、実は政策を形成することをその任務としているのであり、企業法学科の学生が、法学、なかんずく政策実現のための法である行政法の視点から政策を研究することは非常に有意義なことと思います。もちろん、他学科生も興味があれば是非受講していただきたいと考えています。</p>	<p data-bbox="906 358 1332 539">本研究指導では、各人に関心のある政策を一つ選んでもらい、その政策の研究を題材に最終的に卒業論文を書くことを目標としたいと思っています。</p> <p data-bbox="906 544 1332 613">具体的には、次のように進めてゆきます。</p> <ul data-bbox="906 618 1332 1010" style="list-style-type: none"> <li>・3年前期.....各人に関心を持つ政策を選んでもらい、それについての入門的な本(新書等)を読んで報告してもらいます。</li> <li>・3年後期.....行政法の研究をし、就職活動前に卒論のテーマを一応決めてもらいます。</li> <li>・4年前期.....就職活動の状況に応じてそのときに決めます。</li> <li>・4年後期.....卒論の報告を適宜してもらいます。</li> </ul>

担当教員名 Seminar Name	テ ー マ	概 要
齋 藤 由 起 Yuki Saito	民法全般に関する重要問題の検討。	<p>3年次においては、民法判例百選に掲載されている最高裁判例や最新の最高裁判例を素材として判例研究を行う。これにより、民法の基本的な知識・考え方および判例の読み方を徹底的に習得する。</p> <p>*判例研究は、報告者2名がレジюмеを作成し、報告者以外の者もゼミの前々日にホームページに私見や報告者に対する質問を書き込み(これは義務である)、ゼミ当日は全員が他人の書き込みもプリントアウトして持ち寄り、報告者による報告の後に参加者全員で議論するという方法で行う。</p> <p>4年次においては、自ら選択したテーマについて卒業論文の執筆に向けて報告してもらう。</p>
佐 古 田 彰 Akira Sakota	国際法に関する諸問題の研究。	<p>3年次は、現実起こった国際法上の紛争について、ゼミ生が原告、被告及び裁判官の3班に分かれて、裁判を行います。4年次は、卒論指導を行います。</p> <p>こういった勉強を通じて、法的なものの考え方・論理的思考、文章読解力・作文能力、プレゼンテーションの仕方などの基本的能力が身に付くよう、指導します。</p>

担当教員名 Seminar Name	テ ー マ	概 要
<p>多 木 誠一郎 Seiichiro Taki</p>	<p>商法（会社法、手形法・小切手法、商法総則・商行為法）の重要問題</p> <p>研究主題 商法を対象にします。商法のどの分野を具体的に取り上げるのかは、ゼミ受講生の皆さんと相談して柔軟に対応したいと思います。</p> <p>なお、担当教員は協同組合に関する法的問題に関心があります。農協・生協・漁協・信用金庫・信用組合・労働金庫をはじめとする協同組合（ないし協同組織）に就職を希望される等、興味のある方がいらっしゃれば、協同組合法も取り上げます。</p>	<p>3年生は、まず教科書を輪読します。11月ぐらいから裁判例ほかを用いて事例研究を行います。具体的には例えば、事例1件ずつを1人が担当して発表していただき、その上で参加者全員が質疑応答する、あるいは事例1件ずつについて参加者全員を原告・被告・裁判官の3つのグループに分け、各役割を演じるといった方式が考えられます。</p> <p>4年生は、続けて事例研究を行った後、卒業論文の執筆に向けた報告を各自していただきます。</p> <p>以上の学習計画は、1つの案です。担当教員と受講生の皆さんが意見を出しあって、ゼミでの学習計画を一緒に作っていきましょう。</p>
<p>玉 井 利 幸 Toshiyuki Tamai</p>	<p>会社法の重要問題。</p>	<p>3年次は、会社法の重要判例の検討を行います。</p> <p>4年次は、卒業論文の指導を行います。</p>
<p>遠 山 純 弘 Junkou Tooyama</p>	<p>日常生活において生ずる紛争を自らの力で解決する力を養う。日常生活において生ずる紛争は、法律の教科書にのっているような単純なものではない。そもそもその紛争が何の問題かわからない、というのが通常であろう。しかし、大学で法律を勉強したにもかかわらず、このような問題を自分で解決できないのであれば、何のために大学で法律を学んだのかまったくわからなくなる。そこで、本ゼミナールでは、もちろん、4年次に卒論を書くということも念頭に置きつつも、自分の力で日常生活において生ずる紛争を解決できるようになることを目的とする。</p>	<p>3年次は、請求権構成および要件・効果論という法律の基本的な考え方の徹底的な習得を目的とする。また、私が見る限り、民法についての基礎知識がなかったり、判例を知らないという者がかなりいる。そこで、請求権構成および要件・効果論の習得と並行して、民法の基礎知識および判例の確認も行っていく。おそらく後者が中心となると考えられる。4年次には、3年次に習得した法律の基本的な考え方をを用いて卒論を書く。</p> <p>なお、さらに具体的なゼミの進め方については、3年次のゼミの初回で説明する。</p>

担当教員名 Seminar Name	テ ー マ	概 要
<p>中 村 秀 雄 Hideo Nakamura</p>	<p>・3年次ではまず「契約法」を学ぶ。あわせて国際商取引に使われる英文契約書を資料として、国際商取引契約について学ぶ。</p> <p>・4年次ではウィーン国際動産売買条約を逐条分析する。実際に国際取引を自分達で立案、実行する。</p>	<p>・契約法の基本を理解する。</p> <p>・英文国際取引契約書を逐条的に訳しながら、締結の過程を追跡すると共に、契約条項の法的意味・目的・効果を法的に分析することを通じて、国際取引を実務・法律の両面から学ぶ。参加者は資料を事実・法律面から分析してきた上で発表する。</p> <p>・理論面から国際契約をさらに理解するために、ウィーン国際動産売買条約を、日本の契約法と対比しながら研究する(4年次)。</p> <p>・4年次には3年次で学んだ知識をもとに、国際取引を自分たちの力で立案・実行する。そのことを通じて、チームで目的達成のために力をあわせることを学ぶと共に、社会に出て役に立つ知識を身につける。</p>
<p>林 誠 司 Seiji Hayashi</p>	<p>民法の重要問題の研究。</p>	<p>3年次においては債権法又は物権法を中心とした重要問題についての判例・学説の研究をゼミ形式(報告及び討論)ですすめることにより、民法学の基礎を習得するとともに、各参加者におけるこれらの重要問題についての理解の深化を図る(レポートを提出してもらうこともある)。4年次においては、上記のゼミ形式での研究と並行して、3年次までに習得した知識・ノウハウを基に、各自の問題関心に基き選択したテーマについて報告をし、論文を執筆してもらう。最終的な目的は、論文の完成もさることながら、それを通じた法的思考の涵養である。</p> <p>なお、債権法及び物権法以外の分野の問題(総則、家族法等)に取り組みたい旨希望する参加者がいる場合、相談に応じる。</p>

担当教員名 Seminar Name	テ ー マ	概 要
<p>道 野 真 弘 Masahiro MICHINO</p>	<p>会社法に関する論点を中心とする。 会社法は商法から独立し、新たな法律として制定された。また、商法その他関連する法律がこれに伴って整備されている。会社法は、なぜ改正（制定）される必要があったのか。新たに生じた論点や、従来から問題となっていた論点が改正によってどうなるのか、検討することとする。 なお、商法中、会社法以外のテーマについて研究したいという者は、適宜個別に対応する。 その他、（文章力、発言力など広い意味での）プレゼンテーション方法を身につける機会も提供する予定である。</p>	<p>論点や判例について、学生の担当者から報告してもらい、これに対する質疑応答というスタイルをとる。報告者以外にも、必ず発言することが求められ、全員必然的に予復習もすることが求められる。 以上のほか、3ヶ月に1回程度、他のゼミとの合同ゼミ(ディベート大会)が開催されるため、法律学にかかわらず、さまざまな問題をグループでまとめ、発表の準備をするなどの作業もある。 なお、通常は3、4年合同でのゼミを予定しているが、月に1回程度別開講とする予定である。詳細は追って連絡するが、4年生の卒業論文指導、3年生の基礎指導を行うこととする。</p>
<p>本 久 洋 一 Yoichi Motohisa</p>	<p>現代労働法の現状と課題。現在の労働問題について、毎回、判例をひとつ取り上げて議論している。具体的には、企業買収と労働関係、職場におけるセクシャル・ハラスメント、パート・アルバイトの法的地位、内部告発と企業の懲戒権、労働条件の不利益変更などが、これまでゼミで取り上げてきたテーマである。</p>	<p>ゼミは、ディベート形式を採用している。具体的には、ひとつの判例について、労働者サイド、使用者サイドに分れて、討論を行っている。好評につき、今年度もディベート形式を継続する予定である。</p>
<p>結 城 洋 一 郎 YUKI Yoichiro</p>	<p>立憲主義の基本原則と現代憲法に関する諸問題</p>	<p>3年次生は、予め決定したテーマに基づき発表と討論を行う。 4年次生は、卒論の作成を行いつつ中間発表を行う。</p>

## 社会情報学科

研究指導は2年連続で12単位

担当教員名 Seminar Name	テ　　マ	概　　要
阿　部　孝太郎 kotaro Abe	<p>会議や文書作成などの、ビジネスのコミュニケーションの諸問題。特に、対面型の場合とITを用いた場合の比較研究(主として社会心理学や社会学的観点)。</p> <p>ひらたく言えば、「組織コミュニケーション論」の授業を、ITの問題も絡めて、より深く突っ込んだテーマ。たとえば、授業で扱っていないものとしては、「電子メールやブログ等は、(ビジネス上の)人間関係をどのように変えたのか」、「電子会議は、アイデア創出に本当に向いているのか」などが挙げられる。</p> <p>上記テーマに関して、学生と一緒に、研修用プログラム(堅いものからゲーム感覚のものまで)を考えたり、様々な実習・実験を行う予定。</p>	<p>前期は半分程度輪読、残り半分をブレインストーミング(集団によるアイデア創出法)などの実習的なものに当てる。</p> <p>後期は、卒論に向けて、徐々に、各メンバーの自主研究に重点を移して行く。</p> <p>研究方法としては、ビデオの撮影や実験の参加など、現場に力点を置いたものを中心とする(当該テーマは、たんなる数字弄りでは、本質は捉え難いことが多いので)。</p>
大　津　晶 Shou Ohtsu	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市空間の特性と望ましい都市構造の解明</li> <li>・OR手法の都市計画・地域科学分野への応用</li> <li>・積雪寒冷地の都市計画</li> </ul>	<p>3年次はディベート等を用いた論理的思考方法の訓練と札幌・小樽近郊の都市計画の現場見学を行い、身近な環境の都市計画的課題を題材にして調査・分析・報告・議論の作法を身につける。同時に、この演習を通して“自分は何に興味があるのか”を発見することが目標である。</p> <p>4年次は各自の興味関心にしたがって研究を進め、卒業論文を完成させる。</p> <p>卒業論文のテーマとしては、都市計画、地域科学、社会工学に関連するもので、指導可能と判断できるものは基本的に受け入れる。</p> <p>なお大津ゼミは通常の研究指導の時間帯以外にも、学外でのフィールドワークや夏期のゼミ合宿、他ゼミとの交流などを実施しており、ゼミに所属する学生は積極的な参加を強く求められるのでその点を確認しておくこと。</p>



担当教員名 Seminar Name	テ ー マ	概 要
<p>小笠原 春彦 Haruhiko Ogasawara</p>	<p>「社会科学・行動科学における統計的手法とその応用」 統計学は方法の学問であるが、このゼミでは方法の習得とともに、社会・人間にかかわる分野への統計的手法の適用を扱う。ゼミのメンバーは、最終的には卒業論文の一環として自らデータを取得したり、既存のデータを再分析することが期待される。適用の分野は、地域、国際、キャンパス、教育、福祉、生きがい等の中から自由に選ぶことができる。</p>	<p>統計解析パッケージのマニュアルや関連テキストを分担して読み、統計手法を学習するとともに、パッケージの扱い方を学ぶ。その後、統計解析用言語により、グラフィックな表現法や計量的方法の習得につとめる。卒論研究では、実現可能なテーマのしぼりこみと実際のデータ解析を行う。</p>
<p>加 地 太 一 Taichi Kaji</p>	<p>「最新情報科学とORによるシステムデザインとその利用、応用」 基本的には、情報科学、OR、コンピュータについて勉強し、論理的問題解決能力、コンピュータ処理能力、発表能力をトレーニングします。主に以下のようなテーマなどを扱うでしょう。 新型アルゴリズム(プログラム)のデザインとソフトウェア作法 オペレーションズ・リサーチ(OR)とその活用 モダン最適化理論とその応用 コンピュータと情報科学の利用と応用 金融工学 意思決定と経営効率評価分析 商品企画戦略手法の適用と消費者行動心理の応用  また、興味あるいは挑戦してみたいテーマがあるならば、各自の責任のもと尊重したいと思います(面白いことならやってみようという考えです)。要するに、問題を自分で発見し、どう取り組み解決するかということが主題となります。 ゼミのホームページ( <a href="http://www.res.otaru-uc.ac.jp/~kaji/">http://www.res.otaru-uc.ac.jp/~kaji/</a> )のゼミの研究内容のところに過去のゼミ生の卒論が示されています。</p>	<p>各人が興味あるテーマを選択し、それぞれについて調査発表を行い、ゼミを進めていきます。それぞれ個人のテーマ、個性に合わせて指導を行い4年次の卒業研究の完成を目指します。具体的には各自が担当箇所を決め(自分で問題を発見し)、その担当箇所を発表してもらいます(問題解決を進めていく)。  さらに、最新プログラムデザインおよびネットワーク上における情報発信手法、ソフトウェア活用法などの勉強会を行い情報処理技術の能力を高めていきます。</p>

担当教員名 Seminar Name	テ ー マ	概 要
<p>木村 泰知 Yasutomo Kimura</p>	<p>自然言語処理が研究対象になります。自然言語処理とは、コンピュータ上で言葉を処理することです。たとえば、「アメリカの大統領は誰ですか」のような質問に答える質問応答システム、英語から日本語へ翻訳する機械翻訳、長い文章を短く、読みやすく変換する文章要約、執筆した文章を修正する文書校正、迷惑メールにフィルターをかけるspamメール対策などがあります。</p> <p>自然言語処理以外にも興味があれば、希望を聞きながら、研究テーマを決めます。</p>	<p>週1回、自分の研究テーマの進捗状況を報告してもらいます。</p> <p>3・4年合同ゼミを予定しています。</p>
<p>酒 井 弘 一 Koichi Sakai</p>	<p>事業や組織の運営を中心とした課題に、具体的な戦略的答えを策定、実施できる能力の育成を目指す。</p>	<p>a. 戦略理論の理解 上記目的の達成のため、方法論や周辺知識に関する文献を多読(年間30冊程度)し報告する。</p> <p>b. プロジェクトの実施 戦略具体化の方法と具体化の上での課題克服を体得するため、ゼミ生共同でプロジェクトを実施する。</p> <p>c. それらの成果と経験を踏まえ、卒業論文の作成に取り組む。</p>

担当教員名 Seminar Name	テーマ	概要
佐山 公一 Koichi Sayama	<p>人間の認知過程（情報処理過程）のしくみを調べる。心理学実験を行い、認知過程のモデル化を行う。当ゼミでは、言葉の理解、顔の認知および潜在記憶の基礎的なメカニズムを調べている。</p> <p>インターネットを介した通信技術が進展しているにもかかわらず、情報の中味を人がどのように伝えるかに関してはさほど解明されていない。相手の言っている言葉や相手の顔の表情といった、人間が伝える情報を人間がどのように処理しているのか詳しく分かっていないからである。これらは認知心理学の重要な課題であり、当ゼミのテーマでもある。</p> <p>言語の理解：広告コピー文等によく出てくる、一見よく分からないが何となく印象に残る表現を人がどのように理解しているのか？</p> <p>顔の認知：人が相手の顔から性別、人種、民族、職業、年齢、魅力、個性、性格、感情などをどのように読みとっているのか？</p> <p>潜在記憶：無意識のうちに頭の中に残され、無意識のうちに使っている記憶情報は、どのようなしくみで獲得され、どのように使われるのか？</p> <p>その他：あなたが興味を持っているテーマで、私にも興味を持てるもの。</p>	<p>3年次：</p> <p>(1) 認知心理学の基礎的な知識を身につける。認知心理学の基礎的な教科書を輪読した後、最新の研究論文を輪読する。輪読は毎回発表者を決め行う。発表者は発表内容をパワーポイントにまとめてくる。この過程を通じて、自分の興味に従い、研究すべきテーマを決める。</p> <p>(2) 模擬実験を体験する。有名な心理現象に関する実験を、できあいのプログラムを使っておこなう。実験のやり方、データの分析の方法を練習する。データの分析は、統計解析パッケージSASを使って行う。</p> <p>(3) 言語、記憶、顔、潜在記憶、ブランドイメージなどの認知過程の基礎を学ぶ。</p> <p>(4) 自分で考えたテーマに関する心理学実験を自分で計画する。</p> <p>4年次：</p> <p>(1) 自分で考えたテーマに関する心理学実験を行う準備をする。</p> <p>(2) 卒論のテーマを決め、テーマと関係のある文献の輪読をする。</p> <p>(3) 毎回発表者を決め、卒論の途中経過報告を行い、お互いに議論しあう。</p> <p>(1)～(3)を繰り返す。</p> <p>(4) 実際に実験調査を行い、データを分析し、卒論にまとめる。</p>

担当教員名 Seminar Name	テ ー マ	概 要
<p>中 村 隆 志 Takashi Nakamura</p>	<p>『確率システムのモデル化と解析に関する研究』 コンピュータ・ネットワーク、生産システム、交通システム、電話交換システムなどでは、一般に要求の発生やその処理に不規則性を伴います。そのようなシステムでは場合によって処理の渋滞が発生したり、また、逆に処理装置が空き状態になることもあります。なぜならば、システムはほとんど固定的に作られており、要求の不規則変動には十分に対応しきれないからです。したがって、最適なシステムを設計するためには、不規則変動を伴うシステムの状態を定量的に記述し、その渋滞の特性を解析する必要があります。このような不規則変動を伴うシステムをモデル化し、その処理能力を解析するための研究を行います。</p>	<p>3年次：研究に必要となる確率過程、待ち行列、シミュレーション等に関するテキストの輪読と演習  4年次：具体的な応用例の研究、卒論指導（卒論のテーマは、社会情報学科の範疇であれば、上記研究主題以外でも構いません。）</p>
<p>行 方 常 幸 Tsuneyuki Namekata</p>	<p>複数の意思決定主体が存在する場合の意思決定問題を、ゲーム理論を中心に 数理的に扱う。 われわれは、日常生活を行う際、全体に対する考慮をかなり行い、または、あまり考慮せずに、自分の行為を決定する。全体に対する考慮を行うとは、結果がある意味で公平であるべきという、願いであり、同時に、自分（だけ）が損をする行為は避けたい、等である。このような意思決定状況を数理的に扱っているテキストを参考にし、そのエッセンスを抽出したモデル化に慣れ、自分の現実感覚へいかに取り込むか？等の観点から考察する。</p>	<p>各ゼミ生が自分の分担分を予習し、発表する。特に、数値例は細かくフォローすること。その際、理解できたところはその理解したところを説明し、不明なところはどの点を明確にしながら進める。不明なところは私が補足する。自分の問題意識に応じた、数理的な理論展開の理解、及び、日常感覚からの理解、の両方が必要である。</p>

担当教員名 Seminar Name	テ ー マ	概 要
沼 澤 政 信 NUMAZAWA Masanobu	<p>私は、人工知能（探索，制約充足論理，学習など）や情報システム（ネットワークシステム，エージェントシステムなど）に関する基礎的研究を行っています。これらの分野の研究を希望することはもちろん，これら以外にも興味があり，各自が責任を持ち最後まで積極的に取り組むことが可能であれば，他の分野のテーマでも結構です。</p> <p>教官の現在の研究テーマのキーワード：モバイルエージェントシステム，制約充足問題，項書換え系など</p> <p>過去のゼミ生の研究テーマのキーワード：スケジューリング問題，ネットワークセキュリティ，e-learning，ニューラルネットワーク，遺伝的アルゴリズム，中国株分析，統計分析など</p>	<p>2年次に4，5回ゼミを開きたいと考えております。3年生の先輩と「論文・レポートの書き方」や LaTeX について学びます。</p> <p>3年次以降は，各人の興味のあるテーマに関して研究を進め，順番にゼミ発表を行います。各人のテーマに沿って指導を行い，最終的に4年次で卒業研究を作成，提出してもらいます。</p>
平 沢 尚 毅 Naotake HIRASAWA	<p>『人間中心設計プロセスに関する研究』が研究室のテーマです。現在、行っていることの事例を挙げると、情報コンテンツと人間との関係を記述するモデル研究、常時接続環境における家族間コミュニケーションの変容に関する研究、DLNA下におけるサービス設計、観光サイトWebユーザビリティ評価などがあります。その他、組込システムの開発プロセス研究、ユーザビリティプロジェクトマネジメント研究など多くの研究プロジェクトが実施されています。</p>	<p>人間中心設計に関する基礎的な教育を学習してから、研究室の先輩が行っているプロジェクトに参加しながら、実際の研究活動を体験しながら進めてゆきます。3年次までには、何度か、実験あるいは調査を行いながら実績を積んでもらいます。4年次には、各自で独立したテーマを設定して、大学院生の指導の下で、1年をかけて研究プロジェクトを遂行してゆきます。</p>

担当教員名 Seminar Name	テ ー マ	概 要
三 谷 和 史 Kazufumi Mitani	<p>インターネットを用いたコミュニケーションに関する研究</p> <p>コンピュータネットワークに関する研究</p> <p>情報探索に関する研究</p> <p>医療情報システムに関する研究</p> <p>プログラミング言語とその処理系</p> <p>その他、関連するテーマであれば、ある程度の希望は採り入れる。</p>	<p>本を沢山読むこと、文章を沢山書くこと、プレゼンテーションツールを使いこなすこと、プログラムを沢山読むことを、ゼミ所属が決定した時点から3年次になるまで宿題形式で行なう。</p> <p>3年次：テキストの輪読と演習 まずコンピュータに慣れる、コンピュータを道具として使いこなすことを第一の目標とする。</p> <p>また、自分でHTMLを書けるようになって必要な情報を搜した結果を他人に知らせる技術を覚えてもらう。さらに、ゼミでのコミュニケーションはゼミの時間以外も電子メールやblog、IRCで行うので、それらのコミュニケーション技術の習得も必須である。</p> <p>次に、技術英語が読めるようになることと、Windows、unix及びunix上のプログラミング環境を使いこなせるようになることが演習が主体となる。</p> <p>コンピュータの世界では英語が事実上の公用語となっており、それを理解できないと研究ができない。</p> <p>またWindows、unixやunix上のプログラミング環境を使いこなすことは目的ではなく、研究環境として必須、例えて言えば紙と鉛筆であるからである。</p> <p>また、プログラミング言語も最低1つについて習熟してもらう。</p> <p>4年次：テーマに沿った卒業論文の作成指導</p> <p>まず卒業論文のプロポーザルを作成し、そこにオリジナリティを認められる段階になって初めて研究に移り、その結果を卒業論文として纏める。研究したい種を沢山集めておくように。</p>

担当教員名 Seminar Name	テ ー マ	概 要
持 田 泰 昭 Yasuaki Mochida	<p>情報システムの安全性，信頼性，効率性に関する基礎的研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>情報通信ネットワークシステムの現状と課題について考察するとともに，その安全性，信頼性，効率性に関する調査・分析・評価・提案</li> <li>コンピュータを利用した情報システムの設計，開発，保守に関する方法論，技法</li> </ul>	<p>3年次：テキストの輪講と討論</p> <p>情報システムの安全性，信頼性，効率性の阻害要因や向上策に関する基礎的研究を行うためには，まずは企画，開発，運用，活用，保守という情報システムが誕生し破棄されるまでのプロセスを理解する必要がある．そこで，3年次はそのプロセスの標準的モデル，およびソフトウェア開発における原理・原則の学習を主目的とする．情報システムを構築しようとするとき，現実的に種々の制約（予算，期間など）があり，必ずしも原理や原則どおりにはいかない．しかし，基本原理を理解しなければ，情報システムの安全性，信頼性，効率性に関する議論を始めることはできない．</p> <p>4年次：テーマに沿った卒業論文の作成指導</p>

## 専門共通

研究指導は2年連続で12単位

担当教員名 Seminar Name	テ　　マ	概　　要
相 内 俊 一 Toshikazu Aiuchi	1．パブリックマネジメント （公共サービス・地方政府システムなどの研究） 2．政治的態度の形成と変化 （政治的学習・政党支持・投票行動・メディア効果などの研究）	・火曜日14:30～17:30（コーヒー/ティーブレイクを挟む。時にはもう少し長いこともある） ・3・4年生合同で行う。 ・論文の購読（分析と批評の発表とそのカウンター）を行う。グループでいくつかのプロジェクトに取り組むことがある。 ・卒業論文は個別に指導する。卒業論文のテーマは、学生が設定する。
萩 野 富士夫 Fujio Ogino	「日本近現代史における統合と抵抗」 幕末から現在にいたる過程で、国家・社会の権力・権威による「統合」とそれらへの「抵抗」が、さまざまな局面で展開されてきた。それは、政治・社会・経済などの領域にとどまらず、文化・意識などの領域においても、また日本の対外進出・侵出にともない、アジア各地においても現出する。それらのなかから、各自の関心に即した個別テーマを設定し、報告と討論を重ねることを通じて、本主題に迫る。これまでのゼミのテーマ「戦前と戦後における断絶と継承」の諸問題も、この「統合と抵抗」に即して、ひきつづき検討する。	前期においては上記主題を中心に、後期は卒論報告および卒論予備報告を中心におこなう。人数により、三・四年の合同ゼミによって進める。



担当教員名 Seminar Name	テ ー マ	概 要
片岡正光 Masamitsu Kataoka	<p>自然環境中の微量の化学物質量を，超高感度・高精度・高選択的に測定する「微量分析法」の開発。</p> <p>環境中の化学物質を常時モニターするための化学センサーの開発。</p> <p>小樽周辺の水に着目し，河川，運河，港湾水や港湾に生息する魚に含まれる汚染物質の測定を行う。</p> <p>環境浄化についての提言を行う。</p> <p>小樽の降雨・降雪の酸性度の測定と、土壌の中和能の評価。</p> <p>環境に優しい草木染めの開発研究。</p>	<p>ゼミ生は，上記の研究主題に関連したテーマをもらい，教官とディスカッションしながら、それぞれが独自の研究（週2日（火、木曜日）それぞれ4時間程度）を展開する。</p> <p>化学系大学院（北大）への進学を希望する学生には，化学研究実験の他に試験合格を目指したゼミ（教科書の輪読等）指導も行う（多数合格実績あり）。</p>
杉之原立史 Tatsushi Suginothara	<p>「シミュレーションによる物理」</p> <p>物理学は，理論と実験を2本の柱として発展してきました。しかし最近になって，コンピュータの急速な進歩にともない，第3の柱といえるシミュレーション物理学が盛んになってきています。これは，コンピュータの中で仮想的な物理の実験をするというものです。本ゼミでは，コンピュータ・シミュレーションをおこなうために必要なさまざまなスキルの習得と，それを用いた物理の研究をします。</p>	<p>テキストを用いて通常のゼミ形式で物理の勉強をし，基礎固めをしっかりとおこないます。必要に応じて，物理を記述する道具としての数学の演習もします。それと並行して，パソコンを使ってプログラミングや数値計算の手法を身につけます。ゼミの時間以外にも，テキストの予習・復習や，コンピュータを使った課題に多くの時間をさいてもらおうことになります。</p>

担当教員名 Seminar Name	テ ー マ	概 要
<p>中村 史 Fumi Nakamura</p>	<p>このゼミのテーマは、説話文学の研究である。たとえば、日本文学であれば、『日本霊異記』『今昔物語集』『宇治拾遺物語』などの「説話」がその対象となる。『古事記』『日本書紀』『風土記』などの「神話」を含む。「口承文芸」をも視野に入れ、「比較文学」の方法をも取る（外国文学の作品を含み得る）。</p>	<p>説話文学作品（原文＝古文、漢文等）を講読、説話文学についての論文（英文のものも含み得る）を解説・発表、また特定のテーマについて調べ発表するなど。4年時には学生が自分で選んだ作品あるいはテーマについて卒業論文を執筆する。これまでの卒論のテーマの例は、「イザナギ神の黄泉国訪問神話」「酒吞童子説話」「笠地蔵」「スサノヲ神のヤマタノヲロチ退治」「狐女房譚」等。</p>
<p>宝福 則子 Noriko Hofuku</p>	<p>発展途上国の社会・環境と「グローバルイゼーション」との関連について学ぶ。</p>	<p>3年次にはテキストを読みながら、各回、報告者にレジュメ付きで報告してもらい、討論する。 この中で、基本的な知識を身につけ、各自の専門テーマを見つける。 4年次には各自が関心を持ったテーマについてレジュメ付きで報告し、全員でそれについて吟味、討論する。</p>
<p>米田 力生 Rikio Yoneda</p>	<p>数学の基礎である微分積分を応用した関数論を研究する。</p>	<p>数学と人間とのかかわりや、社会生活において数学が果たしている役割について理解させ、数学に対する興味・関心を高めるとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、数学を活用する能力を伸ばす。この科目の指導に当たっては、身近な事例を取り上げるなど、学生が主体的に学習できるようにし、理論的な考察する能力を身に着けることを目指す。</p>

担当教員名 Seminar Name	テ ー マ	概 要
<p>大 塚 譲 Yuzuru Otsuka</p>	<p>研究の4本柱 1) ドイツ学研究 2) ドイツ語圏留学 3) ドイツ語検定試験受験 4) ドイツ語コンテスト参加 このゼミでは、ドイツ語の基礎の上に総合的なドイツ語能力の習得を目指します。内容的にはドイツ語圏やEUの諸問題がテーマとなります(1)。テーマの追究には交換留学生としてドイツ語圏の大学2)で学ぶのが好都合です。同時に総合的な語学力の習得には検定試験によるチェックは欠かせません。個人的な能力チェック・外国の大学への入学・資格取得等のためにはドイツ語の世界でもドイツ・オーストリア・日本のドイツ語能力試験3)を受験しレベルを示す必要があります。しかし試験内容が主として時事的・社会的なものなので、準備学習を通じて現代ドイツ語圏への理解・関心を深めるという効用もあります。また時々ドイツ語のコンテストに参加して腕試しをするのは、作文能力・発表能力・コミュニケーション能力の改善・レベルアップを図りながら同好の土との交流の輪を広げることにもなります。時には素晴らしい賞品(1年オープン航空券)を手にすることもあります4)。 【注】 1) 環境問題(リサイクル・省エネなど)、男女のパートナーシップや家族のあり方、少子高齢化社会における社会福祉のあり方、余暇と労働のあり方、シュタイナー学校を始めとする教育制度のあり方、外国人労働者の問題、地方自治の問題(ドイツは地方自治の発達した国です)、EUの政治的・経済的統合の問題、ナチズムと天皇制、脱米入欧の問題、芸術(建築・文学・音楽等)の問題、生活文化(衣食住等)の問題、言語の問題(ドイツ語研究・日独語比較・独英比較・日独英比較等)等々、日本と比較して考えてみるべきテーマは山ほどあります。 2) 留学できるドイツ語圏の協定大学: バイロイト大学、ウィーン経済大学、ベルリン経済大学 3つの大学とも本学とほぼ同じ専門分野の学部・学科を持っているので授業参加・単位取得が比較的容易。 3) 国際的にも高く評価されているオーストリア・ドイツ語検定は年2回本学で受験可能。事前に優れた準備教材による準備コースでがっちり勉強すればレベルアップを図りながら受験できる。 4) 札幌姉妹都市協会主催のドイツ語暗唱大会(過去4回優勝、常時入賞)、東京での日独協会主催のスピーチコンテスト(何度か出場。4年前に全国2位になった)、京都外国語大学主催の弁論大会(本年参加予定)など色々あります。</p>	<p>3年次 ドイツ語能力の育成と現代ドイツ語圏社会事情の理解(1) 教科書:TANGRAM 2(2000年 Max Hueber社刊) 総合的なドイツ語能力を育成するとともに現代のドイツ語圏の社会事情をリアルに学ぶ。 教科書のレベルはドイツ語や国際コミュニケーション(ドイツ語)の授業レベルに接続しています。 その他のメニュー: 文法項目・語彙の練習、オリジナルテキストの輪読と議論。 検定試験チャレンジ 優れた準備教材による十分な準備学習を踏まえて、オーストリアの「ドイツ語標準基礎検定試験」(Zertifikat)にチャレンジ。留学に必要な総合的語学力を養成するには格好の試験。日本の独検のほぼ2級に相当。本学でも年に2回実施。</p> <p>4年次 ドイツ語能力の育成と現代ドイツ語圏社会事情の理解(2) 通常は交換留学にて学習 検定試験チャレンジ 通常は帰国後に準備・受験 十分な準備学習の上、オーストリアの「ドイツ語中級検定試験」(Mittelstufe)にチャレンジ。国際的に認められた検定試験で、大学入学や職業活動に必要な語学力の認定基準とされる。日本の独検のほぼ1級に相当。本学でも年に2回実施。毎回受験者のほぼ全員が合格。交換留学帰還者が主に受験するが、今年度は留学前の者が受験・合格の快挙。 卒論執筆</p>

担当教員名 Seminar Name	テ ー マ	概 要
君 羅 久 則 Hisanori Kimira	英文学(シェークスピア・英詩・ドラマ・イギリス小説)	<p>3年次：テキストに基づいて、毎週英詩数編を読み、発表・討論を行い、英詩の分析法を中心に文学批評・研究の方法を深めていきます。</p> <p>4年次：前期は3年次の続きを行い、後期からは各自の研究テーマについて卒業論文(英文40枚程度)を最終目的として報告と討論を中心にします。</p>
高 井 收 Osamu Takai	<p>Intercultural Communication(異文化間コミュニケーション):特に日米文化の特質について探求する。異文化を知るには、まず、自分の文化を知らなければなりません。それを、日米文化比較を通して勉強して行きます。</p>	<p>指導要領は異文化間コミュニケーションをテーマとして英語力の養成を図りたいと思っています。基礎的概念などの講義のほかにプレゼンテーション、グループディスカッションなど英語での言語活動も加えます。この他、インターネットでの情報検索方法なども指導します。</p> <p>主な指導内容は次の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 英語での自己表現(学生の発表は英語で行います)</li> <li>2) 異文化間コミュニケーションの基礎概念</li> <li>3) 日米文化の特質</li> <li>4) キング牧師のスピーチ “I have a dream”を使ったオーラル・インタープリテーション</li> </ol>

担当教員名 Seminar Name	テ ー マ	概 要
高 橋 純 Atsushi Takahashi	<p>「フランス語という文化」から「フランス文化という言語」へ前者の「文化」とはあくまでも個別言語としてのフランス語を指すが、後者の「言語」とは、政治・経済、文学・芸術、料理、ファッションにまでわたるフランス文化がかたちづくる多様な意味の世界を指している。通常の語学の授業は前者の枠内にとどまりがちだが、本研究指導ではそこから飛躍して、フランスというわれわれにとっての異文化空間を様々な切り口から探求する。</p>	<p>アクチュアルなフランス文化・社会についての認識を広げつつ、フランス語の全般的技能の向上を図ることを共通の目標とし(この段階では外国語としてのフランス語ができることではなく、好きであることが絶対条件である)、その過程で各人が抱いた問題意識に基づいて定めたテーマを展開できるように個別指導(テーマが共通すれば複数で)する。ただし、自文化の認識なくして異文化の理解はありえない。そこで、異文化について考えるための補助とすべく、日本の外部の目から日本文化がどのように解釈されるのかを知ることも共通の課題とする。</p>
マーク・ホルスト Mark Holst	<p>Sociolinguistics: studying how social factors affect the way we use language. Applied Linguistics: “using what we know about language, how it is learned and how it is used to achieve some purpose or solve some problem in the real world.” (Schmitt, 2002: 1)</p>	<p>The goals of this seminar are twofold: (a) to introduce you to the fields of Sociolinguistics and Applied Linguistics; (b) to develop your ability to use English for academic purposes, especially academic writing.</p> <p>We will try to achieve the first goal by looking at some major areas of sociolinguistics (including dialects, language evolution, pragmatics, conversation analysis, bilingualism and language planning). In the second semester we will focus on the development and current state of the English language, considering language families, the history of English, varieties of English (dialects and world Englishes), English as a world language, standard English and learning English as a second language. In your final year you will use the knowledge you have learned to carry out your own research project about Japanese or English language in use - by observing and recording natural conversations; by carrying out surveys or interviews of subjects and by finding out information from relevant academic and official sources. Then, you will write up your findings as an academic dissertation, which must be completed by the end of the fourth year.</p> <p>We will achieve the second aim through weekly reading assignments, regular presentations and weekly discussions on the class materials. We will also be examining and practicing academic writing style, and you will be expected to produce two major pieces of research in your third year as a preparation for your final dissertation in your fourth year.</p>

担当教員名 Seminar Name	テーマ	概要
吉田直希 Naoki Yoshida	<p>英米文化研究（カルチュラル・スタディーズ入門）：英語で書かれた様々なテキストを題材に、現代の諸問題に対する解決策を論理的に思考することを目的とします。扱うテキストは、主に小説、評論ですが、劇や音楽、絵画、映画、コミックなどを卒論のテーマとして選ぶことも可能です。ゼミでは、自分が使う言葉の意味をつねに意識化するようにしましょう。また、自分の考えを的確に表現する様々な技法を、テキストの読解と討論を通して身につけていきましょう。</p>	<p>3年生： テキストの講読と討論、発表 4年生： 卒業論文指導</p> <p>積極的に読み、書き、話すことがもとめられます。</p>